

TOORIN

7



1932

KEIO

GEKADÔSÔKAI

刀林 第七号 目次

祝賀

歡迎

送別

同窓會

診療餘談

會員近況

同窓會報告

十週年記念号

御禮

學術

茂木先生像

別館全景

木村・前田両先生像

佐藤・大養両先生像

(1)

(10)

(11)

(29)

(30)

外科	整形外科	(三一)
		(四一)

医
局

茂木先生	(四九)	茂木先生謝恩會	(六二)
外來診察室	(五〇)	新入局員歡迎旅行の記	(六五)
診療近況	(五一)	浦安舟遊びの記	(六九)
外科医局發展近況	(五一)	新入局員紹介	(七五)
学生手術実習	(五四)	七十五週年記念	(八七)
職員食堂	(五五)	六ちゃんの事ごと	(八八)
續圖書室の塵	(五六)	婦長從軍感想記	(九五)

文
藝

その後に來るとの	汀	往	生	(九七)
柔き觸感	春		宵	(一〇一)

墜ちた仙人 無名氏 (一〇七)

病院事件 甲傘武郎 (一一二)

無帽主義者の災難 無帽生 (一一〇)

夏四題 治生 (一一三)

三絃 治生 (一一三)

世智辛い事です 治生 (一一四)

秋 治生 (一一五)

雨 はしとと (一一六)

スポーツと救護

医局スポーツ 救護一束 (一一三)

青山外科對抗競技 富士救護の憶出 (一一四)

医局便り (一六七)

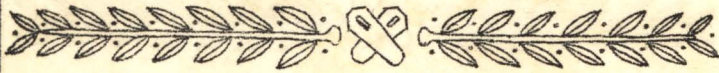
名簿 (一八五)

編輯後記 (一九四)





祝 賀



論文通過

篠原靜夫君

昭和七年三月

照井侃君

全 四月

大槻正路君

全 九月

(東大)

原廣治君

全 十月

村上晋君

全 十一月

講師へ昇格

神山敏雄君

昭和七年四月

原廣治君

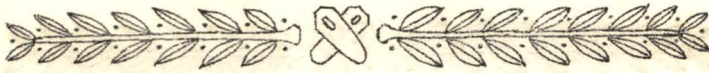
全 右

川田正雄君

全 十一月



歡 迎



歸 局

中 村 次 郎 君

昭和七年四月
(生理学教室ヨリ)

田 中 周 吉 君

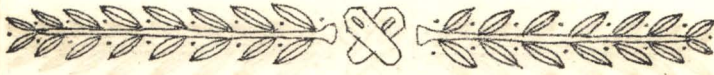
昭和七年九月
(海軍二年現役ヨリ)

島 田 信 勝 君

昭和七年十一月
(近衛三聯隊ヨリ)



歡 迎



新 入 局

井 出 行 乎 君 昭 和 七 年 一 月 入 局 (九 回 卒 業 内 科)

伊 藤 國 男 君 全 四 月 (十 回 卒 業)

板 橋 剛 君 以 下 同 ジ

富 中 卓 助 君

門 橋 勇 君

龍 野 一 雄 君

中 村 寬 君

野 崎 寬 三 君

古 山 実 君

小 平 正 君

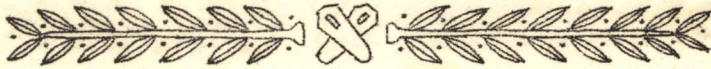
齋 藤 修 二 君

宮 尾 啓 君

全 十 二 月

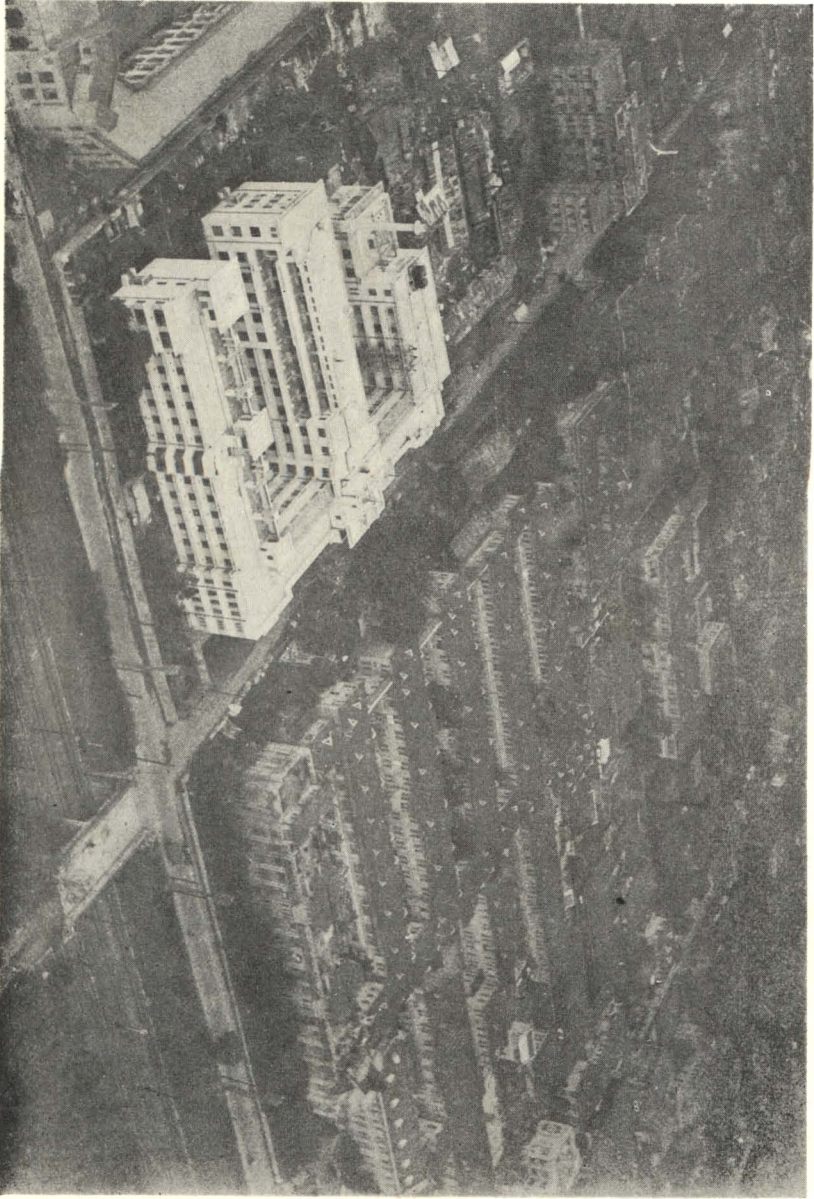


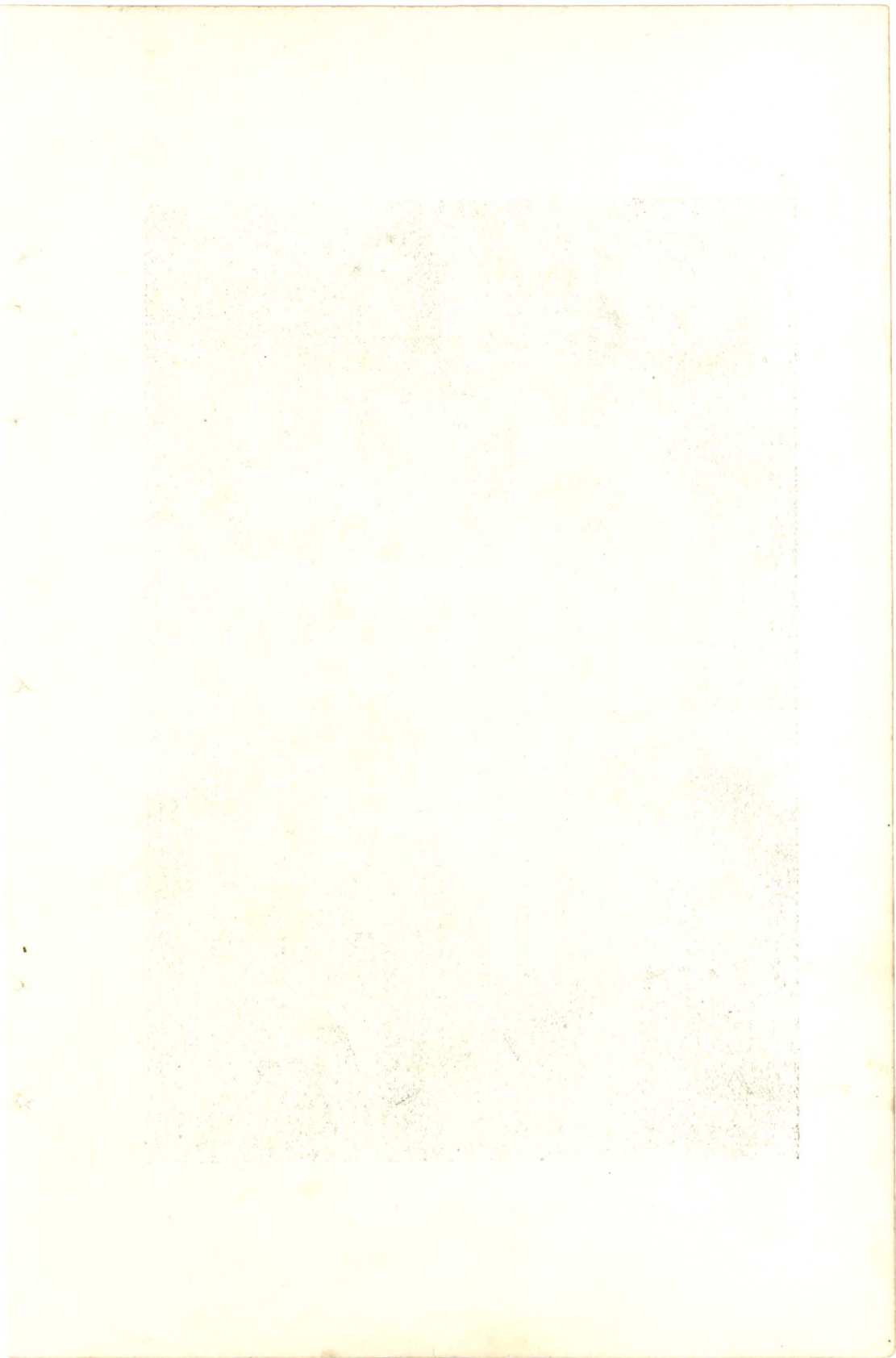
送 別

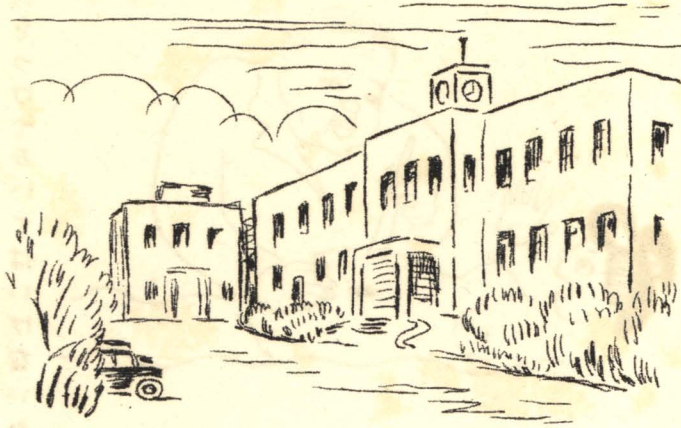


辻岡 元君	昭和六年十二月	(自宅開業)
古川 明君	昭和七年一月	(芝濟生會)
島田信勝君	二月	(近衛三聯隊)
小方則太郎君	四月	(青森)
寺田泰三君	右	(文部省練習船海王丸)
森 豊明君	右	(横浜山下病院)
加藤銀治郎君	五月	(大連滿鉄療養所)
吉野史郎君	六月	(柳里二子開業)
原 廣治君	十月	(横浜済生會)
富田勝郎君	右	(三重縣津)
中村廣人君	十一月	(土肥慶應堂病院)
相見三郎君	右	(信州下伊那郡中島分院)
神山地真氣君	十二月	(修善寺中豆病院)









同窓會

◆ 診療餘談 ◆

三光町 住人

(一) お臍の垢は取るべからず

昔からお臍の垢は取るものではない、取ると腹が痛くなると曰つて居る。けれどとそれは迷信だと考へてゐた私は、或時友人から紹介せられた一人の患者を診察した。年は二十歳で美人様突起炎で最早や一週間を経過してゐるが手術の可否を問はれたのである。診察すると右下腹部に「ツモール」があり熱はない。今は手術をせないが良いと云つた。其処迄は無難であつ

たが、診察の際にお臍を見ると大豆大よりと大きな黒い臍石がある。此んなど
のをつけておいてはいけなから取って仕舞ったが良いと云つて「ピンセット」



居てきのふ附いて来た母親が一生懸命に温湿布を取りかへて居る。どういふ訳

で取らうとしたが堅くくつついて居て容易に取
れなかつたが取れる事は取れた。其跡へ沃度丁
幾を塗つて返した。所が翌日の夕方、其婦人の
夫なるまだ若いハズが血色ばんでやつて来て、
「昨日臍の垢を取ったから夕方から大変お腹が
痛くなつて困つて居る、どうしたらよいか」と
嚴談に及んで来た。そんなに腹痛があるといふ
事はおかしいが、然し臍瘻があつたので臍石を
無理に取った所から細菌の感染を起して腹膜炎
が初まつたのではないだらうかといふ心配も伴
つたので、恰度往診を出かける処だつたのを幸
に其のハズと一緒に患者家に行った。患者は寢て

で温湿布をして居るのかと尋ねたら、内科の先生が盲腸炎の塊りがあるからよく温湿布をしなればいけないと云ったから十分間毎に温湿布を取りかへて居るのだとの事である。そして腹痛といふのは臍より右下方にあると云ふ。其部に圧痛は少しはあるがたいしたものではない。臍其ものには何の変化も認めず圧痛もない。であるから心配はいらない。安心してよいと云つて聞かせてと、母親は臍の垢を取ったから腹が痛くなったのだ、取らないがい、と云つたのを強いて取つたものだから、こんな事になつたのだとなか／＼承知しない。然しよく説明したらどうか得心したので歸つて來た。其後紹介してくれた友人の内科医の処へと文句を云つたさうだ。が兎に角其のまゝ、痛みは収まつたので争なさを得た。

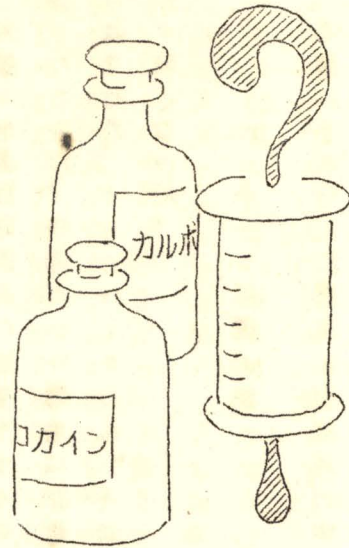
(二) 一五%のカルボールを「ウレトラル」に注入した話

淋毒性尿道炎の患者があつた。急性症状と去つて餘程快くなつたと思つて居たら暫く來なかつたのが、又やつて來て旅行に行つたと云つて居た。尿道に「プロタルゴール」を注入するとしみるといふ。斯様な時には一%コカイン溶液と等

分に注入すると無痛に治療が出来るので何時とさうして居る。

又急性膿瘍殊に化膿性乳腺炎には小切開を加へ、原氏法によつて三%カルボ
ール溶液とを入れた瓶が同様の瓶で然かもレツテルと同一のものを張つてあつ
た。問題が起つたのは此処からである。

其患者の尿道に薬液(プロタルゴール)を注入すると痛むといふので「コカイ
ン」と等分にしてくれと看護婦に命じた。そして等分にした液を出してくれたか
ら尿道に注入した。此の様にすると大体すぐ痛みがなくなるのにまだ痛いとい
ふ。そんな苦はないと云つて居たら我慢が出来るかと云ふから、それで氣にと止
めなかつた。十分間経つて尿道から薬液を出して患者は歸つた。直ぐ次に又同
様の患者があつたので「コカイン」と等分にしてくれと命じ、挿へた液を尿道に注
入したら、今度の患者はとて痛くてたまらぬと云ふ。そんな苦はないと云つ
て又注入するととて痛くてたまらぬと云ふから、おかしいと思つて、看護婦
に薬は間違ひはないかと調べさせたら、「コカイン」と思つたのは三%の「カルボ
ール」液だつたといふので大に驚いた。で第二の患者はそのまま「カルボール」は使用
せなかつたが、第一の患者のと「カルボール」だつたと更に報告して来たので、道



出来なくはなりはせないだらうか、或は潰瘍となり癩痕を生じて後日尿道閉塞を起しはせないだらうか、など、思ふと心配でたまらなくなつた。然し又一面には三―五%の「カルボール」で膿瘍腔を洗滌しても、其爲めに局所の腫脹も来なければ、特に癩痕が出来たと思へない点を顧るとさう心配もいらぬと思つた。夕方にでもなつたら、患者が何か訴へて来はしないかと思つて居たが、夕方にも翌朝にも来なかつた。翌晩になつて例の患者はやつて来た。然し別に氣色ばんだ顔付でもないの、稍、安心したとの、果してどうであつたかと内心氣

理で先きに「コカイン」を使用した筈のにも係らず痛いと思つてゐたが、後には「カルボール」の麻痺作用で餘り感じなくなつたのであらうと思つた。だが其後どうなつたかと心窺かに心配でたまらなくなつた。三%を當分に薄めたのだから一五%にはなつて居るが、尿道粘膜が腫脹して排尿が

になつた。患者は尿をコップに取つて來てから「きのふ尿道を洗滌して後は尿道がとてどいたくてたまらなかつた。そして夕方には大變腫れて來てどうなるかと思つた。こんなことなら一層死んだが良かったです」と考へた。が今晚はどう何でもなくなつた」と曰つたので初めて安心した。

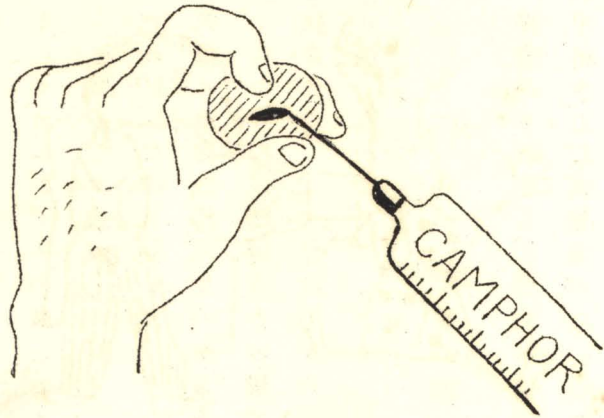
それで「カルボールの瓶」と「ゴカインの瓶」とは別々の色と形のものとして、「レツテル」と異つたものにした。

此れに似た話を聞いた。

矢張り淋毒性尿道炎の洗濯をするのに先づ微温湯で行ふのを誤つて熱湯で洗滌したさうだ。熱湯だから患者は非常に熱くてたまらない。「せがれに、熱湯を飲ませた。どうとけしからん」と云つたさうだ。然し其後に尿の濁りはスツカリ無くなつた。

(三) 今一つ尿道の話

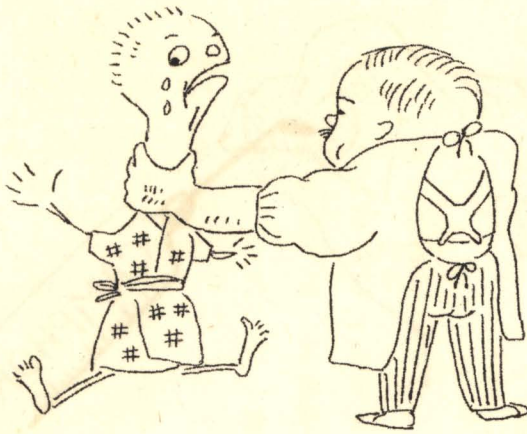
痔瘻の手術をした患者が術後尿の出ない事は頗る多い、此の例に洩れず痔核の手術をした或患者が尿が出ない。既に二十四時間を経過して膀胱部が非常に



腫つて苦しめて堪まらぬといふ。ネラトンも尿道も消毒して導尿の準備は出来たので、消毒した油をネラトンに塗つて尿道に挿入した。尿はすぐ出たが、患者は尿道が痛い、熱い、焼けるやうな感じがするといふので、消毒油の瓶をよく見たら20%カンフルオレーフ油の札がついて居た。

(四) 人工的包莖嵌頓術

中等度の包莖患者があつた。包皮の内面に二三ヶの尖圭コンデロームがあつた。医師に診察を受けた。其医師は治療の目的で内面を乾燥させておく必要があるとの事、包皮をヒツクリかへした。従つて包皮尖端の狭い部分はペニスシャフトを緊扼することになつた。一兩日間は其治療を初めた医師の考へるやうに、ズルクスコロナーリスと表はれ、包皮内面も乾いた事は事實である。所が二日目の晩か



らは包皮は水腫状を呈するやうになり、三日目からは甚だしくなつて痛みと覚えるやうになつた。毎日其アルツトを訪問しては手當を受けて居た。そして包皮腫脹を退消さす目的で色々と附け薬を呉れるけれども一向に効き目がない。五日目から六日目にかけては、包皮尖端に相當する強く絞扼してゐる包皮の一部

部分は環痕に傾く状態を呈するに至つた。七日目の晩に別のアルツトの紹介で私が甫めて診た。

ペニス は全体浮腫状に強く腫脹して居るが前三分の一は特に強く腫れて居り、包皮尖端部に相當する強く絞扼して居る包皮は巾一cm. ペニス全周の三分の二位に環痕性の潰瘍を作つて居る。即ち包皮の鼓頤から起つた結果である。経過を聞いたら以上のやうな事だ。まだ結婚として居ない青年だ。ペニス全体がネクローゼにでも陥つたら大変な事だ。初め治

療したのは内科の先生ださうだ。それで患者が「こんなになる迄放つて置いた先生がどうかして居ますね」と云つたから、「此の部分の病氣を内科の先生に治療を受けたあなたもどうかして居ますね」と答へたら、患者と笑つて、それからは初めの内科の先生の事は曰はなくなつた。

腋頓を整復しようとしたが既に炎症性癒着が強いので如何様にしても整復は出来ないの、包皮の狭い部に縦に切開を加へて横に廣げて絞扼を緩和し、夫れくゝに治療したら、幸にネクローゼは其れ丈で止まつて跡は癬痕で治つた。然し癬痕部の包皮はシャフトの部分に強く癒着して、包皮の円轉滑脱ダウたる運動は最早や嘗まれなくなつた。



☆☆☆



會 員 近 況

○

柳 宗 一

旅行中で返事がおくれしました。

小生相変わらず同じ仕事をやって居ます。今年の春、外科学會の宿題をやらしてとらひましたので、一寸仕事と一段落ですが、続いてボツくやつてます。

九月から十月にかけて満鮮を一ヶ月ほど旅行して、少し認識がたしかになつた様な氣がいたします。

皆様の御健勝を祈ります。

○

大 庭 國 紀

皆様マスマス 御健勝ナニヨリト 存ジ上ゲマス。

私モ御カゲデ 兎ヤ角ト大過ナク、診療ニ従事シテ居マス。

皆様ノ御健闘ヲ祈リマス。

謹啓

医局各位益々御健刀御健筆の段奉賀候

刃林とはや第七巻御発行の由ちやうど小生の富士見に於ける年齒と全じく格別の愛着を感じ申候

富士見に於ける日常は平凡と申すより他之なく、未だに暗夜をさまよふ氣味あり御恥かしき次第に存候

各位の益々御奮闘せられんことを祈上候

○
山本 順

近況ト致シテハ遊ビ第一へ先生ニハ甚ダ申訳無之キ次第ニ候ガ、勉強零ニ候當地ハ又遊ブヘ酒トハ關係ナキ意味ノモノニ候間此レヲ御取リチガヒナク事ニハ事缺カズ候、冬ハ「スキ」、雪ガ消エレバ「ゴルフ」、又夏ニハ其ノ上海水浴又釣等ト四季ヲ通ジテ遊ビ事有之小生如キモノニハ好適ノ地ニ候、壯快ナル「スキ

「優雅ナル」ゴルフ」此レ等ニ付キテハ更メテ井上君カラ報告有之候筈ニ候、
以上ガ小生ノ近況、此レデ市會議員等云フ姑ガ居ナケレバ日本一ノ樂園ニ有之
候

○

今井 金治

拜呈近くに居りながら御無沙汰勝で申訳ありません。其後外科同窓會と幹事
諸兄の熱心な御盡力にて益々御発展の事と存じます。

私と御蔭で無事東電病院に勤めて居ります。

○

牛久 昇治

益々御清栄の段奉賀候 陳者小生儀御蔭様にて毎日無事診療に従事致し居り
候間御安心被下度候

聖愛病院はクリスチャンの博愛主義を看板として悩める者を救助し貧困にて
医療を充分に受け得ざる者を実費又は施療にて診療するのが目的になり二十五
年の歴史を有し初めは大連慈善病院と称され経営と相當困難せると此の頃二三

年前より内容と立派になり利益とある様に成りたるものに御座候。建物は本館と病室と看護婦寄宿舎分棟棟（結核病室）等あり、レンガ造りの三階建にて堂々たるものに御座候。ベツトは全部にて百五六十あり内結核病室や精神科病室を別にすれば百室位に御座候。外科のベツトは三十位あり入院患者の都合により他の病室と使用される様に相成り居り候。外來患者は総数にて平均二百五十名位、外科の患者が一日平均五六十名に御座候。外科の入院患者は現在十八名あり、朝の九時から午後の四時迄の勤務に御座候へ共、外來と病室と手術と全部小生一人にて助手はなく可成りの労働に御座候。

然し手術と時々有之候間毎日愉快に働き居り候。忙しい最中は看護婦と静脈注射位手傳ひさせ三人の看護婦と午後の四時迄働き続け候。時々入院患者の処置を忘れて帰る事と有之候。小生の観る所では丁度済生會病院と実費診療所とを合せた様な病院に御座候。

看護婦は四十名なると予算が無き為増員する訳に行かず可成り苦しい勤務をしてゐる様に御座候。

毎日診療開始前に廿分間礼拝の時間あり、讚美歌を唱へお祈りして、聖書の

講義まで聞かされ此の頃は大部小生と神に近づき申候

中略

毎日の仕事は割合に気持ちよく出来申候間御安神被下度候 試験室も今迄は名
のみにて孵卵器も「ミクロトーム」と塵が積つて使用する者無き有様なれども此度
整理改善して利用する様相成り申候

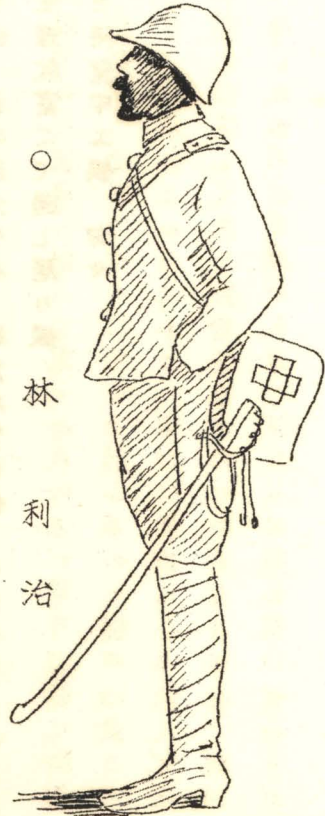
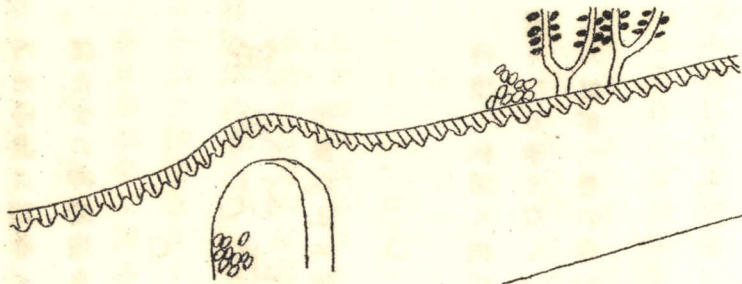
今後共宜敷御指導被下度

先生始め医局の各位によりしく御傳言被下度候先は不敢取御一報申上候
(十一月廿四日)

○

大曾根 幾次郎

函館に居た頃から比較すると東京へ帰つて来てからの方が寧ろ刀林に御無沙汰勝ちになりました。医局同人諸君の近くに居ると云ふ事が一種の心強さと安心とを與へるためでせう。仕事の上から云ふと、言はば横道に入り込んで居る私の毎日の生活は、以前に想像して居た程愉快なわけではありません。格別病氣とせず学校へ通つて居られるのが幸福だと云へば云へぬ事とないでせうが。



○ 林 利 治

謹啓 其の後御無沙汰致しました。時正に天高き頃、外苑に銀座に御活動の事と存じます。小生御蔭を以て無幸消光致り居り、何卒御放念下さい。

八月中旬以來不通だった、吉敦鉄道も一兩日前より漸く復旧して、遅ればせながら新聞と手に入ります。

満洲はとう冬です。朝の気温は一度氷と毎日張ります。オンドルとストーブで未だ慣れぬ寒さに堪えて居ます。

匪賊と冬の声を聞いてから、活動鈍く當地附近一帯に平穩です。

内地帰還は明春二月と四月とも言はれますが冬越しをするだけは確かです。
諸先生の御健康を祈つてます。

○ 近藤 宗彦

無為徒道

ノ裡ニ新市民トナル。

市區改正ニ依ツテ區名及小字名カガ左ノ通りニ変更杜ル。(略)

○ 豊田 秀穂

拜復 秋深く相成り候、貴局諸先生益々御清祥賀奉候、小生無事、之と云ふ
変りたる事もなく、生理教室にて過し居り候

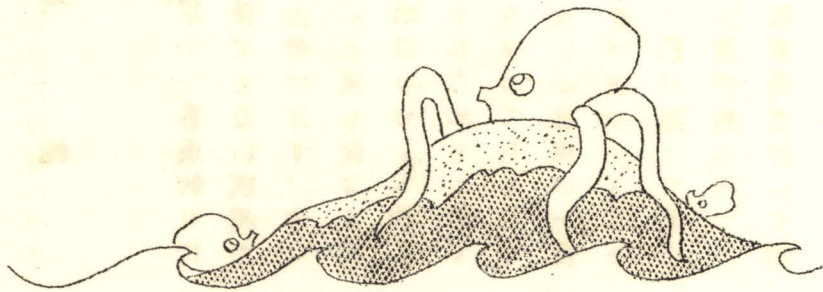
乃林第七卷の発刊を待望申上候 勿々

○ 渡辺治生

春夏秋冬一巡り、房州の風物にも慣れました。

今年の春、田甫の中に捨てられてゐた、小犬を拾つて来て育てましたが、今は一人前になつて散歩の相手をして呉れます。ブク、飛び廻る海軍の飛行機も余り耳につかなくなりました。

酒は禁、烟草は不禁、刃げをはやさず、髪を伸ばさず、着変を認めません。



○

吉崎 純

一八

近況御報告申し上げます。

元氣はとてとすばらしく、毎日遊びほうけて居ります。朝早く、香魚釣りに

出かけて、万更でもない成績だ

と夕方から又出掛けます。どつ

ちが本職ですかと来る程よく行

きます。此の頃はコロ／＼釣と

云つて釣針を十五六本とつけて

引つ掛ける奴をやつてをります。

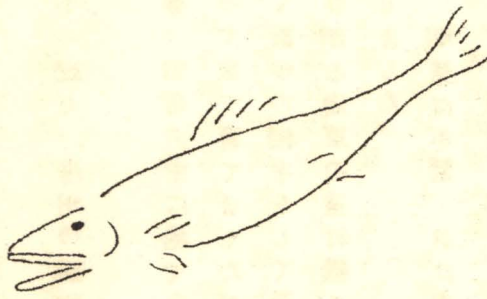
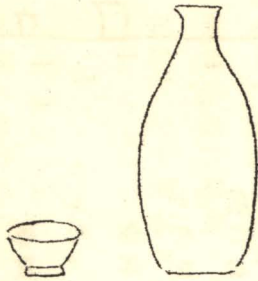
五六寸七八寸といふ香魚が一度

に二つと三つとバチヤ／＼と

水音をたてて、引つ掛つて来る

争の愉快さ、川岸の村へ行つて

釣を本職に医者を副業に、と考へる事すらあります。然し、医者商売だつて相



當なとんです。飯喰つて酒呑んで吞氣にやつて行けるんですから。残念な事に氣の合つた飲み友達が禁酒しやがつたんで此の頃チト、ペシヤンコです。家庭の事では昨年未小児達に新らしい才袋をとらつやりました。以上

○

四條 龍 作

謹啓 時下秋冷の候に御座候処各位益々御清栄の段奉賀候

陳者過日刀林第七卷御発行の御通知に接し、何か失敗談にてと投稿致し度く思ひ居り候処遂々雜用に追はれ残念乍ら、その意を得ず候へ共、次回には何んとか、埋合せ致し度く考へ居り候間、悪しからず御了承被下度候

尚小生の近況に就ては、御報告申上ぐる程の事もなく、全く平々凡々にて、時々へボ墓を囲み居り候、連中皆ザル党にて、一向上達仕らず、無暗に口合戦のみ上達いたし居り候

家族としては老母一人小供二人中学校在学中の書生一人計六名に御座候

右簡單ながら御返事申上候

敬具

小内昇

謹啓

貴局益々御清様の段奉賀候

御書面の返信つい失念仕り申訳無之候

小生刀林會費未納致し居る様に思はれ候へ共、その詳細は多忙のため相わか
らず甚だ御手数数下ら御報せ下され候へば早速完納仕るべく候

久しく医局を離れ候へば妻と別れ居る様な淋しさを感じ医局恋しの心日々に
新なるを覚え候

○

佐藤 盛二

前略秋色と深くなつて來ました折から、医局皆々様益々御健康にて御精勵の
趣大慶に存じます。當方其後健在平凡な日を送つて居ります。変りました点は
御蔭様にて開業なれにして來た点と、本年六月十一日から横浜市伊勢崎町入口
に出張診療所を増設した事です。今では此処の方が忙しいので大抵は此処に居

ります。狭くて見すばらしい所ですが、御來浜の折は御立寄下さい。

○
吉野史朗



謹啓 時下秋冷の候諸兄益々御健勝奉賀候 下つて小生

其の後無争消光罷在候間御安心被下度候

七月十一日開業致し、奮闘致居候 今迄々度々御通信申

上ぐべき処今日迄延引申候段不悪御了承被下度候

何分當地は田舎の事故格別御通知申上ぐべき事もなく面白き事と更に無之候
東京の事が毎日頭に浮び申候 野球とラヂオを以て満足致居候 独身者の居る
べき所にては無之つくぐ 東京が恋しく御座候 医者の方と御蔭を以てぼっぱ
つやり居り候 現今入院七名外來十五名内外に御座候 患者が一般に穢くシヤ
ンと種切れに御座候

諸兄の御健康を祈申上候

刀林の発行を聞き何か通信致したきとのと存居候 啓具

○
松井 八郎

拜啓 秋冷の候皆々様益々御清栄の段奉賀候

野球でござかし御忙しき事と存じ候、小生始めての海外勤務出発の際は何かと淋しく感じ居り候処、着任以來殆ど外科主任として多忙を極め久しぶりに外科医らしき心持致し居り候、未だ京城の町をも知らず、妓生とやらには未だ拜顔の栄を得ず、病院にのみ暮し居り候、官舎近き事とて、晝夜日曜等の別なき次第、都合よきやら、却つて不都合なるや不明に御座候
今月に入りて未だ十日、既に七名のアツペ手術仕り候
先は、近況御報せまで

○
中村 廣人

拜啓 前文御ゆるし下され度候

去る十日不肖私儀伊豆土肥へ赴任の節は御多忙中にも拘らずわざわざ御見送りを辱ふし有難く御礼申上げ候

病院は未だ盛に工事中にて、廿九日の開院式迄竣工致すや疑問に御座候
住居は海浜にて出船入船を眺め波の音を聞き、全々都の生活とは別世界にて
医局の皆々様の御清遊には好適かと存ぜられ候
年末の休暇には是非御出で下さる様御待ち申居候

○

弓削 中

其後長い間御無沙汰致して居ります。茂木先生始め、諸先生には益々御勇健
にて医局益々御隆盛の事と乍蔭衷心欣喜に堪へない次第です。下つて小生も其
後相変わらず壮健にて、宮崎縣立病院に勤務致し居ります。来春三月縣下マダロ
の港油津町に町立病院が立つ事になり目下盛に建築中ですが、内科部長に第一
回卒業生河野秀次博士、外科部長に小生就任致し居る事になつて居ります。慶
應医学の爲めに大いに熱誠を以て邁進する覚悟で居ます。

九州の一角小さな町に小さな規模の下ではありますが、今までの経験を基礎
に大いに勇躍する心算です。

筆不調な小生にはどうも善い智慧と浮ぶさうにありません。終に刀林誌の

御蔭盛を祈り併せて諸先生方の御健康を祈つて止まない次第です。

○ 富田 勝郎

(前略)

病院所在地は津市より約二里電車にて十五分にあります。が全くの田舎にて土地の人の訛、アクセントは半分はわからず僅かにF君のアクセントと共通点を見出し氣を慰めて居ります。

西井氏は内科、小児科、理学科を看板に仲々流行つて居ります。外來少き時と三四十多きは八九十に由ぶ由、目下病室の方と修理中にてベッドは約十個と思ひます。外科の方は目下設備中にて尚一週間や十日はかゝると思ひます。

先は乱筆にて近況御通知まで。草々

○ 辻 岡 元

早速御返筆を出す筈でしたが去年十一月医局を去りまして見學と云ふ格で一週に一度乃至二度と皆さんとお會ひとしお話として居るので、改めて近況を

御報告致す事もありませぬ。目下は亡父の後を継いで医師四人薬劑師一人薬局生三人看護婦三人で毎日働かされて居ります。尤も小生宅では、内科と婦人科です。従弟のネーベンとしてやつと医局で一本立ちとなつた喜びから又ネーベン生活に入りました。医局に居ると異つて、吉原遊廓内の医者は短時間で大勢の患者と見亦慰安をしてやらねばならぬので、骨の折れる事一通りではなく、殊に彼女等は四囲の情況から医者が唯一の慰安して呉れる人と思ふて居るので普通の開業医より二重の手間が要り晝と夜と間違つた生活をして居る人達とて夜半に起す事を平氣でやられるので一番閉口です。今に手際よくなつたら吉報をお報せします。

當地にお出での節は御立寄りの程を。

尚末筆ながら、茂木先生初め皆々様の御壯健なる事を祈ります。

○
相見 三郎

拜啓 御一同御健勝の段奉賀候

小生出発の際はお揃ひにて御見送り被下深く感謝罷在候有難く御礼申上候

病院は未だ落成仕らず、萬端の設備はこれより取懸る手筈にて來月上旬には
仕事と緒につく事と存じ候、何分山間僻地の事故偏に皆様の御後援に俟つ他は
無之候

當地は風光絶佳にて近く天龍の峡谷に臨み、遠く赤石の秀峰に対し万山の紅
葉眩きばかりに候、敢て提灯を持つにはあらねど是非諸兄の御遊訪を御願ひ申
上候

乍末筆皆様の御自愛御発展を祈り上候 匆々頓首



○昭和八年度同窓會役員

會長 茂木藏之助先生

評議員 犬養六郎君 (いろは順)

大庭國紀君

大曾根幾次郎君

上石英造君

竹下貫一君

梅村六郎君

柳莊一君

山本順君

前田和三四郎君

木村博君

幹事 町田謙二君 (昭和七年十一月改選)

川田正雄君 (會計)

百溪定七郎君

○昭和七年度會計報告

田村信介君
 笹島彦次郎君
 伊藤國男君

収入の部

昭和六年度繰入金

三二八七・三四

» 七年度一般収入

五二五・〇〇

計

三八一・三四

支出の部

一 一般支出

九二・二五

外科教室十週年紀念号
 出版並發送費

一二四七・七四

計

一三三九・九九

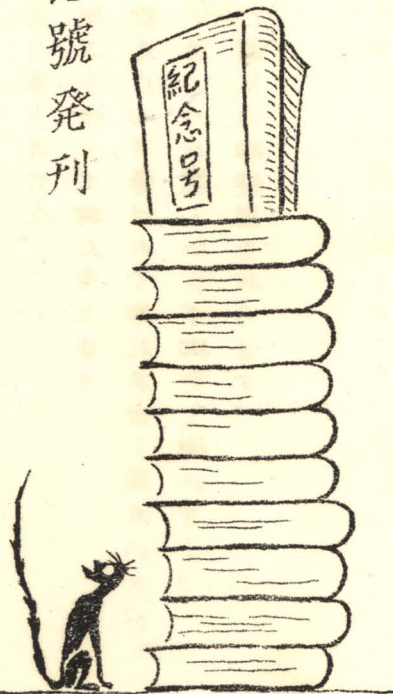
差引残高

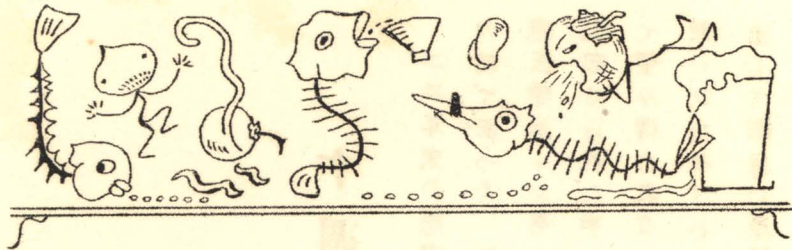
二四七二・三五

尚今年度より同窓會費を一年金三円に改正致しました。

十週年紀念號發刊

二三年來の懸案であり全同窓會員各位否全外科学會待望の的であつた、医局十週年紀念号は愈本年三月印刷發行せられました。慶應医学第十二卷三号の附録として又單行刷りとして同窓會各員の御手許に配布せられた事と存じます。色々の方面の囀を耳にしますが、望むべくして望み得られない得難い努力であるとして珍重せられて居ます。全く類の無い刊行物である事は申す迄ありません。炎暑の頃庭の木蔭に藤椅子を出して部厚い原稿を整理せられた茂木先生の御奮闘が目に寫ります。





御 禮

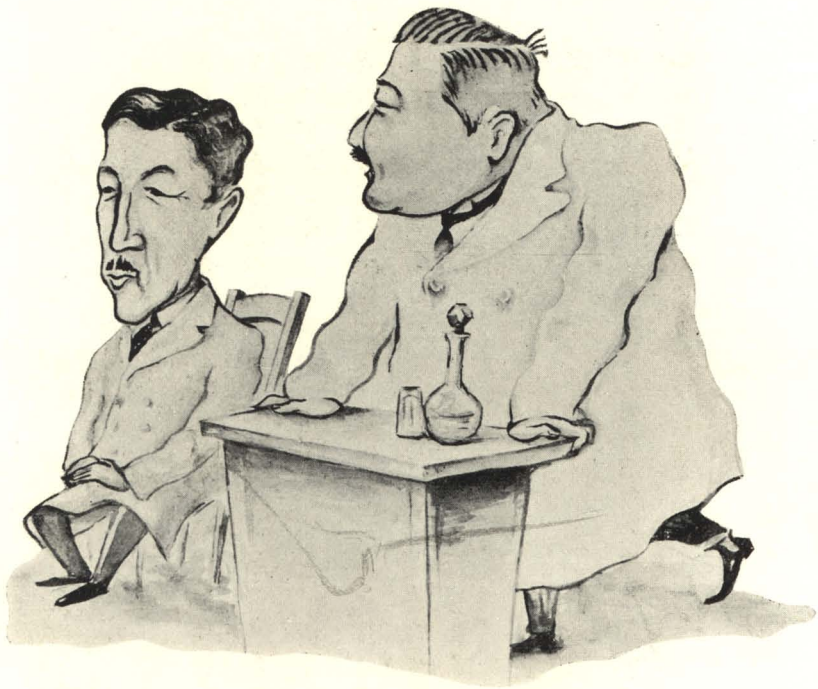
各地に御健闘致さる、諸先輩には、医局に於ける我々後進をお忘れ無く、毎度季節の名産を御送り下さいまして有難う御座います。

忽ちのうちに酒は樽々、魚は骨々、果物は皮にして一同珍重玩味致して居ります。此点昔と少しと変りありません。

厚く紙工を借りて御礼申上ます。

猶御馳走に心を奪はれて御礼状出し漏れの方が御座いましたら悪しからず御免し願ひます。

終りに諸兄の御健康を祈ります。



術 學

外 科

◎日本外科学會總會 (第三三回)

我国外科学の尖端を物語る日本外科学會總會は春尚寒き四月一二、
三の三日間東大工学部新講堂で開かれました。

當教室よりの演題は

- 一、日光紫外線量ノ時間的並びニ季節的變動ニ就テ 志 田 君
- 一、火傷ノ單寧酸療法 百 溪 君





一、急性化膿性疾患ノ石炭酸洗滌療法ニ就テ(續報)

原 君

尚第一日(四月一日)當教室先輩柳莊一教授は宿題報告者として「氣管支喘息ノ外科(特ニキウンメル氏頸部交感神経切除術ニ就テ)」に就き多年の蘊蓄を傾け約二時間に亘り講演せられ多大の感激を興へられました。

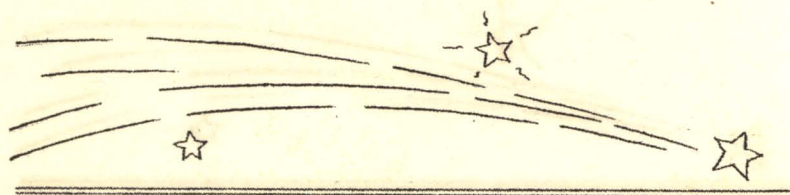
◎外科集談會 (於神田一ツ橋学士會館)

第三一二回(九月廿二日)當外科教室當番

當教室より鍋島、小野田両君の演題がありました。が塩田教授帰朝歓迎會を兼ねた為時間の都合で今教授の「歐米外科見聞談」のみとなり、教室両君の演題は次回と致しました。

第三一三回(十月廿八日)東京鉄道病院當番

- 一、結節性精系動脈周囲炎ノ一例 小野田 君
- 一、肺臟チストマ卵ニヨル陰囊内腫瘍ノ一例 鍋 島 君



一、大腿内側筋肉ヘルニアノ一例

成内君

一、小児ニ發生セル瘰癧ノ一例

土方君

◎慶應医学會總會（昭和七年十一月東校舎講堂）

一、開腹術ニ於ケル血圧ノ變化

瀬尾君

◎抄讀會（昭和六年十一月—七年十月）

第七〇回（十一月廿六日）

一、慢性骨髓炎ノ肉蠅幼虫ニヨル治療

笹島君

一、膝關節結核ノ診断ト治療並ニ關節鏡ニ就テ

小沢君

一、包莖ノ一新手術式

森文君

第七一回（十二月廿二日）

一、植皮法ニ就テノ一新法

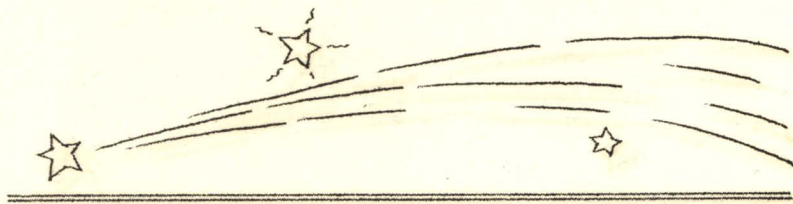
明榮君

一、ヒヨルドトミー

島田君

一、手術ニ對スル患者抵抗カノ測定

相見君



一、「ヒペルビタミノージス」D 志田君

第七二回（一月廿八日）

一、「アクスハウゼン」氏ノ骨前移植ニ就テ 武藤君

一、新脾臓内分泌物「カリクレン」並ニソノ治療的應用 布留君

一、「ペリヅラーレゼグメンテ・アネステジー」 田村君

第七三回（二月廿五日）

一、「ヘモチトラート」ニテ惹起セル造血器ノ組織学的変化ニ就

テ

一、静脈留ノ注射療法 栗本君

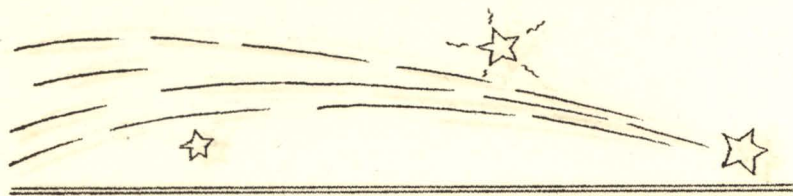
一、「イレウス」ニ於テ惹起セル自家中毒 酒井君

一、外科的骨疾患殊ニ骨髓炎ニ於ケル肝油療法 高橋君

一、化膿性腹膜炎ノ血清療法及原因並ニ経験 中村君

第七四回（三月二十八日）は学会予演

三月末医局茶話會にて抄読會を月二回とすることに決し茂木



先生の御裁可を経て昭和七年度より第一、第三水曜の二回となり
りました。

昭和七年度

四月は都合により中止し五月第一と合併しました。

第七五回（五月五日）

一、実験的局所化膿竈ニ於ケル殺菌剤効力ノ比較研究

浜名君

一、麻酔時及麻酔後ニ於ケル炭酸瓦斯吸入ノ應用

若林君

一、腹膜癒着ト消化酵素適用ニヨル其予防

伊藤君

一、多発性脂肪嚢腫（乳癌仮性再発）

土方君

一、全耳殻補充ニ就テ

君塚君

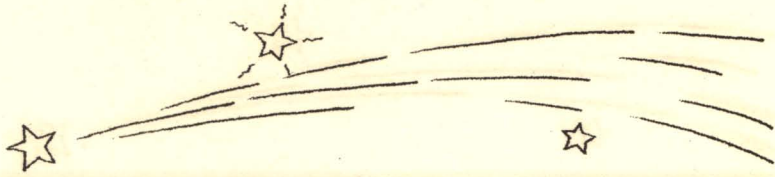
一、第七六回（五月十七日）

一、血液成分測定器官トシテノ副腎

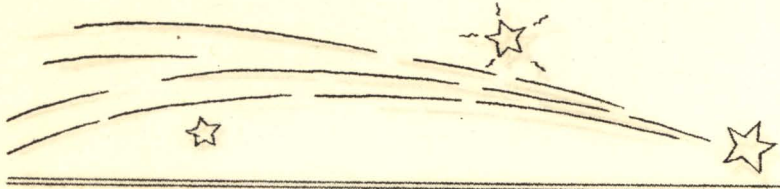
百溪君

一、小児ノ臍胸ニ就テ

伊藤君



- 一、食道胃吻合術ニ就テ 板橋君
- 一、螺旋平板縫合ニヨル腹壁ヘルニア手術 島中君
- 一、四肢膿毒症及進行性栓塞性静脈炎ニ於ケル静脈結紮 神山地君
- 一、小腸瘻閉塞ノ適應及技術ニ就テ 小野田君
- 一、手術後進行性皮膚潰瘍 瀬尾君
- 第七七回（六月十四日）
- 一、ソヂウムアマミタール（百七十二例ノ外科的手術ニ於ケル静脈内利用ニ就テノ要略） 門橋君
- 一、腰椎麻酔ノ經驗ニ就テ 成内君
- 一、骨盤骨折ノ牽引療法 堀田君
- 一、「ロイマチスムス」ノ定義及療法 鍋島君
- 一、甲狀腺腫ノ手術方法ニ就テ 藤原君
- 第七八回（六月廿八日）
- 一、指牽縮及聯指ノ鋸齒狀成形



口注膿瘍ノ藥物療法（但シ漢法）

竜野君

一、腹膜炎ノ迅速ナル豫防法

富田君

一、麻酔中ノ皮膚温測定ト手後ニ対スルソノ意義

川田君

第七九回（十月十一日）

一、火傷療法ニ於ケル過誤危険及ビ予期セザル合併症ニ就テ

明樂君

一、先天性直腸閉鎖児ノ生存ニ就テ

笹島君

一、人工肛門ノ造設術ノ一新法

栗本君

一、腹腔内注入麻酔

小沢君

一、陰囊水腫ノ一新手術法

森文君

第八〇回（十月廿五日）

一、虫様突起炎手術ニ関スル血液像ノ價値

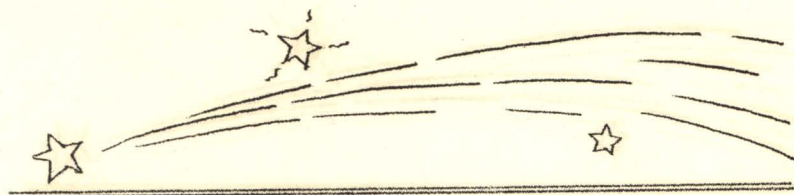
中村寛君

一、脊椎彎曲ニ於ケル脊髓ノ压迫性麻痺

野崎君

一、尿閉トソノ酸療法

武藤君



一、乳腺腫瘍ノX線診断

相見君

一、肋間筋ノ断裂

志田君

◎ 吾教室よりの文献

昭和六年十二月

一、「アクチノミコーゼ」(診断と治療六十二) 町田講師

昭和七年一月

一、創傷療法ニ就テ(臨講七・一) 町田講師

二月

一、腸管囊腫ノ一例(東京医事新誌七・二) 桑野君

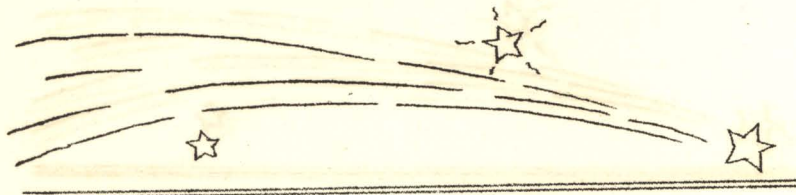
三月

一、急性脾臓壊死ノ診断及其外科的処置(臨床医学七・三)

町田講師

四月

一、直腸癌ノ早期診断ニ就テ(臨床医学七・四) 木村教授



五月

一、異物ニヨル穿孔性腹膜炎（臨講七・五）

木村教授
笹島君

八月

一、ホヂキン氏病（臨講七・八）

佐藤助教授

二、骨折ノ療法（全）

町田講師

三、虫様突起内ニ於ケル異物ニ就テ（診断ト治療七・八）

森 豊 君

九月

一、急性化膿性疾患ノ石灰酸療法ニ就テ（日本外科学會雜誌七・

九）

原 講師

二、膿胸（「グレンツゲビート」七・九）

沢 江 君

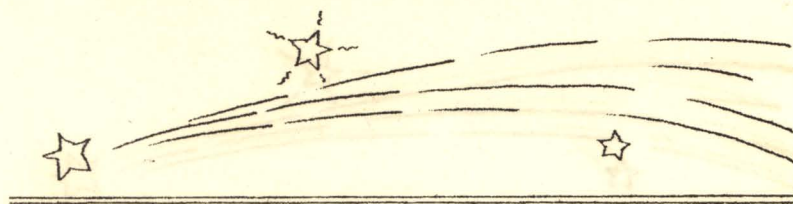
三、眞性肝臓膿腫ノニ例ニ就テ（全）

豊 田 君

四、脾臓膿腫ノ一治験例（全）

照 井 君

十月



一、顔面アクチノミコーゼ（臨床講義）（実験医報七十）

茂木教授

十一月

一、血液型 医学輯覽 臨時増刊、体液診断号、医学輯覧社発

行

町田講師

婦人之乳有数種

高腫爲癰堅硬疽

還有乳岩眞惡症

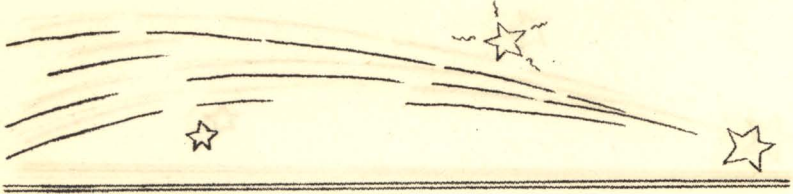
腫如頑石破如墟

鈕和之風生頸項

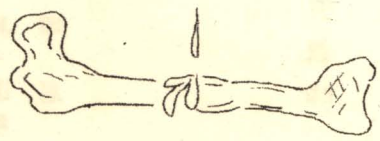
裙帶風瘡脚下需

又有溼臙瘡等疾

總生下腿上海居



整形外科



◎ 整形外科学會總會

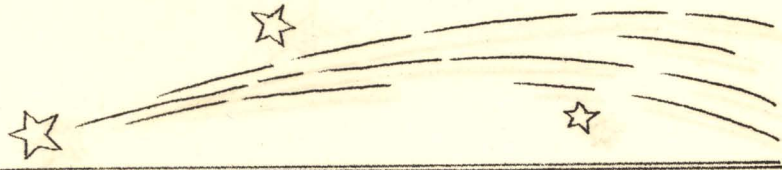
昭和七年四月二日、三日於東京帝國大學工學部三階第一号講堂開催。吾教室ヨリノ発表演題及講演者左ノ如シ

二 日

「ミクログラフィ」ト脊椎及脊髓内手術例追加 岩原講師

三 日

赤血球沈降速度測定ニ影響スル外科條件ノ二、三ニ就テ



岩原講師

赤血球沈降反應ニ於ケル赤血球容量、赤血球數及血色素量ノ意

義 伊藤由君

骨關節結核ニ於ケル「グフタディアフォート」ト赤血球沈降反

應 布留君

先天性筋性斜頸ノ哺乳兒期ニ於ケル保存的療法（「マツサーヂ」

療法）ノ成績 島田君

ゲルソン、ヘルマンズドルフェル、ザウエルブルツフ氏無食塩

食餌療法ヲ施セル骨關節結核患者ノ治愈經過ニ就テ、其二退院

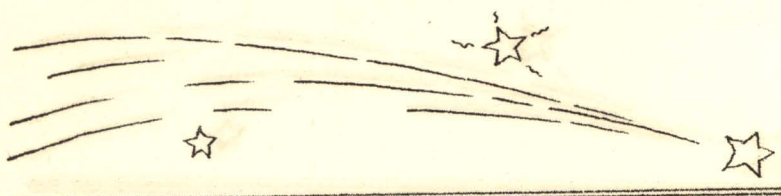
食餌療法中止後ノ經過 堀田君

◎整形外科集談會

第五九回（昭和六年十月）於横浜「ガーデン」

「ミエログラフィ」ト興味マル脊椎内手術例（其一）

岩原講師



第六一回（昭和六年十二月）於東京醫師會館

「ミエログラフィ」ト興味アル脊椎内手術例（其二）

岩原講師

大腿骨上端部ニ於ケル局限性纖維性骨炎ノ標本供覽

前田教授

第六二回（昭和七年二月）於日本赤十字社病院

剖検セル頸椎骨折ノ一例

森 豊 君

第六三回（昭和七年五月）於慈惠會醫院講堂

「ミエログラフィ」ト興味アル脊椎内手術例（其三）

岩原講師

第六四回（昭和七年六月）於深川清澄庭園内涼亭

Margall 氏法ニヨル先天性膀胱破裂ノ一治驗例

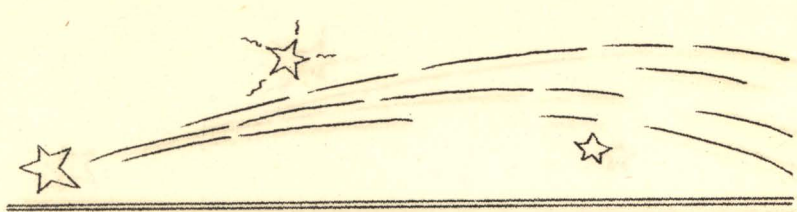
神 山地 君

附：膀胱粘膜ノ知覚ニ就テ

第六五回（昭和七年一〇月）於東大整形外科教室

最近經驗セル徽毒性關節水腫ニ就テ

堀 田 君



「ミエログラフイ」ト興味アル脊椎内手術例（其四、馬尾神経部
「アテローム」糠腫瘍）
岩原講師

◎日本医科機械学会

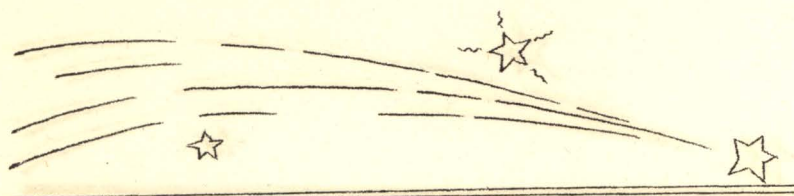
日本医科器械学会十月例会於東京医師會館
後頭下穿刺法ト自家改良穿刺針ニ就テ
岩原講師

◎慶應医学會總會

昭和七年一一月於東校舎講堂
後頭下穿刺ヘチステルネン・プリンクチオンノ臨床經驗
岩原講師

◎吾教室ヨリ發表セシ文獻

寒性膿瘍ノ診断ト治療
前田教授
岩原講師
（実験医報第一八年第二〇九号昭七、三）



關節結核ノ診断及保存の療法 岩原講師

(臨床医学第二〇年第三号昭七、三)

赤血球沈降速度ニ關係アル外的條件ノ二三ニ就テ

其二、放置時間 岩原講師

(慶應医学第一二卷第三号昭七、三)

赤血球沈降速度測定法トシテノSedigraphieトウエスターグレ

ン氏法トノ比較

附 Sedigraphie ニ於ケル一新知見 小方君

(日本整形外科学會雜誌第六卷第六号昭七、三)

「ミエログラフィー」ト脊椎及脊椎内手術追加 岩原講師

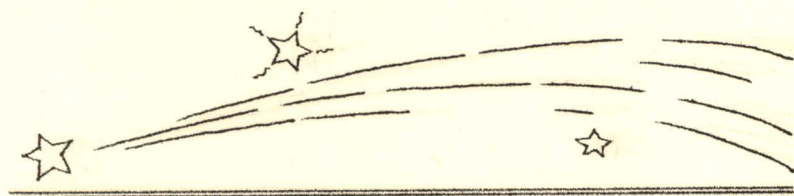
(医事公論第一〇三二号昭七、四)

赤血球沈降速度ニ關係アル外的條件ノ二三ニ就テ

其三、測定管腔ノ大小 岩原講師

(慶應医学第一二卷第五号昭七、五)

赤血球沈降反應ト Wassermann 氏反應トノ相互關係ニ就テノ



考察

若林君

(慶應医学第一二巻第五号昭七、五)

先天性筋性斜頸の哺乳児期に於ける保存的療法(「マッサージ療法」の成績) 島田君

(グレンツゲビート第六年第七号昭七、七)

骨関節結核患者ニ施行セルケルソン、ヘルマンズドルフェル、ザウエルブルツフ氏無食塩食餌療法ノ成績

堀田君

其一、入院食餌療法施行中ノ経過 (日本整形外科学會雜誌第七巻第二号昭七、七)

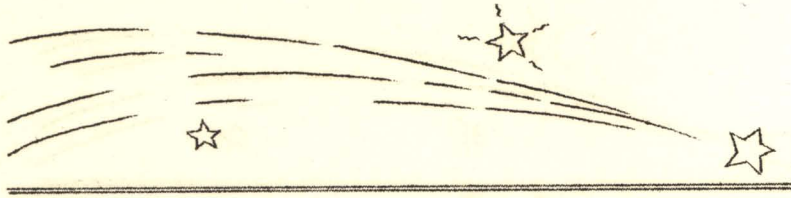
「ミエログラフイ」ト脊椎及脊髓外科知見補遺

岩原講師

脊髄硬膜外腫瘍ニ就テ (日本整形外科学會雜誌第七巻第三号昭七、八)

骨關節結核疾患ニ於ケル「グツタデイアフォート」ト赤血球沈降反應 布留君

(慶應医学第一二巻第九号昭七、九)



拘樓病ト紫外線療法

(グレンツゲビート第六年第一〇号昭七・一〇)

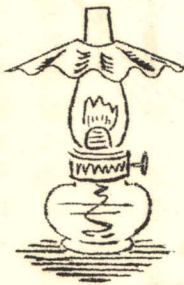
志田君

◎本年ノ京都ニ於ケル整形外科学會宿題ニ於テ本教室前田教授

ガ一部分分擔セラレマス

演題ハ「脊椎カリエスノ診断ニ就テ」デス

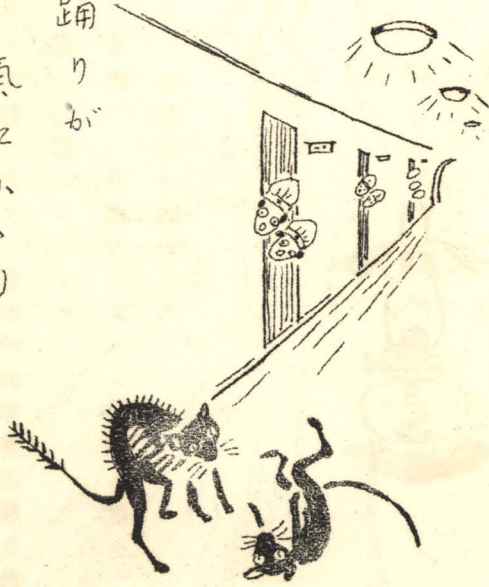
大方ノ御援助ヲ願ヒマス。



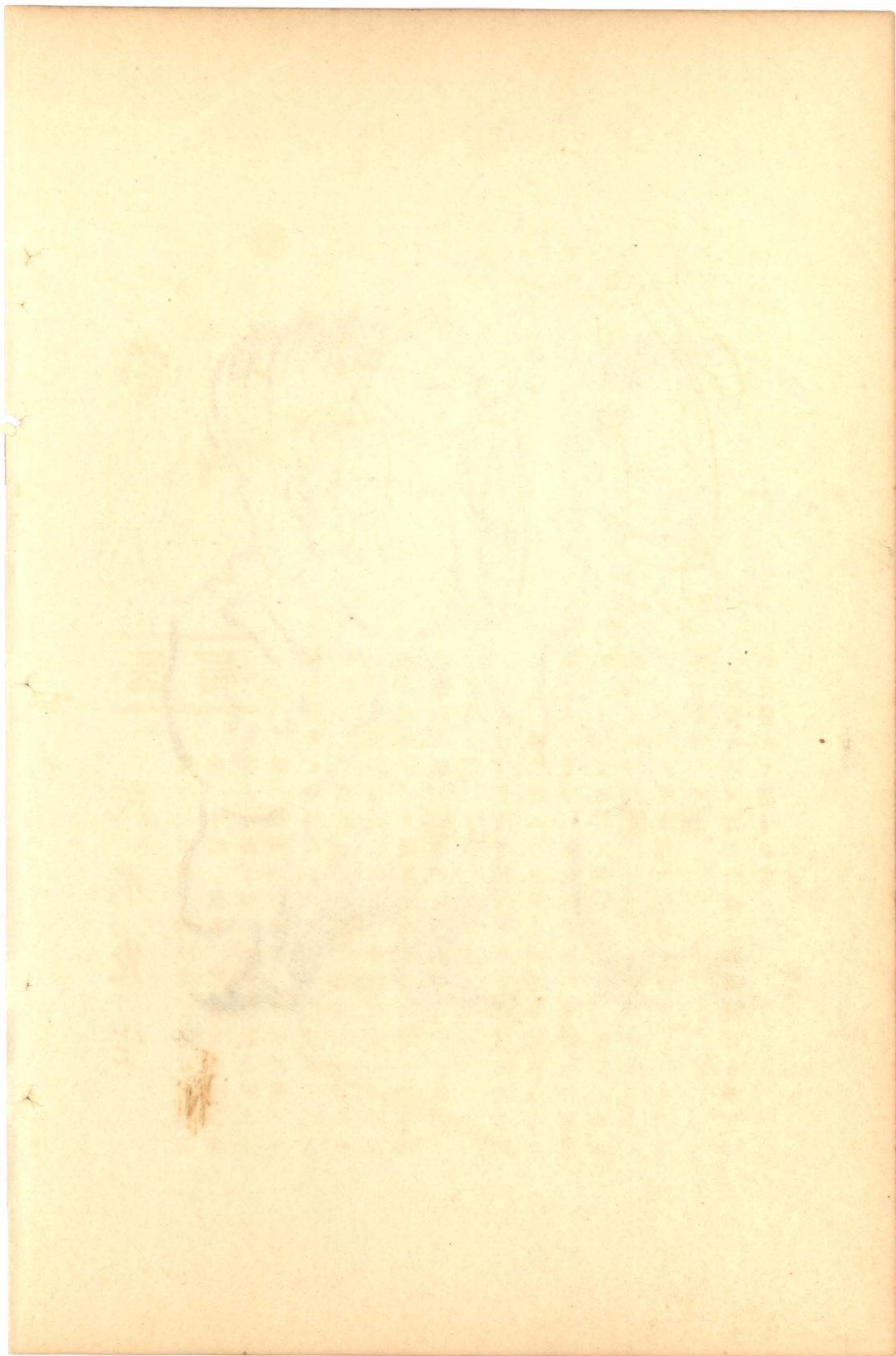
明番は

猫の踊りが

氣にかゝり









局 医

茂木先生

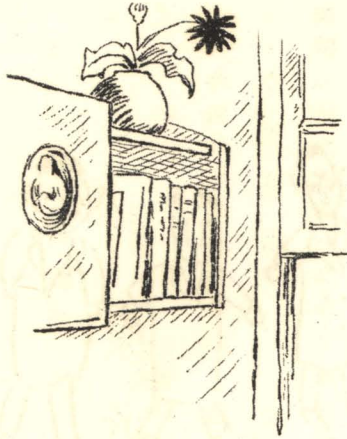
先生には益々御健健で毎日外來診察、手術、講義、医局員の御指導等と寸暇も無く御活動致されます。誰かが何かの時に、外來診察と手術を一日でやつたらタタタに疲れて恐しく忙しくて疲れるものだと思心して居ました。先生には此の忙しい寸暇を偷んで勉強せられます。十週年紀念号の執筆、外科類症鑑別診断の出版が此の御努力の一部として斯界を湿らす事になりました。

猶医局に童顔を現はされる時は何時も快活で、時に野球のラヂオ放送を聞入られる事もあります。日光浴兼用の魚釣り野球見物と不相変続けて居られます。先日三田四谷野球戦には自らカッブを授與せられました。お酒と老酒をコップでガブ／＼召上る事首の通りです。

医局員一同先生の益々御健勝なる事を心から喜んで居ります。

外來診察室

外科の第一診察室は、相変わらず午前
十時から茂木、木村、佐藤先生が診察
せられます。依頼票に依る診察は十一
時半迄です。フライの診察は今迄午後
であつたのが午前中になり、処置室を



第三診察室と

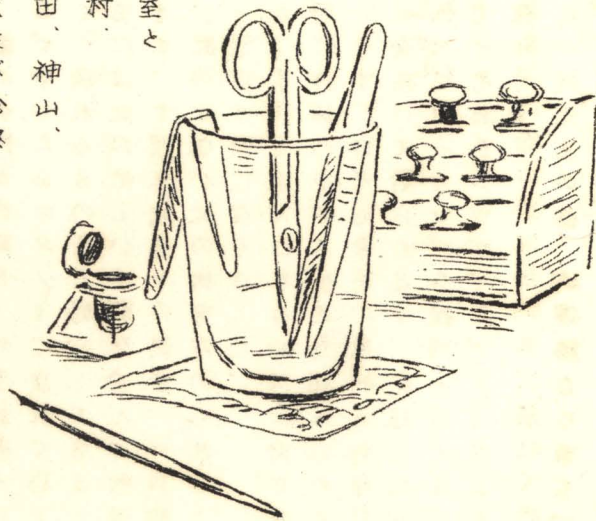
して、木村

佐藤、町田、神山、

川田、森先生が診察

せられます。

整形外科第一は前田、岩原先生が
隔日に診察して居ます。



診療近況

外科外来患者 百五十名

入院患者 百名

矢張りアツペが一番多く本年既に四百五十名です

整形外来患者 百名

入院患者 五十名

脊椎カリエス、骨折、股脱が主です

西病舎が出来ると総べてがこの倍になります

外科医局発展近況

近年外科医局の発展は目醒ましいものがある。内部の事は全紙上に溢れて居るから外部の膨脹を摘記して見る。

近い所では西病舎が建て更つて別館になつた。白壁四層の広大なので。外科は勿論内科、婦人科、精神科、結核の病室を備へ、講堂、手術室、レントゲン室を抱擁し堂々たる一城廓の觀を具へた偉風は、又四谷の威を加へた。十二月から開院の予定で、ベツトの配置は未定乍ら二三等室に當てらるゝ由で、何れ本館とは地下道で継ぐさうである。更に予防医学との間にはセ。米とハ。米の運動場が出来る筈である。

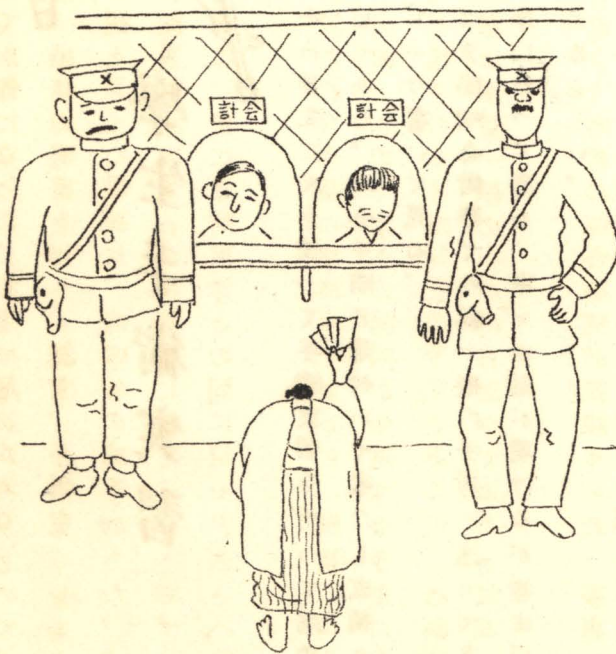
静岡市に日本赤十字病院が新設され只今盛に建築中であるが、院長には我佐藤助教自ら馬を陣頭に進め、川田、志田、栗本の諸氏が活躍する予定になつて居て今から準備に忙しい。何れ來年の五月頃開院の予定であるが、各科共我病院の腕利き揃ひであるので、富士南麓一般の人が待ち詭びてゐるとは左こそ思はれる。

猶伊豆の土肥、修善寺にはそれぐゞ町村の組合病院が新設せられ、慶應からは非との話で、土肥には中村君が赴任し、修善寺には既に候補者が定まつて居る。

其の他最近、原講師は横浜の済生會病院長に赴任せらゝ等、書き出せば限り

の無い御目出度い話続きで、一寸公立病院の分だけを摘記して見たわけである。

大森のギャングが
慶應病院を狙って
ゐたと新聞に出て
からは病棟會計の
前は此の通りの有
様であるのであり
ます。





學生手術實習

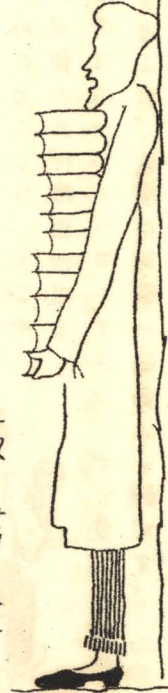
昭和五年から學生に犬を使つて手術實習を行つて居る。今年で三回目である。大分手順と落付いて來たし成績と分つて來たので一寸書いて見る。

行る事は小は糸結びから、大は胃腸吻合術等で外科一般の手術一通りである。一組四名で十回で一課程が終る事になつて居る。中々世話が焼けるが學生は初めて持つメスに色々な感興を覚えるらしい。

卒業して外科をやる人は少数であるから大部分の人には無役の様に思はれたが卒業生の評判を聞いて見ると中々役に立つ相だ。例へば内科的方面の人が小手術をどうしてとやらねばならぬ時に落付いた氣分で居られると言ふ。基礎に行つた人は早速動物試験でマゴ付かずに済むと言つて居る。陸軍々医学校で手

△ 續・圖書室の

塵 V V



敲書生

一、圖書館

昨年是不完全な圖書を買入れるので大分骨を折つた。どうやら大体片附いたので今年は慢然と増えるにまかせた形である。それでも去年の十一月からでは一七〇冊増加した。合計藏書數七百冊になつたわけだ。其中九十冊許りが瀬尾君寄贈の「ドイッチエ、ヒルルギー」である。一八〇〇年の末期から一九〇〇年の初めにかけて出版せられた広刊な連続物である。出版から見て歴史的に尊いだけのものと思つて居たが、いざ來て見ると中々便利で需用と相當ある。殊に臨床例の旧いものを採すには無くてならぬ。大いに感謝すべきである。其他新しい事では新しいにと未來の事だが、圖書費の寄附金が値打ちのある本の出ぬのを恨しく待つてゐる事だ。

二、雑誌の話

昨月で邦文雑誌の欠本を探すのは打切った。本屋も疲れたし図書館も疲れたからだ。併し今一息と云ふので今度は丸善其の他に洋雑誌の欠本や「バックナンバー」の補充を注文した。可成り大部であったが四月頃からぼち／＼着荷し始め、着荷すると製本して七月には大体片付いて了った。流石書籍商の發達した独乙だと思つた。日本と違ふ。英佛のものには日本と同じく少ししかないのに未だに來ない。愉快だつたのは三四會の書籍部に五冊許り「バックナンバー」の端くれがあつて本屋が何の本か判らんでマゴ／＼して居る間に安く買取つて了つた。

是で洋雑誌の王座を占めて居る独乙書は大概揃つた。主なものは「ブルン」「ドイッチェツァイトシユリフト」「ツェントラル・オルガン」等で、最近犬養先生の寄附金で「ツェントラルブラットルダレンツゲビート」をそつくり買入れた。今迄は大部不揃の点があつて御迷惑をかけたが、是からは「ナンバードワン」から何処を圧してと先づ一頁も落ちて居ない事受合だ。併し乍ら頭痛

の種は為替相場といふ厄介なもの、為に予算が足を出した事だ。

此の四月に雑誌と揃ったので雑誌目録を出版して各位の便宜を計つて見た。その際の記録では洋雑誌二十三、邦文雑誌六十種といふ事になつて居る。図書目録をいづれに作つてくれと云ふ方がある。その方は大分大変な仕事になるので何かの機會に譲る事にした。

三、本の紛失する話



年に一回宛中央図書から人が来て図書調べをする。去年は休んだが今年は五月頃やつて来た。新しく紛失したものが一冊有つた外は、却つて一昨年無い事になつてゐた本が段々妙な所から出て来た。成績甚だ良好である。今年は昔から紛失になつて居る本六七冊、毎年の事なので新しく買つて弁償して了つた。是で圖書の紛失は一冊と無い事になるのでさつぱりした。雑誌の方も今度の買入れで紛失したものと何となしに補充したのだから全く薩張りした。こんなさつぱりした事はない。

およそ本を紛失する人の事を考へるに、多くチビチビ惜りて惜溜めをする人である。後になつてどれを惜りたのか忘れて居る。最近貸出簿が盛に利用されるので薄い雑誌でも大概返つて来る様だ。甚だ結構な事だ。本年になつて全然出て来ない本はたつた二冊である。惜りた証據がない上に、此の本は一寸あつていゝものだし、揭示を出して何の反響もない所から推して或は盗難かも知れん。図書室には無雑作に揃べてはあるが、其実可成り貴重な本が置いてあるのだから、我々が紛失させぬのは勿論、見知らぬ外來者等には軽く注意をくばつて戴きたいものだ。敲書氏に言はせると圖書の背を敲いてさちんとして置くのは紛失を早く知る手段なのだから是非各位から御援助を仰ぎたい。

紛失では妙な話がある。今年の図書調べで、今は取つて居ない「アメリカ」の雑誌が五冊許り行方不明になつた。是はラヂウムと異つて大判の厚い本だから誰にと目に附く筈だが、図書係は勿論誰とそんな本の有つた事すら知つて居る人が無い。中央圖書の帳簿には一昨年有つたとちやんと判がついてあるから全く不思議だ。何処を探しても全然無い。如何なる経路で是が発見されるか一寸察しみな様な氣がする。



四、鼠の出る話

紙魚と言へば本にはつきとの、風流な虫である。処で無風流乍ら図書館には一疋と居ない。洋紙は食はぬものと見える。其の代り鼠が出る。やつと製本が出来上つて来た新しい雑誌の縁を奇麗に食ふ。おまけに糞等をして何喰はぬ顔を

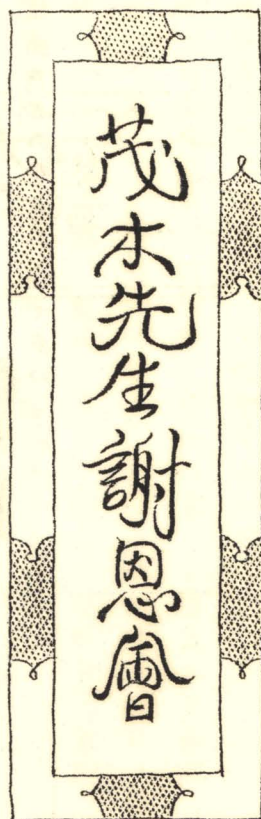
して帰つてしまふ。

初めは一寸した悪戯だらうと思つて居たが、余程お氣に召すと見えて度々出て来る。最近又矢鱈に噛り出す様になつた。何疋居るか知らんがたまらん話である。所で怪体な事にはどの本にと喰ひつくわけでない。必ず黒い「クロース」の本を喰ふ。それと中味には興味が無いと見えて表紙だけを喰ふ。表紙とボール紙よりは「クロース」を喰ふ。普段は「シャボン」を喰つたり本箱を噛る癖に図書となると一かど注文があるのは片腹痛い。兎に角図書館の一大事であるが別に腹いせの仕様がなない。筋は違ふかど知ら

んが先づ製本屋を脅かして見た。彼の言ふには、黒の「クローズ」の油が兎の嗜好に適するのだ、と説明するだけでケロリとしてゐる。こうなれば仕方がない。何とか退治法を講じなければならぬ。別に當ても無かつたが「リゾール」で本の縁を拭いて一番兎の出る処に置いて見た。今の処喰はぬ様である。

およそ四タクヤ人の集りで医者なる事を言ひ当てられて癩に触るのは「リゾール」の臭みである。若し兎公兎を喰へばいざ、か腹癒せになる。若し是を喰はずば日頃の罪一等を減ずると可なりである。一拳両得とは是に近きものを言ふのであらうか。





茂木先生謝恩會

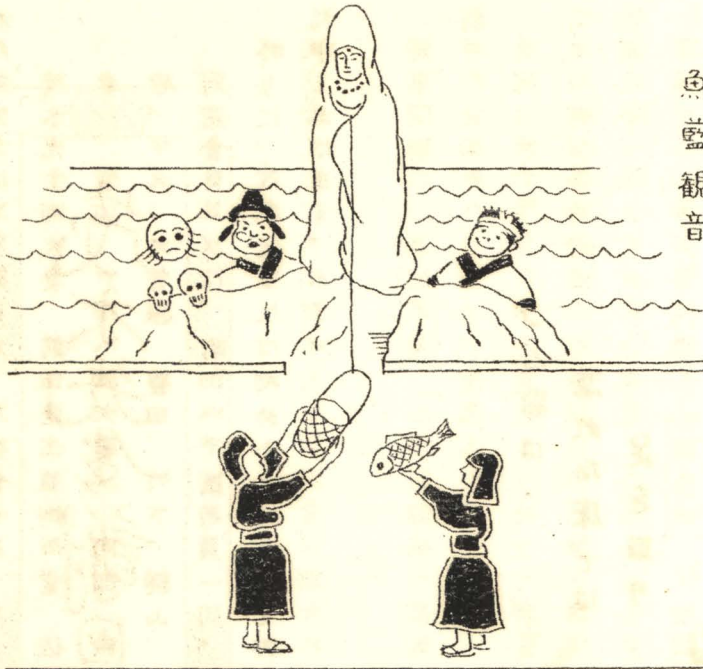
同窓會主催、吉例茂木先生謝恩會は昭和六年十二月十七日東京劇場で行はれた。

時争問題の **満洲革命** には時節柄一同大いに血を湧かした。つい思はず、劇中の支那軍人を罵り、憤激した。

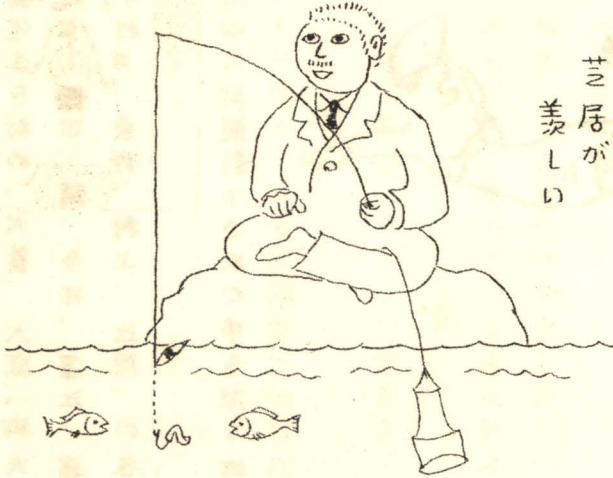
芳沢公使の熱弁に快を覚えた。終つて食堂に入り、盃を挙げて、平素の茂木先生の御指導御鞭撻に對し深甚の感謝を捧げ、併せて、先生の御健康を祝した。熱誠の余り祝しすぎ次を見落した先生方もあつたとやら。

宴終つて、再び席に歸り **猪八戒** に抱腹し、最後の **小栗栖の長兵衛** に義憤滑稽を交々感じ、歡を盡して、霧々の和氣の裡に散會した。當日出席せら

通天河の
魚藍観音



昨日の
芝居が
羨しい



れた先生方は次の通りで、大盛會であつた。

茂木先生御夫妻、前田先生並御母堂、佐藤先生を初め、犬養、大庭（御夫妻）、柴沼、戸田（御夫妻）、阿部、中村武、鎌田、関、今井、澤江、篠原、牛久、大曾根、豊田、竹下、横山、中村、桑野、村上、辻岡、の各同窓會員並びに、町田以下医局員一同。

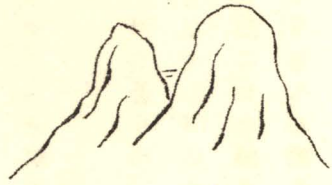
終りに、茂木先生には初めから終りまで御熱心に御観劇下された事を深く御礼申し上げます。（へ了）

ゴム靴は

濡れた床では

足を取り





新人局員歓迎 旅行の記



比較的長い車内の上手なサービスに一同はや、疲れを
見せて湓川駅に着いた。早速用意の自動車で伊香保へ。

曇り日の寒空にひどい塵芥を浴びた車と人と、恐ろしい急勾配を登つて仁泉
亭に入ったかと思ふと、どう早くも旅装を捨て、忙しい。

二階の窓から薄暮れ行く上越境の山々が未だ雪を戴いて遠く微かに、又近く
は小野子、子持、赤城の峯々が日を背にして黒ずんでゐるのは不如帰の浪子に
非らぬ若者三人四人眺めつゝ、しばし旅情にひたつてゐる。

かと思ふと湯を探しに行く人々忙しく町を見物に行く人々、こゝ、一時間余り
は各々その趣味探索に活動して居る。

日落ちて間もなく美妓十数名を侍らして大宴會が開かれた。何にしろ強者ぞ
るひ、酒によし歌によし、新入役員の臆だめしに相應しく、乾盃又乾盃、應酬
に席乱れて行き交ふ姿は、三絃の響あでやかな踊の艶に織を交へて、湯の町の
賑ひと華やかさが此の大廣間に集り盡きるかと思はれる位だ。約二時間の此の
和氣霽々たる歓迎の宴やうやく静まり返へれば、後は壯者の喜悅と満足に夜は
更けて行つた。

明け初めたこの山国の初春のすがくしい空氣と朝湯で昨夜の疲労と嫌怠は
すつかり落した一同は、今日一日の行程がや、忙しいので、朝食とあはたゞし
くケーブルカー停車場へと下りた。こゝで文字通り送り抜きの美妓数名を加へ
てカラ／＼と軋るケーブルの響きに展開する景色を眺めつゝ上へ上へと導かれ
た。

今日も曇り日、春若きこの山は吹く風も冬の名残りを込めて寒い。ケーブル
を下りてしばらく高原に遊んだ。こゝらあたりはスキーの好適地、よいスロー
プを思はせる榛名諸峯の裾は未だ狐色に焦げてゐる。湖畔亭までの沿道は満々
と水を湛へた榛名湖は若草の薄い榛名富士、烏帽子岳、硯岩を寫して鏡の様に

澄んでゐるい、眺めだ。

先着の連中はすでに妓と共に汀に遊ぶ、一情又濃やかなりだ。再び初まった宴會は三人の愉快な鬪志の話題に芽を出し、重なる酒盃と名物のテンプラに調子を付けてはては情緒濃やかなる対面の三組を強いて喜び、談笑放歌乱舞の花咲き乱れ、伊香保小唄に空をうばつてしはし春花爛漫の中に遊ぶが如く陶然として歡喜に酔つた。そしてはり切つた一同の應援歌合唱にこの愉快な宴の実を

結んだ。

伊香保の

山の

わらび

狩り



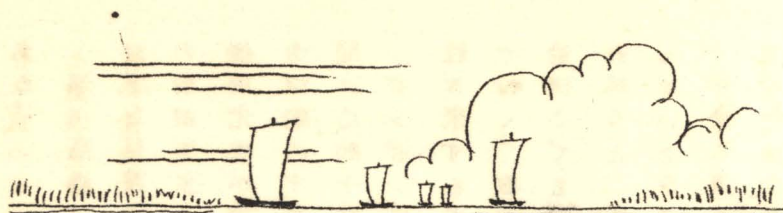
再び自動車にゆられつゝ、榛名の町へ、爪先上りを約一丁、楼間をくぐれば、天地一変、老杉巨櫨鬱々たる寂境裡に九々折の岩道を徘徊しつゝ、奇岩をめぐり、榛名神社に詣でた。社殿の古色、四壁の風光、神氣に満ち。額づきてこの旅行の恙なかりしを謝

し、且つ又医局の前途の祝福を祈る。更に寂光の裡蕭々とひびく笙の音に静々と舞ふ巫女の舞に心氣を清め新たにした後、一同は一途高崎停車場へ。こゝで此の愉快だった旅行に別れを告げた。

或男数回の後、と一度と思ひて匍ひ上る。

女「又ですか」 男少しテレたので

男「何向ふ側へ越すのさ。」



浦安船遊之記

『来る十四日午後千葉縣浦安に於て、茂木先生御招待の船遊
びあり。深川高橋正午出帆へ本院十一時半出發、雨天の際は
十五日に延期。』

斯うした記事が黒板に掲示せられると、医局は急に喜びに満
ちて、昨年の御宿、一昨年の小田原等々、と愉快な記憶が続々
と喚び起されて、現医局員は勿論各地で奮闘せられて居る先輩
諸先生の行跡を思ひ出して豊なる友情を覚え、新なる此の歡喜
に胸を踊らせた。

九月十四日。天氣予報に違はず、降りては霽れ、晴れては時
雨る、悪天候である。そして其の時々に医局員の顔はマーニツ
シユにデプレッシヴになる。然し十一時半の病院出發頃には
どうやら晴れさうになる。一同の有難度がる事は非常なもので

ある。

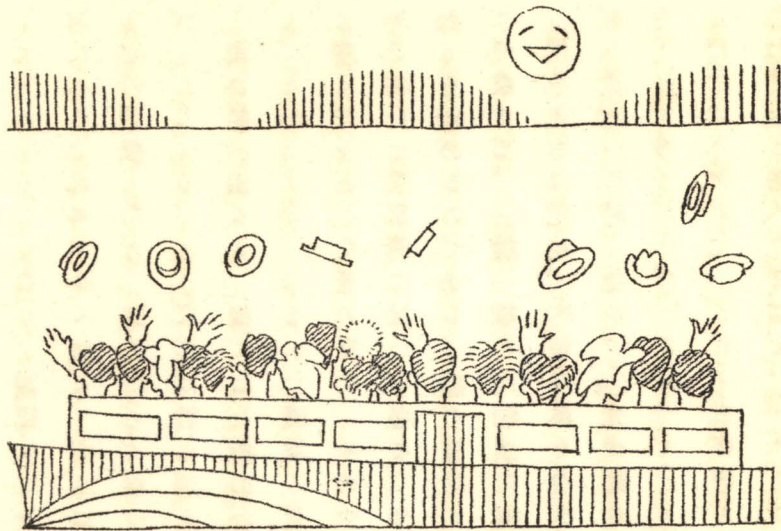
深川高橋・棧橋には既に特別仕立の一銭蒸汽が横付けされて居る。前方の座敷席を見渡すと、真中に茂木先生の温顔が見え、続いてスマートなスポーツ姿の前田先生、浴衣がけの佐藤先生、それから町田医局長、岩原講師、済生會の鎌田先生が控へて居られる。残りの医局員、グルンドの諸先輩、済生會の先生方は船の中央のベンチ席から後方の座敷席、バルコニーに亘つて雑居し、その間々に約十数名よりなる四谷花むさしの姉妹の一團がアインカイレンしてゐる。ポンポンと一銭蒸汽が出かけると、とう乗客一同は口を動かしてゐる。

往き來する冷酒のコップは丸で蒸汽船のガソリンの様に次々と笑みを爆發させて行く。数日來、今日の當直にあたって悲觀して居られた高〇先生はあまりの愉快さでとう酔つて居られる。枝豆の屑がうず高く重なり、焼きいかが頬張られ終ると、御弁當ののり巻を喰べる。そして花むさしの御婦人連は御上品にさつまいさを召し上げる。

中食と済んで、バルコニーへ出て見ると、一銭蒸汽は深川から東へ東へと運河づたみに進んで居る。高橋附近の濁水から荒川の放水路に出ると急に廣々と

して河の水らしくなり、周田には少しの磯の香を漂はすが、亦すぐに第二の運河に入る。此処は全く狭く、西岸は田舎らしくなる。一時半浦安に着す。プラトゼの緊張した方、足のだるくなつた方は下船してウリニーレンしたり、春延びしたりする。とう空には雲も消えて、六根は清浄、浦安は晴天である。

再び船が出ると、後には七艘のお供舟が真赤な旗を立て、引かれて居る。往くこと約二十分、はるかに磯波の見える大きな流の中に船は停る。何方を見てと廣く茫茫とした葦の原で、その中を悠々として、江戸川の流孔が大きな三角洲を描いて東京湾に注いで居る。今我々は七ツの小舟に分れて此の流れにはぜ釣りを始めるのである。船が葦原の岸に横付けされて、一同は七八名づゝ小舟に分乗する。一艘一艘舟は船頭の楫と共に動いて、親舟を中心につりを垂れる。茂木先生は親船で御留守番をなされ、竿の無い長い糸で釣つて居られる。親船へ近づいた時、誰か「先生釣れますか？」と聞きますと、先生は「なに餌をくれて居るだけだ」と云つてにこ／＼して居られる。はぜは全くの素人の我々にとよく釣れて、これで五匹等と云ふのは下手の部で、一時間足らずに二十匹位と云ふ名人？と居る。十六ミリに余念のない瀬の先生はしきりと糸をたれ



るがどうにも釣れない。やいめんどう
 なりと竿で水中をかき廻したら、ほぜ
 の方やか、つて来て、それからは後か
 ら後から釣れて急に名人になれる。
 隣席の百〇先生は細いうなぎを釣つて
 『君達にはうなぎはつれまい』大へん
 御自慢だがどうとはぜの数は少いらし
 い。何の舟もみんな面白さうで時々静
 けさの中に笑ひ声も聞える。

雨後の流れとて水は濁つてゐるが、
 あたりは全く静かである。葦のよとに
 遊ぶ子がに、水鳥の高く低く飛び交ふ
 が彼方の水面に魚をとるさま、またセ
 つハつとあさり舟の山と積んだのが帆
 を張つて海の方より帰り来るなど、詩

人ならばどの、あはれを感じるであらうい、眺めである。空には雲はないが、夕方が忍びよつて、はるか北方には半分かけの虹が稲光りと夕立雲との上に見えて、それとやがて消えてしまふ。

小舟は段々と親船に近づいて来る。めいめいに流し針を上げれば、どの舟とどの舟と医局の漁人達の技術と相俟つて、はぜ、せいご、まるた、鯉などの大漁がある。舟々のとたらず珍談に此の小舟の集落はとて賑かである。唯町の先生だけははだ着にレンコートを付けて寒さうにして居られるがどうしたのでせうか。誰に聞いても分らない。あたりは既に暮色蒼然として、はるか西の方には大森呂川辺であらう電燈の輝きが見えて居る。小舟の端では船頭さんがテンプラ料理に懸命である。子供の様に嬉々として戯れる先生は時々「こりや舟うごかしちゃ、あぶねえつて云ふに」等と叱られる。

親船のバルコニー上の宴會は実に愉快であり、食慾そのものであつた。一度その佳味を味ふときは、天さんの御馳走とその影をひそめる位である。一同は實によく喰べた。やつとお腹の膨れた頃には、あたりは既に暗い。中秋十四日の満月が葦原の端より丁度その時、美しい姿を現はし、さやかなる月影を細波

たつ江戸の流れに浮べると、医局員五十はあらゆる歌、應援歌を、淡墨色の筆原に放送する。斯くてしばらく。

月既に中天に懸るころ、我々の一銭蒸気は愉快な疲労と満足とをのせて帰路についた。月と船とをつなぐ銀色の細波は蒸気の波に一きわ大ゆれを描いてついでくる。浦安に一休み。漁夫達の「慶應大学万々!!」の声を後にして、八時半には既に高橋着。手に手に茂木先生御心盡しのおさりの網をさげて、「茂木先生万々!!」
 「外科医局万々!!」の三唱、そして此の愉快な先生御招待の船遊びはゼエンドとなつた。

「足音せず行かん駒とが勝鹿の真間の継橋やますかよはん」と昔々万葉のロマンズの君は此の浦安の真間の江で歌つたさうである。我々は今日先生御招待の船遊びに加へられて、充分の愉快さを味つたと同時に、先生のよき助手であり、よき医局員であり、また我々の医局より第二第三の茂木先生が続々と現はれん為に、足音せずやまずその努力を続けたい事を願ふのである。

新入局員紹介

小春日和の麗かな陽の指す一日、十人の男が慶應病院三階のバルコニーに集つて、何やらわいく〜と話合つてゐる。何か問題でも起つたかな、一つ行つて聞き耳を立て、みよう。

A 「又例の様に刀林に新入局員紹介て奴を書かなければならないんだ、一つ何とかしてくれよ。」

B 「何とかしろつて自分で書けよ、けれどどうまく書けよ。」

A 「それそれだから困るといふんだ。」

C 「何を書いたつてかまはんよ。」

D 「所がさうは行かないぞ。」

A 「どうと難かしいね、よしそれではかういふ事にしよう。此処で各自が自分



の紹介をやつて、意見のあるものが之に枝葉をつけて刀林の原稿とする事にしよう。誰でもいいから、その隅からはじめてくれ。」

「よし俺からか」と云つて口を切つた男、仲々体格がいい、中肉中脊かき上げた頭髮波を打つて何となくスポーツマンらしい。

「僕は運動が好きです。陸上のものなら何でもやります。庭球部に入つて選手をやつてゐましたが、その他野球、バスケット、フットボール等ですね。唯水泳だけは駄目です。東京五中の卒業で、予科の時は蹴球部で早慶戦にも出たことがあるんです。といふと荒つぽいが、之で心にはやさしい所もあつて、人の情と知る時には知らうと思つてゐます。」と話し振りも卒直だ。ヤトあつちで何か云ひ出しさうだぞ。

「おい君は性質が荒つぽさうで一方はやさしいなんてうまい事をいふが、何かい、話でもあるのかい。」

「うるせいやい、手前知りもしないで生意氣な事をいふないやい。」といふ調子、之が例の古山實君だな。

A 「さあ余り荒つぽくならぬ内に次に移る事にしよう。」

次の男、眉目秀麗、頭をきれいに分けて、割合脊が高さうだ。

「私は千葉の産で、今も千葉と東京の境辺りから通つてゐます。前の古山君に比べると正反對運動は殆んどやりません。その代り麻雀など勝負事が得意です。余り詳しく言はないけどその内に分るだらうと思ひます。」

「どう分つてゐるよ、君はよく眠る男だな、何しろ一日の中十時間から十二時間は眠らなければならぬさうだな。せいぐ之から早起の習慣をつけてとらひ度いね。」

「君失礼な事をいふな」と彼口を尖らす。バルコニーに吹いて來た風が鉢植の菊の花を撫で、行つた。之が中村寛君である。

「次をやるぞ。」

恐ろしく髯の濃い男だな、眼が光つてゐるわい。

「簡單に行くぞ、俺の顔を見ると何となく恐ろしいだらうと思ふがね、之で氣は至つてやさしく内氣な方だよ。国は廣島縣、野球の一疊をよくやつたがね、上手などのだつたな。何時からだかその様子が何となく監督然としてゐるといふ理で、監督監督なる名譽ある名稱を買つたんだ。」と手振り足振り宜し

く話をする所、仲々陽氣で罪のない人間らしいな。

「その髻の調子だったら手足のハールは物凄いだらうな、之から行末永い事であるが手術の時には……。」

「黙つてゐれば何を言ひ出すか分らない。」　やあ、怖い。は、之が門橋勇君だなあ。

A「さうすると偶然其処に並んだ三人が來年の二月は入營といふ事になるね。」
 といひ下ら見る外苑の向ふ四聯隊の方からラツパの音が聞えて來るやうに思はれる。

「次をやるぜ。」

といふ言葉の調子がいやに高い。愉快さうな顔をしてゐる。

「俺と野球をやつたに、併し。」

「併しハイラーテンするとどう余り熱がなくなるか。」

「うるさい、僕あ水戸の方が國です。予科の時に病院へ随分永く入院した事があるんだ。今考へりやアツペによる腹膜炎だね。實際生命をとられさうだつたよ。その後はやつぱり病氣前の様な頑丈な体にはならないね。」

「何だい、自己紹介だか何だか分らないぢやないか、俺がつけ加へよう。ユ
ーモアに富んだ男で一言しやべつては人を笑はし、二言しやべつてはその腹
を抱えしむる様な所があるが、仲々口も悪いぞ、それだけに人はい、がね」
頑丈でないとはいふもの、決して弱い体ぢやない。之があゝの圓板投の日本送
手、板橋君の兄さんだな、そう言へばよく似てゐる。名は剛と言つたね。

「僕は山が好きです、夏の山と冬の山と。特にスキーがいゝですな。他の運
動は駄目ですが、スキーならまあ人並にやります。其スキーで山を歩く程身
心の為によい事はないでせうね、又やり度い人はお世話をしますよ。」と仲々
如才ない。君はよく予科の時から赤倉、関、燕、五色、北海道と、随分歩いた
様だが。

「成る程スキーが上手になると顔まであの北欧の名人シユナイダーに似てく
るね。」

「まあさういふなよ、フ、フ、」とうれしさうに目じりに皺をよせる。さう言
へば、これが小平正君だな。この人は天才的に繪が巧いんだ。よく授業中に漫
画なんか書いてゐた。開成中学に通つてゐた時とやはり夫れで先生に叱られ

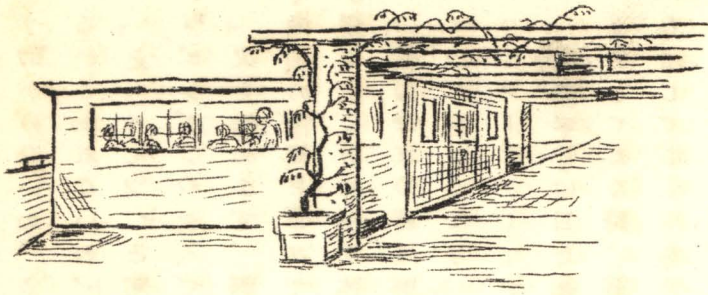
た方らしい。或は画家になつても一門の大家だね。

こうやつて見ると今迄の五人は皆一字名だね、実寛勇剛正と偉さうな名前ばかりだ。

次の男、江戸ツ子調子で意勢がいゝ、体軀小にして色浅黒く眼鏡をかけた底で眼が光つてゐる。仲々氣が強さうだ。

「僕は青山学院の卒業で、趣味は運動、野球、スキー、水泳と音楽です。野球をやれば外野をやります。又隣の小平君と同様スキーにかけては取へて人後に落ちないと言ひ度いね。兎に角相當重いリエツクサツクを背負つてモリ／＼登つてデヤン／＼滑るのは愉快でたまらないよ。併し何時か五色で吹雪の林中に一時間許り待たされた時は堪へられなくて、彼に三十九度許り発熱した。どつとどその時が僕のスキーのスタートだつたがね。とにかくスキーが一番面白れいな。又冬が来るぞ。」

かういふ齊藤修二君、疲れを知らぬ様な男である。雨の降らぬ日はあつて君のキャッチボールの音が聞えない日はないか、さうでとないか。とに角この外野手にはランナーと氣をゆるせないといふのだ。彼日頃より色の黒いのを



説明して曰く、「冬はスキ、夏は水泳、春秋は野球等で色のさめる暇がないのだよ」。

「次をやります、いゝですか」といふ調子がいやに忙しい。手をとみながら話が續いてゆく。

「僕と色が黒いといつと云はれるんですがね、之が僕のはね、スキーはやらないし、夏海で泳いだり、山へ登つたりした後の日焼が一年中さめないんです。全く夏はふんどし一つで漁師のやうな生活をするんですからね」

といひ下ら尻をポンとたく。これが野崎寛三君か。では学生の時から海外医学研究会、英語會、自動車講習會等々世話をする事が好きで、自分で自動車の運轉免状を持つてゐるのだ。口の悪いのが又何とか云ひさうだ。

「君が自動車を運轉する時はスタートがたくして仲々グラツトに出ないだらう。僕は乗せてもらふ時は

一生懸命何処かにしがみついてゐるよ。又途中で電柱にでも衝突されたらもう助からないね。とつとと坂へかゝれば途中で二三回は自然的にストツプするかと知れないね。

「えへへえツ」と可愛い顔をして笑ふ野崎君、横須賀中学の寄宿舎にゐた頃からピンポンの名人である。

「次を始めます。野崎君も国は四国ですが僕もさうです。」話振りが何となく南国の情緒を帯びてゐる。こう言ふとやさ男に聞えるがその実、背は小さいが横巾広く男性的な体軀の持主である。

「僕は学生の時は野球部に居てキャッチャーをやつて居ました。他にもランニングをやつたり、フットボールやテニスをやつたりしましたが、卒業の前ハイラーテンしてからは余り運動の方へと進出しません。」

「實際平常は目を細くして笑つたりするが、グラウンドで野球のキャッチャーをしてゐる時、若しランナーがホームへでと突進しようものなら物凄い声を出してボールをタツチするその姿、勇ましくと雄々しくまるで土佐犬が喧嘩をしてゐる様だなあ。」うるさいね」と「う」の字に馬鹿に力を入れる。

ではこれが畠中卓助君だな。今に土佐犬の仔が出来るだらう。

「今度は私がお話します。」と色の白い美男子、細い様な太いやうな併し美しい声だ。

「私は万事純日本趣味でして、音楽と日本音楽特に尺八をやります。古への文献をしらべる事が好きでして色々読んでおますと時代々々の猥文猥句等にと仲々粹なのがあります。又私は近頃漢法の研究を始めてみますと漢法と仲々面白いので、泰西の医学と共に宜しく發達せしむべきものだと思ひます。漢法に於ては病氣の症状により薬を処方するものでしてその適応は殊にゲナウにしなければなりません。」

こりや大變だ、漢法の講義が始まったぞ。

「それはさうと、君が尺八を吹く時はまるで別人の様に、静寂の中に起つた嵐のやうな感じがするね。都山流の奥傳を持つた君の妙音を又聞きたいね。」
又口の悪いのが始つた。

「竜野君、君のハイラーテンしたのは確か去年の夏頃だつたね。君はよく体を癖があるが、どうそんなに興さんの側にはかり居ないぞとい、だらう。第

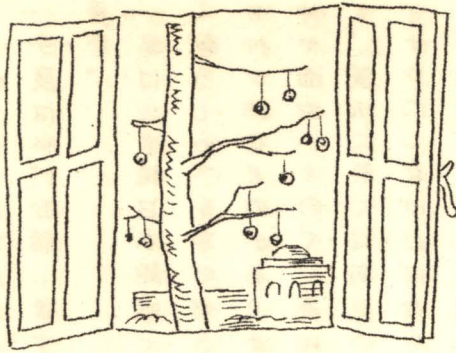
二世は十月かい。あ、之が竜野一雄君、独協の卒業ですな。

A 「そこにおる小さいの、他人のはかりを聞いておたが、今度は自余の番だぞ。」
 「え、小さいのが始めます。けれど目方ならこの十人の内で一番下にはならない積りだがね。兵役も甲種合格だが、やはりこの小さいといふ点で国民兵になつたんだ。」 成る程この男横は少しない。頭も横が広く奥が近くて一口

に云へば巾着頭だ。

「お前の目方は大方足にあるんだらう。」

「さうだね。之は小学校の時から太かつたんだ。歩き方の速いおやぢの後を一生懸命に歩いたとんでね。かう云ふ関係で陸上の運動は前の古山君等と一緒に何でとやつたが、とかく何でと手を出すものは一つに於て大成しないね。併しフットボールなんかをやつてガムシヤラにドリブルでする時はたゞい、氣持になるとんだから。」



A 「足なんかよりは君のとリエはそれ、その眼にあると思ふがね。なんで、その可愛らしい眼に誰かがチャームされるさうだよ。左の眉の上の黒子なんかたまらんね。」

「同」 「いやはやどうも嫉けることですよ。」

A 「実直さうな眼ととに見とれてゐると、その小ぢやかな唇から人の悪さうな笑に乗つて御苦労様な皮肉がポツリポツリ出て来るぞ。兎に角損のしない性分に生れ付いた冥途な男だわい。酒は余り行かんが酔へば仲々ハイテルになつてやがては……。」

「とうく勘弁して呉れ!!」
と頭を抱へて悲鳴を挙げたのは御當人の伊藤國男——国は長野縣、高師附属中学出だ。

A 「これで一通り終つたといふ理だね。あ、とう四時半か。今の各自の話を大體書いて原稿にすることにしようね。日が七分傾いて秋らしい夕方だな。」

B 「そろく行かうか。」

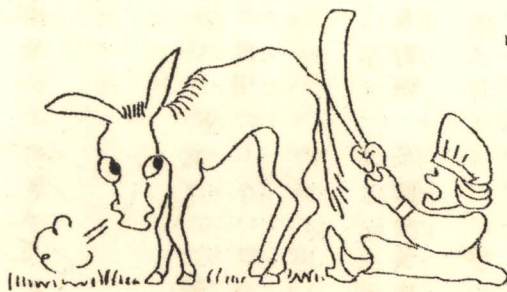
A 「一寸待った、今度宮尾君が四聯隊から出れば外科へ来るんだから、今こゝに居ないが何とか書いて置かう。宮尾君はあれは長野中学だったね、体がが

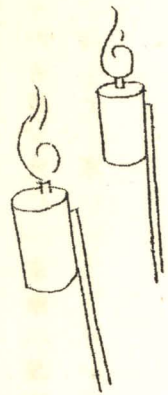
つちりして横の思ひ切つて広い男だな。額が大きくてごつい感じがするがあれで仲々内氣な所があるね。いつかの夏電燈のつく頃信濃町の駅へ歸つて行く時長野の夜行列車を見て、何だか国に歸り度い様な氣がするよと、こんな可愛らしいことを言つてゐたよ。今頃は除隊の日を待つて喜び勇んでゐるだらうな。まあこんな様な思ひ出したことを書いてをくよ。

C 「誰だつて段々見てゐりや此の自己紹介よりとつとよ
く我々の人物を理解してくれるだらう。」

D 「後は頼むぞ。さあ行かう。」

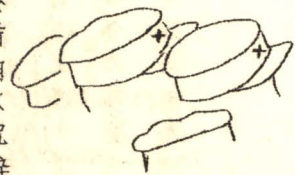
がた／＼と十人の男は歸つて行く。バルコニーの藤棚と葉はすっかり落ちて、梢にうすら寒い残りの日を受けけた高いプラタナスの向ふに、外苑の壁画館がほんのりと見える。ゴーと一台省電が通つて行く。別館の工事場からは未だハムマーの音が絶えない。





七十五週年

紀念祭の記



福翁開塾以來既に七十五年を迎ふ。五月九日より一週間大々的に紀念祭行はる。曩と秩父宮殿下には天皇陛下御名代として三田山エに行啓遊ばさる。塾員の光榮是に過ぐる者なし。塾出身の犬養首相又祝辭を述べ得意思ふべし。三田には種々の紀念展覽會を催されたるに對し当四谷に於てと全医学部を開放し道順を作りて一般觀覽者の巡覽にまかす。我外科よりは種々の珍標本を出岳しアツペの図を画きて衛生思想向上に益す。其他衛生講演會を階段講堂に開き茂木先生の輓近の外科に關する講演あり。十年間のアツペの標本を机上に滿載して見せたので聽衆三嘆久しうす。猶五月九日には塾の独占名物カンテラ行列あり三田より宮城に到り病院にて散會す。赤酒を四斗樽に滿々と滿して出す。行列の小僧仰天す。猶病院廊下に陳列せる余技展覽會には外科よりの出品大半を占め、傑作多し。中にとくに君の漫画には流石の祭天氏筆を投ぐ。



六ちゃんのことども

K 生

「六ちゃんがアツペだよ、これからすぐ手術ださうだ。當直——、早く行けよ。」丁度二号病棟を出ると誰かに云はれたので大急ぎで医局へ立ちかへった。未だ寒い三月の晩だ。スチームですっかり暖まった部屋で大勢が、此の前代未聞の手術を鬼んどのと待ちかまへて居る。

五時半すぎ町田講師執刀の下に殆ど全医局員環視の裡に手術は完了した。その間六ちゃん「あついでいよ〜いといよ〜」を繰返してゐた。あの上体と足とが氣持悪いほど差異のある氣の毒な体をすっかり包んで永年の自分の部屋へ歸つたとき父兄に「電車へ運搬車のこと」に乗って行つたらお腹を切られたよ」とこぼして「寒い〜」とがた〜ふるへてゐた。

手術診断は急性出血性虫様突起炎、アツペの長さは八糎だった。
申継簿には次の様に書かれてあつた。

昭和七年三月廿六日

午後一時廿分 戸田氏 体温上昇し元氣消失せるを以て町田、高橋先生に上

申、直ちに高橋先生御來診

全時廿分、高橋先生の御下命によりて戸田氏にアスピリン一包投與

三時廿分、戸田氏不消化物ニ〇〇グラム嘔吐す

全時 戸田氏の容態町田先生に上申

四時廿分、町田先生戸田氏に御來診、直ちに手術のこと

全 廿分、部長先生戸田氏に御來診

全 四十分、井手先生戸田氏の採血、白血球プレート、血型O型

五時廿分、手術場へ出す

六時廿分、手術場より歸室、即時七三度一ニ〇

術後は有熱にして軽度の患痛、嘔気あると浸出なし鬱眠せらる

でこの日は無事にくれた。

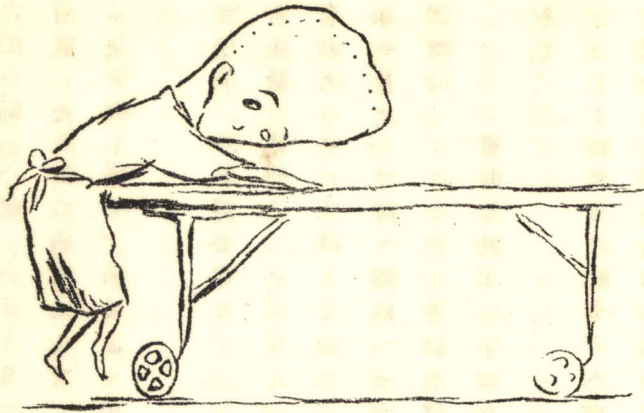
翌廿七日と全様、戸田氏有熱なると患痛を訴へず、嘔気となし、比較的元氣なり、と申継がれた。

廿八日は尚有熱なると患痛なく一般に元氣なり。脈搏呼吸頻数なると異状なしと傳へられた。だが容態はどうも思はしくない。青ざめた顔して浅く息してゐる。

廿九日、内科尾崎先生の御來診を乞ふた。肺炎と診断されてその処置を取つた。前胸部温湿布、カンフル四時間毎、更に新しく出來たビタカンフルを加へ酸素吸入を行ひ萬全を期した。

卅日は有熱にして引続き呼吸促進と、脈搏頻數微弱にして、少しも睡眠し得られず。といふ状態になつた。胸部の症状は益々わるくなる、氣が氣でない。カンフルの回數を増し他の強心劑を加へた。

翌日には更に、一方はロツクロベリン、他方は硝酸ストリキニーネ、ストロファンチンと切りては切つた。しかし効なく、脈搏益々微弱、呼吸更に速迫、更に咳嗽を加へ且つ又喘鳴起り、ためにアドレナリン蒸氣吸入などの必要を余儀なくせしめられた。全く小兒よりも病に對して関心のない様に見受けられる



六ちやんのことだから、自分で少くとも全
快しようといふ努力は更になく、唯氣息え
んく、実にじれつ度い。顔面は苦悶の状態
少くないが、眼は相変わらずキョトンとし
てゐる。半ば無意識に開かれた口のみ浅い呼
吸に忙しい状態だ。手術創は失禁にぬれて
汚れてはゐるが、ひどい化膿は見受けられ
ない。

八方手を盡した、平常から親身にも及ば
ずよく盡して呉れたは号の連中の日夜の奮
闘看護も容れられず、四月三日午後十時五
分、外科の名物、病院の名物として、あの
狭い生活環境に広く生きて来た六ちやんは
遂に死んで行つた。

部厚く求ねられたカルテルの中から入院

當時の状態をさぐって見ると、

戸田六郎 入院 大正十年二月八日（整形外科へ入院したらしい）

病歴、先天性に頭大にして、お産重く陣痛初発より二晝夜にして生まる。初めより歩行し得ず。齒はよく發達せるも、考察力ねるく又難聽らしく言語吃逆す。

既往症、元來健全なり。

家族歴、特別のことはない、唯兄弟五人中三人肺炎で死亡してゐる。

その他いろいろ詳しく検べられてあるが、冗長になるのではぶくが、大正十年二月に「外科へ轉科」とあり、當時の精神科の依頼票に依れば、

診断は「イデオテイ兼腦水腫」

智能年齢満二年四ヶ月に相當

とある。

こうして柳先生の紹介で入院以來、この度の病發まで約十一年間のカルテは殆ど恙なく、赤と青のシルフエとなだらかに波打つてゐるのみだ。

今でも思出すのはあの頭、あの眼、あの口だ。

月金の総廻診が終りに近い高潮では号の大部屋に惶しく人の動くとき、二三人の先生達はきつと、六ちゃんの窓に立って色々話しかけたとんだ。コツくと窓ガラスをノックするとおとむろに手を伸して窓を開ける薄暗い狭い部屋の中から相應しくない大きな頭、キョトンとした小さな眼、にやりとした口が浮び出る。「六ちゃん今日は」と云へばうなづく。「今日は」と答へることである。「この先生何んで云ふ」「ブチョーチェンチエー」又はごく僅かに知つてゐる先生の名前を誰にでも當てはめる。六ちゃんは仲々愛嬌者だつた。誰しと思ひ出せば一事二事、吾知らず可笑しくなつたり、又苦笑する種があるだらう。見舞客は何時と引ききらなかつた。が何時と笑ひ乍ら款待してゐた。

お天氣のい、春の日中などは中庭にふとんの上に寝そべつて日光浴をした。帰りはお父さんに手傳はれて不自由な身体を部屋に消した。その単調な低い生活レベルに愉快さうに暮してゐた。全く別室前の隅に籠つて、どんな悲しいことや嬉しいことがあの部屋で起つても更に頓着せず、子供ごと大人でと來て呉れ、は愉快に應待して居た。

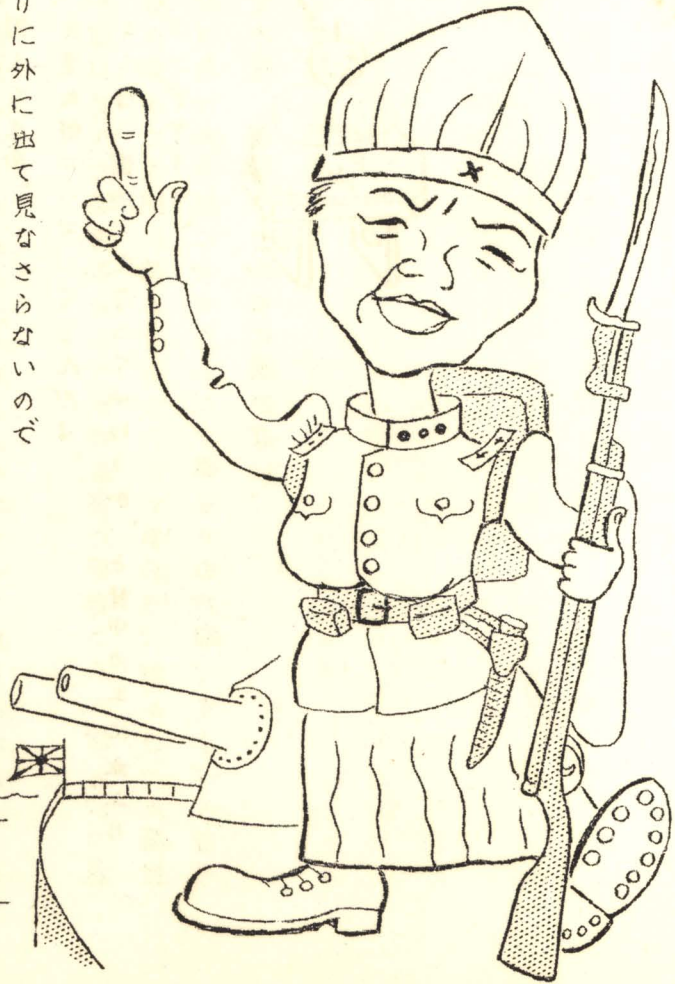
確かに名物だった。又慰安だった。六ちゃんが姿を消して窓はいつも閉ざれ、あの廊下は何んとなく淋しい。夕廻診のかへりなど順調に足を運んで大廊下に出るのに、何んだか不足と物忘れした感がしばしば起ることもあった。月号には炭酸ガス吸入用に使用されたゴムボールがしょんぼりと下げられてある。そうして又、

今、あの身体の一部は貴重な参考品として病理教室に保存されてあるが、あの正しい無邪氣な雪は静かに天国に憩ふてゐることであらう。誰かきつと眉目秀麗の青年が「先年は色々御世話になりました。僕は戸田六郎ですよ」と月号を訪れることがあるのを、想像してゐるに違ひない。

婦長従軍

感想談

わたしやア此春
従軍して佐世保の
海軍病院に四ヶ月
勤務したア。色々
な経験もしたし、
人の知らない苦労
として来たア。病
院に帰って見ると、
うちの先生方は余りに外に出て見なさらないので
解らんでせうけれど、他所へ行くと、他所でど中
々どんく／＼やつてゐるウ。油断せずにしつかり勉
強して下さらなけりや、今にほんとに、他所に負
けて了ふウ。わたしやアそれが一番心配だあア。



畫中子供の留守中の最中、子供帰り来る。

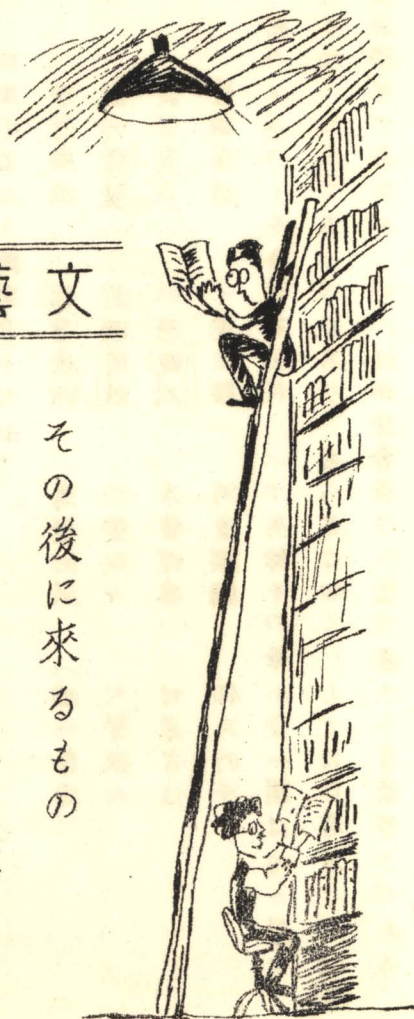
子「何してんの」

親「お重ね餅ゴッコしてるんだよ」

子「そんなら僕橙々になつてやううか」と背中の上に立上り

子「バンヂャーイ」





藝文

その後に来るもの

汀 往生

中庭の水蓮曉の夢から覚めて芭蕉の木蔭に緑の風がさ、やくと朝の光が静かに窓を訪れる。脈尾とりこに体温みよこ、縮帯まきこがあらはれて、夜明けの歌に丹念掃除がすめば、やがて三色旗のペナントの下で電氣時計が八時半を刻む頃、俄然夜來の静寂が破れて一日の営みが將に始まるにふさはしい朝の情景が演出される。

アワタダシイ靴の音と一処に帽子と外套が宙を飛んで勇躍一番番



茶の出花にホツと息つく後から二人三人またたく集まる若う人の群は
 柯れを見ても独身會員、朝の威勢がたまらなく、。祭しい吾が家は
 こゝに生れ、圭刀國手の搖籃となり、者^キ婆扁雀はこゝに育ち朝の務め
 に宿痾を医し午後の労務は起死回生、父の奉仕怠りなく、病める人は
 安らかに憩ふ。

げに拳鬪一致の精神を体得して共学共働、見る眼とうるはしい情景
 は、凡そ斯道に冠たる傳統の賜である。メスを収めて一日の仕事をし
 へ、血潮の溢るゝ獨身會十六士。

短身廣額

長身長頤

薄髮肥滿

(雌外專博)

銳眸雜聲

黠額鯨飲

乱髮默々

大聲振天

叢髮鷲声

低語耽沈

多蟬蝶參

甘柔言注

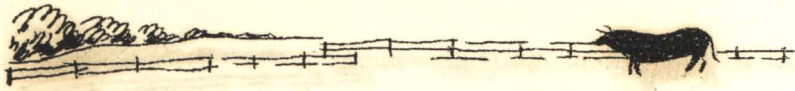
豐頤美好

一步三腰

河童麒麟

仰天行乎

新入メムバーを合せると將に二十有餘その華かな一團は喧々囂々、
 去も如くにして去らざるあり、去らざる如くにして去る者あり、脱會
 隨時勝手であるが、中には終身會員さへ出て來さうな豪勢さである。



かつて往年の三勇士、相離散して世相の不況と共にその前途、淋れたる感は團十郎歿後の梨園を思はしむるものあつたが、こゝに忽ち今日の隆盛を見るに及んで「何が彼等をさうさせたか」一重に先進の指導鞭の宜しきを得たに他ならぬと思ふ。今や押しと押されぬ三巨頭の活躍は、當會全身の肘となり股となり脊となり、或はミクロトームの尖刃を丘の軒燈にかざし、草化肉交の疲れを橋畔に休め、或は坂上の並樹をキモグラフィオンに刻む。後に控へて多士濟々、柯れを勝と白眞弓、若き血の燃ゆる所春を讃へ、希望の丘に橋を渡り川を越え、野辺に遊び谷を下る。遠く出ては山杜鵑を鳴かせ、岸辺のあやめを手折り、入つては花の東京に蜂窩住ひ、時に聖なる父母の心慮を傷める。一犬虚に吠え、万犬の





傳へる、実は顧みず、毀譽褒貶は人の世の常、筆者の知つちやゐねえだ。が清濁並せ飲む泣き笑ひの人生に、暗夜行路の終点は醉眼忽ち心眼となり、獨立自尊の大廊下は更け行く夜に声もなく礎を捜して明日の早起きを約する所に當會メムバーの面目躍如たるものがある。

惜むらくは好漢、結婚適齡期が玉にキツ、近頃頻々脱會相次ぎ、祝電乱れ飛ぶ。昨日の紅顔、早、高砂の松の緑を軒端に眺め「お前百まで」の契りを結び、新生の船出は海上静波にして二人連れ鳴戸の海も何のその「みかんの実る伊豆の山々に愛の葉の垣根は「花嫁花婿花盛り」で、晚秋初冬の寒む空に尚菊花爛漫咲き誇るに及んでは、旧會員諸兄!!夫君行状記は遺憾乍らこゝに抹消せざるを得ない。悪く思ふなよ——。



柔
き
触
感

春
宵

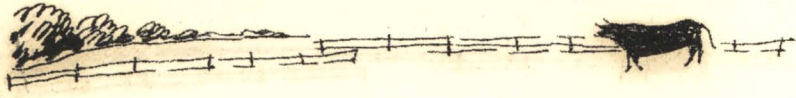
或る春の宵。とある混雑の駅から山手省線電車に微酔ひ気嫌の千鳥
足で、流行小唄を口籠りながら、白き豊頬の薄紅のはてりと眼鏡を透
しての目縁の充血も何んとなく人目を惹きつける春高の青年紳士が身
を投じて来た。注意散漫の裡に席は総て他客に占められてしまった。
夜の燈は街々に輝いてゐた。彼は瞬間前の辛柄は生々しく眼前にあ
らついで懐想に耽ける必要もなく唯其の連続を味はつてゐるにすぎな
かった。紅黒のネオンサイン。めぐる光輪。狭苦しき仕切の間に胸に
私持つ彼女等の瞳の中心に。紅き唇、白き襟元、すべて彼の満足の對



称に相違なかつた。交はさるゝ握手をよそに鬨を蹴つてから物の十分と経たぬ今である。

咄！ ドアに近くの手摺の脊に置いた筈の左手の指先の鋭敏なる知覚、しかも其の電撃的感作による頭尖より手先に至る電波の襲來によつて半麻痺状態の酔気は忽ち冷まされてしまった。柔き觸感それである。柔き刺戟そのものである。翡翠の玉を織込んだ羽布團の膨みに頬を擦りつけた觸感である。何分七年間の学窓を終へたばかりの自他共に認ずる天晴れ国手である。触診の妙は堂に入つたもの、所もあらうに左手の指端である。云はずと哉全身皮膚觸覚の屈指の所。如何してその儘あつさり過去の些事として葬り去られ得ようか。左の指先から次々へと発信される電波は中樞へ、中樞から足先へとみつかりなしに異様の電流となつて流れる。指端と指端の放電である。

酔氣が打飛んだとて冷静では決してない。高鳴る心悸、壓付けるが如き胸廓筋の痙攣が血管を過巻き流るゝアルコールの力と相俟つて呼吸困難を惹起するのは無理がない。局部の現状を觀るには餘りに生々



しいので彼は天井より懸けられた「ビラ」に注視の眼を向けようと試みた。確かに紙片である。文字が書いてある。しかし、文字の書いてあることは経験でわかるのみである。一枚だった筈の四角の紙は輪廓不鮮明に綿を四方から千切ったやうに四枚八枚となつて縦横無盡に廻轉する。赤文字は電光の如くギザ／＼のカーブを描いて逼つて來ては遠ざかり遠ざかつては又逼る。平氣を装ふ彼の神經中樞にと「ストラビスムス、ミットニスタグムス」の症候が凄い程發作的に發現して來た。或は吐息にて胡麻化さうとした。然し全身さへ細く震動する様になつてしまつた。彼は今全く自分の心理を汲み知る餘裕はない。唯、茫然として重症患者の輸血後の戰慄に例へん状態であつた。

坐らざる乗客は自分のみと瀧氣に堅く信じて居つた彼、天晴れ天下の国手の診断は誤つてゐたのである。彼の側に只一人、電波の發信人が、それと麗人！

極度のストラビスムス、ベルゲンツに由る怪しげなる視覚支配神經末端の報じた範圍である。和装？ 洋装か？ 洋装らしいが和装には違



ひない。元來、彼は男には珍らしい程物に氣の付く男であるから正氣
であれば麗人の着物の模様から布地位までは後で話すことが出来たか
と知れぬ。然るに今にいたつては彼とその和装なるか洋装なるかさへ
容易に判ずることが出来なくなつた。誰が見たとて麗人の服装は紛は
しいものではなかつた。彼の精神の混乱の度は推測に難くはない。

彼は此の心の狼狽の中に震へる左手指を変位させる意志は毛頭なかつた。僅か全体表面の幾千分の一の面積の觸覚ではないか。此の際指の位置を讓るべきが當然であらうか。故意としたらどうすべきであらう。故意ならずして偶然なら如何すべきであらう。故意としてと戯れであらうか真剣であらうか。此の曲解直解の歧路に立つた彼は生に對する享樂を忘れなかつた。同時に彼には本能的に素早い機智と勇氣を有して居つた。聽て彼は一二種——いや彼にとつては十種位と思はれたかと知れぬ——微かに動かした。しかるにどうであらう。物の半秒と遊離の状態になかつた。又柔く羽毛の如く擦れ寄つて來た。此の緻密な反應の二三度繰返さるゝ間に再び元の状態にかへつた。



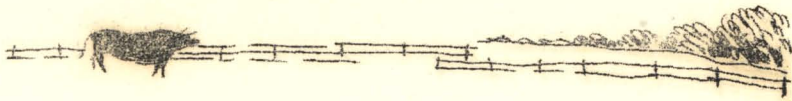
省線は暗を衝いて走つた。いくつかの駅は忽ち過ぎた。紅き燈と青き信号燈と遠きは点の如く近きは線を描いて流星の如く飛んだ。稀に見る車内の静けさよ彼の心は心の雷雲で渦巻いて居つた。

遂に電車はG駅に着いた。彼は夢中で郊外電車に乗換へてやれくと安堵の胸を撫でおろした。圧迫から解放された彼は己れの乗つて来た電車を振り返つた。電車は既に尻を見せて発車の後であつた。

しかるに又！電車は確かに姿を消したのに再びこの電車に、同じ位置に同じ麗人が！彼は自らを信じ得なくなつた。彼の脳中には苦と嬉との迷の火焰が花火の如く爆発した。彼の顔は既に蒼白になつてゐた。

狂か酔か。半信半疑の現実。うつゝであらうか幻であらうか。此の神の戯に彼の若き血を燃やし盡した。とする間に日頃通勤の駅に着いた。

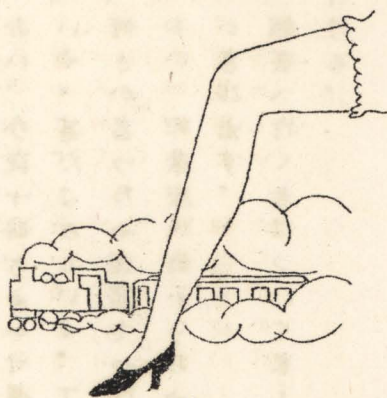
彼が降りた瞬間彼の麗人と降りた。直ぐ彼の前へ小走りカバーして急いだ。彼は反射的にたゞ情性で麗人の後に跟いた。



夜は更けても郊外の駅前には電車の着毎に賑つてゐた。然るに彼は一
 丁と進まぬ中に薄暗を霞に盡く人群れに遂に麗人を見失つてしまつた。
 彼は狐に憑まれた如く疲労と落膽とに恐らく倒れてしまつたのであら
 う。再び覚醒せる時は場末の酒場の卓上に泡立つ水のあほり盡された
 る空壇が林の如く立て、あつた。(七一・一六)

天狗俳諧傑作集 (七月匠局にて)

暁丸が	朝帰りして	白頭
あなかしこ	涼んでゐても	すべはなし
夏やせで	長い顔して	月見かな
ニ人ねて	やつれたりけり	かゆき哉
川端で	ドアを開めて	寝小便
世の中は	頭禿げても	つかまされ
留置所で	独り寝る夜の	腹下し
晝めしや	女にすかれ	つい晝寝



墜ちた仙人

無名氏

「丁！ 愈々今日でお別れだね。」

——本日午後十時十分東京駅丁先生赴任の途に就かる——と医局の
ボードに大きな字で掲示が出てゐる。

「うむ、いよく出発が迫つて来るぞ。何だか心細くなつて来たよ、
行きたくなつたなア」と丁。

「丁。お前が居なくなると医局が廣くなるよ。」

「丁先生！ 何とかおつしやいませよ——。銘々勝手な事はかり言
ふ……」と婦長が肩を持つ。



「丁・さうしよげるなよ。今夜は大挙して万歳声裡に見送つてやるからな。」

皆の白いシエルツエの中に独りズングリと黒の礼服におさまつて顔面を歪めてゐる丁。この丁の姿をどう医局に見られなくなるのかと思ふと一寸寂しい氣がする。

医局に電燈が灯る頃になると例の如く一際賑やかになる。殊に今夜は揃つて丁の出発を見送らうといふので皆落着いてゐる。本人の丁は早く宅に歸つてしまつた。

「おい。今夜十時がや一寸遅過ぎるなア」

「いや。甚だよろしいよ。丁の奴氣がぎいてゐるぞ。」

「何とか言つちや理窟をつけて飲みたがるにやかなはんぞ。」

「おい。邦衆座へ行かうぢやないか。丁度時間の都合がいゝぞ。」と一人が言ひ出す。

「銀座へ行く者はついて来い。」と一人が医局を出懸けに大声を投げ付ける。



三々五々と出て行つて医局は次第に寂しくなる。

病院の門に出て来た四人の一團。

「どうする。」と輪になる。流しの円タクが一台一台ストップして平手を窓から突き出す。

「銀ブラしようぢやないか。」

「銀座か！ 遠いな。それより新宿で飯でも喰はう。」

信濃町駅に入つた四人の姿はヤがて新宿駅に現はれる。

「メイヂ」で安エりに轆腹つめ込んで出て来た例の四人。ヤがて

「モナミ」のピーヤスタンドに納まつてゐる。もう大分メートルも上つた時分。

「どうぞそちく、出かけようか。」

「何時だ。八時か。まだ早いな。」

「それがやあムーラン・ルーヂエと出懸けちやどうだい。」

「大丈夫かい。そんなところへ寄つても。」

「大丈夫だよ、あすこは九時過ぎには済むんだ。」と自信のあるのが



断言する。

赤い風車がクルリくくと廻つてゐる。土曜日のムランルーヂユはギツシリと詰まつてゐる。ステーチの裸女は藝術味を通り越して生々しい。太い脚、細い脚、スッキリした脚、大根脚、脚！ 脚!! 脚!!! 只見る脚の乱舞。微酔の四人はブーツとなる。汗に纏ひ付くズロースをツと指に摘む愛嬌者もある。ウエークの交錯！ 腕のリズム！ ムーランルーヂユはくるくくと廻る。引つ切りなしに廻る。

グワツと吐き出された観衆の中に例の四人がある。フラくと頼りない足取りで新宿の大通に向ふ。大東京の中心新宿は景氣がいゝ、時知らぬ夜の都だ。「市内一円」の赤札がしきりなしに流れる。その中の一台が四人を掻きざらつて走り去る。

ネオンサイン眩ゆき銀座。ハイヒール、エナメルキツト、ラツパズボンに肉色ストッキング、華やかにも目まぐるしい銀座行進曲。そのオンパレードの流れに巻き込まれてハツの靴。

「賑やかだね。時に何時かな。」と一人がウオッチを出す。「九時過



か。まだ一時間あるな」と済ます。

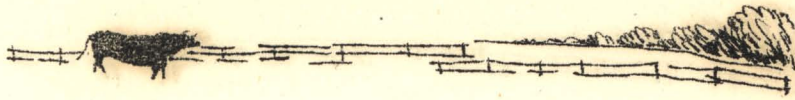
「アツ！ しまった、十時十五分だぞ、どうしてくれるんだい。」と一人が頓驚な声を出す。

「うそ云へ。そんな筈ないぞ」と一人。あはて、商店をのぞき込む。「やっぱり十時十五分だ。どうだめだ。情ない声を出す。」

「済まん事をしたなア丁に。」

「誰だ一時間とちがった時計を持つてゐるのは。」氣のない笑声が同時に爆發する。

メフイスト「時間」に翻弄されてすっかりしよげ返つた黙々たる茶の仙人四人組を眞黒な東京駅のドームが皮肉な微笑で見降してゐる。ガードの上を下りの電氣機関車が馬鹿にした様な騒音をたゞきつけて闇に消える……。



病院事件

甲傘武郎



取調べ室では今朝選挙違反で連行された男が取調べられて居た。岡
検事は若手の切れ者で違反事件の為に手傳に來て居たのだが、此男に
一番目星をつけてゐた。取調べは中々峻烈で外に漏れる声には、ハラ
ハラするやうな点があつた。晝食になつたので蒼白い男が留置場へ暗
い廊下を通つて移されて行つた。此男は或病院の副院長で十年近く此
の土地に居り相當信用されてゐる土地の有力者であつた。岡検事は手
硬い副院長の取調べに少し疲れたら晝食をとつて煙草を一服喫はうと
する時に、只ならぬ足音が廊下を傳つて來た。巡查部長が惶しく這入
つて來て副院長の死を報じた。岡検事はハツとし立上り様保護室へ駈



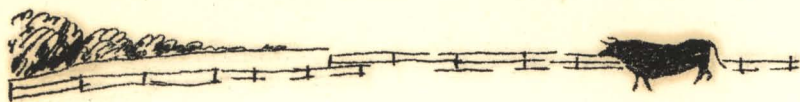
けつけて見ると、其処には蒼白い顔をした副院長が寝て居た。天井を睨んだ様子が呼吸の通ふ人とは思へなかつた。警察医が来て屍体を調べた。自殺ではないらしく、併し何等の死因を發見することが出来なかつた。岡検事は是が世間に知れ、ば有らぬ噂を生んで果てはお定りの拷問と言はれると思つた。死者の家族を呼び寄せて一應了解を得る必要があつたので電話をかけると、五十歳位の院長が自身でやつて来た。話をすると酷く驚いて何かとく言つたが案外解りが早く、翌朝は火葬にする様に手筈を定めて死体を引取つて行つた。其の夜岡検事は工席検事に一應取調べを受け、浮かぬ顔で遅く迄自棄酒を呑んだ。併し院長が了解したので世間の評判は兎に角事件は此處で終了した。

山田君は保険の勧誘員である。秋晴れの田舎道を馴れぬ足取りでトボトボと歩いて、此土地に来て最初の加入者である青山氏の宅を訪れた。妻君と称して一寸した美人が出て来た。主人の年齢から考へると少し若過ぎると思つた。金は快く出して呉れた。判を矢鱈に捺して契約の出来た事を告げ、御札を述べて帰つた。実は此金を買へるかどう



かが心配であつた。と言ふのは此金は自分が立替へた第一回の掛金を
買ひに来たからであつた。安心した緩りした氣持で下宿の門を潜るこ
とが出来た。晩飯の後で夕刊に目を通して居ると、此土地で起つた選
挙違反事件とそれに関連した怪死事件が出て居た。死んだ男の名前を
何氣なく見ると聞いた事がある様に思はれた。氣に爲るので暫く考へ
て居たが、何の事はない、今日訪問した加入者であることに氣が付い
た。山田君は狼狽せざるを得なかつた。掛長の宅へ電話を掛け指揮を
仰いだ。其結果翌朝は早く起きて青山即ち副院長の宅へ行つた。若い
妻君は夫の死んだ事を認めた。併し昨日の金は受取らぬと言つた。契
約は昨日でなく山田君の立替へた時に成立して居るから掛けた保険金
を頂きに参りますと言つた。山田君はスゴク帰つて係長に話した。
更めて書類を調べると若い妻君の言つた通りであつた。

山田君は悄悄と乍ら保険金の受取人について調査を始め手始めに加入
者を調べて見た。Y医専卒業とあつた。卒業名簿を見ると青山副院長
の名前が落ちてゐることに氣が付いた。試みにY医専に照會して見る



と其麼人は居ないと云つて來た。今度は医師登録番号を當局に照會するとそんな人は居ないと云つて來た。山田君の頭は混乱して來た。定つた目的となしに病院へ駆け込んで見た。院長が出て來て山田君の話を聞いてくれた。そして副院長が非医者らしいと言ふと大変驚いて院長は十年間騙されたと悔しがった。山田君は勸誘員としての立場を話す。院長は案外了解が早かつた。要するに君の方は怪しい契約をした男の保険金を支拂はなければ用は済むのだらうと言つた。そんなら遺族と話をして院長の貸金とあるから西方を棒引にし、院長の方と非医者を使つたと言つては世間体が悪いのだから此の所穩便に話をつけませうと言つた。山田君は盲目減法の面會が良い結果を生んだので、世の中は融通の利かせ様でうまく行くものだと言ふと喜んで係長に報告した。二三日経つて必要な書類の準備が出来たので、氣持のいい院長に再び面會に行つた。ところが院長は今度は声を荒らげて言つた。あの男は三等軍医で分會長をやつて居りお上から或記念章と戴いて居る。非医者でない者だと言つた。自分の照會した結果と確かと思ふし、院長の言



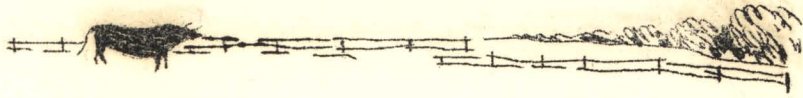
ふ事にも、偽りは無いらしかった。近所で念の為に聞いて見ると、確に軍医です。軍服を着て出る事がありますと言った。山田君は同業に聞いて見ると、青山は最近三四の会社に急いで保険の契約をした事が判った。自分が勧誘に行つた時は立替までして居るのに、他にも契約して居るのは其の目的が少し怪しいと思つた。山田君は考へた。非医者である事が曝れた時には自殺し、その代り保険金を取るといふ目的かと思つた。それにしても、死んだのは自殺で無いとされて居るし、多額の保険を掛ける資金の出所が無い事が此の推定の基礎をぐらつかせた。

岡検事は此地方に轉任して來た。彼には副院長の怪死の思出に不愉快な土地であつた。或日副院長の病院に對する訴狀を受取つた。岡検事は興味を感じ乍ら此訴狀を読んだ。其の中には病院の細い非違が列挙してあつた。中傷と思はれるものもあつた。只面白い事は副院長が非医者であるを書いてあつた。彼は叩けば埃が出るなと思つたので、職権を以て色々調べて見た。副院長の医籍抹消届が當局から返却され



た事が判った。三等軍医は二等卒である事が判った。卒業證書や医師免許証は或医者者の寫しである事も判った。彼が十年前は調剤師である事も判った。先妻を離縁して今の若い妻君の来た事も判った。最後に院長が事情を知って彼を医師に仕上げたらしく思はれ出した。調べると院長の経営振りの宜しからぬ事も判って来た。併し岡検事の考へは山田君と違つて居た。副院長は違反事件に関連して自分の身分の知れる事を恐れて多分自殺したものであらう。要は院長を法に依





つて摘発すべきには、非医者としての彼に如何なる援助を為したかが問題であった。此の処副院長の死因は岡検事の問題ではないのだが、山田君のは院長が法に觸れるよりは副院長の死因不明の死が自殺であると言言される事が問題であった。自殺には保険金を支拂ふ必要がないからである。岡検事の出現で山田君には青山副院長の掛金の出所が院長である事は了解出来た。併し青山が院長と共謀し自分が自殺して院長に保険金を捧げるといふ事になるからこの話は辻褄が合はないと思つた。保険金は貸金を理由として院長が遺族から取る事になつて居たからだ。

岡検事は蒸局調べに來た當局と院長が毒薬の減量せる事に付て押し問答した事実を聞き逃さなかつた。院長に召喚状を發して此点を追求した。院長は恐るべき事実を自白した。副院長の拘引される朝、副院長は何時との注射を皮下に注して出かけた。その中に問題の毒薬が混つて居たのだ。

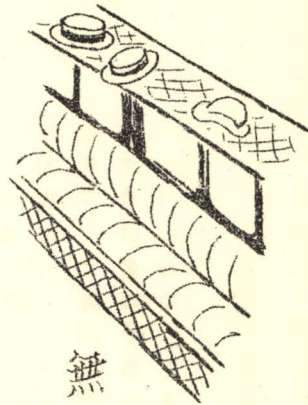
つまり此の事件は巧妙な他殺事件であつた。院長は副院長を犠牲に



して保険金詐欺を行ったに過ぎない。副院長は自己の弱味につけ込まれて言ふなりになつて居た。他殺である事は僅かの点で発覚した。此様な事件が不明に終つて世の中には隠れて居ないだらうか。

腹痛はアツペでないと強く云ひ
抄読會眠つてゐたのが喰べるなり
天氣予報にニコく顔の太公望
痔の手術シヤンにたかつた御面相
ヨロシイと和さんハンマで叩くなり
リーグ戦切符ないのがザル幕打ち
歓迎旅行スバシコイのが疲れてる
太腹居士と美人にまける六精會
二次會は義理と云ひつゝ嬉しさう
アツペ四百越したと婦長得意なり

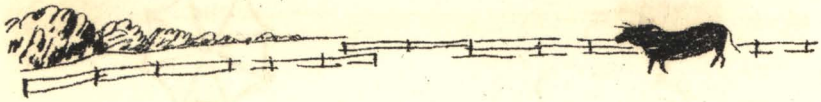
(はしとと)



無帽主義者の災難

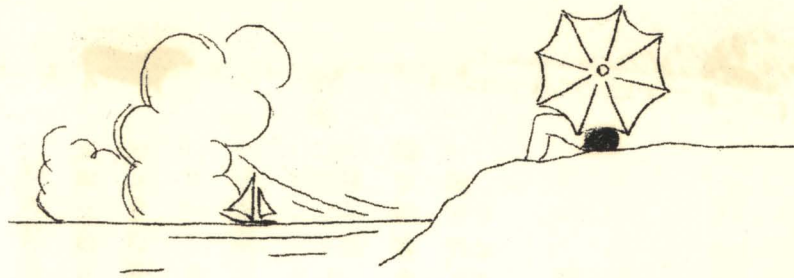
無帽生

時は夏の末頃、所は千駄ヶ谷辺を走る省線電車中の出来事である。相当混合つてる乗客を押し分けて、アタフタと頭はれ來たる車掌さん、物をとよ言はず無帽主義者の席の眞上の棚に只一つ横たへられた、一見茶色、否泥色の所々味噌漬色に手垢に染められ雨に打たれて鷓鴣模様と化し、一度や二度ならず地べたに叩き落されて角は潰れ、底は缺け、見るからに臭氣鼻を圧するが如き時代物の「かんく帽」をやをら掴み、無帽主義者の鼻先に突き付けて「これはあなたのですか。あなたの方ではありませんか。」と周章てふために遠慮なく、而も真剣に



訊ね問ふた。車掌の行動を他人行儀の如く見入つた主義者は突風の
に、降りかゝつた追求に衆目を憚りながら、鼻先の現実の汗臭に當惑
して咄嗟の返事さへ、しばし出せなかつた。ひたすら顔の火照^ホりを感
じつ、吾知らず後頭部を擦つた。その瞬間、乱れたるこれの髪が存在
を認識し漸く『いや』の一言を發した頃、救助のドアは微かな音と
共に滑らかにすべり懐しき『信濃町々々々！』の声を耳にした。主義
者は逃ぐるが如く車外に飛出した。

「プラットフォーム」には快い晚夏の涼風が、無帽の髪と發赤せる
頬を撫でて吹いた。(ヘー・ヘー・ヘー)



夏四題

治生

一三二

大も行きませ鏡ヶ浦に

富士を眺めて水浴びに

泳ぐ目當ては鏡ヶ浦に

姿うつした富士の山

沖にやヨツトの戯れ蝶々

浜にやパラソル花盛り

富士を浮べた鏡ヶ浦で

泳ぎ疲れて一体み

此頃三絃を習つて居ます。
柄にない事ですが氣晴しになります。

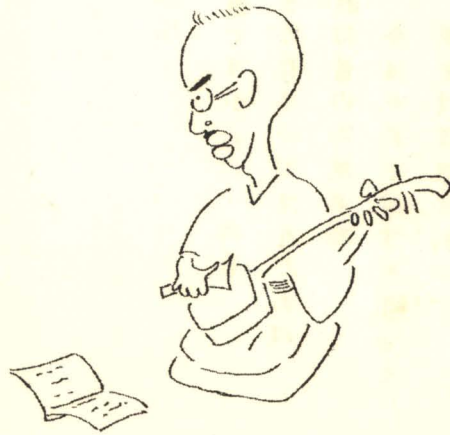
治
生

田舎に住めるわびしさの

捨て所なき胸の中

せめてかなづる三味の音に

通はす心知るや我が友。



世智辛い事です

治 生

(一) 淋病ですから注射して

治しませうですんだのは

それは昔のお医者様

今はそれではすみません

患者は皆様お利口で

私にはトリパは効きません

(二) 梅毒ですから六・六を

おうちひさいですんだのは

それは昔のお医者様

今はそれではすみません

患者は皆様お利口で

何号ですかとたづねます

(三) お抱單の二人曳き

ひげをひねつて暮したは

それは昔のお医者様

今はどうして出来ません

お医者も此頃不景氣で

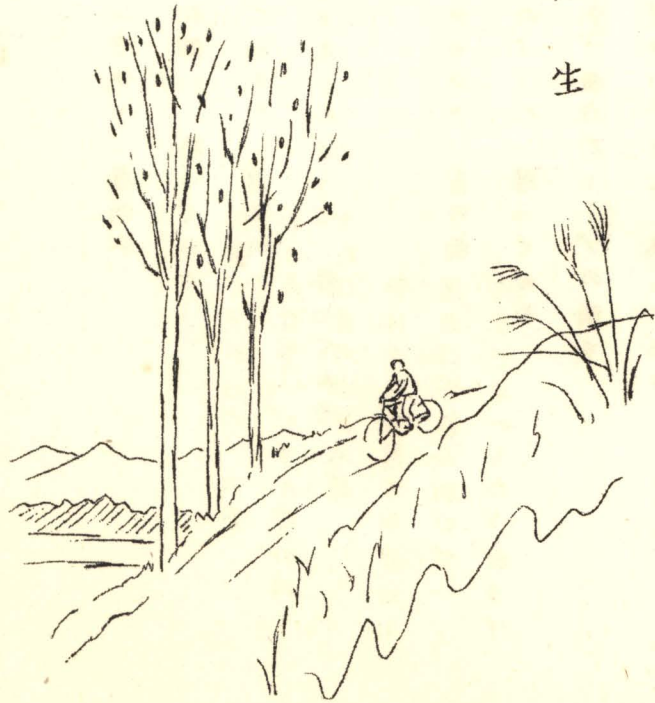
赤字赤字で困ります。

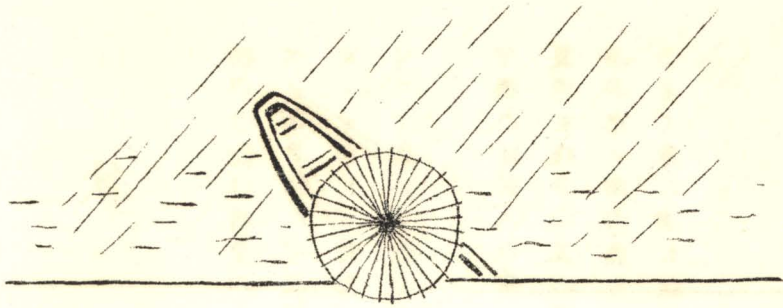
秋

浴
生

朝の出勤自転車
ペダルを踏んで落葉道
ダイヤの音と青空と
すんで静かな秋日和

午後の往診人力車
夏の名残りの浜の道
海的光と潮の香と
さえて身に沁む秋の風





雨

は
し
も
と

サンサンサラ、春雨が

しだれ柳に 降ってゐる

船で別れた 港の町の

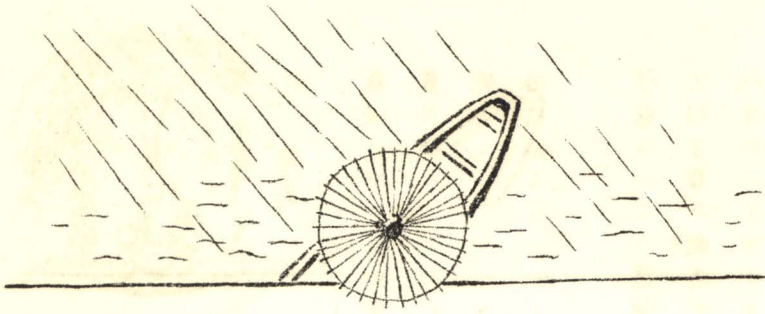
さざりのように 降ってゐる

サラサラサラ、夏の雨

銀糸のように 降ってゐる

二人で投げたテープの雨を

思ひ出すよに 降ってゐる



ホロホロホロロ 秋雨が

絹ずれのよに 降つてゐる

恋知り初めた あの娘の胸の

涙の様に 降つてゐる

チロチロチロロ 冬の雨

毛皮シヨールの 頬に降る

シネマ帰りの あの口づけを

思ひ出すよに 降つてゐる



ハイマート

春咲けば 秋紅葉すれば

夏月夜に 冬枯れの野辺に

惚ぶ ハイマート

母に似てなつかし

学窓を出で、荒波の前に

カはまなび術^{あそび}あたへらる

人生のハイマート

父に似てしたはし

K

生

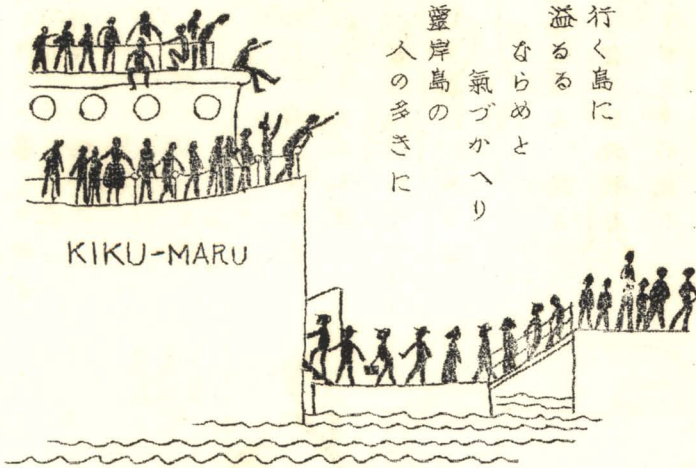
賢しき父と優しき母よ
何時までか続かん
心のさすらひに
こゝろ強し明らくも

平和だ なごやかだ
吾がハイマートは
だが嵐をふくんで
カクも溢れてゐるよ

おゝ兄方よ 友よ
終りなき日の照る
ハイマートの地に
花一輪と 咲かんかな。

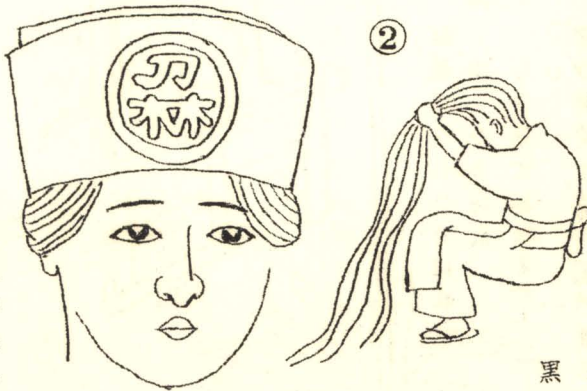
大島紀行

①



行く島に
溢るる
ならめと
氣づかへり
鹽岸島の
人の多きに

②



目と鼻の美しさをば
繰返し繰り返しつゝ
かへりけるかど

鳥羽王の
黒髪巻きて
船迎ふ
島の乙女の
清き瞳よ

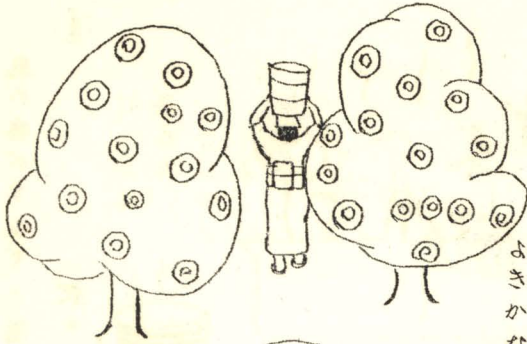
③

手桶のせ橋の葉蔭

しづくと行く

島の乙女の姿勢

よきかな



窓開けば、竜舌蘭の幹の上に

三原の山の煙かかれり

④

紅唇の女にさそはれ

泊りたる宿は

下宿に似ておかし

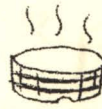
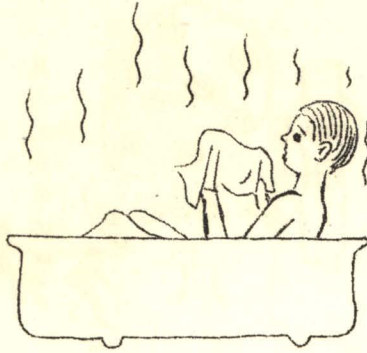
宿の宿竜舌蘭の固き葉に

南の國の情緒深くも



⑤

牛乳風呂



乳の香がするぞと湯より
肌をなで

⑥



歌茶屋の

その名とゆかし

アンコ等の

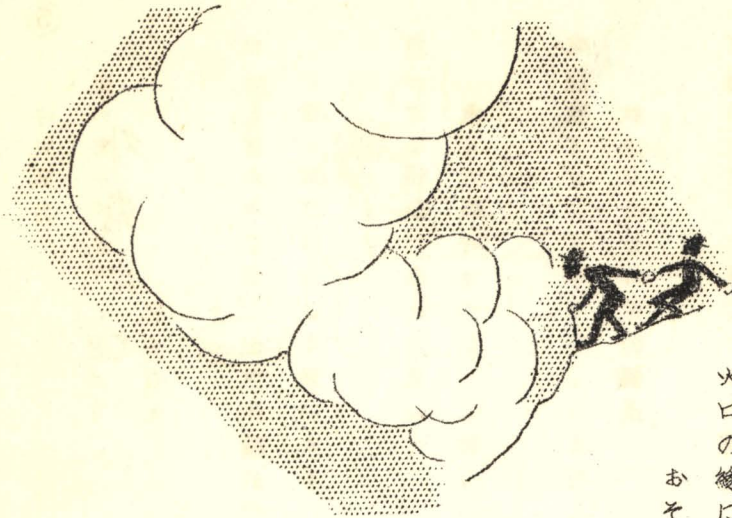
清き腫に

歌情あふるゝ

船路

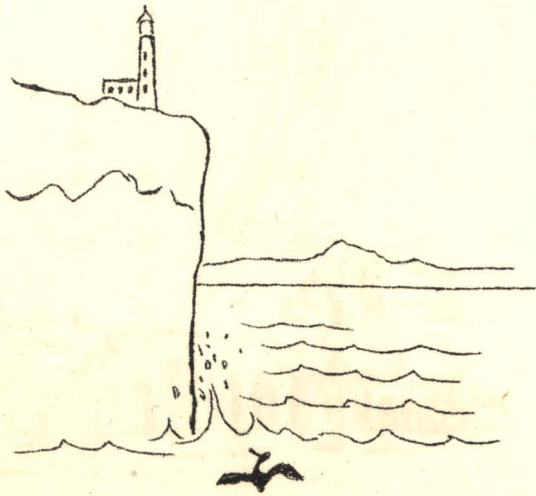
酔はぬうちデツキへ上大ハシヤギ
風凪いでヤレく腹のへつたこと

⑦



むつとする硫黄の煙にむせびつゝ
 火口の縁に立ちて
 おそろし

⑧



風早の燈台近し
 唄に聞く
 鶴のとり浮ぶ
 荒れし波間に

外苑にて

はしもと

カツと飛ぶ白きボールを秋晴れの
空に揚げばトンボ無ひある

息づまる接戦のあと夕暮れて

数方の歓呼サイレンは悲し

應援歌すでにゆるげリソ、と行く

秋迫りある外苑の舗道

球場のドヨメタはたのよき舗道

幼な児と行く若き母かな



歌句

はしもと

元日の空に競ふや奴風

藤棚の潰えしまゝに雪景色

鈴懸のある家のかげや月の暈

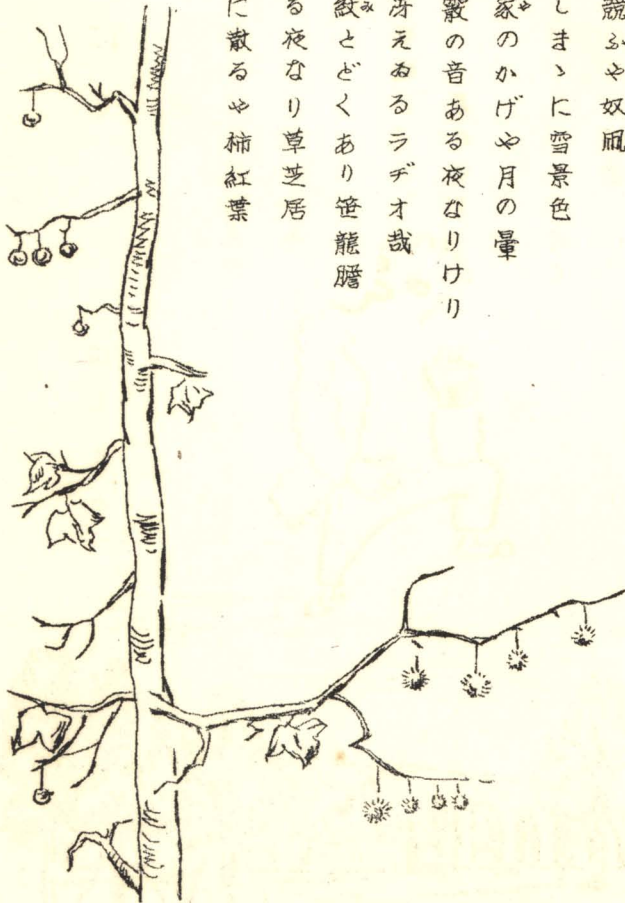
胡麻がらに穀の音ある夜なりけり

重陽の月に冴えぬるラヂオ哉

障子洗ふ波紋とどくあり笹龍膽

鈴懸に月ある夜なり草芝居

禪寺の静寂に散るや柿紅葉



熱燭に

毛虱少々

暴れ出し





スポートと救護

医局スポーツ報告

医局の春はスニスから。歓迎旅行とすむ頃は、ラケット握った先生方が病院の廊下を歩いてゐるのが、見受けられる。

昨年を決勝戦に負けた記憶も新たに本年こそはの意気は高い。しかし、林満洲に行き、吉野帰国し島田入管せる本年の陣容は、新たに明泰、照井、友山、伊藤を迎へたりと云へいさ、か心細げに見えた。

五月二十五日 對小児科

接戦の未勝だったが、前途いさ、かあやしいものがあつた。我軍のメンバーは次の如きものであつた。



野 案 山 藤 本 山 林 井 田

吉 明 古 伊 栗 神 若 森 照 堀

六月八日 對婦人科

此の日トツプ栗本神山組大奮闘をしたが及ばず敗れ、古山森組亦、大將飯尾組に名を成さしめ、三番照井富田組惜敗して、若林堀田、明案伊藤不戦にして我軍三A対〇にて敗れた。

斯くて案外あつさりと敗れ去つて、医局の絶大な應援に報ゆること能はざりしは遺憾であつた。

やがて夏とよなれば、医局員プールへプールへと進軍し、日増しに黒い顔が甲を利かし、葉山の水泳部の救護や、山中湖の救護や、さては富士山の救護から歸る毎に、黒光りの面が多くなつて、主つ白い人は九つきり少なくなつて、これでお医者さんかしらと疑ふ様なのが、病院内を歩き廻る。

秋は野球のシーズン、今年の四月入ったフレツシユマンのうち野球をする人が多いので今年こそはの意気は高かった。しかも春の練習試合に去年の優勝チーム小児科に勝つて意気大いにあがった。この試合は、

七月四日 午後、井の頭野球場にて行はれた。布留投手の健闘と全軍一致の好守猛打に流石の小児科を二対一に破った。

メムバー左の如し

山 林) 山中 本田 橋) 淡橋) 留藤

神森 若古 昌 栗 富門 百 坂 布 伊

7. 3. (9. 6. 2. 4. 9. (3. 8. (8. 1. 5.

七月九日

医局のスポーツ熱熾然盛んになるまゝに、井の頭の球場にて紅白試合を行ふ。老巧や新進が入り乱れての熱戦は嬉しい限りで、晴れた一日を愉快に遊ぶ事が出来た。

試合は紅組の先攻に始まり、守備に於ける中村次、百溪、攻撃の君塚、伊藤、目諸先生の活躍振り美事に、壯快なる試合を見せた。結局八対五にて白組勝つ。

紅

- 留橋 藤山 溪澤 村井方
- 布板 齊古 百前 森田 酒土
- 1. 7.
- 2. 6.
- 5. 7.
- 3. 4.
- 9. 9.
- (9.

白

- 藤林 由山 中本 村塚 平島 山田
- 伊若 伊藤 神島 栗中 君小 鍋森 富
- 5. 4.
- P.H. 1.6.
- 2. 6.1.
- 3. 7.
- 9. 9.
- (1. 8.
- (8.

そして春を送つて愈々秋ともなれば、

九月二十日

赤十字病院に練習試合を申込み、對青山外科戦の試練とすべく、赤十字のグ
ラウンドに進軍して、十四対六で快勝した。主戦投手布留帰國中なれど、古山
畠中交互にバッテリを務め、又打撃大いに振ひて断然勝つ。安打十五(本壘
打一、三壘打一、二壘打四)

- 藤山 橋山 中藤 橋本 火林 本村
- 伊神 板古 島齊 門中 若栗
- 5. 7.
- (7. 1.2.
- 2. 1.
- 7. 9.
- 3. 4.
- 6.

九月二十五日 对青山外科 三A对二 惜敗
对青山外科試合記事参照せられたし。

十月二十四日 医局A級リーグ戦、对東校舎 七对三敗る。

青山外科に惜敗せる為、医局の試合には是非勝たんと、大いに張り切つて戦ひたるも、我軍の調子出でざるうちに早くも五点リードされて、追撃せるも及ばず七对三にて敗る。

藤山山中藤橋村楽留本

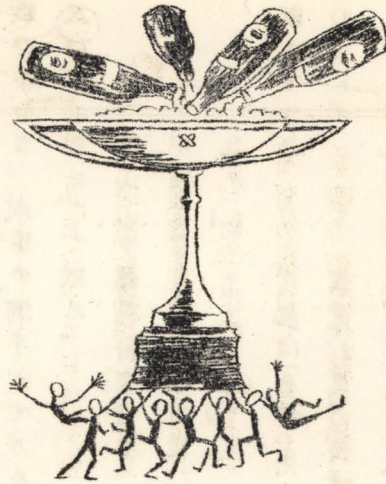
伊神古畠齊門田明布栗

5. 8. 6.1. 2. 7. 3. 9. 4. 1.9. 4.6.

新人多き為、力と元氣はあれど、老巧東校舎に負けた様なわけ、來るべき來年のシーズンこそ、我等が眞の強味を發揮するであらう。否必ず優秀なる戦績を挙げる事を期してある。

尚晩秋をかざる年中行争三四會運動會は十一月八日外苑競技場で行はれた。

過去幾年かの間恨みを飲んだ医局リレーに、我が外科の最後の偉力を示さんとのと慨然奮り切った。



メンバー次の如し

原中原山留藤中本山溪

藤富岩古布伊田粟神百

スタートより藤原約五米リードし、その後差は増すばかりにて、流石の内科を五十米余引離して百溪満面の笑みと共にゴールインし、大勝する。その夜の幸樂の祝勝會こそ、実に勇ましい限りであった。

運動會を最後に秋のシーズンは閉ぢた。
やがて来るべき來年を待つて筆をおく。



青山外科對抗競技

野球

九月二十五日茂木青山カップ争奪戦のトップを承る野球戦は午前十時綱町球野にて小島・西尾両君審判のもとに挙行された。

慶應先攻にて三者凡退の後、青外と布留投手の健闘に三者凡退す。第二回一死後斉藤の安打、明菜の二塁打、門橋四球で満塁となり、布留の犠打で一点を先取、尚三回一死後古山の二塁打ありしと残塁。五回一死後伊藤四球に出で栗本二塁打にて走者二三塁の時古山犠打で一点を増し、更に六回無死にて斉藤二塁打に出でたれど彼援続かず、返つて六回裏一点を返され、七回我軍無為の後、青外は安打二本続いて二点を得、その後両方得点なく、三對二にて惜敗する。



実に惜しい戦みではあつた。前半とつとりリードすべきであつたらう。

我等のメンバー左の如し。

藤本山中藤栄水橋留山林

伊栗古昌齐明中村布神若

5. 4. 2. 7. 9. 3. 1. 8. (3. (P.H.

打数 三四

安打 七

水泳

去年は吾が水泳チームは優秀なるメンバーを有したると、廿米折返しプールに於て青山外科に惨敗せり。其の敗因を考ふるにそれは実力に於て敗れたるに非ず、オーダー作戦に缺けたる点なり。

本夏と亦神宮プールを吾が物顔に泳ぎ廻りて十分なる自信を得たる新人も続出した。よりて再び昨年の失敗をなさざるべく二回に亘る予選を行ひて十人のメンバーを送み、更に其のタイムによつてオーダーを決定必勝を期して、三田プールに青山外科に目へたり。

次に其のメンバーを順記すれば次の如し。

島田島沢塚藤村原中尾

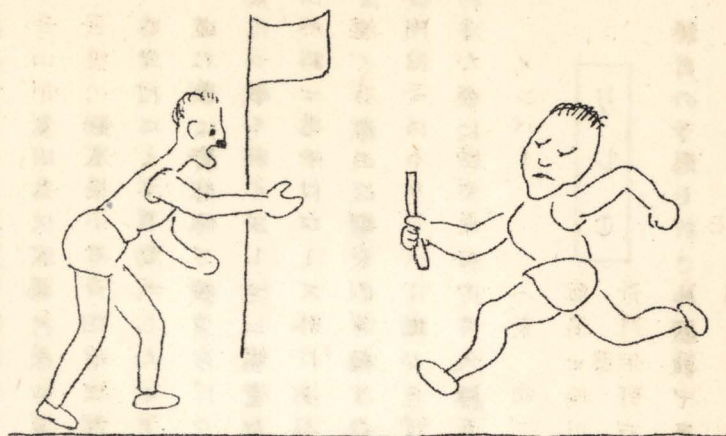
鍋富笹小君齊田岩田瀬

昨年に比して異動大したるものなし。

遂に戦は野球終了後直ちにウォーミングアップ、次で号砲一発スタート、鍋島先づ敵を軽く圧して二番富田に継げば大兵富田の力泳にあをりを食つたる青山外科二番手はコース外にあぶれ出して再び差を増すのみ。続く笹島小沢君塚ますく敵の追撃を引き離すのみ。新人齊藤亦ピッチを上げて田村につげば、後半はベストメンバー揃ひとて水府流岩原の小抜手、海軍帰りの田中スパート物凄く遂に三分十秒にて大勝をむす。

リ
レ
ー

勝負の予想を許さぬ競技である。今年の競技法は新発明のものとでオリンピッククにも無い。人数は青山外科来場者総出場で三〇名宛の多人数、七〇米の距離



を置いて半数が東西に対峙し水泳のリレー式に交互に往復するのである。只水泳と異なるのはスタートに旗があつて旗の後で行違ひにパトンを受取る様になつて居る。

メンバーは突嗟の間に定めたのでオーダーも急製であつたが、早いもの、中のもの、遅いものと思はれるA、B、Cの三クラスに分けてC、B、Aと逆に走る事に定めた。両側に分れると一組は五名で一組のオーダーは各自が定めたので混雑を避け得た。

東側の斉藤君のスタートに始つて両軍力走殆んど同時に西側にパトンを渡した。行違ひにパトンを取ることは事故が多くなりはいかと思つたが、何の事故もなく、最初の十名は両軍力走につぐに力走、慶應が稍、リ

どしてゐたが形勢樂觀を許さない。併し次第に慶應が放して差十米になつた頃
青山側で一人パトンを渡し損じて行き過ぎた。その為差が約二〇米に増した。
最後の七八名になつた頃彼我の差五〇米で、最後の二人目で慶應側一回パト
ンを受損つて落したが大した事なく、青山側トラン氏等の力走と空しく六十米
の大差で慶應側が勝つた。

パトンが急製で紙に繻帯を巻いたものであつたので青山側の繻帯が十人目頃
から少し解け出して終には大分長くなつたのは氣の毒であつた。コースが平行
線である為に衝突の懼れもなく、心配したパトンと殆んど落さなかつたので、
円をまはるリレーに比して好成績の様に思つた。何しろ三〇人どの人の珍リレ
ーだから傍で見てゐる人は面白がつてゐた。

メンバー

(東側)

(西側)

C

藤橋田崎川
藤

島手尾田田
笹井瀬堀宮

齊門伊野古

島沢橋中平

留見村林塚

B

鍋小坂島小

布相田若君

A

井原中本山
照藤田兼神原山国溪
藤
森岩小伊百

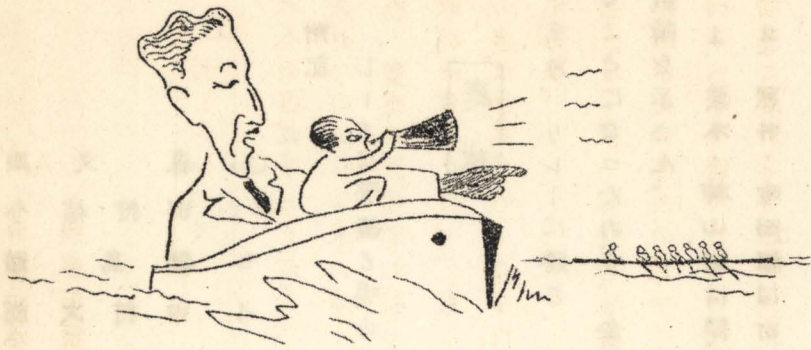
ボートレース

大人の運動會と云ふべき対青山外科戦の一種目として、ボートレースの採用されたのは昨年来の事である。昨年は他の競技より数日先立って行はれた。東大・慶應西医学部対抗レースの日に行はれたのであつたが、今年は丁度其の日取が一致したので、実に都合がよかつた。場所が向島であつて二手に分れる位の事は向島育ちの連中には何の苦にもならないどころか却つて嬉しい位のものである。

吾クルーは一回練習出艇を試みた。相当なのであつた。

三田から向島迄の途中、敵將守屋君が慶應は何處練習したかと云ふから「一適切りさ」と軽く片付けて置いた。

向島に着いても敵軍大に自重して「櫻餅」に根城を作つて休養に勉めてゐた。



数日の雨で落ち水は可成りあつたが、潮は上げ止り、大して流れはない。吾クルーは、前田和三郎先生の「落ち着いて、一本一本を丁寧に漕いで」の御声援に送られて出発した。

スタートは昔の竹屋の渡し、一高までの六〇〇米、コースは墨堤寄りの一コース、スタートには固定ブイなく、大体の見當。

スタート意の如くならず、以後力漕に力漕を以て迫ると敵と強かとの、なか／＼よく逃げて遂にそのまま、ゴール。

吾クルーは刀折れ矢弾つきた態でゴールに入つた。敗軍のクルー又何ぞオールを語らんや。クルー次の如し。

	雄介	勉郎	純雄
	文信	次次	道敏
	村島	村島	原山
Cox.	森田	鍋中	笹藤
St.	5.	4.	3.
		2.	B.
			神

附記

レースは警鐘と鳴らず実に近來の模範レースであつた。

庭球

水泳・リレーに勝ち、野球・ポットに負け、愈々最後の決勝はテニスで決することになつたので、全軍大いに張り切つて、必勝を期して戦つた。以下その戦績を示さん。

1. 粟本・神山組は問題なくストレートで勝つ。
2. 照井・町田組は町田医局長平素に似ず大いに當つたけれど、惜しくも三

一ニで負ける。

3、若林・堀田組は若林側の調子でしきりに粘って行つたが、堀田ミス多く敗れたのは番狂はせで実に惜しい限りであつた。

4、桑野・古山組は又問題なく祭に勝つ。

5、田中・森組は愈々最後の決勝となつたわけで、二対二の後のカップは何れへ行くかはわからなかつたが、健闘奮戦務めた甲斐なく、又応援の必死の声援も甲斐なく三ニで敗れ、千秋に恨を残してしまつた。

懇親會 (幸楽)

最後の懇親會は溜池の幸楽に開催せられた。五時半頃お迎への自動車が来て三三五五會場へ送られてゆく。應接間の安樂椅子で開場を待つ間に會場係が予め亀屋から特に買求めたウイスキーが出た。一杯のウイスキーは空腹にしみ渡つて、運動後の軽い疲労を忘れ、微かな酔を誘ひ出した。

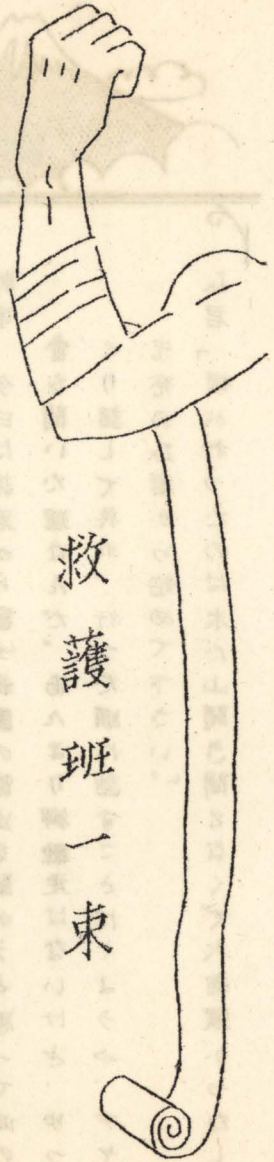
暫し書問の出来事の敏談に花を咲かすうち用意は出来て新館二階の饗宴は開

かれた。會する者無慮七十名である。

先づ兩医局より、それぐ歓迎の辞、謝辞宜しくあつて、幸柰自慢の支那料理は山の如く、お酒は洪水の如く運ばれて、腹の虫へと突進し始めた。

應接間のウイスキーは比較的座を柔げるに役立って、会は初めから甚だ愉快である。初鼻から演説、歌、踊り、ダンスと、日頃御自慢の御家藝が出て、次から次へと盡くる事を知らない。

時の過ぐるにつれ、酒の廻るに従つて、為たい放題、騒ぎたいだけ騒いで、晝間の緊張を思ふ存分緩め、兩医局懇親會に相應しい夕を過した。最後に池へ落ちて漕艇の術を會得したと稱し、裸形で乱舞した人もあつた。奇抜な宴會ではある。



救護は我が医局の一つの仕事であり、責任である。別項富士山救護を初め一年中各季節毎に種々と多忙である。主なるものを列挙すれば、

○本塾学生軍争教練野營救護（滝ヶ原・板妻・習志野・下志津・四ツ樹道各廠舎）

○本塾陸上・水上運動會

○富士山登山客救護（吉田口、五合目、八合目—山梨縣）

○本塾体育會山中山莊・兼山水泳部救護

○外苑 六大学・五大学野球リーグ戦

水上競技各種

プール公開中救護

競技場各種救護

○ボクシング

等であるが、その他、モーターボートレース、マラソン等と、常にロートワイ
ン持参で活躍をしてゐる。（了）



富士救護の憶出

I
生

救護期間 昭和七年七月十日—九月十日まで

救護員 伊藤國男 中村 寛

古山 実 野崎寛三

板橋 剛 小平 正

富中卓助 齊藤修二

井手行乎

幹事 「今日は諸君から富士救護の憶出を聞かうと思つて此の會を開いた理なんだ。あんまり御馳走はないけど、ゆつくり話して呉れ。行つた順に話すことにしようや、ヂヤ先登のIk君から始めて下さい。」

Ik君 「僕が行つたのは未だ山開き間となくて大部寒かつたし

登山者も少なかつた。暇なので毎日雲の去來を友とし、霧を吸ひ、四方の景色を眺めて日を送つた、オヂヤを食べて。

下君「話だけ聞くとマルデ仙人の様だな。」

Ik君「アアさうだね、大部浩然の氣が養へたよ。七月十二日に女學生の一團三十名が登つて来て小舎に泊つた。此の時は里心が起きたよ。」

I君「大部嬉しかつたんだらう。」

下君「久米の仙人て言ふ所だね。」

Ik君「でも、がっちりストツキングをはいて居るんで白いハギは見なかつた。」

幹事「ではIk君の話は此の位にしておかうや。どうも話しが落ちさうでいけね。」

」。

一同「座談會の幹事にしちや言葉使ひが悪いぞ。」

幹事「マアい、がやねーか、使ひつけない言葉は面倒臭えや、エ、とお次はNaだな。」

Na君「僕ねえ、検約してねえ、吉田から五合目までテクツちやつてねえ、途中蜂蜜一杯飲んだだけさ。とてとへはつちやつてね。」

H君「出したんぢやねーの

か。

NA君「出した憶えはないん

だけどねえ、七月せー

日東京女子医専の生徒

三十二名八名餘が嘔吐

馬にふりたや

あの馬に



下痢を始め、皆がブルス・

エルブレツヘンがどうし

たつてな訳で大変なのさ。

その内先生が来たが之又

アナトミーケルで、喜ん

だのと束の間、手當全部

依頼された。慶應の外科

の先生の腕を見せるは此の時と大い

はり切つたねエ。

I君「何処がはりきつたんだい。」

NA君「腕だよ。」

K君「腕にも色々あるぢやないか。」

一同「アツハハ……。」

幹事「今度はFの番だな。」

F君「あれの時は大部色々の事があつたぞ。」

I 君 「君の日記には女を救護した事しか書いてないね。」

F 君 「そりや女が頼つて来るんだから仕様がねエヤ。男が女から頼まれりやいやたあ言えませんか。」

一同 「何とか言つてやがらア。一体どこがよくて頼みに行つたんだらうナ。」

F 君 「失礼ナ、腕だね、第一普段の心掛けがい、からナ。をれは登山の前、浅間様でお拂ひを受けたぞ。」

I 君 「をれも受けたよ、カワラケとお守りを呉れたつけ。帰りにカワラケをオキンチャンにやつて来た。」

K 君 「オイ、お金^{カネ}がカワラケになる様にか。」

I 君 「そうぢやない、その反対のおまじないに。」

H 君 「汚い奴はお拂ひで受けてから登つて呉れなきや後から行くものはたまらないからな。」

F 君 「だまつて聞け、着くとすぐ女学生三人を診る。凡て幸先よしと言ふんだね。所がとてと彼女等よろこんでね、いづれ帰つてからお礼致したいのでございますが先生の御名前承りたうございますが、と赤い顔して聞かれ

たときは、どうもボーとしてスツカリてれちやつた。

K君「てれる様な柄ぢやないぢやありませんか。」

F君「ドウシテ、此れで仲々ウブなんでね、それから、此れには胸をときめか

した。あのな、ハ合目で男女の二人連れを診察したんだ。彼救護所へ宿
ると驚くゞし彼女と共にあの狭いベットに同衾する、如何とも言へんね。」

一同「たまらんく。」

NA君（稍々興奮して）「それで君はど

うしたい。」

F君「どうしようも、こうしようもね

エぢやねえか、独り淋しく上のベ

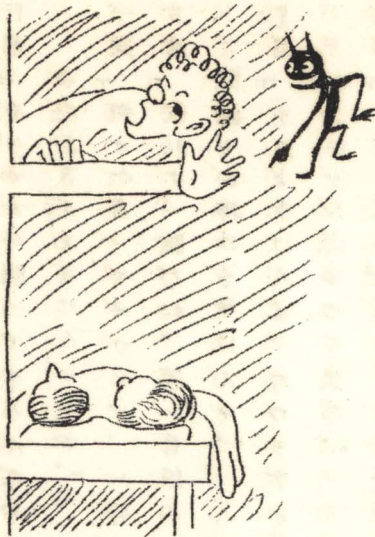
ットでねたよ。」

S君「ねられたかい。」

F君「勿論賑られる訳はないぢやあり

ませんか。」

No君「罪な事をするね。」



F君 「それから廿六日に美しい姉妹の患者が来て色々手當をしてやつたら、その父がお礼をしたが、つてゐたが、断然断つたら、美しい姉の方がカルピスを届けて来た。」

I君 「姉つて幾つ位だい。」

F君 「さうだなせ二三かな。」

K君 「カルピスを呉れるなんか、意味シンチヨウだね。」

幹事 「Fの時はその也角力が自殺に來たり、十字屋の店員の心中があつてナイ。」

F君 「ウン、好漢ナカ、多忙であつたよ。」

幹事 「F君には未だ色々い、事があつたさうだけど此の位にしとかうや。あり

まり興奮してどうかと思ふからな。次はNo君。」

No君 「僕は始めハ合へ行つたが、自分が高山病になつて参つちやつてね、お金

ちゃんに看護して貰ひたかつたけれどハ合には居ませんしね。」

S君 「オイ、それでハ五合へ行つたらよくなつたさうぢやねーか。」

No君 「高山病はハイレンしたけれど、今度は隣室の夫婦者の行者が朝早くからお祈りを上げるのでよく眠れませんでしたよ。お金ちゃんのサービスが頭

にある位のものです。」

幹事「次はIG君だ、一週間と離れて居たんだから、奥さん、淋しかったらうな。」

IK君「君の時は天氣が悪かったので、大部腐つたらしいね。」

IG君「ウン腐ったく、別にFの様に面白い事となかつた、新聞で淋しさをまぎらした。」

S君「フラウから手紙は來なかつたかい。」

IG君「來ないね。」

F君「それで淋しかったんだらう。」

幹事「エ、お次はK君の番だ、何か面白い事があつたかい。」

K君「僕が着いた時はねエ、IG君の奴八合で風雨に吹き聞された事とあらうが、両手を挙げて下山の嬉しさを露骨に現はすのには恐れ入つたよ、外に理由があるんだらうがね。」

幹事「帰つてからの山登りがあるもんナ。」

IG君「嬉しさうにニヤ〜。」

F 君「おいIG、たまに離れるのは悪くないだらう。」

IG 君「うん悪くないね。」

一同「だー。」

K 君「IGを送つての帰りお金ちゃんの橋のさばきを見たが悪くないね。」

I 君「へんな所へ目を着けたナ。」

NO 君「K君、君の時自殺未遂者があつたさうぢやないか。」

K 君「さうく、金明水の所でナイフで以て頸部と腹部を切つたんだが目的を果さず金明水の小舎へ轉げ込んだのさ、それで僕の居る五合へ電話がかゝつて来たんで大急ぎで登って行つたけど、その時彼未遂者は大宮口へ下された後だつた。」

H 君「八合には誰も居なかつたのか。」

K 君「ア、八合には鉄ちゃんが行く筈なんだが、彼五合に居る時一寸下まで救護に行つて帰つてから、顔がブラスになり、チアノーゼを起したりしたので先へ帰つたんだ。」

NO 君「それがや一人で八合と五合の掛持ちなんだね、忙しかつたらう。」

「I君「オイK、それでお金がとてと君に感心して居たぞ、K先生は一寸見るとトテモ、キヤシヤでスマートでやさしさうだけど、一人で八合と五合を掛とちでやるなんて、随分しつかりしてるねえ、私とてと好きだわ、なんて言つて居たぞ、ドウモ聞かされる身はつらかつた」。

一同「オイ君、オゴレ〜」。

K君「マア〜」。

此処で一同コーヒーと菓子注文する。間もなく持ち運ばれる。一同K君に「イヤ御馳走様」と言ひながら食べる。

幹事「唯今はK君より御馳走になりました。誠に有がたうございました。一同を代表して私より厚く御礼申上ます。エヘン、オイ、ロハの菓子は一入美味いな」。

一同「マツタク、イヤ、スマンネ」。

幹事「今度はH、一つ話して呉れ」。

H君「それの時は吉田の火祭があつた筈なんだけど、雨で見えなかつた」。

I君「心掛が悪いからだよ」。

H君「いぬ、さうぢやない、多分をれが居ないのでフラウが淋しがって泣いたんだ、その涙雨だよ」。

一同「イヤどうも暑いね。」

H君「それに登山者は少く廿六日に八合の救護所は閉鎖した。何しろ東京が恋しかった。」 一同「さうでせうな。」

幹事「それでは次のS君一つ。」

S君「僕の時は天氣がよかったので日向ぼっこばかりしてゐたよ、登山者は大変少なかつた。大して何となくなつたよ。」

幹事「最後はI君だね。」

I君「それが行つてからは天候一変毎日々々雨で齎つた。吉田の警察でモウ今頃は登山者は無いから下山してといふですよと言はれたけど、小舎で何ぞと帝大で此処の救護をやらして呉れとか言つてゐるなんて噂を聞いたからこりやしつかりやらねエといけネーと思つて雨に降られ通して八日迄粘つたが登山者は無かつた、それから先はどうせ天候恢復の見込なしと決めて下山したよ。」

S君「それがや頂上へは行かなかつたのかい。」

I君「いや、丁度帰る日の午前中、ほんの半日晴れたのでその間に頂上へ行つて一氣に下山したんだ。」

F君「お金はどうだい」。

I君「あいつをれが風呂へ入ると、外科の先生脊中を流しませうと言つてきかないので、ことばるのに骨が折れたよ」。

K君「流さしてやれば」かつたのに」。

I君「でも君達は誰と、そんな事は言はれなかつたらう。それに、内科の先生流しませうとは言はないんだから、をれ一人がお金に脊中を流してやらつては悪いと思つてやめたね」。

幹事「それではこれで一通り廻りましたから散會しよう、どうも有がたう」。

丁度此の時アツペで救護に行かれなかつた監督入り来る。

カントク「いやどうと皆御苦勞」。

幹事「オイ、カントク、大分与太も入つて居るがこれでい、だらう」。

カントク「そり身になつて速記録を見ながら、

カントク「いや結構、御苦勞」。

一同「やつぱしカントクだナ」。

医 局 だ よ り

先輩の同窓會々員諸先生方に在局者の
近況をお報せするに最も都合のよいもの
は、例の「當直日誌」であります。此を

復寫するの愚を避けて抜き出して見ました。何卒在局當時の御気分を御一語を
願ひます。

又一方においては此の駄文を御覧になつて、在局當時の思ひ出が新にせられ
ますなら一層幸と存じます。



昭和六年十二月から、七年十一月までの一ヶ年の報告であります。

十二月四日 対外苑監理署野球戦、於神宮球場。結果は七対四、勿論、吾外科軍の大勝利。當日、電氣装置の故障の爲（？）ラウドスピーカー、自動スコアボードの使用出来なかつたのは、本試合のJOAK外苑中継放送のなかつたのと共に大に残念の至りであつた。

十二月九日（大安、戌の日） 君塚先生御結婚、當夜直に嘉津子新夫人と共に箱根へ。医局三羽鳥一羽遂に脱退の形、當日東京発の新婚旅行十四組のとと。

十二月十六日 木村守江先生々々にて御上京、御土産を頂く。

十二月十七日 東京劇場において茂木先生謝恩觀劇會を催す。詳細別項。

十二月十九日 中村廣人先生は先日來歸郷中であつたが、同先生より突然御嚴父御逝去の來電あり、一同哀悼の意を表す。

十二月二十日 小田原戸田先生より蜜柑を、八王子四條先生より御歳暮を頂く。

十二月廿二日 本年最終の抄詠會、演者、中村本、志田、相見、島田、明
衆の諸君。医局は修理のため、外來第一診療所へ移轉する。大騒ぎ。當夜六清
會あり、誰かゞ余り厚かましいので、銀座のマネキン嬢顔負けしたる田入電あ
り。

十二月廿三日 昨夜の收護として、六清會一行の漫画と女給募集の看板一
枚あり。

十二月廿四日 アツペにて豫めて入院中であつた吉野先生、目出度く御退
院。

十二月廿五日 午前二時、當院入院中の鍋島先生夫人目出度く御出産。新
父君女兒とて御不満の態。

十二月廿六日 戸澤先生 よりおそば

大首根先生

板橋先生

桑野

鎌田 西先生

より御歳暮

頂戴

十二月廿八日 医局修理成り、元にとどる。新しいので皆さんいゝ氣持。あまり片付いてゐると他人の所の様だとして、直ちにチラカしてやつと落ちついたと云ふ者もある。

十二月廿一日 石巻上石先生より銘酒一樽頂戴。新年の福引其他の準備に大多忙。斯くして昭和六年は事なく終了した。

一月一日 新年祝賀會、午前十時より、医局員改まつて大手術場に参集新年を祝し、余興福引に入る。

鏡台の當るプレ、ビールの當る酔つ辨み、ズロースの當るプレあれば、丁字帯を引く医者あり、一同抱腹し悲喜交々、中で一段と有卦に入ったのは森田婦長理学科の福引で置時計を當て、此方では小粋な用筆筒を引き、大晦日のラヂウムと合せて大福々。終つて、茂木先生、前田先生のお宅へワンサクと押しかけること、これと例年の通り。

一月十一日 井手行乎君（九回卒業）内科より外科へ入局さる。

一月十六日 佐藤盛二氏より干柿を沢山頂戴す。

一月十八日 夕刻の特診、穿。孔。性。餅。炎。六十八才の♀、アナムネーゼ、才
ペラチオン左の如し。

六十八のおばあちゃん、おしるこ餅の御馳走を鱈腹食って餅帰る。お腹が餅
々餅ぶくれ、餅腹愈々痛み出し、とう／＼お腹に餅切れず、尻餅ついては見た
けれど、家人と、医者も餅あまし、「餅々K〇病院」と電話をかけて餅運び、時
と餅ずに、餅腹開く、此れは不思議だ、お腹から二寸角餘のコチ／＼餅、餅腹
先生（註に曰く、術者は木村先生）のお手並みに、見ん事餅は餅出されたが、
出て来た餅は、鼻餅ならず。手術終ればおばあちゃん、ヤレ／＼氣餅が榮にな
り、心餅よく高いびき、病棟は号に餅込まれる。一日二日は餅ったけど、とう
／＼あの世へいったとさ。餅木先生これを聞き、それはなか／＼お餅ろい。こ
の餅、大きな餅故に、餅くづれぬ様た餅ため、餅田式にて標本にし、三年五年
は餅論の事、孫餅代まで、た餅あり。

尚曰く、餅ちと早く来ればよかつたに。

一月廿三日 目黒雅叙園にて、茂木先生御招待、医局新年宴會あり。十有
余の食卓文々其の藝を競ひ、遂に眞打茂木先生の追分を始めとし、前田先生の

大津繪、木村先生、佐藤先生の妙技の御披露あり。十時前校万万才三唱、和氣瀉々盛會裡に散會。

子は親に、弟子は師匠に勝りてぞ

わが日の本の國は栄えん

一月廿八日 抄讀會

古川明君、辻岡元君、島田信勝君送別、井手行孚君歡迎會、病院職員食堂及二次會は成駒にて。

二月一日 島田信勝君幹部候補生として、近衛歩兵三聯隊へ入營、吉例丁字帯旗を自動車窓より靡かせて送る。

村山成一君、茂木先生の月下氷人にて、森山家へ婿入りさる。純日本風にて「高砂や」と出た由、目出度しく。

二月二日 吉崎純氏より「蟹」沢山頂く。いやしん坊の二三は蕁麻疹に苦しむ。

二月十日 突如午後八時左の至急電報舞ひ込む。

「第十七救護班備員として、召集す。依て、二月十四日午前八時、長崎新橋

町日本赤十字長崎支部に参着す可し。

森田キエ殿

上海の戦雲いよ／＼深さを知る。

二月十二日 医局員其他の多数の見送りを受け午後八時廿五分東京発にて
婦長出征の途に上る。

二月十四日 婦長より「オミオクリヲシヤスブ シチヤクアスゴゴサ
セホニムコウキエ」の電報あり。

二月十八日 整形外科集談會 森豊明君出演

二月二十日 臨時六清會あり、医局ガラ空きとなる。

二月廿五日 抄詠會

牛久先生宇都宮へ招集を受けられ入營さる。

禁足命令、動員令続々降る。イレウス患者、カンフル注射と一緒に動員令を
受け、命令書を握つて涙を流す。

満蒙の風雲いよ／＼險惡にして医局の話題も之で持切り。満蒙小唄なるもの
あり。

一、どんとくどんと、大砲小砲、暗に響けば妖雲暗れる。

さつと浮き出た奉天城の城の彼方に朝日は昇る。

二、東支南線寛城子駅の暗破りて喚声起る。

南嶺の險阻何物ぞ、どんと、どんとく突き破る。

三、長驅一鞭吉林つけば、広い満洲に敵影となし。

多年の懸案満蒙の禍根、行方知りたや益良夫の胸。

三月一日 新満洲国建国祭。特診三つ、①外傷、②骨折、③食後腹部膨

満症。(但し養老院を出たる男にして、自殺の目的を以て手あたり次第のとの

(狂、食物に非ざるのとの)を食ひ苦しくなりて命惜しくなり轉げ込みたる者
警官に内科へ連行される。)

三月四日 牛久昇治先生出征の途上岳川駅通過の報あり。医局員トラック

に乗込み長旗数流を押立て、岳川駅に向ふ。原海軍々医少佐、小野田同大尉軍
服にて乗込む。駅頭の殺人的雜鬧。

三月五日 松井八郎先生上海出征、東京駅発、一同前日同様トラックにて

新宿に出で銀座を通り東京駅に至る。

手術告知 3月15日

昭和七年三月十五日手術料千両祝ひとして茂木先生よりビール壽司の御馳走あり。

順番	受持	病室	氏名	年令	病名
	森笹	ほ	井上氏	19	虫様突起炎
	橋本	西	森田氏	9	膿瘍
6)	川森	に	石橋氏	25	虫様突起炎
4)	鍋島	ほ	金子氏	13	虫様突起炎
	”	西	石井氏	2	頸腺炎
	小方	ほ	大木氏	45	化膿創
1)	森豊	い	渡辺氏	7	ヘルニア
	志田	に	小出氏	4	外傷性表皮膿腫
	”	西	清水氏	1	臍瘻
2)	君洪	い	成宮氏	22	腹壁ヘルニア
	酒井	ほ	鈴木氏	31	肺膿瘍
	小沢	ほ	小山氏	28	ヘルニア
	土方	に	山崎氏	8	ヘルニア
	君洪	ほ	上田氏	57	腋窩腺炎
5)	原若	に	山元氏	59	下顎骨炎
3)	神明	に	桴窪氏	35	虫様突起炎
	原若	ほ	白井氏	48	嵌頓ヘルニア
			輸出	四	人

右は記念のため黒板を撮影しておいたものによる。

三月十日 大安吉日、小野先生御結婚。

三月十五日 久し振りにて「千両祝」行はれ一同大ニコく、なるも自然一

同大多忙。医局の祝賀宴中と伸んがりする暇もなき程なり。茂木先生上機嫌。

三月廿四日 夜五才の腸重積の患者来る。茂木先生オペラチオン。小腸同

志の重積にて珍らしい例なり。

三月廿六日 号名物戸田六郎君、急性虫様突起炎にて町田先生手術せら

る。

三月廿八日 神山地真氣先生郷里大阪にて結婚式を挙げらる。シンセイカ

ツノスタートラシユクス（祝電）

抄読會。

三月廿九日 戸田六郎君急性肺炎を併発す。

三月三十日 戸田先生より大郷一尾頂く。

三月卅一日 戸田六郎病篤し。

外科同窓會總會、於目黒雅叙園。出席、茂木先生初め、在局者一同、同窓會
員、大養、柳、大庭、中村復、今井、沢江、林、竹下、四條、佐藤、古川、関

口、吉岡、辻岡の諸先輩。大盛況。

四月一日 外科学會總會（詳細は別項に譲る）

戸田六郎君依然危篤。

四月三日 戸田六郎君死去。

四月四日 戸田六郎君病理解剖。

所見の大畧 廻盲部には手術の爲め出血斑ある外腹部異状なし。心臓に心囊炎あり、両肺臓は刀タル性化膿性肺炎、頭蓋骨菲薄ならず、脳実質は紙の如く、第三脳室に大量のリコールを容る。デルビー氏管は不通ならず、睪丸は右側停留せり。骨格は解剖学教室にて組立保存の由。

四月五日 浜松市梅村病院に院長不在中の留守居を勤めた吉野史郎先生帰京せらる。

鐘一つ売れぬ日はなし 江戸の春

アツペ一本切らぬ日はなし おらが外科

四月七日 青森縣へ赴任せられる小方則太郎先生、文部省航海練習船海王丸に乗られる寺田泰三先生、横浜山下病院に赴任せられる森豊明先生の三先生

の送別會あり。

四月八日 新入局員、伊藤国男、板橋剛、畠中卓助、門橋勇、竜野一雄、野崎寛三、古山実、小平正、斉藤修三（中村寛、上村俊一両君は不参）の九先生顔出しせらる。

四月九日
四月十日 } 上州伊香保方面新入局員歓迎旅行（詳細別項）

四月十一日 當直は古参、中古、新人二人の四人、一同宿ること、なる。松井八郎先生上海より凱旋せらる。医局へ多大の御寄附あり。

四月十二日 林利治先生、廣島へ出張中の所、本日凱旋せらる。

四月十三日 医局員一同記念撮影。

四月十四日 夜、小方則太郎先生、現任地へ新装上野駅より赴任せらる。

一同御見送り。

四月十七日 牛久昇治先生、午後四時品川駅通過にて無争凱旋せらる。直

に原隊宇都宮へ。

四月十八日 教授會、医局員、照井侃先生論文通過、直に新宿室亭に祝賀

新入局員一同茂木先生お宅に招待せられ御馳走攻に會ふ。

四月十九日 神山敏雄、原廣治兩先生講師に昇格せらる。

五月五日 抄読會

五月九日 慶應義塾創立七十五年祭、別項の如く畏くも天皇陛下御名代と

して秩父宮三田山上に行啓あらせらる。催しとの其他は同記事に譲る。

五月十四日 職員食堂において、神山敏雄、原廣治兩先生講師昇格祝賀會

並に加藤銀治郎先生送別會を開く。二次會は山王下幸祭。

五。月。十。五。日。(八日) 特に全文を寫す。

午後の医局は至つて閑散にして、静穩なりしに、午後六時医局電話ケタタマ

シク響き、

「俄然帝都は怪魔の如き怪異團に襲はれ、犬養首相官邸に狙撃さる」の報至る。

直に医局総動員日曜日にも係らず機関部に命じスチームを通ぜしめ、輸血器

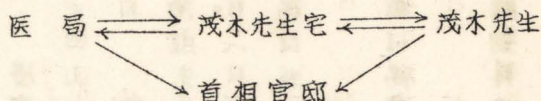
具其の他非常準備を整へ木村教授を先頭に出発す。首相官邸電話銀座(三、一一一

一三、一一五)

15日午後六時〇五分

犬養先生より電話にて首相官邸に犬養総理狙撃
せらるゝの報至る

六時十分



茂木先生佐藤病院より首相官邸へ

六時三十分

木村先生, 川田, 吉野, 中村[△], 百溪
輸血, 食注準備成り出発

七時五十分

輸血施行 (150gr O型)

八時三十分

中村, 百溪, 一應帰局

九時三十分

輸血器再消毒, 止血剤, 酸素吸入, 携行して再
び出発

十時四十五分 (電話)

酸素吸入開始

十一時

ネラトンカテーテル, オリーブ油携行

16日午前一時

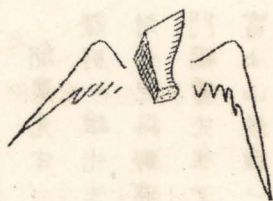
諸先生官邸より帰局

八時 防痂薬携行, 川田, 吉野先生出発

おたっしで

靴の踵に

羽が生え



五月十六日

加藤銀治郎先生大連へ出発。

五月十七日

抄読會（今月より抄読會は原則として二回催す、恒し御馳走

は第二回の時に出す。）

五月廿五日

対小兒科テニス戦に勝つ。

六月一日

吉野先生帰郷送別會並に林軍医満洲出征送別會を開く、二次會

は新宿宝亭。

六月五日

吉野史朗先生午後一時東京発、開業せらるべく帰郷。

六。月。七。日。 開局記念日。例年の通り、手術場にて祝賀會を開く。次の先輩

諸先生御出席あり。諸先輩方より多大の御寄附あり。

犬養、大庭、松井、牛久、豊田、近藤、鎌田、古川、大曾根、横山、竹下、
今井、以上。

六月八日 対婦人科テニス戦。

六月十日 林利治軍医滿洲出征の途に就かる。

六月廿一日 森田婦長四時四〇分東京到着、凱旋す。二月十二日出征以來

実に四ヶ月半、其の勞に對し外科外來に於て、婦長歡迎の宴を開く。

六月廿六日 明榮先生、アツペにて木村先生の手術を受く。

七月一日 龍野一雄先生長女を挙げらる。

七月四日 対小兒科野球戦大勝。

七月七日 門橋勇先生アツペにて手術を受く。

七月九日 富士山救護一番乗出発。

医局内懇親紅白野球試合あり。

七月十二日 明榮先生長男を挙げらる。

八月十二日

松井先生朝鮮へ赴任せらる。

九月一日

震災記念日、例年の通り、握り飯に漬物の晝食を摂り一同サ

イレと共に黙禱。

九月十二日

布留先生嚴父御逝去せらる。

九月十四日

茂木部長御招待、千葉縣浦安舟遊び。(詳細別項)

九月二十日

対赤十字野球戦大勝。

笹川正男教授 御逝去
謹んで哀悼の意を表す

九月廿五日

対青山外科対抗競技會(詳細別項)

九月廿七日

犬養先生より梨沢山頂く。

十月一日

大東京市、新市民医局に廿七名。

十月五日

アツペ患者八名入院。

十月十日

中村廣人先生御結婚式を挙げらる。

十月十一日 抄読者、木村先生御寄贈のハムズで医局賑ふ。高巢先生より粟

沢山頂く。

十月十二日 婦人科手術室に小火あり、野崎寛三先生大に活躍火傷を負ふ。

十月十九日 本日迄アツペ総数三五九名、本年中に四五〇名に達するやと

知れず。

十月廿四日 原廣治先生論文通過祝賀兼送別會、并に中村廣人、富田勝郎

両先生送別會、田中周吉先生歓迎會を開く、二次會は幸樂。

十月廿六日 牛久昇治先生東京駅發大連に赴任せらる。

十月廿八日 外科集談會

浦安は

古い帽子で

出かけ

けり



十月廿九日 富田勝郎先生伊勢の津市に赴任せらる。
 十一月二日 川田正雄先生講師に昇任せらる。即夜幸祭に於て祝賀會を催す。

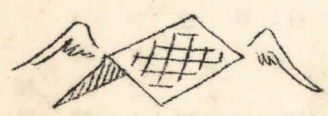
北海道の山本順先生より林檎沢山御送付あり。

十一月五日 若林研爾先生御結婚せらる。

十一月八日 三四會運動會、リレー大戦、トロフィーを得る。即夜幸祭にて祝勝會。

十一月十日 中村広人先生静岡縣土肥へ赴任せらる。

慶應医学会總會。



バラツクは

屋根が飛んでも

商賣し



十月十四日 相見三郎先生送別會、二次會富士見町魚久。

大颶風來る。西病棟のバラツクの屋根吹きはがされ、雨大に漏り、入院患者
ほ号へ夜半ベッドごと避難す。

十一月十五日 相見先生、新宿発信州伊那郡へ赴任せらる。

十一月廿一日 北海道、柳莊一先生御上京、金一封下さる。

十一月廿二日 抄読會

君塚先生長男を挙げらる。

同窓會會員名簿

(入局順)

○印は在局者

四谷區東信濃町二八(四谷四五六八)

○茂木藏之助

四谷區三光町五四(四谷六一一六)

犬養六郎

福岡市住吉花園町一六六三

成松清敏

北海道札幌市北四條西十五丁目一

柳壯一

神奈川縣鎌倉材木座

大庭國紀

中野區沼袋南二丁目一六〇

中村復一郎

静岡縣浜松市八幡町七二九(圈八六五)

梅村六郎

麻布區笄町八〇(青山六五二五)

○木村博

新潟縣柏崎本町六丁目

高桑武夫

水戸 常磐病院内

柴沼薰

神奈川縣小田原萬年町四丁目五七三

戸田四郎平

神奈川縣都築郡田奈村長津田一四二四

川崎市貝塚一二

深川區西平井町九三

茨城縣結城郡結城町一四一六

蒲田區御園町一三八

芝區白金三光町二六九

桐生市西久方町二丁目七八六

南滿洲四平街病院

長野縣富士見高原療養所

芝區濟生會病院舍宅

岐阜縣武儀郡西武藝村

北海道小樽市小樽病院

京都市宇治郡醍醐村

杉並區和泉町三四一
中野區住吉町四二

森 信彦

阿部 貞治

片柳 常作

稻葉 俊雄

大槻 正路

○町田 謙二

赤松 常信

高木 宗吉

中村 武重

鎌田 竹次郎

山田 晟

山本 順

本郷 光美

関 市衛
今井 金治

深川區水場三丁目八
 宮城縣壯麗郡石卷町新田町三九
 赤坂區青山南町六ノ五六野崎病院
 杉並區阿佐ヶ谷町三丁目四八四
 大連市聖愛病院
 芝區白金今里町八九（高輪五三五二）
 杉並區馬橋五二九 出張先滿洲國敦化
 杉並區阿佐ヶ谷町二丁目五五四
 杉並區阿佐ヶ谷町二丁目五五九
 榊太廳眞岡病院官舎
 渋谷區代々木深町一六六七
 榊太泊三橋外科病院
 福井縣遠賀郡遠敷村
 市外武藏野町吉祥寺二八三五
 千葉縣館山町館山病院

新田 龜三
 上石 英造
 澤江 六太郎
 篠原 靜夫
 牛久 昇治
 ○佐藤 太平
 林 利治
 大曾根 幾次郎
 ○神山 敏雄
 中村 勝之助
 近藤 宗彦
 三橋 弘
 浜野 碩太郎
 豊田 秀穂
 渡辺 治生

大分縣北海郡小佐井村

富山縣高岡市旅籠町

市外尾久町上尾久一九二五

岩手縣和賀郡黑沢尻和賀病院

呂川區五反田一丁目一二五

八王子市八日町三一

北海道十勝國帶廣町

福島縣石城郡四倉町(四倉三五)

目黒區駒場町七九七

横浜市鶴見區生麥町三八(鶴見三四六)

渋谷區代々木山谷町三一四

杉並區清水町二一〇(荻窪一三五四)

半込區喜久井町二〇

山口縣大津郡人丸

杉並區阿佐ヶ谷二丁目五八六

神野澄晴

吉崎純

竹下貫一

高巢三四一

駒井忠雄

四條龍作

小内昇

木村守江

原廣治

佐藤盛二

生田幸喜

横山虎雄

○川田正雄

吉野史朗

○中村次郎

四谷區右京町二二
 足利市伊勢町
 赤坂區青山北町一ノ八
 牛込區納戸町一七
 朝鮮京城府漢江通二ノ一(二四号官舎)
 四谷區左門町二八
 浅草區七軒町四 東京痔病院
 赤坂區青山北町三ノ六七
 麻布區新網町一ノ五五
 豊橋市
 杉並區成宗一丁目九六
 中野區沼袋町南二丁目二一四
 麻布區本村町二二五(高輪九二五)
 世田ヶ谷北沢三丁目九九〇
 前橋市北曲輪町

桑野鉄四郎
 槍田 榮
 〇岩原寅猪
 〇森 文雄
 松井 八郎
 河内野弘徳
 〇高橋福三郎
 〇藤原道純
 古川 明
 松橋 一
 〇君塚 正
 〇鍋島 勉
 〇前田和三郎
 村上 晋
 関口林五郎

北海道小樽市小樽病院

長野縣小諸町赤坂町

静岡縣田方郡土肥村土肥 尾形別荘

ブラデル、リオデデヤネイロ

麴町區麴町ハの七麴町アパート廿七号

荏原區中延町一〇八七(荏原三一四〇)

四谷區大番町一〇三 古川方

横浜市真金町病院

宮崎縣宮崎市上野町三ノ六

本所區若宮町一〇九 本島方

大連市黒石磯清風寮

本郷區千駄木町五八 莊司方

静岡縣浜松市 森下病院

埼玉縣川越市小仙波一、一一一埼玉病院(三七八越)

杉並區東田町二丁目一五〇

一九〇

井上 太郎

吉岡 勝衛

中村 廣人

八木 勝郎

〇土方 久顯

〇百溪 定七郎

〇瀨尾 省三

小口 宇一

弓削 中

〇小野田 肇

加藤 銀治郎

〇志田 元秀

森下 貫一

〇橋本 文吾

〇伊藤 由比

世田ヶ谷區代田一丁目六五二ノ五

浅草區八幡町四

三重縣津市西町、老松旅館

青森縣西津輕郡森田村増田分院

淀橋區東大久保二丁目一八六

神田區豊島町ニ〇尾崎アパート四六

淀橋區戸塚町三丁目八九一（牛込五六五坂本）

浅草區田中町八〇

中野區住吉四八 山静荘内

中野區上高田一丁目十五山本方

文部省航海練習船海王丸乗組

長野縣下伊那郡富草村中島天龍分院

京橋區横町二丁目七（京橋二三〇ニ）

横浜市山下町 山下病院

在ブラジル

○江英男

○堀田善二郎

○富田勝郎

○小方則太郎

○小澤武雄

○田村信介

○田中周吉

○辻岡元

○武藤藤太郎

○布留文夫

○寺田泰三

○相見三郎

○酒井欣郎

○森豊明

○細江静男

芝區三田綱町一 小島方(三田一五一七)

中野區上高田一丁目四七

大森區新井宿四丁目九八四(大森一〇二八^{出呼})

澁谷區豐沢町六七慶應寄宿舎内(高輪五七四六)

横浜市中西戸部町七二二(長者町六〇八)

四谷區東信濃町九 川添方

日本橋區橋町一ノ九(浪花二六四六)

市外杉並區阿佐ヶ谷五〇四

中野區朝日ヶ丘二

中野區打越町二四

赤坂區新町四丁目十八(青山七二六四)

豊島區駒込五丁目九八〇

澁谷區渋谷町神泉三二(青山七八四)
(鴨籠田坂次)

中野區沼袋町南二丁目七四

荒川區三河島町四丁目三四六二

○浜名元中

○若林研爾

○神山地真氣

○成内穎三郎

○森山成一

○栗本勝之進

○笹島彦次郎

○島田信勝

○明榮治部輔

○照井侃

○井手行乎

○伊藤國男

○板橋剛

○島中卓助

○門橋勇

本郷區弓町一ノ二六 <small>(小石川五八八一諸橋取次)</small>	○龍野一雄
城東區龜戸町六丁目一〇 <small>(有川方(隅田一四九六)大藤呼出)</small>	○中村寬
目黒區洗足一四七二番地ノ四 <small>(荏原三六二〇)</small>	○野崎寬三
豊島區池袋四丁目四三六 <small>(大塚二二五三)</small>	○古山實
淀橋區大久保二丁目二八三	○小平正
渋谷區永住町一五 <small>(青山五五〇八)</small>	○齋藤修二
板橋區小竹町二四六一	○宮尾啓

編輯後記

○毎度御目通りを致しまして、変り榮えの致しません処を御目にかけます。新しい種も盡きまして、無い智慧を絞って、どうやらこうやら一冊の本に仕上げました。

○柳蔭縁で原稿の方は各方面から多大の御同情を戴き、沢山集まりました事は編輯局員一同感謝致して居ります。

○挿画・慢画の類で少しでも面白いと御目に止りますものがありません。是は大概新進作家K君の腕に依るのであります。

○別館銅版画の漫画三枚は七十五週年紀念の記を御参照下さい。

○別館全景は病院で飛行機から寫したものを惜りて來ました。

○猶名簿は大東京に成りました彼の調査、不行届の爲或は誤りがあるかと知れません。御序の節正しい住所を御一報願ひます。

○猶最後に來年と亦振って御投稿下さらん事を今からお願ひ致します。

昭和七年十二月十五日發行
昭和七年十二月十七日發行

(非賣品)

發行者

慶應義塾大學醫學部
外科整形外科教室同窓會

編輯者

百溪定七郎
田村信介
伊藤島彦次郎
藤藤國男

印刷所

東京市牛込區神樂町一ノ十二
田中騰寫堂
電話牛込一五二一

發行所

東京市四谷區西信濃町廿二番地
慶應義塾大學醫學部
外科整形外科教室

不許
複製

慶應義塾大學醫學部教授
醫學博士 茂木藏之助 著

外科類症鑑別診斷學 (全)

最も新なる編輯法と充塞せる内容を有せる本書は果然斯界に絶大なる好評を博しつゝ、あり!!

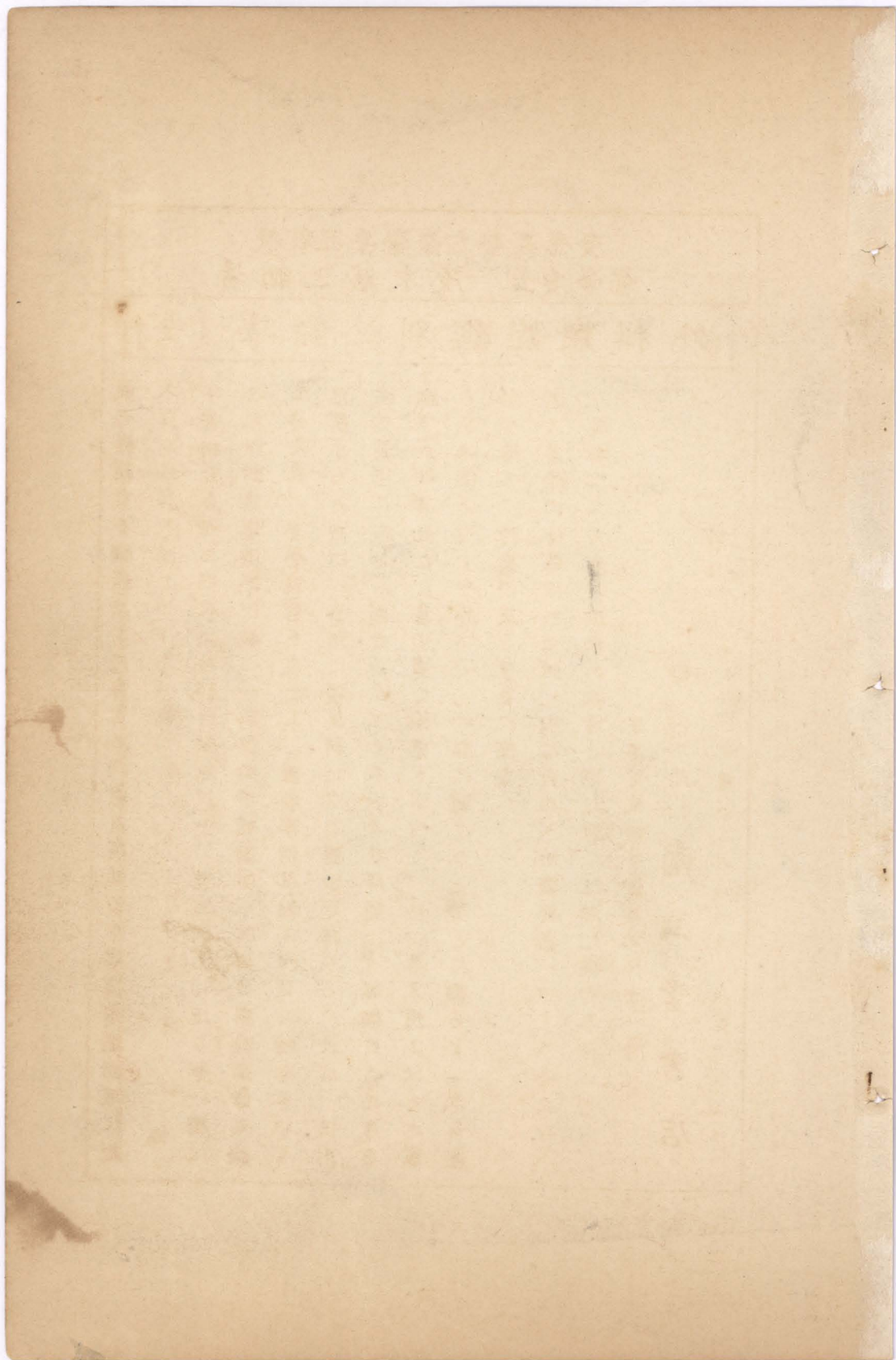
本書納むる所の内容は外科百般並にその境域疾患に沉り第一編は外科診斷法要項第二編は外科診斷学總論第三編は外科診斷学各論に分たれ、全卷内容を表示し、重要事項は餘す所なく細字を以て密載すると共に、各所に優美精巧なる圖版を挿入したれば、使用者の需用に従ひ、簡ならんことを欲すれば簡に、詳細ならん事を欲すれば詳細に、意の儘に検索し得べし。初心者も用ふべく大衆と亦伴侶となすを得べく、外科に關すると否とに拘らず一本を座右に備へて診療の友とするに便なり。

猶又書籍の体裁は三三版七四九頁の大冊黄褐色クロース金文字入り美本にして寔に近來の快著と信じ敢て江湖に奨むる所以なり。

發行所 南山堂書店

東京市本郷區龍岡町三十一番地

電小石川四二三・振東六三三八



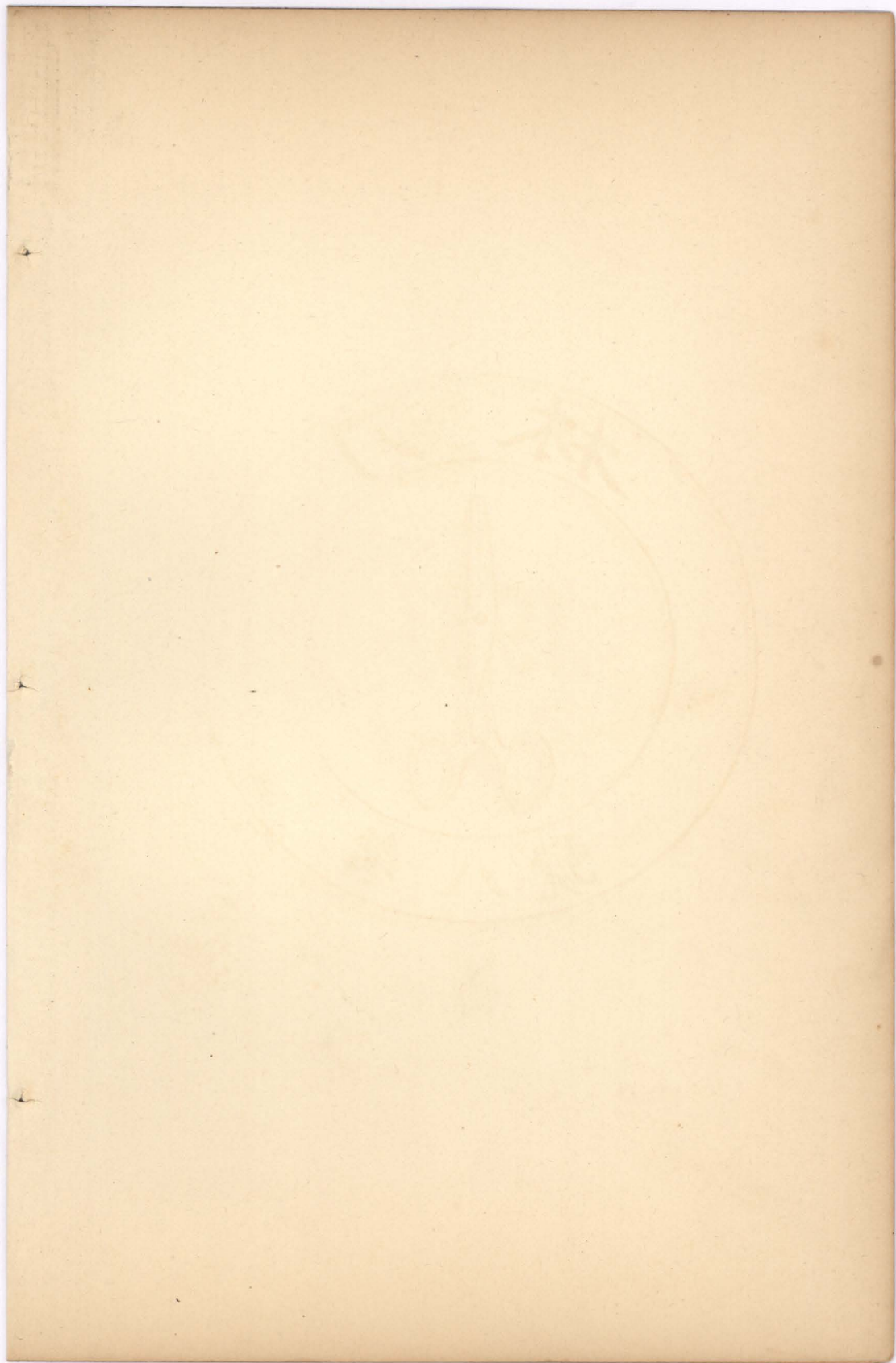


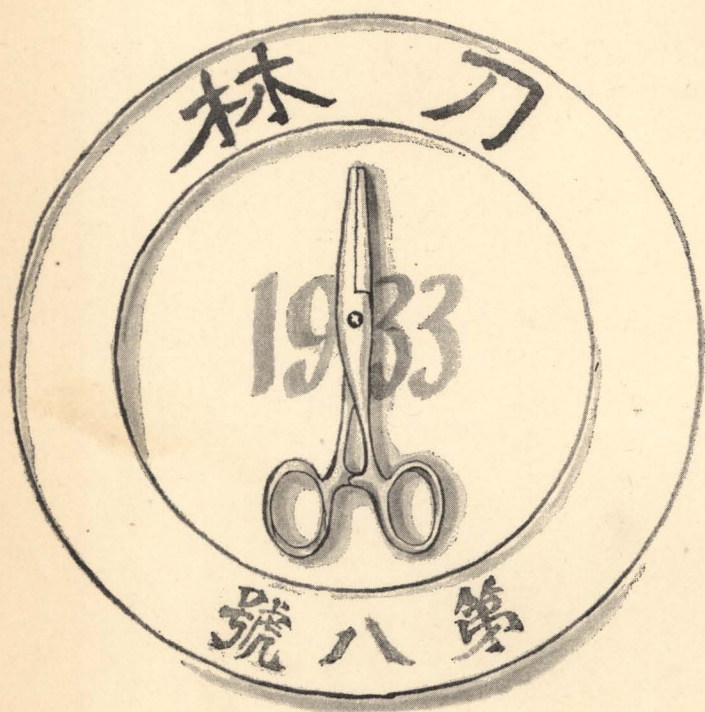
外科圖書室

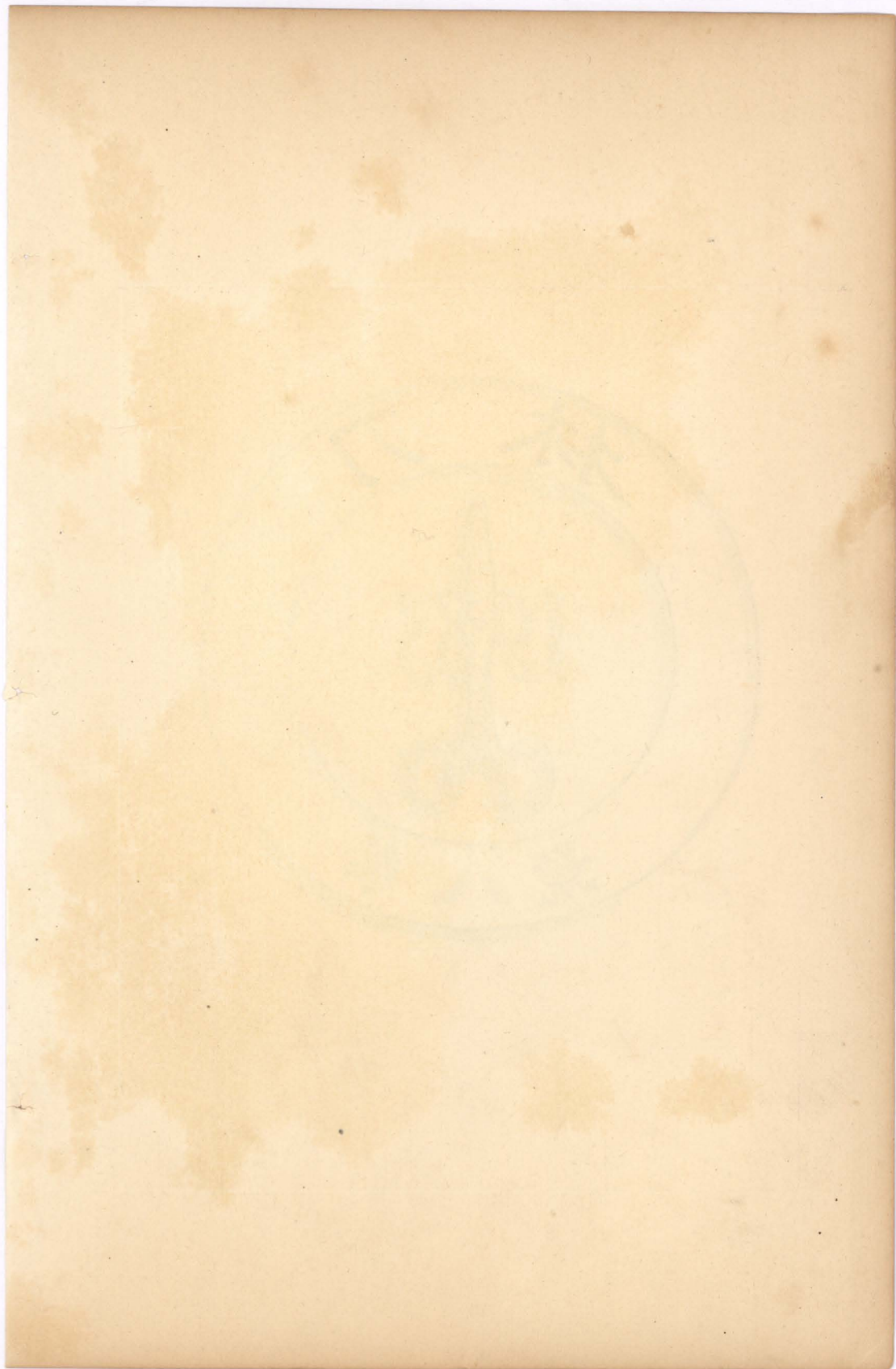
林刀

8

1933







珍談二つ			K・I・生	三八
開業醫			S・M・生	四三
日立便り			濱名元中	四五
會員近況				四七
同窓會報告				六二
御禮				六三
學術				
外科				六四
整形外科				六七
抄讀會				七一
文献の探索			もゝたに生	七五
醫局				
茂木先生	八二	検査室の事ども (試薬係)		八五
外來診察室	八三	病類別索引の話 (S生)		八七
外科醫局發展近況	八四	別館案内記 (つね子)		八九

動物實習	(H・N・生)	九三	歡迎旅行記		九
學會行	(T・H・生)	九四	新入局員紹介		一〇三
謝恩觀劇會		九六	前橋舟遊び記	(M・N・生)	一〇九
文苑					
江戸時代情死小考			純山		一二七
獨吟行			馬相		一三五
ライオンと虎と私			古珍		一三九
俳句の辯			馬相		一三三
女神のうたへる歌			白風		一三七
駄句			はしもと		一四三
外科醫局の歌					一四三
外科を謳ふ			文生		一四三
外科醫局音頭			TAM		一四四
外科醫局の歌			比古		一四五
三十一文字 田舎のアツペ			治生		一四六



今年が醫局は、庭球をのぞいて、あらゆる運動
競技に優勝しました。

其の戦績を物語る盃を前に、茂木先生の寫眞を
撮らせて戴き、口繪と致しました。來年は、庭
球にも優勝します。

向つて右より。

教室對抗リレー優勝盃

對青山外科運動競技優勝盃

教室對抗野球優勝盃

です。小さい方は昨年度までの盃、大きいのは、
今年新に作られたものであります。

(尙先生には、醫局員一同と寫したき御希
望でありましたが、刀林發行の日も迫り、

又醫局では光線も悪きため、残念ながら院
内寫眞場で撮らせていただきました。)



祝 賀

論文通過

中村次郎君 昭和七年十二月

志田元秀君 同

今井金治君 同 八年三月

横山虎雄君 同 八年四月

明樂治部輔君 同 八年七月

昇格

町田謙二君 (助教) 昭和八年四月

藤原道純君 (講師) 同

百溪定七郎君 (同) 同 五月

THE UNIVERSITY OF CHICAGO

PHYSICS DEPARTMENT

530 SOUTH EAST ASIAN AVENUE

CHICAGO, ILLINOIS 60607

TEL: 773-936-3700

FAX: 773-936-3700

WWW.PHYSICS.UCHICAGO.EDU

PHYSICS 101

PHYSICS 102

PHYSICS 103

PHYSICS 104

PHYSICS 105

PHYSICS 106

PHYSICS 107

PHYSICS 108

PHYSICS 109

PHYSICS 110

PHYSICS 111

PHYSICS 112

PHYSICS 113

PHYSICS 114

PHYSICS 115

PHYSICS 116

PHYSICS 117

PHYSICS 118

PHYSICS 119

PHYSICS 120

THE UNIVERSITY OF CHICAGO

SI 100

THE UNIVERSITY OF CHICAGO

THE UNIVERSITY OF CHICAGO

THE UNIVERSITY OF CHICAGO

THE UNIVERSITY OF CHICAGO

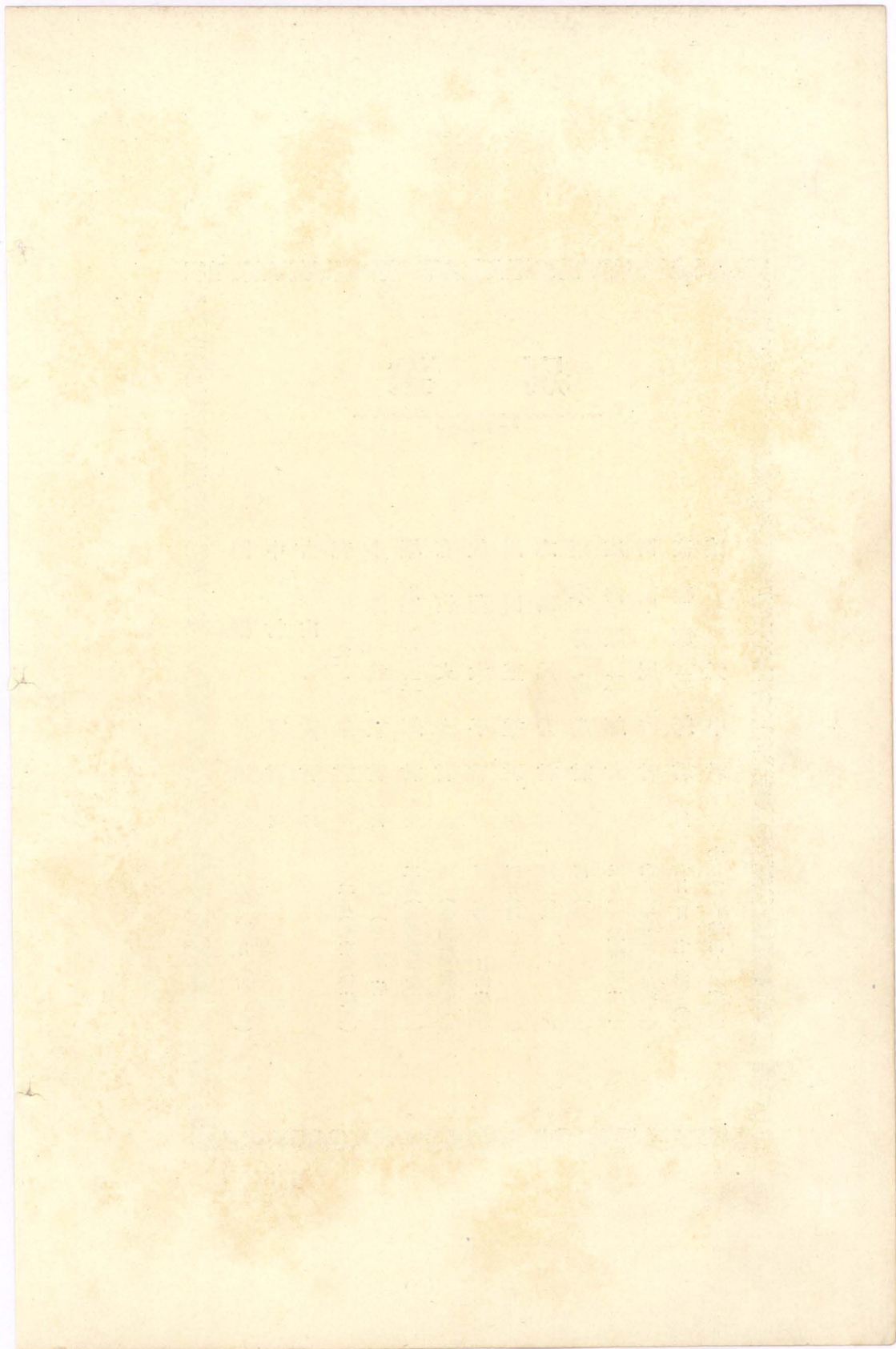
THE UNIVERSITY OF CHICAGO

THE UNIVERSITY OF CHICAGO

THE UNIVERSITY OF CHICAGO

送 別

濱	高	田	成	栗	志	川	佐	布	堀	小	森	古	中	門
名	橋	中	内	本	田	田	藤	留	田	澤	山	村	橋	
元	福	周	穎	勝	元	正	太	文	善	武	文	實	寬	勇
中	郎	吉	郎	進	秀	雄	平	夫	郎	雄	雄	實	寬	勇
君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
十月(日立鐵山元山病院)	九月(自宅開業)	六月(中目黒瀨尾病院)	五月(滿鐵撫順病院)	同(同)	同(同)	四月(同)	同(静岡日赤病院)	同(藥物學教室)	三月(豫防醫學教室)	同(伊東病院)	二月(東京電燈病院)	同	同	昭和八年一月(入營)



同窓會

外科手術漫談

茂木藏之助

凡べての醫學的療法を大別すると (一)藥物療法 (二)食餌療法 (三)臟器療法 (四)血清療法 (五)ワクチン療法 (六)氣候療法 (七)理學的療法 (八)器械療法 (九)精神的療法 (十)手術的療法に區分せらるゝ。世間には外科醫者は何んでもかんでも手術ばかりしたがるやうに誤解して居る人もあるが、決してそんなものではない。外科的疾患に對しては其の病氣により、又病狀の程度或は時期等により、以上凡べての療法を取捨撰擇して處置をするもので、或は二三乃至數種の療法を併用する事もある。併し手術的療法は何と云ふても外科醫の生命とする所で、最も屢々行はるゝものであるが、此の手術的療法は他の各種の療法とは全く別箇のもので、甚だ複雑したものである。然るに世間では外科的療法とはどんなものかよく了解せぬ人が尠くない。依つて茲に其の大要を述べて見やうと

思ふ。

何人が云ひ出したのか、佛心鬼手と云ふ言葉がある。病氣を癒し、病人の苦痛を去るてふ深き慈悲心を以て、思ひ切つて充分に手術をせよとの意味である。蓋し手術の要諦を表現せる金言ではあるが外科的手術の眞面目はまだ、此の言葉だけでは云ひ盡せぬ。更らに幾多の條項がある。

先づ手術を行ふに當りては豫め診断を確定する事が必要である。然るに病氣によりて一目して容易に診断せらるゝ場合もあるが、病氣によりてはなか／＼診断が困難なる事がある。老大家の等しく云はるゝ言葉であるが、醫者は醫者になり立ての時が一番何でも解るやうに思ふ。又解からなかつたら本を見さえしたら直ぐ解かるものと思ふ。然るにだん／＼経験を積むに従つて解らぬ事が多くなつて来る。又本を見ても解らぬ事が少くない。従つて場合によりては最初の診察では診断が附かぬ爲めに暫時経過等を觀察して漸やく診断が確定せらるゝ事もある。或は特殊の検査法を行ふて甫めて診断せらるゝ事もある。

内科的方面に於ては特に用心を要する急性傳染病中には疑似コレラ、疑似赤痢だのと云ふ名稱がある。即ちコレラや赤痢の疑もあるが診断が確定せぬ場合には、其の病氣の疑の下に處置をしなから経過を觀察して診断を下だすのである。又微毒性の疾患にも色々あるが、診断不明なる場合には、試験

的驅微法と云ふて、二三週間微毒の療法を試みて其の奏効有無によりて診断を定める事もある。外科的方面には疑似云々と云ふ名稱はないが試験的切開術とか、試験的開腹術と云ふものがある。即ち診断が確定せぬ場合には兎に角手術的に患部を開いて見て診断を定め、之れに従つて善處すると云ふのである。特に急性腹膜炎や腸閉塞症や内出血等の疑のある場合には一刻を争ふて手術せねばならぬので、徒らに診断の末節に拘泥して手術の時期を遅延せぬやう。兎に角重きに從つて手術を試みて診断と共に手術を行ふ事が屢々ある。なほ病氣の診断に向つては多年の經驗、周到なる注意、學識の深厚等が關與する事は云ふ迄もない。

手術者には上手な人と下手な人とある。それは生れつき器用な人と不器用な人とで違ふのであるが、イクラ器用な人でも鰻を始めて割かしたらなか／＼旨く割けるものではないが、慣れた人は見て居ても氣持のよいやうにスラ／＼と割く、手術も鰻を割く程澤山やつたら随分旨くなるものだろう。外人は一般に日本人に比して手先が不器用だが、熟達した外科醫の手術は誠にあざやかなものである。初心の手術者は皮膚を切るにも恐る／＼切るが、慣れた手術者は一頓に切る。而して出血にはさまざま驚かぬものであるが、手術に慣れぬ人は出血があるとビク／＼して止血に之れ努める、二十數年前の話である。私と同時代頃に大學を卒業した新學士が外科醫局に入局して間もなく、故參助手に手

傳つて貰らつて頸部の手術をしたのであつたが、頸靜脈を傷つけて、どつと出血したのを見て、ビツクリして青くなり、腦貧血を起して危く倒れそうになり、肝心の手術者が室外に運び出された。爾來その先生は手術が恐ろしくなり、外科醫たる事を斷念して内科醫になつて仕舞つた。併し慣れた外科醫は大抵の出血には驚かぬ。而して適當なる處置を施す。昔、スクリバ先生の外科で、ある助手が先生の留守中に横痂の手術をして股動脈を損傷し、驚いて出血を止めやうとしたが、なか／＼止まらぬので、仕方なしに止血器で動脈を押えて其上に大業に繃帶をして置いた、翌日スクリバ先生が廻診の時これを見附けて、誰れが此の手術をしたと、どなられたが、それは股動脈を傷つけたのが悪いと云ふのではなく、若し股動脈を傷つけたのなら、なぜ手術部の上方で股動脈を出して之れを結紮して置かなかつたかと云ふのであつたさうである。

慣れぬ人は手術をするに餘裕がない、従つて手術中に何か豫定以外の事故が起ると、まごついて仕舞つて、思はざる不覺を取る事がある。併し慣れた人は假令手術中に事故が起つても驚かぬ、平氣で適法を講ずる。曾つて私はフランスの外科の泰斗ドアマン氏の手術を傍觀した事がある。輸尿管瘻の整形手術をやろうと云ふのであつたが、いよ／＼輸尿管を周圍より分離して引き出し、輸尿管はなか／＼丈夫なものであると云ふて、太い大きな手で引つぱつて見せたが、どうしたものか、其の輸尿管

がプスンと切れて仕舞つた。我々であつたら、アツしまつたと云ふ所だが、先生少しも驚かぬ。平氣で腎臟部を消毒して、見る間に該側の腎臟を剔出して仕舞つた。今でも其の沈着の態度が目に残つて居るやうである。要するに手術に際しては膽大にして、しかも細心の注意を要する、虚心平氣にして心に餘裕あるを要する。手術に際しては手術前に下だしたる診断のみに捉はれずに、診断の誤つた場合の處置をも考へて居らねばならず、又手術中に起るべき色々な偶發事故をも考慮して居らねばならぬ。而してそんな場合には、あわてずに適當なる處置を施さねばならぬ。此等は經驗を積むに従つて膽が据り餘裕を生じて來るのであるが、手先きの器用、不器用と同様に、多少人々の生來の性質も手傳つて來る事であらうと思はれる。

一體外科的手術は他の療法とは大に趣を異にして居るもので、藥物療法にしても其他の療法にしても其の處方さえ定まれば、大抵誰れがやつてもさしたる相異はないものであるが、手術的療法に於ては單なる療法ではなく、同時に診断、鑑別、豫防等を含むものである。即ち手術を行はんとする場合には、先づ其の病氣に對して如何なる方法が最も適切のものであるかを撰定せねばならぬ。而して手術に當つては外部から見た診断と一致して居るか、否やを確定し、若し又之れに類似の疾患があれば之れを鑑別せねばならぬ。又其の病氣がどの程度まで擴まつて居るかを鑑定せねばならぬ。又病氣に

よりては皮膚の下だけにあるものか、筋肉や骨に關係がないか、或は内臓に關係があるかを判別せねばならぬ。又手術に際しては出血があるので、手早く之れを止めねばならぬ。又神經や其他の組織を傷つけぬやうに注意もせねばならぬ。時としては又病氣の原因を探りつゝ進み、小なるは蟻の穴よりも小なるものに注意を要し、骨や關節の手術に當りては満身の力を籠めて行はねばならぬ事もある。又手術後皮膚を縫合するにも色々の注意が必要であり、特に整形手術となると種々の美術的工夫を要する事もある。其他手術に際しては化膿を起さぬやうに各方面に注意を要し、又手術中は成るべく患者に苦痛を與へぬために無痛法を顧慮して居らねばならぬ。併し無痛法もあまりやり過ぎると、之れがために恐ろしき危険に陥る事もある。要するに、手術に際しては瞬目の間に種々雑多の事項に深甚の注意を拂はねばならぬ。曾つて故高木兼寛博士が手術後のガーゼ事件に鑑定人として法廷に出席した時に、醫者が手術をするに當つては、麻酔を心配し、出血を顧慮し、手術部を注意し、患者の全身状態を監視し等々、到らざるなき緊張と努力を要するもので、恰かも軍人が戰場に臨めるが如きものであると説破せられた。蓋し明言であらねばならぬ。

元より手術にも難易があり、簡單なるものは何等の心配なしに一寸して出来る。併し簡單な手術でも油斷大敵、いつ、どんな事が起るか知れんから、常に心を配つて居らねばならぬ。然るに又大きな

手術となると、外科醫は全く一生懸命になつて手術をする、寒い時でも下着一枚となつて汗みづくになる。藥物療法は勿論、理學的療法でも、其他の療法でも、こんなに眞剣になつて努力するものはあるまい。イヤ内科醫でも胸部を一心になつて診査する時は、自然に汗がにじみ出るとの事であるが、外科手術の時はそんな生やさしい汗ではない、時としては手術者の汗拭き係が要る位に拭いてもく流れ落ちるやうな汗が出る事がある。又外科醫が一生懸命になつて手術する時は、目付きまで違つて来る。

手術の時によく怒る先生がある。日常は温厚恭謙なる人でも、手術になると人が變つたやうに助手や看護婦をどなりつける。ある大學教授が他の病院に頼まれて行つて其處で手術を始めたが、いつもの癖を出して怒り出したら、初めての雷にびつくりして、器械係をして居た看護婦が腦貧血を起して打倒れたと云ふ。併し怒ると云ふのはあながち咎むべきでない。それは怒るのは手術に熱心のあまりに來るので、相撲を見て力こぶを入れて思はずどなり出すやうなものであろう。連發的にどなり出す癖のある先生は、或はどなる事によりて調子づけられて手術を進めて行くのではないかとさえ思はるゝ。兎に角どんな療法でも、治療中怒り出すと云ふ事は手術的療法以外には見られない一現象である。手術的療法に於て他の療法になきもう一つの特徴は手術によりて時としては、患者に死を來たす危

○險のある事である。藥物療法に於ては誤つて劇薬を使用した場合でもなければ治療によりて死を來たす事はない。其他の療法に於ても直接に死を來たす事はないのであるが、獨り手術的療法に於ては死の危険がある。手術中に於ける直接の危険は出血、ショック、肺虚脱、空氣エムボリー、衰弱死、心臟麻痺、麻酔に因る危険等で手術後に於ける危険は手術後の化膿、肺炎其他の合併症である。就中手術中に危険な事があれば、直ちに以て手術者の責任と云はれる。手術者は此等の危険を冒して、

云はゞ患者の身體を戰場として病氣と孤軍奮闘するのである。手術者は患者の死に直面して闘ふので常に多大の努力と緊張を要するのである。併し手術を嫌ふ人は此等の危険を慮つて手術を恐ろしいものと思ふのであるが、此等の危険は相當の注意の下に行へば大抵避け得らるゝものであるが、併し一面から云へば、ある病氣があつて、手術的療法以外に生命を救ふ事が出來ぬものとしたならば、所謂生命を賭して手術する事も必要である。或は虎穴に入らずんば虎兒を獲ずの譬の如く幾多の危険を冒して手術を敢行する事もある。此の如き場合には一層の勇氣と果斷とを要する。歐米では随分思ひ切つた手術をして居る——勿論之れが爲めに死亡する事も多いが——併し一面に於ては之れが爲めに外科學の進歩に貢献する事も多大である。併し我國に於ては概して歐米のやうに思ひ切つた手術の出來ぬ事が多い。患者を一人殺すことは百人を助くるよりも世評に影響する事が大きいので、假令多少の

見込があると思ふても、萬全の策を取りて手術を敢えてせぬ人が多い。

次に必要なる事は醫學の智識養成に怠つてはならぬ事である。醫學の發達は駸々として休む間もなく進歩する。いくら其の醫者が器用であつても、經驗が積んで居つても、人間一人の進歩は知れたものである。學界に於ける幾多の研究の發表は多少玉石混合の誹はあるにしても。大體に於て各自が專心に研究又は經驗して發表した結晶である。従つて時としては今まで不可解の醫學上の問題が新研究によりて解決せられたり、不治のものとなつた輸血法なども、或は簡便の療法も出て來ると云ふものである。近い話が近來盛んになつた輸血法などでも、本法のなかつた時代には助かるべきものもみす／＼殺して仕事つたのだが、輸血法の實施により屢々起死回生の妙を發揮する事がある。併し、もし今なほ本法の實施方法を知らぬ外科醫があつたとしたならば、どうであらうか昔は醫者と南瓜は古い程よいと云ふたものであるが、成る程經驗を積んだ醫者はよいには違ひないが、醫學の進歩に注目せざる古南瓜醫者は決して立派なるものとは云へぬ。現今日本の醫學も進歩したとは云ふものゝ、大局の上から見れば誠にまじめなものである。今後更らに／＼發達すべきで、前途は誠に遼遠たるものである。従つて我々は及ばずながら、此發達に後れざらん事に努力してやらねばならぬのである。熟達した外科醫の手術は、初心の手術者よりも手術は旨いには違ないが、馴れた醫者でも場合によ

りては手術後省みて物足りなさを感ずる事もあろう、特に心急ぎて手術をする時や、氣分の勝れぬ時
或はあまり緊張し過ぎて手術した時は、思はざる失敗する事もある。又馴れぬ手術場や馴れぬ助手で
手術する時は、手術のやり苦い事が多い、又特別の理由なくして一寸した加減で手術に熟練せる人の
手でも多少出来不出来のある事がある。此の點手術も一種の藝術ではないかとさえ思はるゝ。併し何
と云ふても經驗の深き外科醫は初心の手術者に比して凡べての點に於て格段の相異のある事は云ふ迄
もないが、曾つてある外科の大家が憤慨して話された。手術に熟練した外科醫の手術料も、學校駆け
出しの若い醫者の手術料も大した相異がない、否其の地位によりては若い醫學士さんの手術料が反つ
て高い事があると云ふ。誠に不合理千萬な事ではある。例へば蟲様突起炎や脱腸の手術にしても、熟
練の外科醫は十分内外で済ますのに初心の手術者は四五十分も二三時間もかゝる事がある。而して其
の間手術中の苦痛に於ても、又手術後の成績に於ても兩者の間には多大の相異がある。同じ馬を書く
にしても、畫の先生の書いたものと、弟子の書いたのと同じく見られてはたまらなわけである。併し
素人は勿論、醫者すらも手術なるものゝ真相をはつきり呑み込んで居らず、手術を投薬や注射同様、
誰れがやつてもさう異なるものではない位に考へて居る人々が尠くないやうである。併し以上述べ來つ
た條々を考ふるならば、稍や外科手術なるものゝ意味を了解せらるゝ事と思ふ。

併し一體醫者の仕事と云ふものはあまり有り難いものではない、今は勇退して閑職にあらるゝ外科の某泰斗は顧みて自分はよくあんな仕事をやつて来たものだと思懐せられたさうであるが、醫者特に外科醫の仕事はなか／＼厄介なものである。人々のいやがる膿や大便や血液や汚いものを平氣でいぢくり廻はして、汗みづくになつて勞働し、或は誤つて手術の際病菌に傳染し生命に危険なる事すらある、手術中の心配苦勞ばかりか、手術後の後療法を心配し、合併症に苦勞し、幸に助ければ當り前死亡でもするものなら醫者が殺したやうに云はれる、肉體上及精神上外科醫者位働らくものは比較的少ないだらう、しかもかく働らいて獲る所幾何ぢやと云ひたくなる位である。

併し、併し、翻つて顧みると外科醫者には人に味はれぬ樂しみがある、世の中は苦あれば樂ありである、澤山の病人を取扱つて居る間には、自分の心まかせに癒らぬ病人もあつて、心の奥が暗くなる思をする事もあるが、手術が自分の思ふやうに濟んで、其後の経過がずん／＼よくなるのを見た時は、手術や後療法に苦しんだもの程、有りがたさに満ち／＼した樂しみがある。而して私には病者に一視同仁で、貴族も富豪も眼中にない、イヤいくらえらい人でも自分が診て治療するとなると、いくら其の人がえらくとも其の人に對して、一種の優越感をさへ感じるのである。私は此の二點に於て何が何でも人に味はれぬ王者の氣持を以て心秘かに楽しんで居るものである。

研究と治療——信念と博愛

前 田 和 三 郎

吾々大學の臨牀に育つたものは大學の教室に居る間は勿論、教室を離れて他の臨牀に預かるにしても、又獨立し實地家として立つにしても研究と治療の二者を兩立させなくてはならん、研究にのみ走ることも又單に治療にのみ走ること不可である、而して研究にあつては信念が必要である、治療にあつては博愛が必要である、患者から慈父として親まれるには愛の心がなくてはならん。

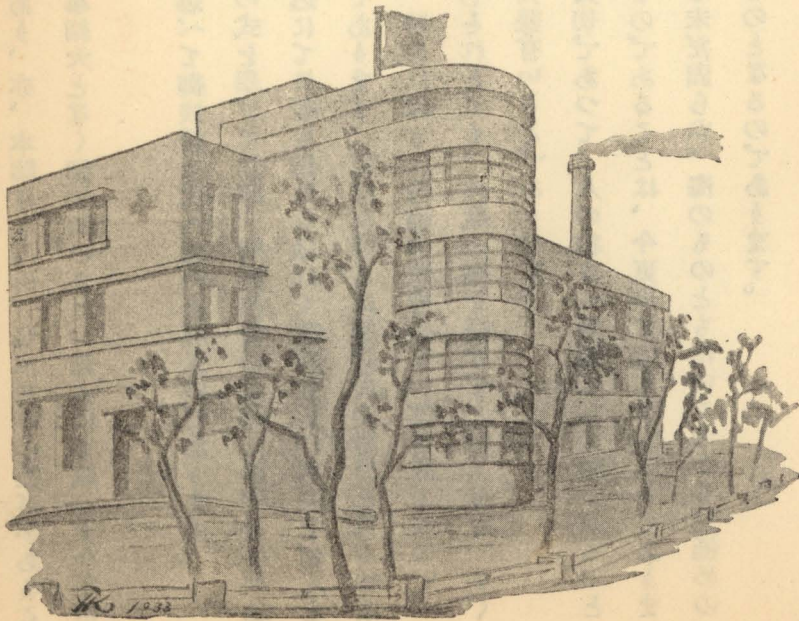
自分が秃筆をかつて信愛の二字を書き整形外科教室に掲げてある所以はこゝにある。

院外團に屬して

佐藤 太平

私は永いこと刀林會員たる同窓諸兄の御世話になりつゝも教室内にあつて及ばずながら氣持丈けでも刀林の編纂に御手傳ひもし、會員諸兄に向つて原稿の催促もしたのでありましたが、今年からはその永く住み慣れた教室を去り、諸先輩諸兄と御分れして、位置を換へて已に院外團に屬して丁つたのでありまして、原稿の催促を受ける様になつたのですが、今、雜誌刀林の發刊當時の事共を回顧すれば誠に感慨の深いものがあるのです。

扱て、院外團として何か書かねばならぬのであります、病院の現状や土地の狀況などについて



は、曩に栗本君が三四會雜誌にも書いたことでもあり、亦、本誌にも川田、栗本君等の記事があることでもあり、左もなくとも方々から澤山の情報で事細大となく御承知のこと、思ふので私より今更申上げる必要もないことであります。

それで、私は只一言自分の只今の心境の一端を述べて御挨拶に代へ度いと思ふのであります。

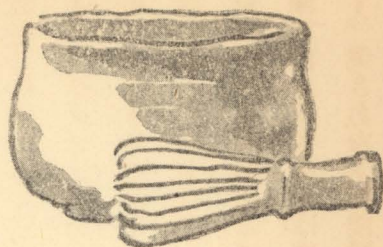
我等の日赤静岡支部病院は去る六月十一日開院の式を擧げて以來、病院經營の主體たる醫員は勿論調劑員、事務員等凡て一丸となつて非常なる意氣込にて日曜も祭日も忘れて生れ立ての病院を何んとかして確固たるものとせんものと努力して居るのであります。私は何時も此等諸氏の努力を見る時は感謝の念で胸が一パイになるのであります。亦、時には餘りに内輪の遠慮のない連中許りなので。所謂兄弟垣に闖ぐこともないでもないので、然しそれとても、外敵の侮を受けずと云ふ譯で、すぐ和解して了ふので問題にはならず済むことは誠に難有いことであります。

凡て、何事によらず、事の成否は人の和が最も大切であつて、人の和さへ確固として動かぬものとなつて居れば如何なる隙隙も敢て恐るゝに足らぬものであることは、今更申す迄もないことであります。特に私共の病院の如き開設早々にして基礎の未だ固らぬ。海のものとも山のものとも見極めのつかぬ場合に於ては此の人の和が何よりも大切なものとなるのであります。

この事は我が北島醫學部長も御心に掛けられたものと見えて、私が静岡に赴任の時御揮毫を御願ひ致したのに對して「一和万事成」の書を下されたのでありますが、私は此の先生の書を難有く表装して居間に掲げ、日夕修養の鑑とし、只管ら院内の和衷調協に努め、以て世間からは慶應の分院の如く

做されて居る静岡の日赤病院の基礎建設に全力を盡して居る次第であります。
終りに、同窓各位の相變らざる御後援を乞ひ奉つて筆を擱して頂きます。

早いものです。

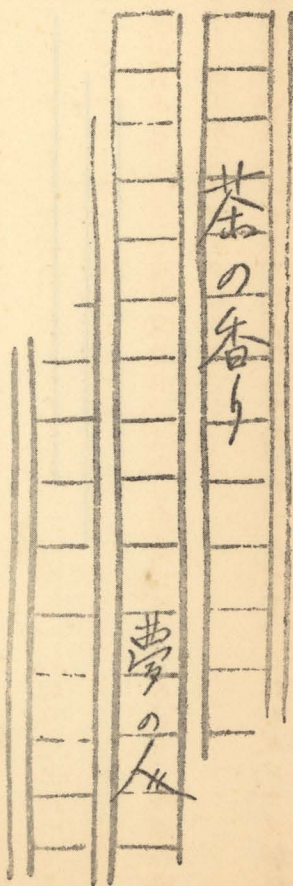


一世一代の大床間を背負はされて茂木先生のおとなりで花嫁のヘルツノイローゼみたいになつてか
ら——

一世一代のプラットホームでフンケンゼーエンドころかアクーラ、バセドウ氏病の症候を起してか
ら—— 早いもんです。

富士山の頂は白くなつたです。

朝三階の醫局でシユルツエを着かへながら先づ雪の富士を讚美しあふのです。いゝ趣味だと思はん



ですか？ 清々しい氣持であるです。こつちへ來てからは朝からこんなに清淨なんです。富士山の見えないときには——

それは知らんです、我々のせぬぢやないです。「天災」といふものです——（これは先日柳家金語樓君が教へてくれたです）

■第一感——目——

今度とまればシヅオカ……と感激インテルバルが再發してエクソオファタルムスの眼を汽車の窓から出してみるとJOPKのアンテナが見えたです。「茶の静岡」大きな廣告板です驛を出るとその名も行幸道路——これはものゝ三十間もいかぬうちに御用邸の土塀に衝突しちやつてゐるです、相手が相手ですからインオペラブルでせう——角にデパート松坂屋、我が日赤と並んで静岡第一の建築美を誇つてゐるです、屋上にはささやかながらプレヤボールが動いてゐるです。

駿河城趾——つまり石崖と濠があるです、三十四聯隊橋中佐は今も銅像で残つてゐるです、外濠の中に所謂お役所や學校があるです、御丁寧にカンゴクもあるです。

内濠に沿ふては咲けば櫻がきれいらしいです、しよつちう釣をしてゐるです、これもカンサツがある釣です。突きあたりに淺間神社があるです、裏の賤機山は手ごろなとこです、静岡全市安倍川——海も

見えるです、何かあつたら轉向してみたい気分になれるです。

靜高學生の赤を特高課ではこゝ迄つれてつてみせてやる相です。

自動車をとばすと久能山三保松原、龍華寺の大蘇鐵と樗牛の墓——こゝいらで大概へばつちやうです
——次郎長親分の銅像と墓、そしてかへりの靜清國道ぢや大抵居眠りですこの國道から一寸折れると、
日本平といふのがあるです、凄くいゝ景色です背負つちやゐないです、お子供さんには狐ヶ崎遊園地
——花月園なんかよりはぐつといゝです。

■第二感——耳——

こつちへ來てから靜岡三田會主催で日赤落成紀念の音樂會があつたです、ワグネル一行のケーオー
の唄——いつもながらいゝ氣持がしたです「幻の門」を早速買つてきてもうとてもうまく唄へるです。

あくればせながら川畑文子をひどい雨の晩にさいたです、入道館といふ寄席が一軒あるです、先日
金語樓獨演會に大舉して腹を抱え久方ぶりにリコウになつてきたです。

その翌々日が小唄界の名星勝太郎姐さん——こりやあインチキでしたです。

叶家勝太郎 但し本物よりシャンだつたです、この當地は浪花節がもてるんだそうで、いゝのがか
ゝるそうですがどうも怪しいです、龜甲齋虎丸、吉田奈良丸、東家藥燕のたくひかも知れないです。

キングゴングが今歌舞伎座にかゝつてゐるです。

長蛇の列を引くこと慶早戦みたいです。

びつくりしてやめて歸つてきたです。

■第三感——鼻——

シヅオカは美女の匂のうすい土地です。

有名な苺は匂はんです、みかんも手にとらねば匂はんです、名代の花火も未だ鼻をつくには至らんです、たゞ僕のうちの兩隣からは毎朝盛んに肥料の匂がするです。

■第四感——口——

割烹——浮月樓、求友亭、佐野春樓　これが代表的であるです。

浮月は慶喜公のおうちだつたそうで東海の名園と號してゐるです、要するにたゞ広い庭です、大きな鯉だけが僕には魅力あるのであるです、求友——料理は一番うまいです女中はいゝです、酒も翌日何んともないです、第一離れが澤山庭をかこんでゐていゝ気分になれるです、佐の春は氣がきいてゐるです、即ち何んにもいらぬぜ——なんて地金を出して飲みにゆくのにあつらひむきです。

ハイフキで有名な吐月峰の近くの山腹に待月といふ料理兼——があるです、トロロ汁で名をうつつてゐ

るです、庭も自然美です。

トロロも大變うまいです、安倍川を越した郊外です、遠出のつく場所であるです。

も一つトホデの場所に翠紅園があるです。

オリデナル香水風呂があるそうです。

池川、神田屋 うなぎを食はせるです。

僕はうなぎは病院前の成田屋の方がうまいと思つてゐるです。

支那料理だつてあるんであるです。

美濃屋あなごや クーローヨをうまいと思つて食べたです、鯉は骨つぼかつたです。

一品料理がいゝんだと思つたです。

江戸家といふオデンやを見つけたそうです、蟹かなんかを店先につんで一寸、らしい相です、みかく

といふミカドみたいなのがあるです、安いです、日曜日の晝食を大抵こゝからとりよせて食ふです。

ライン、喫茶店 に扇子屋といふのが七間町通りにあるです、いつも満員です。

病院のすぐ近くの外濠の角に白亭といふショーシヤな茶亭があるです、十五位の可愛い、娘もこの

ごろニキビが見えてきたです、一寸氣になつてゐるです。

僕は今天ぶらにかつれてゐるです。

みかんは色づいてきたです、苺は十二月にはシャブれるそうです、安倍川餅はあまくないです、どこへいつても茶は細い長いのを使つてゐるですが、ワサビは刺身にもつけてこないです。

■第五感——

シヅオカは氣候のイ、ところ—だそうです、一風呂あびてサテと思ふ頃に風がピツタリとやんで浴後の汗のやり場を失はせる夕風の苦しきなんていふのは夏の初めにやつてきたわれ／＼がいけないんだそうです。

シヅオカの眞價は一冬を過してみても始めてわかるんだそうです。
だから—今の僕は何もいへんです、ダカラ—今住つてる家には爐がきつてあります—ナンテ事もいつちやいけないんです。

■第六感——

シン公はお上品であるです、酒をのまんです、男をあまりに警戒しすぎるです。
そのくせとてもよく賣れるです、藝妓家三十七軒、一本百四十名、半三十名、一寸おそくゆくと大概目ぼしいところはお座敷です。

―縣廳といふところは實によくまあ宴會があるです―それにこの土地ではアトクチが殆どきかないです、そのかはり晝間から呼んでゐても夜更け迄どこからも呼び出しの口はかゝらず悠々とお酌してゐてくれるです、八重千代、福松、志郎、浪子、歌子、由喜枝、福龍、糸葉、こゝいらのキレイドコロは足袋を泥だらけにしてもおこらないです、東京にゐた頃の氣分であばれられるです。

ワルテンはゼツタイにない―んだそうです、湖、月満、月梅、月月のついでに粹なうちがあるです、けれど「コンドノシヨチヨウハ……アルヨ」であるです。

前述のトロロの待月の女中は自動車の響きでいかなる深夜といへども目をさましお客様にわざ／＼戸をたゝかしたることなしと自慢してゐたです。

大變氣のさいた女中であるです。

カツフェーはドツサリあるです、僕はあまり好かんです、それで知らないです。

終りに臨み僕は目下やかましき分宿問題について更に／＼第六感の研究にふけてゐるです。

「リテラツールなきアルバイト」の完成は諸兄の御來遊によつてのみいよ／＼伸展するものと思つてゐるです。

院務を回顧して

勝 栗 生

樂しかりし都の、親しく交際して下すつた諸兄とお別れして佐藤先生の下、川田、志田兩先輩に従つて當地に参りましてから早や四ヶ月になりました。月日は駿馬の如くと云ひますが、この過去の月日は今回顧すれば短かくもあり、永くも思はれます、先づ平々凡々とやつて來ました。

全く當地に参つた時は諸兄の大集ひから離れて且つ又感激と不安に満ちた淋しさと何んとなく窮屈な氣持でした。殊に病院の出來上るまでは日赤支部樓上に仕事するでもなしに、集り唯病院が出來ても患者が來るだらうかと心配したり、偶々町へ出ても見られる様な肩凝りする思ひで毎日暮しました。

六月に入つて開院式は迫る、工事は夜業續き愈々明日明後日となつて躍る心は徹夜の機械搬入に慰められました、何にしる工事は夜十二時まで、しかも入口はコンクリートが乾かないので窓から、午前一時から皆樂しそうに働きました。十一日は開院式、初夏の晴天、クリーム色の病院の一角高く赤十字の旗が紺碧の空になびく此の日は色々の意味で忘れ難くありますが、感激の最高は北島、西野、茂

木の諸先生があゝの暑さにも又御多忙にも拘はらず、わざ／＼お出でなすつて下さつた事、又なさげなかつた事は支部なるものに吾々の経験ない差別待遇を興へられたために諸先生諸先輩と祝賀の宴に侍べ得なかつた事だが、今から見れば統べて愉快な記憶です。十九日診療開始までは機械の整理、診察室の机や、衝立や、ベットの配置、外來具をなへ付けの藥品、兎に角少しでも母校外科の面影に近い様にそれだけで暮しました。看護婦諸姉は赤十字生へ抜きてあつても學生時代を本社で過した連中ばかり此の連中と呼吸を合はせてもらふ爲めにも可成りの努力を要しました。

愈々十九日朝病院に入る時、玄關に人影が無いので一寸獨りで待合室を覗く氣にもなれず、三階の醫局でも皆不安に満ちて何んとなくそは／＼しつゝ、定刻勇を鼓して一かたまりに下りて行きましたら數名慣れない目付きではあつたが待合室に見えた時は患者様々とほつとしました。此頃の勤務は固くなり過ぎた位の緊張で佐藤先生は第一、川田さんは再來、小生は豫診、志田さんは物療と毎日々々日増しに多くなる患者を樂しみにして働きました。診療第二日目に外來手術と入院之は子供の「ペリプロ」第三日目に精系水腫の入院をつかまへました、話に依ると母校外科の最初の手術は副睾丸炎の由、甚だ類似の處に吾々の前途の幸を確信して愉快に元氣よく手術場開きをやりました、六月は外來一二三名、入院十一名。八名の入院患者と卅七名の再來を殘して七月に入りました。初めの内は何處でも

そうでせうが永い病氣全治しない病氣が多く、患者は奇想天外の治療をたのみにして來るのが多いんでしたが、日が經つに從つて手術の種類も數も多くなり、どうやら火木土と定めた手術日も明かず外來の所置室のタイルも水に濡れない事は珍らしい様になり、又金曜日のギブス日もコルセット假り合はせでも何んとかある様になりました、しかし最もあり得べきアツペは先生のラヂオの放送のありました七月中旬、過ぎからやつと來ました。七月は外來新患二三〇名、入院卅名、八月は午前中の診療で外來新患三〇五名、入院卅九名、諸兄が休暇の樂しさを偲びつゝ毎日先生初め一同が朝の入院患者繻交から外來手術と暮しました。此頃から今まで縣下の患者に大部分占められて居た外來が次第に當市の人の數を増して來ました。暑い凌ぎにくい夕風にあへいだ日から何時とはなしに涼しくなつて、雨降りの日が多くなりこう云ふ日は外來患者も少なく一人二人と數へる日もあり、少し順調過ぎた安心に秋風と共に警告を與へて呉れる様に感じられ九月は外來新患二五一、入院四六名、十月はそろ／＼蜜柑が赤くなつて醫者が青くなり外來新患二二七名、入院三九名、十一月現在では外來新患一〇八名入院二一名、次第に青さを増して居ります。目下の處入院患者は廿二三名、外來舊患（再來）廿四五名、新患は二三日前から七八名ありまして、兎に角忙しく暮せませす、統じて殆ど物療を専門になさなければならぬ志田さんを失つて院長、川田さんと共に先づ精一杯にやつて來ました、患者の種類

としては特別にお傳へする様なこともありませんが、外傷、飛び込みは少なく殊に後者は先づ稀有に屬して居ります、比較的多いのは痔核、痔瘻、關節炎それに瘰癧又胃下垂の手術も今日まで四例あり、割に良好な成績を擧げて居ります、今までの處蟲突は廿八、胃癌は五、但し之は統べてプローベに終りました。

餘り面白くないことをくたくしく書き並べるのもどうかと思ひますから之で失禮致します、今日此頃は天氣晴朗、毎日優雅な白雪の富士を眺めつゝ暮して居ります。

市の人の 天離る都にしあれど

白雪の富士が峰下暮す樂しも。

熊 本 便 り

竹 下 貫 一

又「刀林」の頃となりましたね、恩師茂木先生始め同窓の諸兄愈々御勇健のこと、慶賀いたします。昭和五年の初夏信州から再び慶應に歸つて阿部教授の御指導をうけることとなり、研究室の人となりまして以來「刀林」にも思はざる御無音に過ぎましたが今夏漸く豫定の仕事も終り色々の家庭の都合もあり遂に思出深き東京を去り郷里熊本へ歸りました、そして今さゝやかな病院を建築中です、諸兄が例年の通り恩師を圍みて一夕の謝恩の日の頃には大部分完成しまして開院の準備に忙殺されてゐること、と思ひ下さい、私が現在に到る迄には色々の事情もあり、色々の事變もありまして恩師茂木先生にも種々御高配を煩しましたが、それらはすべて私一身の事柄でありますので抜にしまして歸國以後のことを申上ります。

夏も間もなくの頃醫局の同窓の諸兄の大勢の方々の御見送りを感謝しつつ、懐しの東京を去りました熊本へ歸りましてすでに五ヶ月になります、私一身上の變化はアツベがなくなり、ヒゲが出來たこととあります。

丁度歸國しまして一ヶ月もたない或夜、開業のことで終日飛廻つて疲れ切つて就床した夜半、突然腹痛を感じて目が覺めました、ギューツと締めつけられる様な腹の中をかき廻される様な苦しい鈍痛、それが下腹部に感じ廻首部に感じ、何處と云ふはつきりした處なく何の爲の腹痛か解らずたゞ只事でないと云ふ事だけはすぐさとりました、その内にどうやらアツペだなど云ふ自覺をしたのは丁度夜明の頃でした、アツペならずオペラチオンと云ふ風になるのが私共外科醫の考へる當然の順序であります、こと吾身に關することでありますから、その決心はつき易くつき難いのであります。當然オペラチオンすべきであつて又しなければならぬと充分自覺してゐ乍ら、それぢや頼むと云ひ得ない自分の弱さを叱つたりしました、此んな時茂木先生でもおられてすぐ手術した方がよいと云つて下されば何の躊躇もないのですが、自分で診断をつけて自分で手術のインデカチオンを決するのですから恥し乍らそう簡單に行かなかつたのです、漸くオペラチオンすると決心したのが朝の九時頃でした、外科醫であつて化膿したのを持つて行つてはと云ふ瘦我慢も手傳つたのですが、遂に熊本醫大の萩原教授にお願ひしました、私の一番下の弟が萩原外科にゐる關係もありましたやうが、醫局員總動員の下に萩原教授も特に丁寧にやられた様でした。

慶應外科茂木先生の弟子だと云ふ意識も多分にあつたことと思ひます、けれども當人たるや手術室

に這入る迄は糞度胸をすえてゐましたが腹膜を開いた頃から遂に悲鳴を擧げました、自分乍ら案外弱蟲だと思ひました、勿論ロカールアネステデーがうまく行つてゐなかつた様でした、腹膜鉗子で挟まれた時の火のついた様な痛みは今尙感じられます、そう云ふ事で遂にナルコーゼの厄介になつたことは申す迄もありません、もう一二月早く發病したら茂木先生にお願い出來たものと、くやしき思ひました、けれども一方又自分自身の勉強の爲には大變都合がよろしかつたと思つてゐます、兎に角他流試合に自分自身をぶつつけて見たのですから、そんな餘興入りの開業準備ですから進まないこと甚だしいのです、やつと開業地を選定し、工事にかゝつたのが九月の半ばでした、現在は天候に恵まれ工事も着々進行してゐますので豫定の今年末には完成すると思つてゐます。

當熊本市は人口十八萬餘り、全國都市の何處とも同様開業醫の洪水は申す迄もありません、ことに前身熊本醫專並に縣立病院、今の熊本醫大及附屬病院があり、地元の關係上開業醫の大部分は前身醫專及醫大出身者であります、従つて當然その勢力も甚大であります、他は九州及長崎の醫大の勢力下で慶應は残念乍ら遠く及びません、けれども故北里先生の出身地でありますので醫師團並に智識階級には新進慶應の名は相當に親しみと尊敬を以て近えられ、ポツ／＼慶應三色旗の色彩も輝かしいものになること、思ひます、現に吾が一回生小兒科の養田君が開業され天草には三回生の北内君及び大谷君

が開業され、又慶應関係には眼科の行徳君、近く婦人科の江副君（舊佐野）が開業されたので當熊本も益々慶應の勢力が延びて行くことと思ひます。小輩も及ず乍ら渾身の勇を振ひ吾が慶應茂木先生の率る外科の名譽にかけて努力を續けて行きたいと決心してゐます。

熊本は東京に較ぶれば大分暖かく感じます。

観光地九州、どうぞ一度はお遊びにお出掛下さい、終りに茂木先生の御健康と同窓各位の御發展とを祈ります。

—阿蘇の噴煙のたなびく處—

・一一、一〇記

小樽 だより

太 郎 生

北海の港小樽に来てから三年になる。其の間に感じた事どもを述べて見よう。

小樽は港町である。東北に石狩灣を望み、後三方は山から圍れて居る。人口十五萬、猫の額の様な低地に密集した町で、ドス黒いゴミ／＼とした坂の多い町である。函館と共に北海道、樺太、カムチャツカの物資集散地である。町はドス黒いが緑の山に圍れた青い海に巨船の浮ぶ景色は珍しい。冷凍船、蟹工船、材木船、石炭船、重油船、青筒、赤い國の船、北洋警備の驅逐艦、碎氷艦等が出入する。

小樽には大した名所も名物もない。歴史が浅いからであらう。手宮の古代文字、コールバイヤー、天狗山、公園、水天宮、製罐位のものである。近郊には追分に名高い忍路高島があるが今は淋しい漁村である。オタモイ、赤岩、桃内、積丹、張碓の嶮がある。透き通つた海、昆布の揺ぐ美しい海底、斷崖、絶壁のコンビである。温泉定山溪も近い。

小樽は金融、商業の中心地で石炭、材木、海産、雜穀を主なるものとし一般に商人氣質で手術料等シヨツチウ値切られる。近來カフェーが増へたが昔乍らのマドロス相手のゴケヤは全市に網を擴げて

居る。

北海道の春は鯨からと言はれて居る。鯨の事を春告魚と言ふ。北海道の漁業の概ねは鯨である。鮭、鱒、蟹、昆布も有名であるが鯨を除いて北海道を語る事はできない。山々の雪も鹿の子に春の暖みに解け始める頃、鯨は大擧して小樽近海に産卵の爲に押し寄せて来る。海の色がすっかり變つてしまふ。一夜にして何十萬石となく獲れる。漁村も町も鯨で埋つて臭くなる。生鯨は仲々うまいものであるが大部分は身缺か肥料にする。

鯨が過ぎれば雪は解け去り、山々の草木は若葉に青々として半年の雪から開放された人で町は活氣を呈する。

五月半になると梅、櫻、桃は一勢に花を附ける。公園の夜櫻に徹宵飲みあかす人が多い。

次で鈴蘭は野に一面に咲く。馥郁たる花の中に摘む乙女の姿は亦似合はしいものである。

丁度浮間ヶ原の櫻草に似てもつと雄大で高尚なものだ、安平、早來、島松等千歳川の上流附近に多い。

六月も過ぎれば櫻桃、苺に親しむ。

七月半の住吉神社のお祭は全市お祭氣分で、曲馬團や見世物が出て田舎染みた氣分のするものである。

雪が解けて錢函の濱に芝は青々と雲雀は天高く囀る頃、スキーを片附けた私共はゴルフに出掛ける。手稻の山々に白く頂く雪も日々に消えて七月にはなくなる。スキーヤーとゴルフヤーとが錢函驛で落ち合ふのも珍しい對照である。病院のゴルフアーは五人で山本、青木、神岡、戸張、井上で病院や三田會、俱樂部トーナメントに皆活躍して居る。三年もやつて居るがハンディ廿四にやつとなつた。ゴルフは仲々面白いものだ。止められない。雪のない休みの日には必ず錢函リンクスで白い球を飛ばして居る。夏になれば幾ら北海道でも海水浴はやれる。日曜はゴルフで惜しいのでウィークデーに毎日病院が引けてから近くの熊碓や鹽谷海岸にバスで行つて一浴び浴びる。寒いので焚火をして入る。海は實に綺麗である。透き通つた海底に昆布が一面に生へてゐる。潜水はガンゼ、海鼠、鮑、シヨリ貝等が獲れる。小樽近海は太公望の多い所である。磯釣ならアブラコ、ソイ、カレイ、カジカ、サバ等川ならヤマベ、鮎、ウグヒ、イトウ等が釣れる。海水浴の期間は極めて短く半月位しかない。北極に近いせいか夏はとても早く夜が明ける。錢函のクラブハウスに泊れば三時半頃より八時頃迄リンクスを廻つてから出勤に間に合ふ。夜は四時から九時頃迄海で遊ぶ。眞夏の樺太を訪れた事があるが冬服でストーブを焚いて居た。

秋が訪れる。氣温が日増しに下る。北海道の紅葉は綺麗だ。潤葉樹が紅葉する。イタヤ楓は眞赤に

なる。木の種類が多いから赤紅葉する程度が異なり秋の定山溪、水源地、天狗山は錦の様である。其頃余市の林檎、ヒメッコクワ、山葡萄が盛りとなる。小供の頭程ある十九號の味は亦格別である。コクワや山葡萄を熊は盛んに溜め込む。冬籠りの食糧である。山にも凶作の訪れる時は熊は里に出没する。

秋雨はやがて霰や霰となる頃、北見や石狩には鮭が獲れる。石狩の鮭網を見たが網にボン／＼跳ね返へる鮭を櫂の棒で殴り殺す。鼻曲りの石狩鮭は日本一である。筋子の生を毎日食へる。鮭の三平亦北海の珍味である。鯿と筋子と鮭の三平の味を覚えたら内地には歸られぬと言はれてゐる。

やがて十一月に入れば雪は訪れる。今年の初雪は十月廿四日であつたが十一月には山は眞白になつてしまつた。小樽は半年冬である。十一月から四月迄は雪に閉されてしまふ。越年が來たと言ふ。北海道のうちは何處でも爐が切つてある。赤い炭火のおこつてゐる上には色々な彫刻を施し磨き上げた自在鍵に南部の鐵瓶が掛つて居る。爐の廻りには綺麗な玉砂利を敷きつめてお茶の道具が並んで居る。雪が降つて來ると爐では過せない。何處でもストーブを焚く。客間、居間、臺所と三つ位は必ずある。小供は冬になると喜ぶ家には居ない。粉雪吹く戸外の坂道でスキー、橇スケートに終日興じて居る。小供等の進歩は早い。學校にも上らない小さい奴がクリスチャニヤやジャムプを手もなくやつて居る。

雪の降り始めには聖ヶ岡、公園、金比羅廻りて主にゲレンデをやるが少し積つて来れば天狗山に登る。五百米位の山であるが危険な所もなく二時間半位の面白いコースなので一シーズン中二十回は登る。病院の黒板に本日天狗登山一時聖ヶ岡集合と出ると皆集る。リュックを背負つて一列になつてチツクサツクを作り乍ら天狗に登り拾古發から一氣呵成に下る。ウィークデーには朝六時に起きて天狗山へ登り一滑りして九時には病院に出る。

各日曜はスキー倶楽部のスケジュールに依つて方々の山を歩く。大抵のコースは行つて見た。ワイスホルン、ニセコアン、遙山、手稻岳、奥手稻岳、札幌岳、無意根岳、朝里岳等々各山皆異つた味を持つて居る。

北海道の冬は極めて寒い。従つて雪質は非常に善くワツクスは善く効く。山頂には海豹を取り粉雪を蹴つて白樺、エゾ松の森を縫ふて銀盤にスプールを描く快味は北海道でなくては味はれぬと思ふ。

雪は一月二月が善い。

小樽の街の女は角巻にベール、雪下駄、仲々善いものである。

小樽の言葉は荒い東京辯であるがローカルな面白い熟語がある。「今日山さ行つたら途中で腹がニヤ／＼して来るし足はヤメるし散々カツバ返へつたのでゴツペ返した、アーユルクナイ、アメタ、

アメタ」等。

小樽病院

小樽病院は静岡の出来る迄は唯一の慶應の地盤であつた。先輩の後を繼いで私は此處に來た。三十年も經た歴史的病院である。従つて古色蒼然として餘り綺麗でない。場所は小樽の中央にあるが閑靜すぎる傾向がある。

慶應系になつてから十年近く經つ。奥田、關、岡本院長と續き、外科は張谷、駒井、關、山本、井上と續いてゐる。現在總員十二名、十名は慶應である。内科、岡本院長、追川(五)小川(六)外科、山本副院長(一)井上(七)婦人科、青木(二)國分(七)小兒科、神岡(四)皮膚科、戸張(七)耳鼻科、中澤(九)ベット百五十、外來二百、プレ六十名、昭和三年以來市立病院となつた。病院の成績は良好である。

當外科一年間の患者統計を取つて見たが、外來千七百、入患四百名で入患は小樽市内の者約七割で市外は小樽より西の方余市積丹、俱知安島方面が主である。特別仕立の發動機で來るものもある。外來患者は大部分は小樽のものであるが三時間位も汽車に乗つて毎日通ふものもある。何處でも相であらうが春夏は忙しいが秋冬は閑散である。北海道は健康地と言はれてゐるが餘り珍しい病氣もない。肛

門疾患を當地ではガツチャキとして恐れ速に手術する習慣があるので一番多い。次はアツペ、外傷、化膿性疾患、其他である。時にはアイヌが入院する事もある。

昨夏は札幌に學會があつたので皮膚科、小兒科、婦人科の御歴々大舉して訪れて下さつた。北島先生、茂木先生、最近は秦先生を迎へて一夕の宴を張り楽しい追憶に浸つた。

北海道に足跡を印せらるゝ慶應の方々は必ず當地を訪れて下さつた。吾々は其度に喜び、昔を偲び北の牙城を守り續ける努力と勇氣を新しくする事が出來た。

小 樽 小 唄

蝦夷も懐し濱茄子咲いて

ピリカメノコの濱踊り

奥地歸りの松前船も

神威岬が越えらりよか

アー昔戀しい

小樽の港

出船入船マストの林

通ふ櫓の音 唄の聲

積る苦勞もサラリと消えて

影も二つの顔と顔

アー戀のマドロス

小樽の港

ヤン衆、工船、樺太稼ぎ

汽笛が鳴ります 蒲鹽通ひ

永い船路の疲れも消えて

北海のオアシス夢の街

アー灯影懐し

小樽の港

田舎醫者平々凡々で毎日を送つてゐるので御報告申上げる程の種もありません。最近出會つた珍談二つ筆にまかせて書き列べます。

臀に材木の刺つた話

この數日來非常に忙しかつたので疲れたと云ふ理由(?)で夕方から一寸暇を見て院内の數人と附近の料亭に息抜きに出かけてゐた。

一杯飲んで陶然としてゐると病院から外傷の患者が來たから直ぐ歸つてくれと云ふ電話。外傷では捨て置かれまいと赤い顔を擦りながら急いで歸つて見ると病院の門前に一臺のトラックが停つてゐる。

診察室では五、六人の土工風の男が寢臺の上にねかさされた患者に何かわめいてゐる。

附添つて來た洋服男を呼んで聽いて見ると〇〇峠の道路工事中、山崩れのため土砂と共に數十尺の谷底に墜落埋没したのを掘り出して某醫の應急手當を受けて直ちに來院したのだと云ふ。



洋服男は更に語を繼いで患者の臀部に大きな材木が刺つてゐて引張つても仲々抜けないから至急取つて貰ひ度いと云ふ。

型の如く患者を診察するに體格中等大筋骨逞しい三十男、多少興奮してゐるが意識明瞭、脈搏は幾分速いが緊張はよく正調其他の胸腹部内臓に著變を認めない。顔面、手足に處々多少の擦過傷あるも大した事はないらしい。

一番患者の苦痛を訴へる左臀部を診ると洋服男の云つた様に成程土砂に塗れた一本の旗竿程の太さの棒が左臀部から斜に内下方に突きさゝつて上端が二寸程皮膚外に頸を出してゐる。

變な事があるものだと大腿下部を調べて見ると、大腿の下約三分の一の部で皮膚が非常に凹んでゐる。

前記の土砂に塗れた材木の様な部分をよく洗つて診ると骨だ。大腿骨の頸部の骨折なのだ。

折れた下端が軟部を突き破つて臀部の皮膚外に約二寸も飛び出して創及び骨は全く砂に被はれてゐたので一寸何んだか解り兼ねたのだ。

土工達が臀に材木が刺つたと思つて引張つたのも無理はない。

一寸珍らしい外傷でした。



飲み違ひ

本縣は廢娼の魁として全國に其範を垂れてゐる……と云ふと如何にも尤もらしく聞へるが實は公娼がない代りに私娼が非常に發達してゐる。

この話の主人公も其の私娼窟の女である。

この數日來肩胛部の筋炎で通院中の彼女が歸り際に受付の窓口から覗いて子宮の薬をくれと頼んだ。受付氏は心得て先生膾球が欲しいと云ふ云ですがと僕に傳へた。

こんな場合毎週一回の檢診は當病院で行つてゐることなので彼女達であれば大抵様子が解つてゐるので時に膾球等は診察せずに與へる事もある。

丁度此日も非常に忙しかつたので受付氏の云ふ儘にワギノール五個を與へた。

二日許り何の事もなく過ぎ僕も彼女に膾球を與へた事など忘れてゐた。

すると三日許りすぎた或日彼女が繃帶交換を終つて診察室を出際に、先生先日の薬を飲んだが下腹の痛いのはまだ少しも癒りませんと云ふ。

僕は彼女の腹痛を診察したこともなければ、まして腹痛に對する内服薬の投與等した憶がないので一寸何と返答してよいやら迷つた。

すると看護婦が傍から先生先日陸球を與へましたかと云ふ。僕ははつと思つた。

同時に吹き出し度くなつたが彼女も僕と看護婦の顔を見較べて薄々氣付いたらしく赤い顔をして俯いてしまつたので、僕も此れ以上たしかに上の口から飲んだかと聞き直す勇氣もなく氣まり悪さうに診察室を出て行く彼女を見送つた。

後から氣付いた事なのだが彼女等の仲間では下腹痛は子宮病から來るものと思ひ込んでゐるので、下腹痛の時は子宮の薬を服めばよいと思つてゐるらしい。とんだ失敗でした。

開 業 醫

S · M · 生

今夏の約二十日間を甲府で暮した。或る病院の留守番を頼まれたのである。要するに開業醫をやつたわけである。道樂半分でやつてゐるお醫者様ならいざ知らず収入問題は絶対必要條件であるはずである。従つていろ／＼の面白い失敗經驗が出来た。

外科病院では外來など問題に成らぬ、入院手術の多い事が第一條件でなければならぬ。所が地方によつては大物は仲々外科醫を訪れない大抵内科醫に取られる、従つて先づ小外科特に外傷専門と云つた様な看板になるわけである。甲州は随分氣の荒い所である外傷患者が必ず一日二三人は來た此れが誠に有難いお客様である。殊に頭の傷でもあれば出血甚しい。傷口何寸深さ骨膜に達するとか云つて翌朝の紙上をにぎわすものでも處置は至つて簡單である。不完全の消毒でも有難い事には決して化膿しない、一針一圓位頂戴しても患者の方では決して不服ではないらしい、特別細く縫合するわけではないが先づ六、七圓は取れる。所が時によるといろ／＼の牽制を受ける、それは診断書の場合である。全治二週間以上と以内では加害者の處分に大分影響があるらしい。そこで腕まくりの荒くれ男に二週

間以内の診断書を強要される事がある。一寸いやなものである甲府の近くに古川と云ふ町がある。此の町のお祭りに警官と青年が衝突した。青年連中全部が拘留をくらつたおまけに留置場で散々なぐられたらしい。所が古川のお醫者さんは一人として診断書を書かない僕の所へ持ち込まれて閉口した。世渡りも難しきかなと思つた。

或る時六、七里も在の田舎からスカビエスの患者が來た、丁度藥局にミチガールが無かつたので、紙片に書いて藥屋で買つてつける様に話した、自分では親切のつもりである、所が散々泣かれて愚痴を言はれた。患者の心理を解せざるも甚しと深く恥入つた。醫局では少いが地方では筋炎が中々多い、多發性の筋炎で死亡する場合が随分あると聞かされた、所が膿がたまつてゐるか、ゐないかと云ふ事を馬鹿に念を入れて聞かれる、たまつてゐると言つても、どうしても見ないと承知出來ないらしい。こんな事が醫者の名聲に關係あるらしい。そこで家族の前で切開するのであるが切開する方でも膿を出すまでびく／＼ものである、五圓の切開料を頂戴するのにも汗だく／＼である。

或る時陰囊水腫の患者が來た。田舎のお醫者様に見せたら若し明朝までに小さく、成れば脱腸であるが小さくならなければ陰囊水腫であると言はれたと云ふクラゲである、成程開業醫の名診断ぶりであると感服した。

時々往診がある、仲々いやなものである、一度カルモチン自殺未遂患者によばれた。いつ頃目をさますかと念入りに聞かれた時には冷汗を流した。でたら目が適中した時にはほんとにほつとした。

一番困つたのは子供の病氣である例へわからなくとも、わかつた様な顔をしなくてはいけないんださうである、所がどうしても腑に落ちない場合があつた。不安の顔付きを見ぬかれたらしい、一度で來なくなつた、一寸憂鬱なものである、健康保険と云ふ誠に厄介のものがある、手數だけ掛つて實收のないものである、甲府は有名の機業地である、従つて健康保険の大部分は女工さんであるが大抵癩疽である、女工の癩疽は糸の性質と深い關係があるらしい。一名女工仲間では「ヨリ」と稱してゐる、一番多いのは右の示指である、季節とは無關係らしい。

大抵夜分工場歸りに來る従つて一日暇と云ふものがない、暑い關係もあるが寝るのは十二時頃になる、床に入ると近くの料亭から三味が聞えて來る、甲府は割合派手の町である、いろ／＼耳に入らぬではないが落ち付きを見せてゐた、僅か十五日間ではあつたが約八十名の新患を見た。只一人僕の顔を見ただけで歸つた。患者があつた。終日不愉快であつた勿論僕の風采甚だ上らざるが爲めである。年齢、風采、開業の必要條件であるはずである。(一九三三、一一、一七)

日 立 便 り

濱 名 元 中

なつかしい醫局を去つてからもう半ヶ月になりました、段々「自分は赴任したのだな」と云ふ氣分
に成つて來ました。此の數日は平然として初診も出來れば往診もします。そして看護婦講習生の前で
講義さへします。手の洗ひ方だの手術野の消毒法なんかをしゃべつてますと醫局の先生の口眞似の様
になつておかしくなる時があります。外來患者が居らなくなつた時や特診の居ない當直の夜はことに
醫局がしのべれます。窓を明けても鼻の先に山があつて四谷の空も町の灯も見えません。ラヂオを聞
いたり、動物園の何かの様にポケットに手を入れて廊下を行き來します。赴任以來患者に醫師に又看
護婦に對して何時でも自分のどこかに「慶應外科教室製」とレットルがある様に感ぜられてなりませ
ん。醫局の名をけがさない様しつかり奮闘するつもりです。まだ面白い話はありません。唯一つ失敗
談を申します。

十一月九日 患者 五歳の女 今朝より左の手があがらない、お母さんは腕關節の近くが痛がる様
ですと云ふ。診ても分らない。着物をぬがせてパッシューツに腕をあげて見るとたやすく出来る。異狀

はなさうだ。そこで一つの空箱（ゴノコクチゲン）を出したが左の手にはとらない。段々肘關節の方をふれてみるとどうやら形が少し變だ。こりや若しかするとズブルクサチオンでは無いかと考へただが初めての經驗どうして整復するのかわからない。茂木先生の下巻は目の前にあるのだが、大勢の患者のとりまきの手前そう容易にも見られない。まゝよと思つて即席の自己流整復法を試みた。引いて伸ばして曲げる。子供は泣きだす。困つた。待て待て落付けともう一度やる。子供は大きな涙をポロポロさせて泣く。と關節のかつこうが少し變つた。骨が折れた様でもなし、だが依然として「いたい」と云ふ。勇氣を出して本を見る決心をきめ、今なほるから一寸そこへ寝てみなさいと云つて隣のベットにねかせた。本を手にとると子供が後から箱をくれと云ふ。箱を持つた子供は兩手でおもちやにしはじめ。そこで半信半疑「どうだなほつたらう」と云ふてみたら、子供は「うん先生がなほしたからえたかね」と云ふ。そして皆から禮を云はれて面くらつたのは新來の先生(?)でした。子供はゴノコクチゲンの箱をうれしさうに持つて歸つた。何だか狐にばかされた様だ。こんな時には早く本を見た方がいゝなと思ひました。これからはよく勉強してこんな又これ以上の失敗を少くしたいと思つてます。

皆さまの御壯健を祈ります。氣がむさましたら日立へもおこし下さい。お待ちして居ます。十一月十三日

會員近況

○

柳 壯 一

拜復 貴局御一同茂木先生を初め皆様御健勝の由何よりの御事と存じ候、小生も相變らず元氣にて、心もちだけは若く暮し居り候間乍他事御休神被下度、愈々スキ一のシーズンに入り皆雪を待ちこがれ居り候。

○

大 庭 國 紀

その後は御ぶさたいたしました。

御一同御達者なによりと存じ上げます。

本年九月で開院五周年を迎へました、これ偏に恩師先輩諸兄の賜と深謝してゐます。

國家非常時醫家また轉向非常時。

御一同の御健康御奮闘一番を祈ります。

○

梅 村 六 郎

「醫者の運動」

君子は争ふ所なし、必ずや射か、と云ふほどの理由でもありませんが、私は此所三、四年弓を引いて居ます、揖

讓して升下し、而して飲む、其味は忘れられないです。春夏秋冬の風光を帯びる朝庭に立つて弓を片手に無念の境に遊ぶその味も亦忘れられないです。動もすれば墮落の淵に陥り易い開業醫にとりて、弓は精神的に肉體的に何よりのものかと思ひます。

戸田四郎平

拜啓 刀林發行の勞を多謝いたします。

小生も小田原に来て四年になりました。

醫局におる時は左程にも思ひませんでした、田舎へ来てからは月日のたつのが馬鹿に早く感ぜられます。明年四〇となります。こんな状態でいつまで働くのか考へさせられます。田舎に居ると *Brain* がなく頭は空虚です。幸に家族一同無事な事を何よりと思ひます。

赤松常信

外科教室益々發展大慶の至です。

慾を云へば頭のある人がうんと勉強してもつと「アルバイト」を出して貰ひたい、學界に認められない教室出身者は肩身が狭い。

小生開業滿二年すつかり田醫になつた、勉強とても出來ず、雜誌を讀んで大勢に後れない様にしてるだけだ。大分世間には馴れて來た、世渡りもうまくなつた。

醫局に居て世間見ずに理論を振り廻し理屈云つてた時が純で一入懐しい。

同志會諸兄に此機會に敬意を表し併せて健康を祈る。

○

山 本 順

拜復外科醫局益々御隆盛の段奉慶賀候。

先日上京の際は御歡待に預り御禮申上候。

當地は十月廿四日初雪を見し有様流石奥地の冬の訪れは早きものに候「スキーズン」も漸く迫り院内にてもこれが漸く話題を賑はし居り候。小生も當地に参りてより子供一人増加合計五人（女二人男三人）と相成り候。親父はなか〜ツライものに候。

先は右簡單ながら近況御報告申上候。

○

關 市 衛

御返事遅延御申譯無之候。

老生並に家族一同無事にて暮し居候。

醫院の方も一人仕事には丁度よい位の者に有之候が入院あるため思ふ様に外出不出來何方様へも御無沙汰計り致して居り候。

○ 今井 金治

拜呈 冷しい秋になりました、先生をはじめ醫局の皆様には相變らず元氣の事と存じます。

私もこゝに來てから、もう八ヶ月になります。永く都に居たくめ來た當時は非常に淋しく感じましたが、此頃はもうすつかり馴れて、自動車の窓から四方山の紅葉を眺めながら往診出来る呑氣さに満足して暮して居ります。

病院の方は御蔭で相當繁昌して居ります。時々困る患者があると慶應病院に紹介して見て頂いて居ります。

何か面白い材料が見付かりましたら會誌に載せて頂く様後から御送りいたします。

頓首

○ 篠原 静夫

毎度御無沙汰致しまして、申譯ありません。

同窓會諸兄、相變らず御元氣にて御奮闘のこと結構と存じます。小生は勤め人とも開業醫ともつかぬ生活を致して居ります。近々に當地に病院を始めようかと只今計畫中であります。其節は亦詳しくお報らせ致しますが今から皆様の御援助をお願致しておきます。

茂木先生初め皆様の御健康と、刀林の健かな成長をお祈り致します。

○ 牛久 昇治

いつも御無沙汰ばかりで失禮して居ります。大連に來てから滿一年になり、當地の生活にも慣れ、氣候にもすつかり自信が付きました。

その後お蔭で家族一同無事、小生も益々元氣で病院の方も相變らず忙しく働いて居ります、醫局よりの便りを何よりも楽しみに待つて居ります。

茂木先生始め醫局各位の御健康を祈ります。

○

佐藤 太平

拜復 其後は思ひながら失禮仕り候。

仰せに従ひ何かその内御寄稿申し上げ度く存じ居り候。

右御返事迄。

敬具

○

大曾根 幾次郎

八月初旬から急に横濱の山下病院へ來ることになり、住所も本牧へ移して了りました。當病院は市井一般の夫とは大部異つた色彩を持つて居りますので最初は勝手が判らず些か弱りましたが、幸に森豊明君が先任して居られたので非常に心丈夫でもあり愉快に働く事も出来ます。永い間には色々な珍談やら失敗談やらが出て來る事と思ひますが兎に角最善を盡してやつて見る積りです。

○

濱野 碩太郎

誠に御無沙汰に打ち過ぎまして申譯御座居ませんが、茂木先生を始め皆々様御機嫌置はしき御事と拜察します。

本年八月より下記の處に轉居いたし、主として外科をやること、相成り年來の希望を一部達しました譯です、刀林

を通じ皆々様へ宜敷願ひ上げます。(略)

○
渡邊治生

今年は鹽入川でハゼが釣れます。陽溜りで糸を垂れて居ると暑い程です。房州の冬は暖かなのが結構です。その代り紅葉はありません。

飛行機の飛ぶ下を自轉車で病院に通つてます。房州秋刀魚に油の乗らないのが残念です。

お正月になると年齢を一つとります。他に變つたことはありません。

○
原廣治

拜啓時下秋冷之砌皆々様愈々御清祥奉賀候陳者小生恩賜財團濟生會神奈川縣病院奉職以來既に一星霜を経申候その間先生はじめ醫局各位ことに八回生諸兄の御援助の下に着々病院改善の歩を進め居り候ことを深く感謝致し居り候。何卒今後とも一層の御援助御鞭撻相願度病院の情況に就ては森山君より詳細御報導の事と存じ先は不敢取右御報告まで。

○
佐藤盛二

醫局各位の御多幸を衷心御慶び申し上げます。私は御蔭様で無異、平凡ですが、患者を見たり、讀書をしたりして居ります。この五月から四ヶ月ばかり大阪と京都に旅行して、主に皮膚泌尿器科を視て参りました。近來は又勉強する事が興味になりました。又醫局へでも入つて勉強して見たい様な。

關西で嬉しかつたのは慶應醫學の警價の擧つてゐる事でした、茂木先生の本を某醫科の學生が、こぞつて指定教科書の様に讀んでゐるのを見ました時は、何とも云へぬ誇らしい氣持に打られました。私は今横濱市の中央尾上町三ノ三六の分院で患者を診ております。

○
吉野史朗

謹啓 秋冷の候醫局諸先生様益々精勵の段慶賀至極に御座候。例年の通り刀林發行の趣御通知に接し申候共御報告申上ぐべき事も無之恐縮の至に御座候。

小生も離京以來幸ひ健康にて業務に精進致し居る次第に御座候間御安心被下度。

在局中の事を思ひ懷舊の情に堪へず候。

諸先生の御健康を祈り申候。

家庭は妻なし息なし。

葉は落ちて 鈴なり柿や秋深し

露草のしほれて野分の風淋し

○
松井八郎

拜啓 刀林の御發行を祝し併而各位の御健康を祈り申候。

小生相變らず勤務に忙殺せられ患者を退院せしむる事にのみ専念致し居り候。退院のみを考へる等一寸他にては

見られざる別天地に御座候。

本年一月林君の凱旋を迎へ君の健康を祝して間もなく左下腿骨折にて入院する身と相成り候。骨折の體驗は餘り感心するものに御座なく候へ共「骨折つてから、骨折の治療が甘くなつた」位が取り柄にて、「二纏位の短縮は跛行せず」身を以て證明仕り候、天氣豫報には稍遠しと雖ども天氣の變り目等には疼痛をまし居り候。

又日本國民を一名増加致しこの春には二人して百日咳を患ひ閉口仕り候。

以上相變らずの甚だ僅少と相成り候へ共、目下は一同頑健にて冬籠りの準備致し居り候。

終りに外科整形外科醫局並同窓會各位の益々御發展を祈り居り候。

○

井上 太郎

御無沙汰しました。醫局の諸先生御元氣の事と思ひます。近況を御報せします。十一月三日ゴルフのトーナメントあり、病院より山本、青木、神岡、戸張、井上と錢函へ行きましたが、ヒドイ吹雪でどうにもならず空しく歸りました。山は真白でスキーが出来ます。ストーブがなくては寒くて仕方ありません。當夜は三田會あり出席者多く盛會でした、病院の方はクランケは幾らか減りましたが季節的關係で仕方ありません、もう近い中にスキーが始められると思ひます。

○

吉岡 勝衛

拜啓 御無沙汰して申譯ございません。

醫局の皆様益々御元氣にて活躍のことゝ存じます、小生も田舎に来て、そろ／＼三年相變らず、平凡の生活を續けております。そろ／＼都が戀しくなりました。

信州の秋は最盛りにて碓井峠の紅葉も見頃です。

御閑暇には御來遊下さい。

末筆ながら先生はじめ醫局御一同様の御健康を祈ります。

匆々

○
中 村 廣 人

御葉書有難く拜見致しました。

其後醫局の皆様も御元氣に御活動の事と存じます。東京を離れて早や一年、伊豆の片田舎での生活は文字通りのランドアルツトになり切つて凡そ十年以上も後れて居るだらう所のこの土地の文化に向つて多少なりとも向上の道を探らうと覺悟をして居ますが、未だ薄才微力恥しながら何一つとして仕事らしい仕事もせず無爲に暮して居ます。刀林發刊を千秋の想ひで待つて居ます。

皆様に宜しく。

○
加 藤 銀 治 郎

醫局離れて一年半御無沙汰のみして居ます、滿蒙の防疫に毎年派遣される同窓生視察に來られた諸先生等から醫局の動靜を伺ひ雜誌から諸兄の元氣を推察して居ます。只今住んで居る小平島は大連と四里離れて居るので大連へ

出る事も容易でなく。病人相手に雑務に追はれて満足して居ます。内地から滿洲と云へば、何處でも活氣に満ちた寧ろ殺氣の溢れた所の様に思ふでせうがそんな所は新京、奉天或は最前線だけの話、大連なんて、燈臺下暗しと云ふのか、太平樂です、刺戟が欲しい位です。人生のロングコース、只ネバリあるのみと思つて居ます。醫局諸氏の御健康と活潑なる御研究の發表を心から御待ちして居ます。

○
富田 勝郎

拜復先日は刀林發行に際しわざわざ御來信を頂き恐縮の至りです。何時も思ひながら遂々御無音に打ち過ぎ申譯ありません。茂木先生始め醫局諸先生には愈々御元氣で御過しの御様子遙かに御喜び申述べます。古き言ながら、月日の經つのは早いもの小生當地に参りましてから丁度一年、すつかりランドアルツトになつて仕舞ひました、未だ思ひながら一度も上京の機なく寓舎の一室で過ぎし醫局時代の懐しい思ひ出にふける事がしばしばです。

刀林御發行に際し何か是非のせて頂き度く存じて居りますが、何分筆が動がず唯焦燥の氣のみ残念ながら御無沙汰御詫びだけで失禮致します。例に依り見事な刀林の御惠送を樂しみに致して居ります。末筆ながら諸先生の御健康を祈り上げます。

○
小方 則太郎

永らく御無沙汰致しました。

先生始め諸兄には益々御元氣のことゝ存じます。

當地に参りましたして最早一年半すつかり土地のものになつてズウ／＼が珍らしくなくなつたのは、いさゝか悲觀してゐます。

先日婦人科の戸野原先生が來られて村上先生と小生と三人になりました、その外五所川原に三田會があつて同勢十餘人時々集つて「若き血」を唱つては飲んでゐます。

末筆ながら皆様の御健康を祈ります。

○

辻 岡 元

前略 御返事遅れ申譯無之候

醫局諸先生益々御發展の由大慶の至りに御座候。

醫局を去り開業の爲全力を盡して居る者には何の感想もなく何の情操もなく、全く平凡に毎日同じ事を繰返し醫局に居る時の様な「ホガラカ」な気分は少しもなく、如何なる時に如何なる方法を以て自己を慰安せんかと考へるのみにて他に愁心無之全く汗顔の至りに御座候。

何れ各位の御力添へを御願ひ申し上候。

末筆ながら茂木先生始め各先生の御健康を御祈り申上候。

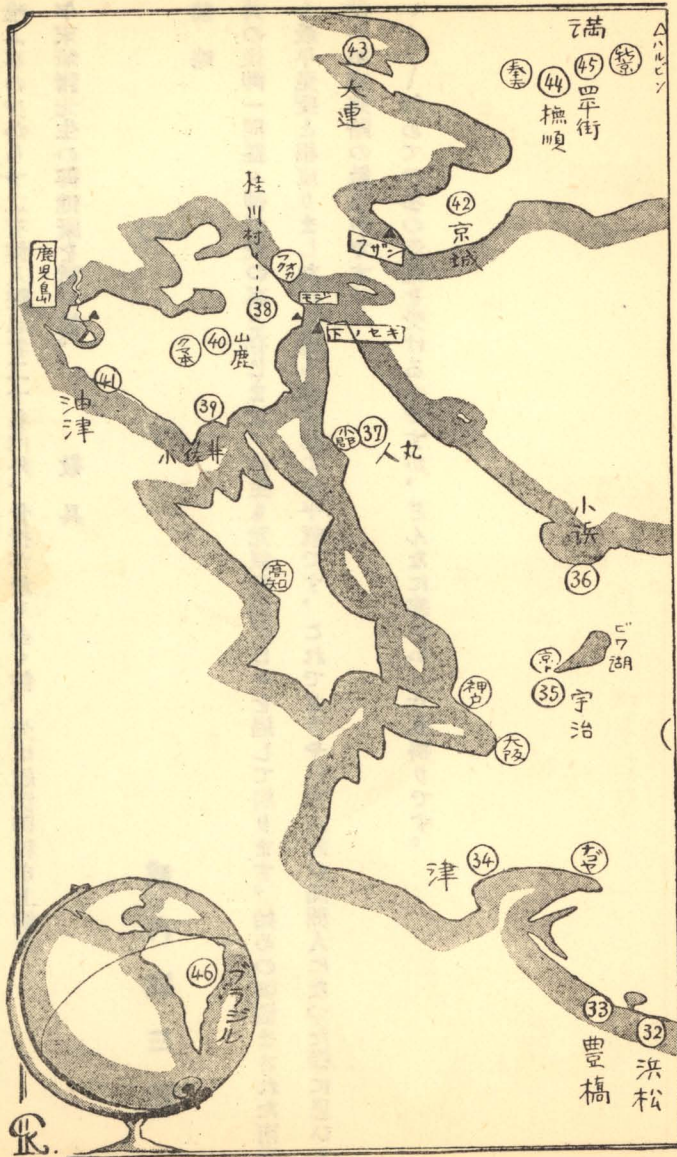
(60頁へ續く)

御詫 び

高巢三四一先生―岩手縣和賀郡黒澤尻町和賀病院
右にもう四年も前にお移りになつて居られるのを
今年の編輯員の誤りで地圖にも名簿にも昔のお所
を掲載してしまひました。誠に申し譯け御座いま
せん。こゝに訂正してお詫び申し上げます。



- 1 中村勝氏
- 2 三橋氏
- 3 小内氏
- 4 柳氏
- 5 山本井上氏
- 6 村上方氏
- 7 小石氏
- 8 上守氏
- 9 木村名氏
- 10 濱柴氏
- 11 高桑氏
- 12 四條氏
- 13 吉崎氏
- 14 稻澤葉江氏
- 15 澤槍田松氏
- 16 赤關井氏
- 17 今渡邊氏
- 22 犬養、中村復、片柳、大槻、鎌田、林、近藤、關、新田、篠原、森文、高橋福、古川、蓮江、田中、辻岡、寺田氏(以上東京)
- 阿部氏(川崎)
- 森信氏(田奈村)
- 森原、大曾根、森豐、小口、佐藤盛氏(以上横濱)
- 23 大庭氏
- 24 戸田氏
- 25 小澤氏
- 26 神山知氏
- 27 中村廣氏
- 28 佐藤太、川田、志田、栗本氏
- 29 中村武氏
- 30 吉岡氏
- 31 山田晟氏
- 32 梅村、森下氏
- 33 松橋田氏
- 34 富郷氏
- 35 本郷氏
- 36 濱野氏
- 37 吉野氏
- 38 成野氏
- 39 神野氏
- 40 竹下氏
- 41 弓削井氏
- 42 松久、加藤銀氏
- 43 成内氏
- 44 高木、高巢氏
- 45 八木、細江氏
- 46 醫學部内ノ方ハ入レテア
リマセン



拜啓

相見 三郎

刀林御發刊をお祝ひ申し上げ候小生今夏病氣の爲め歸省致し候節は諸先生の御同情を辱ふし有難く御禮申上候。御蔭様にて健康恢復従來通り勤務罷在候殺伐なる土地にて、氣の荒き勞働者相手の事とて御殿育ちのポット出には面喰ふ事の少からず之有候入院患者二十名内外、骨折が最も多く候。先は近況御報申上候。

乍末筆諸先生の御健康を祈り候。

敬具

成内 顯三郎

前略

其の後御一同益々御清榮の事と存じます、小生も元氣旺盛に日々を過して居ります。始めの頃惱まされた南京蟲にも最早免疫と相成りましたから幾ら喰はれても平氣です、これでどうやら半人前の滿洲人になつた様に思ひます此の頃支那語の勉強中です。

いよ／＼始めての冬の洗禮を受けるのですが、どんなに寒いか一寸氣掛りです。

同窓會報告

○昭和九年度同窓會役員

會長

茂木藏之助先生

評議員

犬養六郎君(いろは順)

大庭國紀君

大會根幾次郎君

上石英造君

竹下貫一君

梅村六郎君

柳壯一君

山本順君

前田和三郎君

木村博君

町田謙二君(昭和八年十一月改選)

幹事

○昭和八年度會計報告

(昭和七年一月—八年十一月現在)

収入の部

昭和六年度繰入金	三、二八七・三四 ^円
一般収入金	九九八・二〇
(内佐藤先生紀念品寄附金)	二〇七・五〇
銀行利子	五九・二二
計	四、三四四・七六

支出の部

鍋島 勉君 (會計)	
瀨尾 三君	
笹島 彦次郎君	
伊藤 國男君	
板橋 剛君	
山口 恒造君	
一般支出金	一、七一六・九八 ^円
(内慶應醫學十週年紀念別刷)	一、五〇〇
計	一、二二六・九二
	一、七二六・九八

差引残高

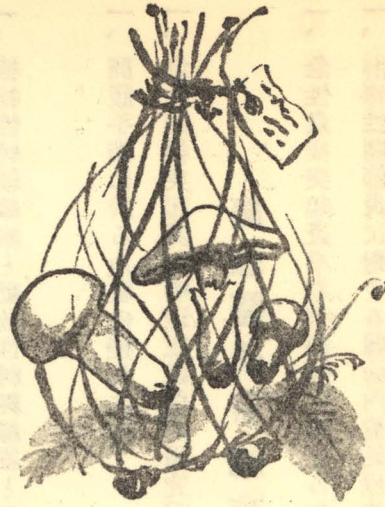
二、六二七・七八

同窓會會計 鍋島

勉

印

尙今度振替口座東京二九二七五番に加入しましたから御利用下さい。



御
禮

遠く醫局から離れられて、醫局の爲慶應の爲御勉勵下さる各先輩諸兄より、折にふれ、季節につれ土地土地の名産、名物を、吾々後進の爲遙るばる御送附に預り、眞に有難く御禮申し上げます。其度毎に御禮の御挨拶は申し上げて居る筈ではありますが或は、珍味、佳趣に取まぎれ、御挨拶を缺き失禮致して居るやも計り兼ねますが何卒上の様な理由による失態故、御勘辨被下度御願申し上げます。

常に吾が醫局を念頭に御活躍の諸氏に對して些少なりとも此の刀林が何かの御役に立てば幸と存じます。

學 術

第三十四回日本外科學會總會

昭和八年四月一、二、三日京都帝國大學法經第一番教室に於て開催せらる、當外科よりの演題左の如し。

一、植物性神經纖維と動物性神經纖維との結合再生に就て

中 村 君

一、開腹手術に於る血壓の變化に就て

栗 本 君
瀬 尾 君

一、急性蟲様突起炎の病理組織學的研究(第一報)

土 方 君

慶應醫學會總會 (十一月九日)

一、急性蟲様突起炎早期病變像に關する知見補遺

土 方 君

一、淋毒性關節炎に對する關節内盈氣療法

島 田 君

外科集談會

第三一四回より第三二四回まで當教室よりの演題なし。

外科教室より發表せし文献

- 一、三叉神經痛と外科的療法（診斷と治療 第二十卷八號 昭、八、八）町田助教
- 一、結核性腹膜炎及びその外科的療法（臨講 第四十一號 昭、八、八）同
- 一、凍傷（醫學輯覽 第九十一號）同
- 一、火傷（醫學輯覽 第九十五號）同
- 一、血液屬（血液型）（醫學輯覽 臨時體液診斷號）同
- 一、男兒肺炎双球菌性腹膜炎及其法驗例（グレンツグビート 第七年 十一號 昭、八、十二）土方君
- 一、結核性蟲様突起炎の二例（グレンツグビート 第七年 十號 昭、八、十）同

一、手術後發進性皮膚壞疽の一例 (グレンツゲビート 第七年 一號 昭、八、一)

瀬尾君

一、開腹手術に於ける血壓の變化 (慶應醫學 第十三卷 八號 昭、八、八) 同

一、結節性精系動脈周圍炎に就て (慶應醫學 第十三卷 二號 昭、八、二) 小野田君

一、脾癌の一例 (グレンツゲビート 第七年 十一號 昭、八、十一) 同

一、日光紫外線の研究第二篇 日光紫外線量の時間的並に季節的變動に就て

(日本外科學會雜誌 第三十三回 八號 昭、七、十一) 志田君

一、エンテロコクセン腹膜炎知見補遺 (グレンツゲビート 第七年 一號 昭、八、一)

伊藤由君

一、大網膜捻轉症に就て (グレンツゲビート 第七年 十號 昭、八、十)

栗本君

一、黃疸及下腹部の着色斑點を伴ひたる脾臟壞疽治驗例

(グレンツゲビート 第七年 九號 昭、八、九) 森山君

整形外科學教室記事

第八回日本整形外科學會總會（昭和八年三月卅一日、四月一日 於京都帝大）

一、骨關節結核患者に於ける補體結合反應（豫報）

一、結核性膿に於ける結核菌の染色及び集菌成績に就て

一、骨關節結核患者より採取せる膿に關する研究

一、諸種關節患者に於ける關節液に關する研究

一、脊椎腫瘍に就て

一、宿題報告結核性脊椎炎の診斷

整形外科學教室

整形外科集談會

第六十六回集談會

一、外傷性脊髓軟膜出血の際に行ひたる脊髓蜘蛛膜下腔洗滌の一例

一、外傷性肋間筋皮下斷裂の一例

島 中 君

武 藤 君

伊 藤 由 君

同 藤 由 君

岩 原 講 師

前 田 教 授

成 井 君

酒 井 君

一、ミエログラフイーと興味ある脊椎内手術例

其五、馬尾神經ノイリノーム

第六十七回集談會

一、脊椎カリエスと肺結核

第六十八回集談會

一、ミエログラフイーと興味ある脊椎内手術例

其六、脊髓硬膜外海綿様血管腫

一、脊椎カリエスの病期分類及び赤血球沈降反應

第七十回集談會

一、造鼻の經驗(患者供覽)

一、ベック氏法により處置よる尿道下裂の一例

第七十二回集談會

一、脊椎披裂の手術例

一、脊髓癆性脊椎並に膝關節疾患の一例

岩原講師

前田教授

岩原講師

前田教授

岩原講師

島中君

野崎君

龍野君

一、頑固劇甚なる疼痛に對する手術的療法

岩原講師

業 績 集

一、赤血球沈降速度に關係ある外的條件の二三に就て

其五、傾斜（慶應醫學 第十二卷 第十一號）

岩原講師

一、後頭下穿刺法と自家改良穿刺針に就て

（醫科器械學雜誌 第十卷 第五號）

岩原講師

一、ミエログラフィーと脊椎及脊髓外科知見補遺、脊髓内孤發結核手術例追加

（日本整形外科學會雜誌 第七卷 第六號）

岩原講師

一、Maydl 氏法に依る先天性膀胱破裂の一治驗例、附膀胱粘膜の知覺に就て

（グレンツゲビート 第七年 第五號）

神山君

一、ヨードカリの赤血球沈降反應に及ぼす影響に就て（實驗的研究）

（慶應醫學 第十三卷 第四號）

相見君

一、「脊椎カリエス」に於ける年齢の診斷的意義並に「脊椎カリエス」と肋膜炎との關係

（日本整形外科學會雜誌 第八卷 第三號）

島田君

一、「ミエログラフィー」と脊椎及脊髓外科知見補遺 *Neurinomatose* に就て

附脊髓液腔内に注入された沃度油の運命

(日本整形外科學會雜誌 第八卷 第三號)

岩 原 講 師

一、結核性脊椎炎(脊椎カリエス)の診断

(同 右)

前 田 教 授

一、脊椎カリエスの診断と治療

(診断と治療 第二十卷 第十、十一號)

前 田 教 授



抄 讀 會

—(昭和七年)—

第七十八回 十月二十五日(火)

一、蟲様突起炎手術に關する血液像の價値

中村廣君

一、肋間筋のリス

志田君

一、乳腺腫瘍のX線診斷

相見君

一、尿閉とその療法

武藤君

一、脊椎彎曲症に於ける脊髓の壓迫性麻痺

野崎君

第七十九回 十一月二十二日(火)

一、痔核電氣的手術法

田村君

一、火傷に用ふるタンニン酸溶液の水素

イオン濃度に就て

布留君

一、腦水腫の治療に對する輸尿管硬腦膜吻合術

古山君

一、輸血後過敏症に對する疑義

小平君

第八十回 十二月十五日(火)

一、小兒期に於ける鼠蹊ヘルニア

手術後の檢査成績

君塚君

一、腹腔内への潰瘍穿孔の診斷

田中君

一、腹膜後部腫瘍のヘッセ診斷

酒井君

一、畸形性骨炎及纖維性骨榮養障礙と

肉腫との關係

照井君

一、局所及傳達麻痺に於ける組織死

齋藤君

— (昭和八年) —

第八十一回 一月二十四日(火)

一、手術後虚脱に際する血管系統並に

循環血量の意義

土方君

一、下顎神経節及耳神経節切除術並に

三叉神経幹切断術

伊藤由君

一、術後癒着性及絞扼性イレウスを

考慮せる汎發性腹膜炎の療法

濱名君

一、手術後肺合併症の豫防及療法

若林君

第八十二回 二月十四日(火)

一、Ewing 氏骨肉腫知見

百溪君

一、縫合材料の鍍銅及その生體に及ぼす影響

小野田君

一、人工氣胸療法の外科的擴張

伊藤國君

一、大腿骨折斷端の解剖に就て

板橋君

一、大腿の攣縮及下肢の絶對的短縮の

手術的除去に就て

島中君

第八十三回 三月十四日(火)

一、スコリオーゼの手術に就て

鍋島君

一、潰瘍の救急手術としての胃腸吻合術成績

瀬尾君

一、廻盲部に於けるアクチノミコーゼの一例

島田君

一、パンクレデルマザルベに依る創傷療法

森山君

一、綜合的エンツェファル、アルテリオグラ

フイーと其の手技並に危険

龍野君

第八十四回 五月九日(火)

一、急性蟲様突起炎の診断殊にロブシング氏

腸管瘻造設に就て

宮尾君

症状に就て

武藤君

一、創傷治癒に就て

齋藤君

一、手の消毒トリクロールエチレンの

一、假關節と正常骨關節との關係

伊藤原君

使用に就て

明樂君

第八十六回 七月四日(火)

一、胃癌手術前に於ける鹽酸療法

田村君

一、「アセチールヒヨリン」を以てせる外傷後

一、非特殊性海綿質疾患の病理機轉に就て

強直並に關節炎の療法及豫防

伊藤由君

野崎君

一、腰椎麻痺法の一進歩

若林君

一、示指を以てせる拇指の造設術

小平君

一、乳癌手術に於ける皮膚保存法及

第八十五回 六月十三日(火)

乳腺成形術の一法

伊藤國君

一、アルビー氏手術の遠隔成績に就て

酒井君

一、脊髓空洞症の手術的療法に就て

萩尾君

一、火傷癍痕瘡及四肢相對的癌腫

照井君

第八十七回 九月十九日(火)

一、急性蟲様突起炎治療に就て

一、腹膜炎の血清療法

小野田君

一、鼠蹊腺の廓清に就て

井手君

一、アイス、スポーツに依る外傷

畠中君

一、後日の自然治癒を考慮に入れての

一、蟲様突起炎様症狀を起す蟲様突起粘膜炎重積

蟲様垂炎手術後の廻盲部重積

大塚君

一、腹膜感染の防護

大岡君

一、高壓エーテルによるナルコーゼ

釜江君

第八十八回 十月十日(火)

一、手術後腸管麻痺に對する高張食鹽水

鍋島君

注腸に就て

一、脊髄癆性脊椎症

龍野君

一、ウイタミンと創傷治癒

高橋君

一、大腸の穿孔傷

中野君

第八十九回 十一月十四日(火)

一、埋没縫合

明樂君

一、イレウス手術成績進歩につき

笹島君

一、慢性再發性膝關節水腫の洗滌療法

野崎君

一、下腿潰瘍に於ける外來的療法に就て

一、皮下腹膜内十二指腸破裂

渡邊君

長坂君

文献の探索

ももたに生

別に文献を探すのに練達なわけでは無いが、考へられる範囲で一番細いと思はれる探索網を書いて各位の経験の教示を受けたい。

先づ例を外科的疾患の臨床例に取る。若し珍しい一例を出来るだけ精細に検査して記載したとする。それでも價値は充分あるわけで、何年の後かには誰か丹念な人があつて綜合研究の對照にして呉れる。併し世界の學界で自分の例がどんな位置に在るかを知るには文献を探して讀む必要が起つて來る。

◎前 準 備

先づ稀有な例が有つた時に、次の圖書を見て稀有なる事を確め、落ちて居る検査を補充し、索引雜誌のどの物件名を引くかを定める。

Deutsche Chirurgie Lief. 1-67 1879-1913

Neue Deutsche Chirurgie 1-54 1912-1933

Die Chirurgie

Practische Chirurgie

茂木外科學

三輪叢書

日本外科全書

醫學輯覽

東西醫學大觀

今後特に記載の無い本は皆醫局に在るものとする。

◎索引

次に索引に取り掛る。外國の外科索引雜誌は

Zentralorgan Chir. 1913-1933

を使ふ。例へば「チフス」性大胸筋々炎なら Typhus, Infect-krh, Pectralis, Myositis, Muskel 等の項目を見て必要な文献を摘出して行く。日本の索引雜誌では同様に

「醫學中央雜誌」明治四五年—昭和八年

を索引して行く。兩方の雜誌が品切れになると次の雜誌に移る。

「日本醫事雜誌索引」 明治二五年—大正七年

索引雜誌後の新しい雜誌は

「醫學原著索引」

「醫事及び雜誌索引」

の二者が外國と日本の雜誌の表題を月遅れ位に知らせて呉れる。

◎孫 引 法

愈々以上の索引雜誌が切れると古くからある全科の索引雜誌に移るか孫引法に依る。少くも日本の文献は孫引法に依らなければ索引雜誌は外に無い。外國の全科の索引雜誌は後に書くから篤志家は其れを用ふる。此處では孫引法に移る事にする。即ち今迄索引で出た原著を見て其の中の文献から新しい文献を撰び出して又次へ進む。此の場合前準備に掲げた N. D. Ch. 及び其の前身の D. Ch. の文献が充實して居るし Henke-Lubarsch の病理學を見て置く必要がある。

◎原著を手に入れる法

原著獵りの孫引時代で一番困るのは何處に雜誌が有るかである。外國雜誌は各醫局か中央圖書に在

る。新しい日本の雑誌も大抵同様である。外科醫局には「雜誌目錄」昭和七年があるから是を見て先に用を足す。併し古い日本の雑誌なら中央圖書、病理、豫防醫學の順で聞いて歩く、理學科、皮膚科も救助して呉れる。初めて行つた時に外の本の表紙もよく見て來る。

偕愈々院内で原著の手に入らぬ事が解つた時はどうするか。二法がある。他の大學へ行くか抄録で我慢する。他所へ出かける前には中央圖書へ行つて大正十年版の

「外國學術雜誌目錄」

を見るすると何處の圖書室に何巻からあるかちやんと出て居る。日本中で北海道に一冊しか無い場合もあらうと言ふわけである。日本の雑誌で此麼便利な目錄が無いので圖書館目錄を手に入れて見當をつける。餘談ではあるが帝大に見に行くとシヤンなタイピストが居て一枚六錢で内容を寫し取つて呉れる。切ない思ひで讀んで來なくても濟む。

抄録で間に合はせる場合には非常に澤山の雑誌がある。大體こんな種類の雑誌を三種に分けるとすと、第一が純粹の索引雜誌で次が是に抄録を有するもの、第三が原著雑誌が附録として抄録を載せて居る場合である。關係の深い所を掲げると、

一、索引雜誌

全科 Index Medicus 1927-1931 Chicago.

(中央圖書)

〃 日本醫事雜誌索引

〃 醫學原著索引

〃 醫事及雜誌索引

二、索引及抄錄雜誌

外科 Zentralorgan etc.

〃 Zentralblatt Grenz. etc.

〃 Jahresbericht Chirurg.

全科 Schmidt's Jahrbücher etc, 1834—1922 Leipzig

(中央圖書)

內科 医会中央雜誌 Kongresszentralblatt gesam. Inn. Med. etc

()

病理 Zentralblatt allg. Path etc.

(病理)

細菌 Zbl. Bakt. Parasit.

()

三、抄錄揭載雜誌

外科 Zbl. f. Chirurg.

Zeitsch. Orthop. Ch.

其他 Surg. Gynec. Obst.

Brit. med. J.

Presse med.

Wochenschrift 類

(中央圖書)

◎餘 談

此うして摘出した文献は古い疾患では山を成すであらう。併し長くかゝつて年度別に分類して置くと矢張り盡きて終ふ。

幸運な場合には自分と同じ疾患を丹念に調べて一々抄録迄して大いに論じてあるのがあつた。此際時は其の年以前の文献は大概探索しないで済む。

論文に文献を載せる時は其の重要さに従つて取捨すべきと思ふ。

「科學論文の書き方」

を一寸見て置くといい。

雑誌の名を略するには製本しない新しい雑誌の表紙に指定してある。若し無ければ索引雑誌の略し

方を模倣する。雑誌の何處にあるかを示すには、雑誌の年齢、頁及び曆年の順にする。雑誌の年齢とは Band, Jahrgang, Tome, Annee, Volum 又は Lieferung, No. 等を書くのである。頁を書けば Heft 號は入用で無し。

附記として Jahresbericht Chirurgie を紹介する。一年に一冊出て二年宛遅れて出る。一九二八年度以後は Zentralorgan の病類別索引であるが、一九二七年三十三卷迄は其の年の外科の論文の年報である。是が完備すれば樂に文献が探せるが醫局には未だ充分に揃つて居ない。それでくどくど此麼事を書いて見たのである。

醫局

茂木先生

先生には毎日お元氣で朝早くより講義に、外來に、廻診に、手術と實に其の御忙しさは少しも變りありません。そして又醫局員の御指導と全く寸暇もなさありません。

又其の間いろいろ御仕事をさなれます。今年は外科總論の美しく、充實せる改版第十を出版せられました。

此の春の外科學會には風邪のため、御出席なく、會場淋びしさを覺えました。しかし先生にはわざわざ書狀に細々と御助言を出席醫局員に下さいまして一同感激したのであります。幸にして先生の御健康は間もなく快復せられました。誠に慶賀する次第であります。

先生は又忙中閑を利用して野球に釣にお出かけになります。今夏は遠く九州地方まで著書の材料を求めて旅行せられたるかたはら、瀬戸内海に紀州灘に糸を垂れ、又十月東北醫學會に御講演の折、金華

山沖に舟を浮べて大漁を得られました。かくの如く先生は實に元氣であります。

最後に開業せられて居る同窓會諸兄に刀林を通じて先生の御言傳てが御座います。

それは若し諸兄の病氣其の他の事故により一時診療を休まるゝが如き場合は、醫局に御話し下されば醫局員を其の間臨時にお手傳に差し向けるとの事であります。

外 來 診 察 室

第一診察室は佐藤先生が静岡日赤御赴任以來町田先生が代られて、茂木先生(月、水、金) 木村先生(火、木) 町田先生(土)が御診察なされます、診察時間は相變らず十一時迄です。

茂木先生には毎週火曜日に再來を御診療せられます。

フライの診察は處置室にて行ひ學生のポリクリを致します、これは木村、町田、神山、藤原、百溪諸先生が致して居ります。

整形は前田先生(月、水、金) 岩原先生(火、木、土)が相變らず御診察せられます、フライも一緒に診察しポリクリも此處で行はれます。

外科は別館が出来てから手術が月、水、金に行はれますので、本館の手術は火、木、土ですから現在毎日手術が御座います、整形は月、水、金の三日手術日です。

外科醫局發展近況

昨年は外科十週年記念號の發刊があつて、貴い我外科教室の過去の行績を知る事が出来ました、のみならず一年一年と發展を重ねて來た我外科の全貌を知る事が出来ましたらう。此處に別館も一月より開館致し入院患者も夥しく其數を増して參りましたことは我々御同慶の至りです、内にこの發展あり外部の膨脹亦著しく其一班御報せ致しまするならば、先づ第一に静岡日赤病院へ佐藤、川田、志田、栗本四先生の御赴任も擧げねばなりません、次に遠く滿洲撫順御赴任の成内先生、近くは東電病院への森先生など枚擧に遑なき程です、更に横濱警察病院へ副院長として木村先生の御出張、外科主任として土方先生の赴任の内定を見るなど愈目醒しき發展ぶりです。

最後に町田先生には十一月より下谷病院に月、水、金に御出張せられ又醫局内諸先生の四ヶ月交代に横濱濟生會に出張及び六ヶ月交代の下谷病院出張のことも發展史上に附加へねばなりません。

検査室の事ども

試 薬 係

大學クリニックの検査室ともなれば、少くとも臨床と關係有る諸検査は、例へ其の検査が月に一度位のものでもイザといふ場合に大騒ぎをしなくても出来る様に許す範圍内に於て準備して置く可きものではないだらうか。今迄の検査室は大變狭く、又外來の繙帶材料置場ともなつて居たので、兎角亂雜になり勝て検査がやり悪くて嫌になるといふ聲を聞く事が度々でした。それでも少しなんとか出来るものかと思ひ先づ試薬の整理を始めた所、丁度町田助教、百溪講師からお話しがあつたので此れ幸ひと、以前より約一坪半程擴げ第二診察室との間にスクリーン及開戸を取り着け、又第一診察室との境の今迄べ切になつて居た戸を開く様にし、交通を便にし一方豫診室との交通を遮斷した。此れにより初診及再來のクランケが尿、糞を扱ふ所を見なくてすむ様になり、神經質なクランケも不愉快にならなくてすむと思ひます。

更に室の真中に水道及ガスの設備ある机を置き、此の上で時々ではあるが胃液、糖尿の検査が何時

でも氣輕に出来る様にする筈です。左方のワンドテイシユに検尿コップが澤山列んで居て検査の妨げになるのを改め別に材料置場をつくり、ワンドテイシユをフライとし此處で検尿、検便をする事としました。右方のワンドデイシユでは主として細菌検査を行つて頂く事とし、此處に今迄なくて不便だつた顕微鏡を午後七時迄は置くことにしました。同時に夜間の検査も出来る様に顕微鏡用スタンド及電燈も設備しました。夜のアツペの特診のロイコチャーテンも検査室で検らべられます。

此處の検査室では臨床と關係あるものを檢べるのですから、其れに用ふる試薬も自づと一定範圍内に制限される理です。それで試薬は検査の目的に従つて一組づゝにして列べてみようと思つて居ます。例へば胃液検査用試薬といった風に。

器具も少し増しました。常備されて居る器具、試薬等が直ぐ判る様に試薬原簿及備品録を設へ、試薬係の交代に際しても不便を無くする様にしました。

検査室規定とていふものをつくつて何時も整理して置き度ひと思ひます。

外科入院患者病類別索引紙の製本の出来た話

S 生

入院カルテの各號用紙の中に唯一枚紙質、記載項目の違ふ異端者がある。しかも退院の時には「部門」なる欄へ、「V・D」とか「I・C」とか一々種本を見て記入せねば病棟のお係りに追跡されて廊下邊りて記入せねばならないといふ代る物だ。これが即ち

「慶應義塾大學病院外科入院患者病類別索引」と云ふ用紙だ。退院一人毎に一枚宛たまると一年には千三百枚になる筈だ。果して之が後日如何なる役目を演ずるものかといふに一向に働いては居ないらしい。さればその運命はと見ると、一束になつて棚の上。

これは大變、所謂萬病とか四百四病を「I」から「IX」に分類した、先輩の御苦勞に對しても申しわけない次第。用紙も泣いて居る様子。

そこで、おせつかいが一人出て、總て醫局の病類別表に則り、お手近の昭和七年度から整理を開始した。

感心に病名のないものはないが、部門番號のないもの「A・B」の小分類記號のないもの、書いてあ

つても出鱈目なもの等々。この違つた奴には閉口した。整理の進まなかつた第一原因は之だつた。總數の約二割近くあつた様だ。

全四冊に製本して見て驚いたことには一番厚い第二巻が總て「アツペ」であつた。その他いろいろあるが省く。

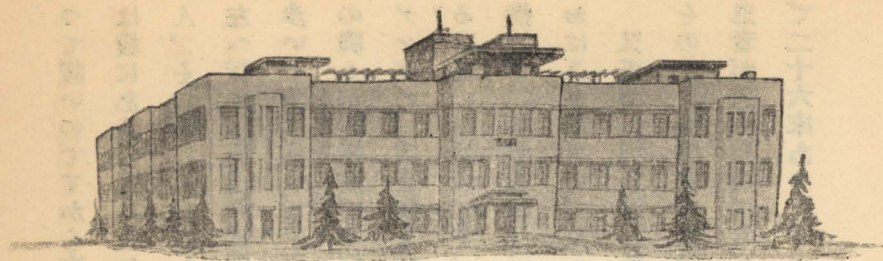
尙一人で二種の病氣のあつた人の分は一枚寫しを取つて、各々の部門の方へ入れた。それには兩方へ「再」とか「別」とか記入しておいた。

又何とも分類の仕方のない様なもの及び外科的に大して意味のない分類に迷ふ様なものと一緒にして第四卷の雜の部へ放り込んだ。配列も大體分類表に據つて列べたが中には數の多いものから列べたものもある。

内容は製本の背にもローマ數字で記入してある。

「何の爲に」と目的あつて作つたわけではないけれども、棚の上から圖書室へ出たのであるから何でも御自由に活用してやつて下さい。きつと用紙も喜んでお役に立つものと思ひますから。

昭和六年度の分も近々製本が出来上ります。(十一月十日)



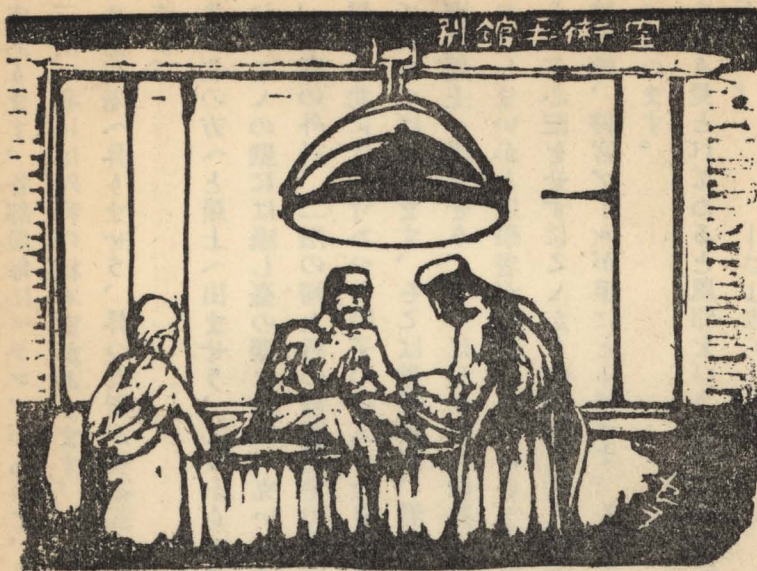
別館案内記

つね子

別館がいよいよ完成しまして、一月から開館しました、これから御案内致しませう。先づ本館大廊下のろ號とは號の間から中庭へお降り下さい、綺麗なコンクリートの道が出来て居りますから足が汚れる心配はありません。道の両側には丁度楓、錦木、銀杏等が赤に黄に色を競うてゐます、春は春で櫻の花が満開です、春に良し、秋に良し全く氣持の良い道です、しかし時々上から鳩の群が時ならぬ糞の雨を降らすことがありますから御注意下さい、雨の日はろ號又はは號の廊下を静かに歩き下さい、突き當ると別館への地下道の入口です、エレベーターがありますがこれは患者専用ですから達者な方は轉ばぬ様に階段をお降り下さい、こゝが夏猶ほ寒き地下道です、しかし夏にこんなに寒いのなら、さぞ冬になればの御心配は御無用、冬になればかへ

つて暖いのですから有難いものです、こゝから別館までは一寸急勾配で滑つて轉ばぬ様、御心配な方は横にある急製の板の階段をお昇り下さい、こゝは看護婦の力ではとても寝臺車を押しあげられませんが、その時には後押しがつかます、こゝを昇ると別館地下で賣店が正面にあつて右へ行けば職員食堂左へ行けば看護婦食堂附添食堂浴室があります、エレベーターもありますがこのは歸りに乗るとして歩いて上へ昇つて下さい。昇つた所が正面入口でこゝに事務室があります、右へ行くと薬局がありその隣りが研究室ですべての設備が完備してゐます、こゝから北の棟には内科醫局、その向ひがレントゲン室で、突き當りが講堂です、階段講堂になつてゐまして廣いけれど何となくまとまつた感じのする落着いた講堂です、後へ戻つて正面玄關へ引きかへしませう、その正面が所謂中央一階で神経科の病棟で二等が九床、三等が五床あります、しかしこゝの正面の扉は開きません、御用の方は二階よりおは入り下さい、左へ行くと内科で東、南の病棟があつて三等十七床、二等二十六床あります。

又正面へ引き返して二階へ昇りませう、二階の中央は神経科病棟で二等九床、三等五床あります、その他に娛樂室の設備もとのつてゐます、こゝの病室の窓はすつかり明けきれぬ様になつてゐて、患者が窓から飛び出さぬ様にしてあります。二階東は産婦人科三等病室で三十六床あり南が二等病室で二十六床あります、北の棟へ行くと左側が産室で右側が外科、産婦人科共同の手術室で、大小二つ



の手術室があります、この大手術室は見學者の爲に天井が硝子張りになつてゐます、下から見るとあんな高い所から見てもとても見えるまいと思ひますが上から見ると案外に近く見えます。

三階が外科です、東棟の中央に醫局と當直室があります、この醫局は夏は全く暑さ知らずで一日中涼しい風が入つて晝寢黨には別天地でいつもソファは満員です、しかし當直室は朝寢黨泣かせて、朝五時頃から朝日がかん／＼と照り込んでとてもねてはゐられません、それにこの當直室は便所が遠くて不便利です、その爲時々洗面器が迷惑な役目をさせられます。

病室は東が三等で三十六床、南が二等で二十六床あります、東の廊下には泰西名畫の數々が掛けられてあつて通る人々の目を樂ませてゐます。

三階中央は内科の結核病棟で二等四床、三等十

二床あります、各部屋毎にベランダがあつて、日光には不自由はしません。

三階の北には外科の標本室があります。

さあ四階へ昇りませう、昇つた所が喫茶部です、その向ひが内科の結核病棟で一等四床二等四床あります。

先づ北の方へと屋上へ出ませう、こゝからグラウンドは直下に見下されます、ピック、ゲームのある日にはこゝの壁には曝し臺の様に長い、丸いとりどりの首が並びます、いやこゝばかりではありません、三階の外科、二階の婦人科の看護婦室の窓にもピラミッド型に首が重なります。

屋上の北には一寸おつな障子のは入つた日本間らしい部屋が並んでゐませう、もし／＼そこへは入つて行つては困ります、そこは男子禁制、看護婦の寄宿舎です。

南の屋上へ出ませう、すぐにしやれた休憩室が二つあるのが目につきます、晩には密會の場所に使はれはしまいかと道學者が心配してゐるそうです。

そんな心配をせずにこゝからの眺望を楽しんで下さい、左には新議事堂のドームが見えます、正面には繪畫館、神宮プールが手にとる様です。そして右にはおゝ素晴らしい、靈峰富士が雪の冠を戴いて立つてゐます。

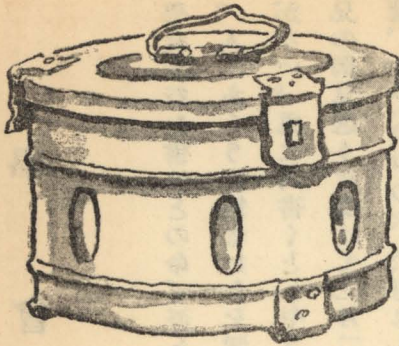
あまり見とれてゐると風邪をひきます、案内はこれでおしまひです、喫茶部でお茶でも飲んでお歸り下さい。

—さよなら—

動物手術實習

H . N 生

學生動物手術實習！ 此の設備は我慶應が帝大その他数多い醫科大學に卒先して始めたもので日本一として大いに誇り得るものである。實習を始めてから既に四年になるが回数を重ねるにつれ設備も次第に擴大せられ今年には室も前年の三分の一方も廣くなり、手術臺も七臺並べてある。更に手洗場も新しく本格的なものとなり一度に十人も洗へる様になつた。又精緻な掛圖も多數完成して手術法が樂に了解出来る様である。講義、指導は町田助教の擔當でそのお手傳ひに各臺に一名宛、二年目の助



手が付いて居るが彼等も教へる立場にあるので仲々勉強させられるらしい。實習準備萬端をする講師室の小野さんに聞いて見る、今年丈で此の手術臺に乗せられた犬は五十頭に餘る。手術翌日位に斃れるのが六頭に就いて一頭位、開腹術後はその率も増すと。結局三分の一位は實習後數日で斃れるらしい。生残つたものは更に一物を奪られたり、腸管をひねくりまわされたりして餘命を保ちつゝ最後に足の切斷術に供せられて屠殺せられる。

學生の爲、醫學の爲、斯くもはかなく犠牲となつた犬等は毎年秋の増上寺にて行はれる解剖祭で供養せられ成佛する。

學 會 行

T · H 生

學會紀行を書けとの命で否とも云へず不承不承引き受けたが主として夜の部を書けには些か閉口した。人もあらうに筆者如きを選ぶとは刀林子も人を見る目がなさ過ぎると、つい愚痴も出るが今更仕方がない。兎に角書くとしやう。さて表の作成豫行演習も終り我々整形組は先發隊として多數醫局員諸兄の御見送りを受けて三月二十九日の夜行で西下した。一行は前田先生を筆頭に岩原講師、伊藤、武藤、小平、畠中の六人、何れも從順しい者ばかり故車中は至つて平凡に翌早朝無事目的地に着いた。

三月三十日 花には未だ早いが麗かな春日和、京の街は至つて長閑。寺町美登利屋旅館に落ち着く暇もなく前田先生の御案内で先づ會場の下檢分をすませ、途中丸山公園で名物平野屋の「いもぼう」を御馳走になつて東山を一巡した。更に方向を變へて男山八幡宮に參拜して明日の文運を祈り京の第一日は暮れた。

睡眠不足と終日の見物で相當疲れて居たが夜になれば又街の灯が戀しく京極祇園方面を彷徨う。

三月三十一日 整形外科學會の第一日、我教室よりの演者、伊藤、武藤、畠中。

睡い目を擦りながら朝八時から最後まで頑張る、やつと日程が終つて宿に歸れば藤原、鍋島、瀬尾、土方、中村、栗本、の諸先生見え家の中が急に賑になつた。早速打ち連れて夜の街に出たが足は自然に祇園から川沿ひのM町方面へ……………。

此處には處々に變な家があつて濃厚に化粧した女が身動も出來ぬ程に店一杯に坐つて居る。和装洋装お好み次第で食指大いに動いた先生方もあつたらしいが第二夜も先づ無事に終つた。

四月一日 外科學會の第一日、整形外科學會第二日

前田先生の結核性脊椎炎の診断は宿題演説中の白眉であり、岩原講師亦好評を博して我々教室員は大いに肩身を廣くした。又一方外科學會では中村、栗本兩先生の猫の「デモ」が學會の人氣を獨占した。

今夜も亦一人残らず外出、前田先生の報告が終つたので大分張り切つて居た者もあつたが一體何の方面へ出掛けたのか唯一人別行動を取つた筆者には知る由もなかつた。

四月二日 外科學會第二日、演者、瀬尾、土方の兩先生。

目醒めれば其處にも此處にも主のない寢床が見出され朝食の顔觸は淋しく「昨夜は大分沈没したらしいな」と前田先生は微笑せられた。

瀬尾、土方の兩先生、何れも上々の首尾で我教室報告の最後を飾られ一同氣も輕々と宿に引き上げれば木村先生、富田先生見え一座は一入陽氣になる。今夜前田、木村の兩先生が慰勞の爲一同を祇園に御招待下さると云ふ喜びも手傳つて……………。

さて我等待望の夜！ 何時もと違つて夕食には一本付き一同浮き／＼と憧れの祇園へ……………先づ名物都踊りに軽く氣分を出して愈々會場暇の「吉松」に落ち着く。何れを見ても美人揃ひ物腰なら言葉使ひなら東京あたりの「ジン公」とは比較にならない、「ダラリ」の帶で舞ふ祇園小唄には平助先生方の目が喰ひ入りそうだ。

酒はよし酌もよし「お一つ何うです」の言葉に釣られてつい度を過し、宴果て、御大は歸り祇園情緒は満喫した筈だが誰も歸らうと云ふ者がない。京に詳しいF先生を先頭に祇園「井仲」（若葉ハンの家）で又一しきり……………。

親切な京女の「サービス」に疲れて最後に川邊の××町へ……………それから？「ウチ、モウ、ヨウ云ハンワ」

四月三日 學會最終日。

ぞろ／＼と打ち連れて歸る間の悪るさを大勢に紛らはせ、時間つぶしに朝食を撮り歸つて見れば案

外にも御大は未だ知らないらしい。やれ／＼と思ふ間もなく一同の食事が運れた。流石に「今食つたばかりですとも云へず」何食はぬ顔してやつと一杯茶漬で流し込み、何うやら其場も胡麻化した積りで居たら御大は疾くの昔に感附いて居たらしく、生れて始めて食つた二度の朝食も遂に其の甲斐なし學會最後の笑ひ草となつた。

學會は晝の部も夜の部も共に昨日を「クライマックス」とし今日はもう學會にも中毒の氣味で期待して居た「イレウス」の報告にも氣が進まない。醫局への土産物等調へて居る中に早や夕闇せまり一同の顔が揃へば愈々我等の合宿にも最後の幕が下された。真直に東京へ歸る人、居残る人或は他へ廻る人、各々思ひ／＼に散解した。解散に望み來年も來々年も「學會は京都で」と念じたのは一人筆者のみではなかつたらう。

謝 恩 觀 劇 會

同窓會主催になる吉例 茂木先生謝恩觀劇會は昭和七年十二月十九日 東京劇場に於て開催されました。

茂木先生御夫妻の御出席を御願ひし木村、前田兩先生御夫妻、佐藤先生、町田先生以下醫局員一同又院外より犬養先生を始め二十五名の大多數の先輩諸先生の御出席がありました謝恩に相應しい盛會でありました。

本年は松竹少女歌劇團のレヅユーでありまして先づ「女王様御命令」なんて甘いところをふんだんに見せられる。ピカ一のターキーは惜しくも病氣休場のため彼の？彼女のスマートな姿は見られず一沫の淋しさがあつたです、でも決して嫌な氣持は誰にも見えません一同ニコ／＼として食堂に入る、茂木先生御夫妻の健康を祝して一同乾盃をする。

次は「青い鳥」夜の御 殿花園など奇麗なところを盛澤山に見せられて一同和氣靄々裡に散會致しました。

新入局員歓迎旅行の記

雨上りの熱海驛前この土曜日曜の行樂の客がチラホラと見える。バスが何臺か並んで待つてゐる。午後三時三十八分東京から來た列車が今着いた所だ。ぞろ／＼と改札口に吐き出される中に一段と元氣のいゝ朗かな顔が四十許り、豫め用意された三臺のバスに分乗する賑かな與太を載せて自動車は櫻散る熱海の町を出はづれ、十國峠を指して坂路にさし懸つた。

x

ヂツクザツクの急坂を登るにつれ四月十五日とはいふものゝ雨後の空氣は冷々と肌をなめる、峠を登りつめる邊り一面の草山には未だガスがかゝつて風がびゆう／＼と吹いてくる一運轉手君確かり頼むぜ」誰言ふとなくこんな言葉も出る、この邊は天氣がよければ實に景色のいゝ所なのに生憎の曇天で大島の噴煙も見る事が出來ない、頂上へ來て三臺のバスが止つた、バラ／＼と降りた先生方アルコールの爲にデイウレーゼが高かつたとみえそぼ降る雨を肩に受け一齊に筒先を太平洋の彼方に向けていらつしやる、峠を吹く風がレンコート裾をヒラ／＼と踊らせる、帽子が飛びさうた。

峠の下り路霧は段々と霽れてきた見える／＼雲の切目から富士の清らかな姿が現れた、日も當つて

きた。里へ下ると流石は春だ、畑には菜の花が今を盛りと咲き亂れてゐる、伊豆の春は和かだ、三臺の



自動車は見え隠れしながら
ら畠の中の道を行つて行
く揺られること約三時間
いゝ加減へと〜になつ
た頃修善寺に着く、櫻も
やゝ盛りを過ぎて邊りの
木々の芽は青い。直ちに
仲田屋に落付く。

×

谷川のせゝらぎを聞き
ながら温泉につかる人も
ある、ぶら〜と町を散
歩する人、修善寺史跡を

訪ねる人もあらう、かくして七時頃より夜の宴會が始つた。昨年こゝの中豆病院へ來られた神山君は健康を害しこの會には出席せられず残念であつたが、土肥の中村廣人君、伊東の小澤君は遠い夜路を自動車を驅つて參會せられ又三君より御寄附をいたゞいた事を感謝しなければならぬ。

十二人の新入局員諸君を上座に祭り上げて型の如く開會する、酒杯亂れ飛んで會も酬となれば美女の三味に合せて唄ふ者あり、踊る者あり暫くは興の盡くる所を知らない、果てはグロダンスさへ出でて時を過ぐれば一人去り、二人去り會も終つて谷川のせゝらぎだけを殘して修善寺の夜は更けてゆく。

×

明けて十六日朗かな朝である、夕べの出來事を語つては笑が爆發する、傑作の數々も生れた様だ。

午前十一時頃又昨日と同様に三臺のバスに分乘して修善寺を出發、丁度この時眼科醫局の先生方をのせたバスがすれ違ひ修善寺の町に入つて行つた、小學校の「汽車の旅」の歌にある様な景色を見ながら靜浦に到着、保養館に入り晝食をとる、奇麗な廣間で酒杯を傾けながら唐人お吉の踊に目を樂します。

×

保養館前にて記念の撮影を行ひ午後三時靜浦を出發沼津驛前にて解散して恙なくこの旅行を終る。

新入局員紹介記

何だつて？ 俺に新入局員の紹介をしろつて云ふのかい、よせやい、俺みたいな口の悪い奴にそんな器用な真似が出来るか、今さら白々しくほめられるかい、何に、くさしてもかまわない？ だつて無暗にくさして折角の縁談でも破談になつたら氣の毒するぢやないか、それでもかまわないつて？ よしそんならデヤンデヤン悪口を云ふから後になつて文句を云つて來ても知らねエぞ。

先づ女房持ちから始めるかな。

大岡保司君 この男は千葉縣の産だ、先づ名前を見て呉れ、一寸何と讀むのか見當がつくまい、ヤスシとよむんだから覺えて置いて呉れ、名前が鹿爪らしい様に顔も又鹿爪らしいよ、頤が氣に入つたね、こううまい工合にしやかれてゐるんだ、とにかく顔だけ見てゐるとどんな恐しい奴かと思ふがこれ酒を一杯のますと實にだらしなくなるんだからね、この男は女房持ちと云つても徹の生えてゐる方でもう二人目がバンクしそうになつてゐるんだからね、よく夫婦喧嘩の話をするがね、こいつをうっかり聞いてゐちやいけないうよ、うっかり聞いてゐると惚氣になるんだからやりきれないよ。しかしこれで仲々の勉強家だよ、學生の時にアシヨッフをとにかく一回でも通讀したのはこいつ一

人でクラスを脅したものだよ。

この男がどんなに機嫌が悪くとも一言でニヤ／＼させるお呪ひがあるんだが教へてやらうか、「お前は仲々スマートだよ」と云ふんだ、嘘だと思つたらやつてごらん、もしきかなかつたらお代は返すよ。

釜江省司君 どうも同じ様な名前を並べて相すまん、この方はセイシと讀むんだ、産は兵庫縣、これも女房持ちで子供は一人だ、學生時代には女房と長火鉢をはさんでさし向ひで勉強して遊びに行つた友達を卒倒させたこともあるんだが、今ちや昔の夢となつたらしく、酔つた時でも惚氣を云つたことがない、夫婦者もこうなればおしまひだね、この男は仲々氣が短いんだ所謂向つ腹立てと云ふ奴だね、こんなことを云つてゐるとのされるかも知れないよ、この邊で一吋ほめておかうか、これで何でも物事に非常に熱心だと云ふのが良い所なんだ、要するに生一本と云つた所だね、流石は酒の産地に育つただけのことはあるよ。

一寸恰好を見ると不器用な様だが、テニスがうまいんだ、もう一つ付け加へれば新入局員中第一の酒豪だ、だからこいつと飲みに行く時は割勘ぢや損をするよ。

中野宗夫君 産は兵庫縣、同じ兵庫縣でも釜江君と違つてこの男はダンディだ、何だダイテイつて何か知らないのか、「ハイカラ」、「オシヤレ」、「オメカシヤ」俺流に云はすれば何事でも通り一ぺんの

事ぢや満足の出來ない男と云ふ事になるんだ、それに仲々器用な男なんだ、野球、テニス、水泳、スケート何でも相當やりこなすし自分から私の趣味は酒とダンスですと云ふだけあつて、ダンスも下手ぢやないそうだ、本年四月に結婚したんでまだまだ楽しい時期だらうと思ふと一寸妬けるね。

この男の良い所と云へば人との交際の仲々うまいことだらう、酒の席などで何かしら話題を持つてきて、そらさず話をする所はちよいとしたもんだ。

伊藤 原君 東京の産で中野君と相前後してハイラーテンしたんだ、この男のフラウと云ふのが俺達のクラスのK君の妹で數ある友達の中から三國一の花婿様と選ばれただけあつて仲々立派な男だぞ背が高く肩が衣紋竹を背負つた様に張つてゐる所は一寸M先生に似てゐるんだ、親しき仲にも禮儀ありつて云ふがこの人なども全くこの見本みたいな男で、俺達ならヤツとか何とか云つて濟ましてしまふ時でもちやんと「おはやうございます」などゝあらたまわれてちよいちよい恐縮させられるよ。少しほめすぎた様だからくさすかな、この男は理窟ぼくつて困ることがあるんだ、これさへなければ全く大したもんなんだが、我輩ひそかに彼の爲に悲しむね。

渡邊 敬君 この人は本年熊本醫大より來たんでやはり中野、伊藤君達と期を同うじてハイラーテンしたと云ふ羨むべき人だぞ、とにかくおとなしいんだ、それに落ち着いてゐるんだ、お前達おつち

よこちよいとは少し違ふよ、唯困るのはこの男は厚つかましくも、惚氣を手ばなして云ふ癖があるんだ、嘘だと思ふなら「どうだい近頃は？」と聞いて見ろよ、うんざりする程聞かされるから、全くこれだけは獨身者には毒だよ、俺なんざ二三日おかげで寝られなかつたことがあるよ。

以上五人が新入局員中女房持ちの一人前の男達だ、これから陳列する七人は一山幾何の獨身者がらくたばかりだ、氣に入つたのがあつたら拾ひ上げて女房の世話でもしてやつて呉れ。

萩尾又八君 渡邊君は東京の隣の神奈川縣だがこの男は昔から江戸の敵を長崎でと遠方で名前を賣つた長崎縣の生れだ、何に？ ハギオぢやないハゲオだつて、冗談云ふない、そんなことを云ふから人に笑はれるんだ、禿とは髪がなくなることに、「字源」に書いてあるよ、よく見ろよ、尙數本の毛がいみぢくも最後の努力までに頭にしがみついているのが見えるだらう、實に涙ぐましい光景だね、全くこの男の前では氣の毒で頭の事は云へないよ、俺もなるべくは云はないことにしてゐるんだ、これだけ云ふだけでも心の中では泣いてゐるんだぞ。

一口に云へばこの男はお人好しだ、人から頼まれたら否とは云へない男だ、借金を頼むならこの男に限るぞ。

長坂謙三君 東京の産だ、一寸見ると雌羊の様だがこれで仲々犇猛で押し太い所があるんだから

やりきれないよ、蹴球、野球は本職で、庭球、水泳、バスケットツ、何でも行く所可ならざるはなしと云ふスポーツマンだ、笑ふと金齒が出て愛嬌があるよ、これでこの男は女が嫌ひだそうで、カフェーなどで女給が傍へ來るといやな顔をするそうだ、本當か嘘か一度試して見て呉れ。

高橋眞雄君 山梨縣育ちだ、善人高橋、聖人高橋と異名をとつた人だと云へば多くを云ふ必要はあるまい、もつともこの聖人近頃少し危くなつてきたと云ふ噂もきくがね、この男又同時に俳人高橋なんだ、山を眺め、川を聞いて、なにになや、と口ずさんで楽しむと云ふ心境は一寸たのもしいね。

まだある、繪もかくんだ、彼がある時、林の繪をかいて快心の出來とほくそ笑んだ時、後で見てゐた子供が「叔父さん、そんな葱畑どこにあるんだい」と聞いたそうだ。

重盛福七郎君 この男は最年少者でしかも一番勉強家だ、何をしてもエネルギーな男だよ、食堂で山盛りの飯をアツプアツプと食つてゐる所は壯觀だよ、聲も大きいんだ、第一でムンテラをしてゐる聲が醫局から第二は申すに及ばず婦人科まで聞えるそうだ。

生れは長野縣だ、およそ遠慮氣兼ねのしない男で、云ひたいことはどん／＼云ひたいことはさつさつとすると云つた末恐しい人物だ。

大塚 廣君 千葉縣茂原の産だ、千葉縣中何處へ行つても親類のゐない所はないそうだ。

この男も長坂君と同じで何でも屋のスポーツマンだ、顔の蒼いのと、鼻の大きいのが特徴で、この顔で益々蒼くして、大きな鼻をふりたてふりたて、野球にテニスに奮闘してゐる所は凄慘な感があるよ。

負けず嫌ひの癖に氣の小さい男で、どうも神經衰弱らしいと云ひ乍らポケットにブロムを入れてゐると云ふ男だ、酒が好きらしい、以前は煙草も盛んにやつてゐたのだがこの方はとう／＼やめてしまつて、俺達を感心させたが酒の方は一向やめない所を見ると餘程好きらしい、酒を飲むと俄然大きな聲で歌ひ出す、何時の間に覺えたのかと感心する程色んな唄を知つてゐるよ、とにかくこいつと飲んでゐると幫間がいらぬね。

木村知孝君 金澤醫大から來た木村教授の甥子だ、異名をチーちゃんと云ふ、看護婦に云はすと小さい木村先生だ、そう云へば木村先生に笑ひ聲もそつくりだし、腹の小さくない所も似てゐる、たゞ似てゐないのは頭の毛の薄い所だ、今度入營するが歸つて來た時の頭が思ひやられるよ。

この男仲々の大食家で二十錢ぢやあわないと食堂の婆さんがこぼしてゐたよ、この春天ぶらを食ひすぎてアツペになつた、病中何よりもつらかつたのは食へなかつたことだそうだ、全快後曰く「もう

アツペがないから安心していくらでも食へるよ」と、呆れたね。

山口恒造君 大阪の産、もう十三年も東京に居ながら滴足に江戸辯が話せないと云ふ變つた男だ、この男の顔を上から下へ見て來ると頤まで來ると額の方を忘れてしまふと云つた奴が居るが仲々うまいことを云つたもんだ、こやつは不器用な男で何でもするが、何でも人並以下と云ふ哀れな奴さ、しかしこれで善良なること神の如く、勤勉なること二宮尊徳の如く、又人情の厚きことは、現今の如く人情紙の如く薄き世に於ては稀れに見るべき、え、何だつて、どうしてそんなに譽めるのかつて云ふのかい、譽めるわけさ、かく申す俺が山口なのさ、はい御退屈さま。(文責無筆者)

？
？
？

茂木先生御招待

醫局員慰勞前橋遊記

M
・
N
生

汽車は出て行く

サイレン一發

残るひびき

未練はないが

走る省線

上野の森は

帝都の狂騒

お江戸の色香

朝の日暮里

煙に消えて

進む列車の

ひらめきゆらぐ

三田は輝き

四谷と光る

我等がほまれ

三色の旗

昭和八年十月十五日午前八時廿分、上野驛を出た列車は全醫局員を乗せて一路前橋へ

今日一日の行樂の前奏曲はすでに昨夜から始つてゐるものゝ如く都會人が都會を離れる際には恒に
一様に一沫の淋しさが感じられる。

ネオンサインよ

赤い酒

走る自動車よ

ジャズバンド

薬局で飲んだ

生一本

ついふらくと

都大路へ

地下のサロンの

紅葉は

青い電燈か

月光か

ツンテンひびく

細道に

碧い瓦斯燈

彼の娘の腫

スピードアップした東北線の汽車も全く速くなつた。「時秋なればこれを白舌鳥と稱せん」といつた刀林分子がありました。朝刊読んで大宮過ぎ秋の武蔵野を一走り。高崎で十五分間停車。ゴカボウをがつく男がありました。この男車中すでに木村教授よりのウイスキーでいゝ氣持ちになつてゐました。

ハア―旅と出るならチヨイト家では喰はんヨイ〜

同じ喰ふなら、同じ飲むなら、旅先きでサテ……………

と。一日の行樂。白頭部長への感謝の意は正に百パーセントであります。

前橋着十時五十分、すでに先輩同窓の關口、今井、諸兄のお出迎へを受け自動車を連れて前橋公園内の花の茶屋へ、名の如く野趣たつぷりな風雅な料亭である。その入口には

茂木様御連中御宴會之席

と墨痕鮮かに書き示してある、庭には秋の七草萩咲き亂れ秋光を浴びて池の鯉の勇ましい游泳

この料亭帝都で想像する様な所謂一戸建ての豪壯なものではない。二間三間の小さい建物が広い庭の中に五戸、七戸と散在してゐる、刀林分子は數組に分れて晝食の御馳走になつてゐたのである。

部長の家で

部長 「此の頃は皆餘り喰はん様ですな」

前田教授 「へへエー」

この間木村教授独自の御微笑？

部長 「平均體重も以前に比べて減つたでせう？」

木村教授 「どうもそうらしいですな」

分子の面々盛んに詰込みながら此處では午後の野球戦の話で持ち切り。

分子の家(1)へ

A 氏 「池に鯉がゐると思つたら早速刺身だ」

B 氏「ワルクないね」

C 氏「僕は矢張り天ブラつて奴がいゝな。海の魚は何でも甘呼いよ。殊にエビと来た日にや」

D 氏「こんな山奥？でも海の魚が喰へるんだな」

E 氏「汽車の速いのを知らない奴がゐるからね」

A 氏「今晚の鮎が思ひやられるよ」

B 氏「一尺位あるといふぜ、澁川のはな」

D 氏「澁川つて何處だい」

E 氏「馬鹿！今晚の御馳走ぢやないか」

外には晩秋の太陽がサン／＼と照り輝いてゐます。C氏は獨り過ぎし夏の日の海邊の思ひ出を浮べながら額に汗して箸を急速度で進めてゐました。

分子の家(11)ア

W 氏「こゝの柱は米材ぢやないかな」

X 氏「こりや立派な國産だよ」

Y 氏「X氏仲々詳しいね、こんな處で色氣抜きの食事とは一寸おしいね」

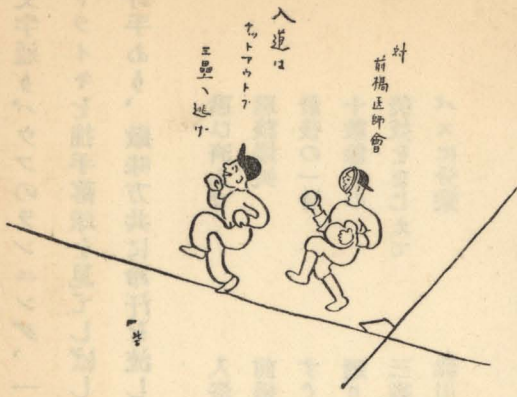
Z 氏「向ふの方に一軒色彩濃厚なのがゐた様だ」

X 氏「ウフーン！」

W 氏「先輩諸賢仲々いゝ處へ案内してくれたものだ」

Y 氏「思はせぶりタツブリですか」

Z 氏「別室附のかういふ處はな」



番茶をグツと飲んでアアと長く伸びて鼻歌など歌ひつゝ、「太陽はまだ高し、夜の来るのは又遠し」、「田舎は静かでない」、「一つ午睡と行くかな」

實にグータラの發散であります。

午後一時三十分。對前橋醫師會野球團との親睦野球戦が公園グラウンドで別にサイレンのひびきはありますが、華々しく開始されました。

相手は博士チームの觀、平均年齢四十餘歳。主將にして投手なる國手は四十二歳、我が軍も亦ピンチヒッター木村教授、前田教授、町田助教授、左翼に藤原講師、投手は百溪講師を以て

し攻防完備且興味は秋の空よりも高いものがありました。ヒットに出た町田助教の一壘への走壘に文字通りバウフのランニング、一壘到着の刹那一壘にゐたランナーはすでにホームイン。三つ目のストライキを捕手落球を見てしばしその球の行衛を見定めた後三壘に向つて突進せし我が勇敢なる名外野手あり、敵味方共に冷汗を流しての喝采でありました。

戦ひ済んで

入浴あびて

戦談爆笑

前橋の

最後の一時

すぐ過ぎて

十數餘名の

選り抜きの

美妓をまじえて

三臺の

バスに分乗

澁川へ

ヤナ（梁）の装置の説明を聴き七、八寸の鮎が次ぎから／＼と飛び上つて来る壯觀に一同驚異の瞳を見張つたのでした。夕暗迫る頃川岸の宴席はいよ／＼高潮、鮎料理を満喫し若き命を華やかに歌ふ聲高らかに川面を壓する頃には弦月山にかゝり、一同は白髪温顔の茂木先生を仰ぎ見て先生の益々御健康を祈り、天來の樂事と祝ひ慶んだのであります。

午後十時十五分 新装の上野驛に

茂木先生萬歲！

慶應義塾大學醫學部外科醫局萬々歲！

の聲が強い／＼優越の力に満ちてひびいてゐました。

(今日の行樂に就き前橋御在住の同窓員關口、今井、諸兄並びに綿貫氏の御手配を深謝致します)——一九三三、一一、八一

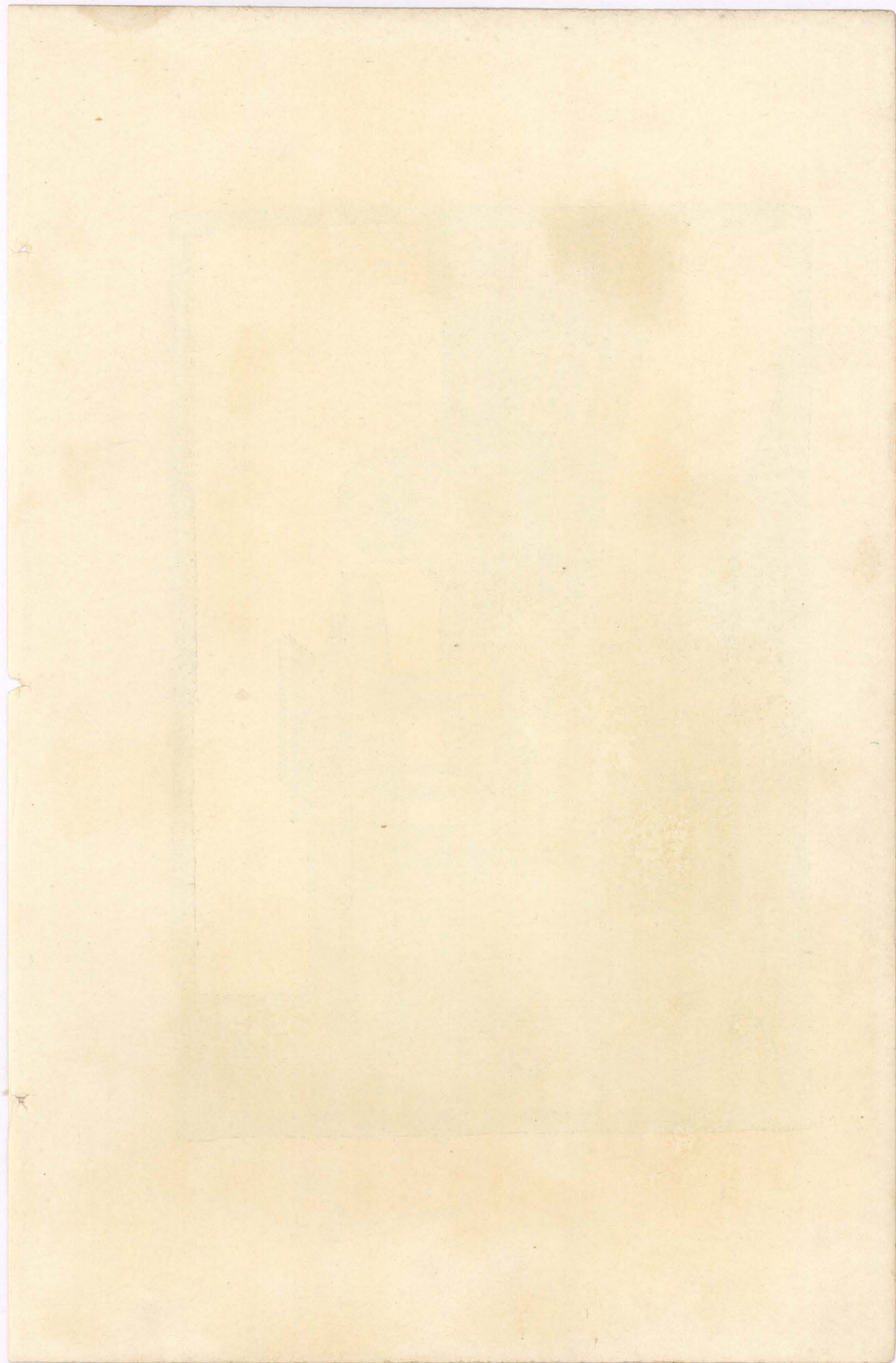
別館屋上の圖

刀林四號に、西病舎の木版を一枚入れたことがあります。そして刀林八號の出版される後、あのオヤマツなブラックは別館と云ふ白亜の殿堂と變つてしまいました。

此の圖は吾等が別館の屋上に、秋晴れの日光がさんくと降りそいで居る或る日の午後二後頃を彫つて見たものであります。多少其の感じが出て居れば幸です。

左側は本館い號の屋上、中央の圓頂は外苑の繪畫館の屋根であります。此の別館の屋上バルコニーは喫茶店になつて居ます。外斜の連中はよく此處でお茶をのんで無駄話をします。すぐ下が外科の醫局と、當直室になつて居ます。(せを)





文苑

江戸時代

情死小考

龍野純山

道德律の桎梏と經濟的壓迫と、背負ひきれぬ情熱とに喘ぎつゝ若い男と若い女が死んで行く。

死に切つて嬉しさうなる顔二つ

(柳樽)

彼等は追ひつめられた生活苦から逃避せんがために死を選びこそしつれ、その將に死なんとするや無上の感激に顫へつゝ死を以て愛の完成なりと觀じ、戀に殉ずるの榮光に誇る其處に歡喜があり、満足が見出される。

心中はほめてやるのが手向けなり

(柳樽)

世人はまた情死者に深い憐れみの眼差しを向けてやる。死ぬ程までに思合つたそのつき詰めた心根の不憫さ、いぢらしさ、せめても彼等の殉情をほめてやらうと云ふのである。

さあてさて／＼横堀のうどん屋の娘が心中したと、もうし母様男は誰や、こちの隣の米屋の手代、物もよく書く算用も能うする、器用な男でござりますさ。
(おんごく)

如何にも上方情調の濃い唄だ。無地緋縮緬の單衣に黒びろうどの帯をした幼女たちが手をつないでたそがれ時の大阪の街々を歌ひ乍ら練つて行く(近世舞踊史論)その「おんごく」の唄にある手代の様に心中男は物やさしい、溫和で實直な謂はゞ善人型純情的性格の所有者たる事は情死研究家の等しく認むる所で、事實悪人乃至放蕩無頼の徒には少くそれだけに一層世間の同情をかち得ることが多いのである。

昭和七年六月十五日 調所五郎、湯山八重子の天國に結ぶ戀の大磯心中、小説ではあるが牧逸馬の「新しき天」等が世間にいたく大なる衝動を與へたのは何故か、八重子の死體遺棄事件が耳目を聳動せしめたのは云ふ迄もないが、一面に於て是等の情死、何づれも潔いプラトニック・ラブに終始した事が若い人達に強い感動を與へ、一部には讚嘆する者さへ出來た位であつた。此時世間の心持はあの古い川柳「ほめてやるのが手向けなり」を如實に感じては居なかつたらうか。

此様に肉體的純潔を守つた例が異常なセンセーションを捲起したといふのは、その反面に於て常に情死者間に性的關係のあることを物語つてゐる。殊に情死直前に於ける所謂「最後の營み」に就ては

多くの論者に認められてゐるけれど今爰にその事實を開陳することは差控へる（三田村鳶魚著足の向く儘、高田義一郎著自殺學、中山太郎著 情死者と性生活の種々相、犯罪科學創刊號第五二頁等參照）
賣文の徒は又情死を美しく粉飾して報導する。元祿の頃の歌祭文、幕末から明治初年にかけてヤンレ口説節は門付の心中歌謡として代表的のものであり、又淨瑠璃、歌舞伎の好題材とされ、明治以後に於ては新聞、雜誌等謂ふ所ジャーナリズムの波に乗り唯迅速、センセーショナルを専らとして競つて誇大に報導する。私は近松の或頁を開いた。

〽此世の名残り夜も名残り、死に行く身を譬ふれば仇しが原の道の霜、一足づゝに消えてゆく
夢の夢こそあはれなれ。あれ數ふれば曉の七つの時が六つ鳴りて、残る一つが今生の鐘の響の
聞きをさめ、寂滅爲樂と響くなり。鐘ばかりかは草も木も空も名残りと見上ぐれば雲心なき水
の音、北斗は冴えて影うつる星の妹背の天の河、梅田の橋を鵲の橋と契りていつ迄もわれと
そなたは女夫星 後略（曾根崎心中道行）

嗟、何といふ名文、再誦三吟人をして卷を措く能はざらしむ。かの荻生徂來さへ机を拍つて近松の
妙茲にありと嘆賞したと云ふ。

模倣心理と云ふべきか被暗示性とも謂ふべきか、戯曲と同じ境遇にあるかの如き幾組は誘掖され示

唆されて續いて同じ死の路を辿る。その事實は現に吾人の目撃しつゝある所ではないか、故に學者は情死に於て流行性を説く。

「一とせ心中々々と言ひはやらせ、いやな病に命を取られ滅多やたらに情死、その心中の苗代は大阪蜷川天満屋のはつが情に平野屋の手代が身を會根崎の森に果してより（前記會根崎心中を指す） あそこもこゝも心中の書」寶曆四年美景蒔繪の松

京阪に於ける情死は天和貞享頃から小流行を重ねつゝ元祿後半期に至つて爆發的な流行を來し、寶永正徳と打續き諸國心中女、心中戀の塊、心中名寄鹿子、心中大鑑、風流夢浮橋、心中後日塚等の出版もあり、淨瑠璃には近松、海音、出雲、半二、一鳳等が靈筆を振つたがその弊の餘りに多きに鑑み遂に幕府は享保七年心中狂言差止めの町觸を出した。

一、世上に有之無筋噂事並男女申合相果候類心中と申觸板行いたし讀賣り候儀前々より御停止之事
そして情死者の罰則として

一、不義にて相對死いたし候もの死骸取捨爲申間敷候 但一方存命に候はゞ下手人
一、双方存命に候はゞ三日晒非人手下 後略（徳川禁令考）

あたいど相對死といふ語は此時大岡越前守によつて始めて作られたのである（名君享保録）然るになほ心中

沙汰の止まぬ所から元文二年法令附則を以て男女の情死死體から衣服を剥ぎ全裸體として晒すことに

した。獵奇心にかられて彌次馬が押寄せた事は想像に餘りある所で、ために「寛政五年二月十九日阪町（大阪）にて心中あり、男女の死骸を千日墓所に於てさらさせし處、女の××の毛多き評判にて見物おびたゞしく其後心中のさらしもの止む」（南水漫遊拾遺）の如き結果となつたのである。因みに此の阪町心中は早速芝居に掛けやうとしたが忽ち禁止されてしまつた（攝陽奇觀）民衆獵奇の現はれはひとり右の例に盡きない。文化元年五月四日隅田川に男廿一二、女十六七歳の情死々體が漂流して來た。是が江戸中の評判となり態々舟で見に行く者多く、後には船頭が一人前八文づゝの見料をとりそれが遂に五十文にせり上つた。剩へ何者の仕業か衣服髪道具までも夜の間に盗去つたといふ。（街談

文々要集半日閑話）

男女共死損じた場合は三日間大阪では灰山、江戸では日本橋東詰に晒された上非人にされてしまふ。

日本橋馬鹿を盡した差向ひ

四日目は乞食で通る日本橋

など晒しを詠んだ川柳が多い。音羽丹七が世評に上つたのは右の法條に照されて初めて晒し者にされたからだし、又尾上伊太八は武士として最初に晒されたからであつた。然し世事にはいつも裏と抜道がある。非人に落すに忍びないといふ温い人の情か、同族から非人を出しては一門の名目に拘ると

いふ利己主義か、いづれにしても足洗ひと稱し非人頭に金を掴ませて贖へば復たもとの公民になれる手が暗々に行はれた。

話題は前に戻る。元祿時代に何故情死が勃發したか、その理由の説明はいろ／＼の方面から觀て論ぜられてゐるけれど煎詰めれば經濟組織のルネッサンス(山本—元祿時代の經濟生活、中村—元祿及享保時代の經濟、徳富—日本國民史、本庄—日本社會史)即ち武士階級から町人階級へ、米の經濟から金の經濟への經濟的主體の推移及びそれを基調とした道徳觀念と解放された戀愛生活の葛藤、平たく云へば義理と人情の纏れと加ふるに都會人としての變質性的素因に根源するものと解釋されてゐる。

享保頃になると文化は上方から江戸に東漸移植され、情死も亦上方に衰へ江戸に盛んとなつた。此頃不景氣による生活苦の深刻化も情死流行説明の一助となるがライターとしての宮古路豊後椽の出現は大きな意味があつた。彼は官權と他流演藝人の壓迫に由り上方から逃れて江戸に向ふ途中名古屋で當込んだ金八 小さん陸月連理榦(歌舞伎研究第十九及世輯、町田—江戸時代音樂通解)を携へて江戸に入り又も壓倒的な人氣を煽つた。時恰も情死流行の氣勢漲り居たるため、やるせなさものに唆る様な切々綿々たる哀怨悲調はどうして深く若い人達の胸に喰入らずに居られやう。痛いたはしや、心中話は此所の街彼所の巷に飛火の様に燃上つた。斯くて江戸に於ても亦豊後節は爲政者と他流音曲界の干涉壓迫を

招き遂に演奏禁止の令を蒙り敗れし勝利者として歸洛するの已むなきに至つた。然し乍ら豊後椽の門下からは上方に繁太夫、春富士、宮古路、江戸に鶴賀、富士松（後に新内節となる）、花園、常盤津等輩出し、夫々情死物又は道行淨瑠璃を主として依然江戸上方の音曲界を席捲し、殊に常盤津、その門から出て一流を立てた富本、更に富本から派生した清元の所謂豊後三流は江戸時代音楽一方の王座を占めて今日に及び、就中天明安永頃に全盛を極めた新内節は一時心中を誘發するてう科により吉原に於ける流しを禁止されたことさへある。あの連弾の新内流しを命短かき春の宵、月冨えた凍れる街の冬に聞くとさ誰か

蘭蝶を聞きつゝかゝる時

死すも惜しからじとぞ思ひ初めにき

の想ひを同じうせざる、ふとしも三の絃が切れた、そのしどまの一刻を灯ゆらげば青春の血は流れる―たましひよいづくへ行くや見渡し、うら若き日の夢に別れて 夕暮

私は情死の原因、時代との關係遺書等々話題を残し乍らもう結辭に急がなければならぬ。

江戸時代の情死も元祿、享保、天明、化政と夫々時代の姿を反映して次第に戀の遊戯化、手段化に墮し來つた一面に深刻な生活苦に基く貧しい老夫婦の心中なども文献に現はれるやうになつた、然れども尙大正以後に於ける親子心中乃至は一家心中の如き悲惨事は嘗つて私の耳目に觸れぬ。

二人一緒に死ぬならばと互に手に手を取合ふ若人達には多情多感の華も咲かう、かの深き懊惱の果の自殺、扱は幼児達の死にざまにあはれ涙のせきあへぬ一家心中にはそも何の華が咲くか、天國と地獄のへだたりと斯くは名付けん。

私は敢へて言ふ、若人達よおん身らは今生命の華を手折らずにやがて來るべき結實の日を待て。實とは何か經濟的獨立だ戀愛は經濟生活と離れた別個の感情生活だ。人若し戀と生活とを結付けて社會に生きんことを冀ふならば先づ經濟的獨立を獲得すべきだ。それまで待て、粘れ、頑張れ、江戸時代の作者達が描出した情死あれは過去の世界だ。今や道德律の扉はおん身等が純情なる限り廣く開かれて居るではないか、おん身等の前には大きな世界が横つてゐる、「新しき天」が待つてゐる。

終りに

西鶴の言葉をもつて江戸時代のはかない戀を弔はう。

とりあつめたる戀や哀れや 無常なり夢なりうつゝなり。(好色五人女) (一九三三・十一・十)

主要文献

- 一、日本社會事象
- 二、大百科事典
- 三、情死の研究—大道和一(明治四四)
- 四、日本自殺情死紀—山名正太郎(昭和六)
- 五、情死考—小林隆之助(昭和三)
- 六、情死考—田中香涯(昭和二)
- 七、情死の研究及其倫理的觀察(丁酉倫理講演集)—布川靜淵(大正三)
- 八、情死號—性新年臨時號(大正十二年)
- 九、心中の精神病學的研究(近代犯罪科學全集第十及東京醫事新誌二六一三號以下)—金子準二
- 十、自殺學—高田義一郎(昭和五)
- 十一、近松の心中物、自由戀愛の復活—三田村鳶魚(大正十三年)
- 十二、情死雜考(三曲第十三卷第七號以下)—龍野純山

獨吟行

馬相



「でゐて強情我慢な老人の心境」とそんな言葉を使つて居たのを思ひ起して、これを獨吟行と題することにした。

中學時代叔父と一緒に本所の高橋から運河を蒸氣に乗つて浦安まで行つた。その時分浦安はもの寂びた漁夫町だつた。今日の行も高橋の蒸氣發着所から始まる。

薄暗い待合室の壁に懸つた賃銀表は色が褪せて、玻璃戸の中に老人と紫の女事務員がひとり、終點の行徳迄の切符大枚十八錢を求める。船は隅田川を上下してゐる一錢蒸氣と變りない。幾つも横に並んだベンチの一隅に寄つて小窓から秋の陽のさらさらする河面を眺めた。

聽て船はぼんぼんと石油の臭を撒散らし乍ら動き出した。間の狭い甲板に罎箱が幾つとなく積み重ねられて、長靴の漁夫が邊りへ腥い魚臭を漂はせる。船内は忽かに立て混んで來た。

石崖の影を漕ぎゆくキャベツ船

隣りの女がとある發着所へ降りて行つた。その細い頰に薄れ日を見せ乍ら。ロマンチストは場末の街角で時に女の顔に美しい希望を見出す。毎日電車の中で見る女の顔には和かなもの健康なもの、頑ななもの無關心なもの話しかけてみたい様なもの何やら涙ぐましくなるものなどがある。こんな事を言つて居たら際限が無いが、何んと言つても中山巍の描く「女の顔」に越すものは無い。

船のコースは高橋を起點として運河—荒川及中川放水路—運河—妙見島の傍—浦安—行徳といふ順序になる。荒川放水路迄は水が大變穢くつて青黒く汚濁して居る。竿の飛沫が顔へとんで來るのに閉口した。然し船が放水路の葦間を縫つて鐵の水門を潜り抜けると水も少しく面目を更める。更に中川放水路が終る頃は稍々透明に。次の運河へかゝると遂にはみどり色に澄んで來る。此處ら邊りではもう河水とは言はれないかもしれない。何故ならばぢき海が近いからだ。明かに潮の色が潜んで居る。水中の石段が透いて見える。

石崖の斜に水へふるせ釣る

乗客といつても全く土地の人々ばかりで浦安邊りの漁夫が多い。そこへスケッチ箱や寫眞機を提げた人達が乗り合せてきた。中に洋装の女も見られる。「随分水が多いわね」「まつたく氣分が出るね。こんな近い所でも下田位の感じはあるね。」隣りの老婆が僕を同行の者と間違へて「寫眞を撮りにお出でるのですか」と話しかけた。一寸面喰ふ。「いや遊びに」と濁すと、前の男が「寫眞を撮つたり繪を

描いたり。日曜なもので皆で遊びに来たんですよ」と言ふ。その男が甲板へ出た跡に大きな組立カメラが一つ。老婆は物珍しさうに差覗いて居たがふと片手でその光る捻子の邊りを撫でゝみた。この様子を見て居た僕は何か醜いものに觸れた思ひがして眼を窓外へ轉じた。

上げ潮にかゝよふ穂草とびにけり

對岸の道白日よふるせ釣る

「水が多いんぢあない、岸が低いのだ」と僕は獨言つてみた。岸の大きなポプラは色着き始めた葉つばをざらざらと秋晴に踊らせてゐる。地平に白雲が湧いた。それはうなばらに特有の雲で寧ろ夏に近い匂だ。妙見島を廻ると浦安へ船は着く來て見るとやつぱり見覺えのある町で貝殻と海苔船と粗朶なかゝ昔の儘だつた。町を圍むものは海邊まで縹渺とした稻田で畔道には海苔干場と干物場とがしつらへてある。刈田には白鷺が黙々と漁つて居る。この前來た時は、海岸の葦叢で大きな蛇を見た事と思ひ出した。氣の荒い會話や潮荒れの白ちやけた屋根瓦、それから元氣な赤銅色の子供達など、こんな風物は何處の漁村にも共通のものだらう。

乏しらのコスモスに鯨釣られけり

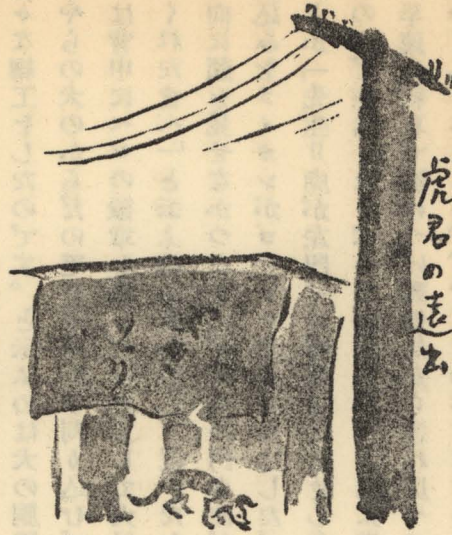
船は此處で大部分の乗客を降してしまつた。僕はがらんとした船内に残されて窓の弱々しい日ざしを見かへると如何にも晩秋の流れの上にある思ひがした、更に河を一時遡ると行徳の町である。船着場の岸に石の常夜燈が一つ。此處は江戸川沿ひであつて、例へば俠客の名を思ふ程に古めかしい懐かしい町である。人家の裏手の堤に立つと洋々とした江戸川の流が高まり動いて居る。葦間へ釣を

垂れて居るが、どの竿にも魚がかゝらない。いつも紅い蚯蚓がくるくるとぶら下つて居るばかり。町並の反対側は一望の田圃であつた。「こゝから海岸まで道があるかい」と畔に遊んで居る女の子に尋ねたら「知らねえよ」と意地悪さうに上眼使ひをした。駄菓子屋のおかみさんは「海岸まで小一里はございます」と言つた。小一里も危つかしい畔道を歩くのも大變と思つたので街道へ出て川下へと浦安への道を進む。途中行徳の大きな木橋をスケッチしたりし乍ら。浦安の町が近づく頃貝殻を積んだ傳馬船が岸に舫はれて、石灰の工場へその貝殻をさかんに運び入れてゐる。その工場の前を通つて行くと眞白な灰の窖の中に半裸の男が幾人も寝そべつて居た。むかつく様な甘たらい悪臭だ。

夕風のこまやかにしてふるせ釣る
夕風の貝殻浮べ鯨の水

狭い川岸へシボレーが這入り込んで來た。紋付羽織の男が立つて居る。小料理屋の女中が二人、その一人のこはい視線とぶつゝかつた拍子にも一人の女が囁いた。「ほら來たよ。來たよ。」川下の方から角隠しの花嫁さんがやつて來る。人混の中へ立つて暫し見送る。俯向いた花嫁さんの唇が妙に自然に見えた。後から子供達が多勢人々の眼に好奇心と、或る慘虐味が閃いたかもしれない。がらんがらんと鐘を叩いて居る。東京への蒸気が出るのだ。離れかけた船舷へ急いで飛び乗る。船は對岸へも一度立寄つて客を拾つた。岸のそこゝに灯がともり始めた。水が忽かに暗みかけて汀の海苔粗朶は寒さうだ。岸に見送る人の顔が何やら淋しい。城東區の運河を走る船の横腹へ工場の眞紅な地爐の窓と青白い鐵板切の仄光とが映つて來た。船は再び高橋へと近附く。

虎君の退去



ライオンと虎と私

古 珍 生

と思ひました本館も今では本當に勿體ない位に奇麗に見えます。

私の居ります研究室では種々様々なアルカロイドに對する動物の習慣性に關する仕事をして居りますが、私は其の中の一つを受持つて兎や犬を習慣させるために毎日注射を續けてゐます。これが中々厄介でしてね。兎は箱の中に飼つて置くのですから、逃げつこありませんが犬は小舎に繋いで置けば衰弱の果斃れてしまひます。それで止むを得ず放し飼ひにして置くのですが、教室では充分に榮養をつける事が出來ないと見えて、御馳走の澤山ある他所へ行つた切りになつてしまふので、犬を

私は去る四月以來藥物學教室で仕事をする事になりました。此の教室へ參りました當時は研究室の随分と淡汚いのには驚きました。住めば都とか云ひますね、全く其の通りです、今ではすつかり慣れてしまつて別に汚いと云ふ感じがしなくなりました。別館は云ふに及ばず、醫局に居りました當時は随分汚くなつたものだ

習慣させるのには全く往生して居ります。其處で私はあるだけの脳味噌を搾つてあまりにもいたづらな一策を案出したのです。其當時これは中々經濟的な方法だと自惚れた位なのです。夫れと云ふのは犬を小舎に繋いで置いて何うしても色々な物を買つて食べさせてやらなければ死んでしまひます。放し飼ひにすれば芥溜をつゝいて自然に肥ります。けれども逃げる恐れがありますのでそんな場合に人目につき易い恰好をさせて置いたら何んなものでせう？　そうして置けば教室を一寸休む場合にも注射を頼んで置かなければなりませんからそんな時に目標になつて大變都合が好いと云ふわけで犬に様々な細工をしたのです。と云ふのは犬の胴體の毛を横縞に剪み刈つて虎の恰好をさせたり、毛むくじやらの犬のからだの毛をすつかり刈り込むで尻尾と頭に細工を施してライオンの形相をさせたり、又は背中にベンの徽章を刻みつけたりして犬屋に「ね君ライオンには五cc、虎には十cc注射して置いてくれたまへ」と云ふ様な具合にして置いたわけなのです、でもやつぱり逃げる奴は逃げてしまつて一向に顔を見せなかつたのですが其の内小使だとか動物屋が「先生!! 夕邊新寄を散歩してゐましたら人込みをライオンがヨチヨチ歩いてゐました、今晚は吉原か洲崎あたりに現はれるかも知れませんが」だとか「先生!! 虎が左門町の郵便局に居ました、人が怖がつて追ひ出そうともしないのですから入口の所で悠然とねそべつてゐました」と云ふ様な微苦笑的な情報に接する様になつたのです。結局虎は早速自轉車で馳けつけ郵便局から連れ戻つて來ましたが、其の他の犬は其後すつかり音沙汰無しになつてしまひました。で、私も諦めて代りの犬數頭小舎に繋ぎました。

代りの犬も大部注射量の増した中秋の頃、仕事の餘暇を盗み外科の何日もの連中と別館の四階で雑談に耽つてゐました時其の中の一人が私の顔を見て突然想ひ出したかのやうに「ああそうく、昨晚別館の當直だつたがあまり犬が吠えるのでグラウンドへ出て見たら犬が數匹ワンワンく大變な騒ぎさ月明りによく見たらライオンかゝるじやないか、今度見つけたらつかまへて置くよ」と云ふまことにうれしい報告をしてくれました。それから一週間もしたでせうか私は仕事をすませてあのアスファルトで補装したばかりの少し勾配のついた道を空腹を抱えながら馳ける様に家路を急いでゐました時、丁度事務の前あたりに何んだか見覚えのあるやうな犬が淡燈りの中をこちらへやつて來るので立留つてよく見ると何んの事はないライオンではありませんか、早速つかまへて小舎に繋いでおきました。今日も尙ほ虎とライオンは無事息災に毎日注射を受けて居りますから何うか御安心下さい。

私は原則として、仕事の歸りは毎晩醫局へ顔を出す事に決めて居ります。一つは醫局諸兄の御機嫌伺ひを兼ね一つは諸兄の雑談の中にも日進月歩の外科學の新知识を得んがためです。ところが私の醫局を訪れる時



は奇態にも醫局にはビールが豊富なんです。ですから傍で見ると如何にもビールを飲まんがためにやつて来る様に見えるのです、即ち嗅ぎつけて来るやうに見えるのですね。とうとう私は良い鼻を持つてゐると云ふやうなデマが亂れ飛ぶ様になりました。全く御冗談でせうと云ひ度い位です。然しこれはナイショに御願ひしますが此頃は醫局の諸兄も餘り腕を振はれないと見え一向にアルコールらしい香がして参りません。何はともあれ醫局へ一寸寄つて見ると毎晩の様にビールがテーブルの上に山積ではなく林立してゐるのですから、いくら遠慮勝な私でもコップに一二杯は知らぬ間に御馳走になつてゐるのです。仕事疲れの風呂上りと來てゐますから一二杯とは云へよく効きます。効いて來るとヘンムングが段々とれて來るのは理の當然、然らしむる所で致方もありません「チョイト行かうか」と云ふ聲が全く誘惑的に響いて來るのは従前通りです。私は斯様に始終醫局に顔を出してゐますので先生の御招待や青山外科との懇親競技會などは勿論其の他醫局の種々の會には缺かさず出席して居りますので、身は醫局外にありましても醫局に居ると全く同然であります。

今秋の醫局野球リーグ戦には私は醫藥混合チームの投手として憚りなから出場しました。第一戦には首尾よく豫防を葬りましたが准決勝戦に外科のチームに惜敗しました「何が故に外科のチームに敗れたりや」について私の心情を一寸述べたいのですが紙數に制限がありますからこれで失禮なたします。不惡。以上私の近況。

俳句の辯

馬 相

宗匠といふ言葉を吾々は侮蔑としか感じない。それは消極的な低徊趣味の自己満足といふ意味である。所謂風流がつて居るといふことで、吾々の病類別から言ふと月並の部門に屬するものである。「百年にして天明二百年にして明治の初日影」といふ鳴雪の句がある。芭蕉から二百年目、蕪村から百年目の邊りに正岡子規が現れたのである。この三人は俳諧史の大きな飛石であると言はれて居る。この子規が初めて月並なる言葉を用ひて當時擡頭した學生俳句の旗幟を鮮明にする爲世の中にうようよしな宗匠流の邪道を月並と呼んで反抗と侮蔑を投げつけたのである。

俳句の形式は簡潔を極めて居る。この點は近代人に就中 *Chirugiker* にとつては最適の詩形であると思ふ。この短詩形に適確な動かない表現を與へるものが季題であつて、これは俳句獨特のものである。何の爲に俳句などを作るのかと聞かれるならば作りたいから作るとしか答へられない。それは作句する事には何の目的も無いからである。嬉しい時に聲をあげたり悲しい時に涙を出す、さういふ事と何の變りがあらう。

「ホ句詠みは馬鹿になる」と吾々は輕蔑されるが、寸暇を得た時に無心に雲を仰ぎ、海を見入るとい

ふ様な事も悪いことでは無いと思ふ。

「ビルの例へば地下室の底に生活して居ても興に乗れば、花野を歩き秋風を聞き山
冷に觸れることが出来る。これこそ吾々俳人の特権である」と或俳人が言つた。まこ
とに眞實であると思ふ。どうです、手帳と鉛筆を備へられては。

故郷二句

馬相

暁の雲からそめや夏の山

月明の途上に鶏の聲おこる

伊豆旅上三句

春潮のいけすに船をつつかけて

島かげの潮みどり濃き山櫻

石垣と石垣とある梨の花

雑詠

馬相

晴れし日の江の島近き寄居蟲かな

やどかりの水に響きて橋の音

日箭もちて雲流れゐる囀かな
囀かなし眞晝の影のありながら
草の實の空を流るる竹落葉
立秋のうなばらに立つ富士の影
道を歩く七面鳥や秋の海
葱植うる人に夕海曇りおり
初冬の椿咲きゐてたそがれぬ

きさらぎ

あしたの夢の漂へる

とほき雨のうなばらは

白日なりてきりぎしの

道に春風冷たけれ

ま青き灘は旅びとに

呼びかけゐるよ雲雀鳴く

丘を越ゆれば入江なる

小さき港に汽船あり

マ
サ
ヲ

そのぼそぼそのペンキをば
カンカン虫は歌ひ居り
影寒々となつかしみ

A 無題

あを空が陽に喘ぐとき
よきものよ うき雲
豊かなるかひなと
冷やかなる乳房と
わが眞實なる感謝を知れ

B 別離

近々とみるうなじ
なみだに波うつ
窓は明るい
おゝ 雪解だぞ

マ
サ
ヲ

女神の歌へる歌

白風寄

奥深き森の湖、そよ風に小波の立つ、
其底の水にかくれし、宮居には女神の住めり。
夜の帳そこはかとなく擴ざれば静もりの湧き。
夜もすがら手琴奏で、女神こそ悲しみ歌ふ。

わが住む宮居湖の

岸邊に生へし青き花

青き心の便よと

告げましものを知らぬげに

過ぎて行衛は白雲の

いつかは消へむ運なり

運とならばなどてかく

こがるゝものにいこわざる

晝は恐れて出でされど

出でざるが故、戀ふ故に

小琴の糸のぬるるまで
奏で泣くなり、知るや君

泣けば涙の泉もて
かくもあふれし湖の
水に温味はなけれども
心に燃ゆる火を見ずや

觸れても見んか、觸れよ今

ふるれば立たん小波の
湧きてあふるる水底に

我が金泉の響あり

或る力

潮騒に鷗も飛ばず
南のみ強み暴れ吹き
大海の波背に躍る
たくましき白馬の鬣

嚴かな自然の巧

矛取れる、神のたはぶれ

言ひ難く強き力に

ひとりでに頭を垂るる

紫の夢

よろこびの、うすむらさきにつゝまれし

まだ見ぬゆめはいかにたのしき

かはき

死ぬごとく苦しきもだへなほつゝむ

あが此の心おぞましきかな

あゝさなり、汝が一滴の涙もひきたりて

死の苦しきは消へ失するもの

砂のごと涸れたる心ただひたに

涙待てるを知るや美き人

秋深む

枯落葉踏みつゝ行けば山路の

白風寄

奥に音なし秋深みつゝ

凶鳥まかさりの聲うそ寒し柿赤し

わびしいかなや落葉しきりて

病葉わくらばの音なく散りて暮れにけり

鐘つく堂の石の階

往く秋をかなしと見ればいすこにか

いよゝ淋しく百舌鳥一しきり

一、アツペを切らぬと頑固な奴は

今ちや煙突で斷食よ

一、象皮病の三中半

退院する時や一巾よ

一、ヘモにアツペはルンパール

おなら一發氣にかゝる

一、ゼンクングみられた有閑マダム

私は毒はないでせう

その昔元祿時代にあつたとさ 赤穂浪士の物語

主君の、仇某を 同志一同散りくゝに

一年有餘苦心して 雪の降る夜に討ち入つて

見ん事晴した君の仇 その人数は誰も知る

四十と七人だつたとさ

上は大石藏之助 下は寺坂吉右衛門



—それは昔の話だよ—



慶應病院外科醫局

人数は同じ四十七

上は茂木の藏之助

下は何の某と

十有餘年の歴史もて

醫局一同睦しく

日本の爲や人の爲

諸々病 打ち拂ふ

吾が慶應の外科醫局

これ現在の外科醫局

(比古)

駄句

遠足のほこりの邑や柿の秋
夕映や飴屋の歸へる道殊に
いささかの雲ある峰や今日の月
名月やはるけき戀のあとを追ふ

前橋鮎狩の日に

鮎の香やヤナに碎くる水の音
夕映の鮎ヒラ／＼と釣られけり
稻刈るや一畦多き蔓珠沙華

はしもと



外科を謳ふ

文
生

1.

若草もゆる 外苑にはほとり
尊たかき理想に はぐくまれ
榮ある慶應 名もしるく
とこしへに高き 外科の理想

▽ △

2.

創めてここに 十餘とせ
雄々しき外科の そのマーチ
榮ある旗幟 押し立てゝ
とこしへに強き 外科の力

▽ △

3.

穹窿おうどうひろく もゆる意氣
自覺かひなの腕に メス執りて
榮ある幸を めぐみつゝ
とこしへに揮へ 外科の腕

▽ △

4.

光明に歩む 若人よ
力の限り 高らかに
榮ある外科を 謳歌はなん
とこしへに映ゆれ 外科の榮譽

外科醫局音頭 (東京音頭)

T
A
M

一、踊り踊るなら KO音頭

花の都の真中で

一、外科はよいとこ オヤジの醫局

結ぶ師弟の二連球

一、おらが病院 命の波止場

四百四病の外もよし

一、醫者になるなら KOの外科よ

世界醫學の花と咲く

一、何時も馴染の 外苑救護

躍る光のうらゝかさ

一、酒は醫局よ まはれば銀座

まはる銀座は六清會

一、寄せて返して 返して寄せる

醫局繁昌の人の波

初夏が
訪れて

白亜の別館

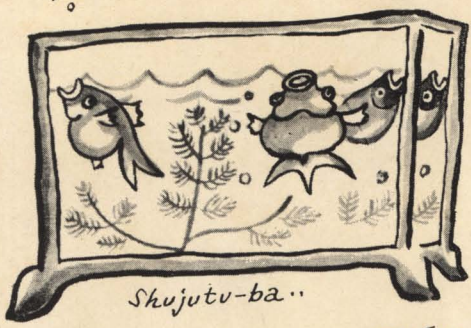
思ひ々の
ごも

宍物に

金魚を

飼った。

四角の立派な宍器は
陳腐であるが金魚の数が
海山に見えてよろしい。



1933. Jun. Pko

Hiigasi-Byōtō



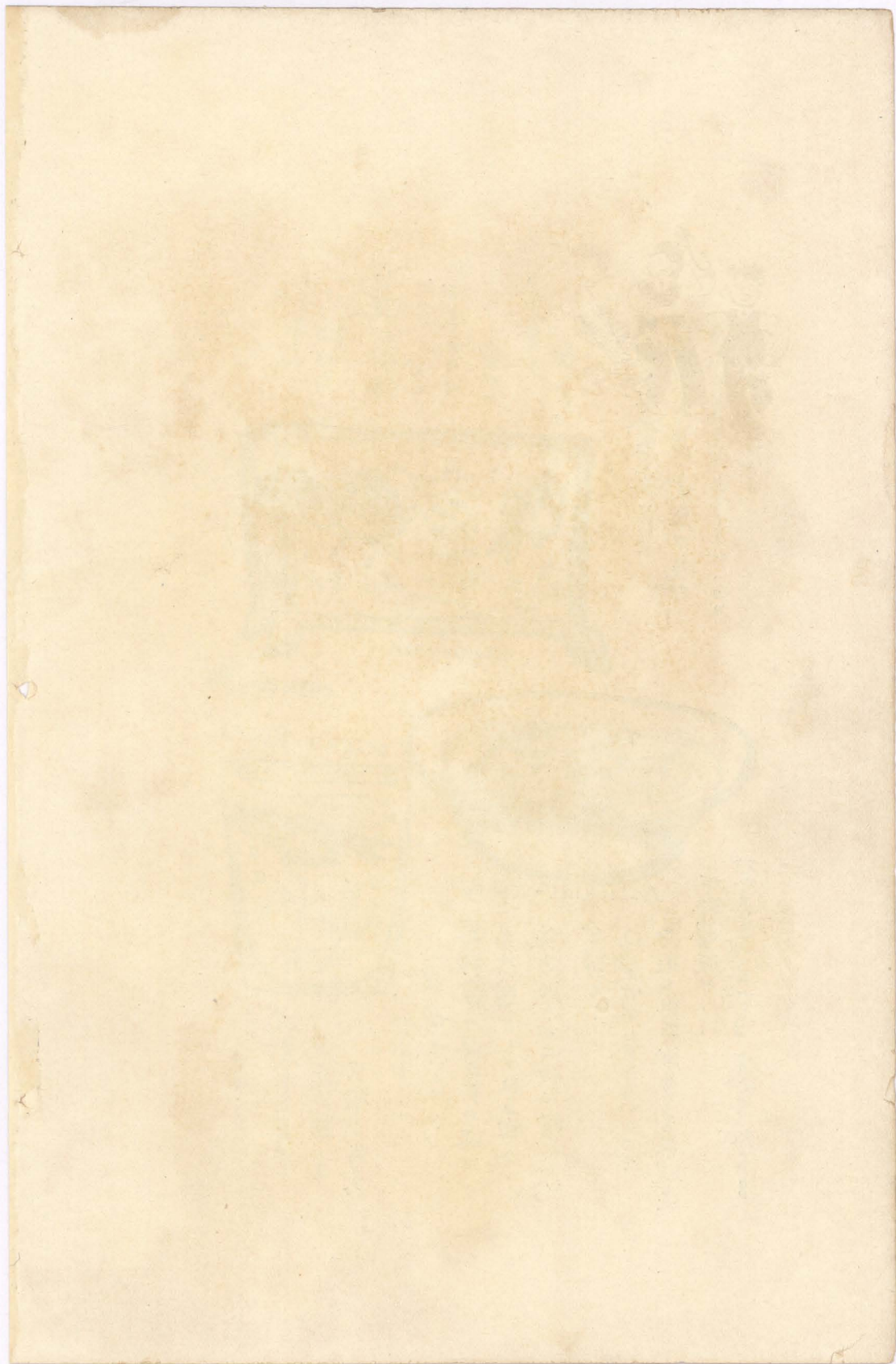
。。。また。。。
洗面盆を見ると
夜店の懐しさを
想い出す。

けれど。。。
一番嬉しいのは、

Minami-Byōtō.

下顎呼吸の。。。
Demonstration をやっている。。。

露路の中の田タクの標に
せまい思をしてゐる奴で、
後を向くにも仲々骨っぽい。
どいつも。。。
〇る欠七は争へないもので
切角入れた水草を無視して





比古

医局員

三人酔へば

踊り出し

外科醫局の唄 (大漁節の節)

一つとせ 人も知つたる慶應の

外科の醫局の賑はしさ

外科は慶應だね (以下同じ)

二つとせ 古い先生も新參も

皆睦まじく元氣よく

三つとせ 見て呉れ手術出來榮えは

疵もつかずに 跡もなく

四つとせ 夜でも晝も御研究

當直室は 大繁昌

比古

五つとせ いつ來て見てもこの醫局

笑顔と元氣大溢れ

六つとせ 無理と油斷は怪我の因

怪我をしたとてすぐ治す

七つとせ 難病苦病も來りや治る

胸の病も 亦なほる

八つとせ 野球優勝その外に

何でも御座れ 外科醫局

九つとせ 今夜此れから出かけると

一杯氣嫌の大元氣

十おとせ 十年有餘歴史ある

ここ慶應の外科醫局

三十一文字田舎のアツペ

治 生

もう少し早く解つてゐたらうに

手を洗ひつゝ前醫を恨む

ルンバール射さうかしらと思つたが

尿閉がいやでロカールにする

「うそだよ」と心の中で思ひつゝ

「痛かないよ」と沃丁を塗る

四角巾一寸持ち上げへそを見て

見當つてノボカイン射す

腹壁は痛まないのが當り前

「痛みますか」とわざとたづねる

腹膜を一寸開くと膿が出る

「これが膿です」と立會を見る

漸くにアツペを取つてホツとして

汗を拭つて手術場を出る

親、兄弟、隣の主人、區の役員

「いかがでせう」とズラリとならぶ

「手おくれ」と口まで出るが飲み込んで

「たちが悪い」と説明をする



春の雪

赤いマントに

紫マント

雪の田の道

ならんで歩く

雪は朝から

學校の梅の

花に積つた

春の雪

鐘のひびきで

學校が終えて

誘ひ合せた

仲よし小よし

赤いマントに

紫マント

歸る田の道

春の雪

治
生



床屋の鏡

鏡の中の床屋さん
赤いネクタイ白上衣

バリカンなか／＼上手だが

オヤ／＼その手がギツチヨだね

鏡の中の僕の顔

頭はグリ／＼一分刈り

お顔も剃りたて綺麗だが

オヤ／＼着物が左前

春近し

春が来る様な陽が照す

遠い山にも野原にも

半分出来たお家にも

春が来る様な陽が照す

春が来る様な聲がする

散歩靴にも小川にも

小板をけづるかんなにも

春が来る様な聲がする

館山の夜

夜間飛行の標識燈は

風の吹く夜に赤く点く

何處を飛ぶやら姿も見えぬ

主を待ち待ち赤く点く

治生

治生

治生



アルコールの力

つれづれ生

流汗兒の慨歎一方ならぬ恨めしい夏も富士救護を最後に燈下親しむの候とか、天高く馬肥るとか、古より名句を占有する紅葉の季節となつた。流石の彼氏もけろりとして秋色を満喫してゐる。人並に何か漁つて見ようと燈下に親んでみたが一向に名文も名句も浮びそうにない。

一くさり修善寺旅行での一場面を書いてみる。扱て吾々一行豪の者はバスと汽車で運搬され、四方の景色を賞讃しながらと云ひたいが、寧ろやがて来る酒色にあこがれつゝと云つた方がびんと来るかも知れない。

かくして一行は目的地にだれ込んだ。仲田旅館に旅装をといた。一憩の後温泉に入る者、列車中でのアルコールの爲コツプシヌメルツで延びる者、とやかくして一際疲れを忘れた頃夕食の傳令が飛んだ。

宴會は時と共に酣となつた。突然一隅より現れたる裸體の美少女では無くて、蟻地獄とでも形容した方が良さう、全く盗難よけポスターの泥公の足そつくりで而もワーズ筋のいやに膨んだ、寒けのする足の持ち主K氏の裸體、之れには流石に度膽を抜かれた。

春の夜は更け饗宴のさんざめきも何時とはなく消えて大方の人は磁石に引きつけられた様に思ひ思ひの方向にふつ飛んだらしい。金庫を番して居るんだなんて先手を打たれたてれかくしに瘖我慢を張つて居る人が唯一、三人居た。氣の早い人は己は一番槍だなんて意氣揚々と引上げて來た。

然し後での話だが、一番槍が大した品物で、唯單に時間と場所が違つて居た位で同一物だつたそうさ。己惚もこれ位で充分だ。

我もやつぱり人の子ぢや、夜の修善寺を一瞥せんものと表に出た。

アルコールは充分に利いて居る、見てもはつきりしないし、つまづいても差程にシユメルツをクラゲンしない全く良い氣持だ。橋を渡つて對岸通りに來た、ぶんと甘い香がするので良く見ると天津栗の露店がある。先づさぐりを入れて見た。

N氏、これなんや！甘栗やな、おやちまけとかんか、こんないやらしい栗見たことないど、日本中探したかてあらへんわ、ナK。

K氏、こんな栗食へるかい、皆蟲が食ふとら、あかんあかん、こんなもんあかへんて！

K氏、無邪氣に屋臺を上下左右に振動させた。栗屋はぶつぶつ云ひ乍ら散亂する栗を整理してゐた。

其の間にN氏かんばんの栗袋を一つ物して内診したらしい。

N氏、なんや石ばつかりやがな、おやち石を賣るつもりやな、承知せんど、まけときな〜。むり云はんとまけときちゆうに。

K氏、酒は飲むべし、酔ふたら喧嘩せ、

店ひつくり返してしまへ、やつてしまへ。

一瞬にして栗は四方に飛んだ、一掴み上衣のポケット二掴みはずぼんのポケットに、金はN氏の責任になつてゐる。拂つたか拂はなかつたか不詳だが、僕は多分拂はなかつたと思ふ。

それから暗い道を一丁ばかり上つてコーヒーと稱する飲物を飲んだ事は知つてゐるが、其後は意識モロー、引かるゝまゝに呼ばるゝまゝに何處を何う行つたか、何を何うしたか、何が何んだかさつぱりわからない。



「種にならぬ話」

醉 狂 生

(一) 醫學士の過ち

俳聖芭蕉は野宿して旅寢の枕のもとに馬が小便するのを見てさえも、之れを詩的に歌ひこなしたと云ふことは、誰れでも知つてゐる話である。この小便に關聯して思ひ出すのは、彼氏が大學を卒業した翌年のことだ。即ち醫學士様だ。平常突飛な無邪氣さを演じては誰れ彼れを苦笑させる彼氏と三四人、ある日活動見物に行つた。所が彼氏突然「女のメンスとても澤山出るもんだナア」と感歎してゐる。「どうしてそんなことを云ひ出したんだ」と聞けば、「今便所に這入つてゐたら、隣の便所に女の人が這入つて來たので、好奇心に耳を澄してゐると、「ジアーツ」と隨分音を立てゝ出た。澤山出るもんだなアあんなに出たら體が

弱るだらうなア」と彼氏案外本氣らしい。聞いてて馬鹿らしくもあつたが「それあ小便でせう。まさかメンスが音を立てゝ噴出するもんか。」と云つてやつたら「ア、そうか！道理であまり多いと思つた。」と感心して御座る。而も聖人君子ではなくて天晴れその道の達人であり、且つ又醫學士様と來てゐるので、イヤハヤ詩にも歌にもならない話さ。

(二) 彼れの若い頃

醫學生の最大の難關と云つたら、何と云つても解剖學の試験だ。この試験前許りはどんな呑氣者でも安閑たる譯にはゆかぬ。その頃になるとそれこそ傍で誰がどんな事をしようとも一心不亂？に勉強出來たものだ。所がその試験が目前に迫つた或る日のこと、悪友二人やつて來てトウ／＼彼を引張り出して仕舞つた。仕方なく彼れは勉強のノートを懐ろに入れて、親しい「ワルテン」へ行つた。勝手知つた家だし又晝間ではあり、彼れは早速二階の一間に行つて、テーブルを部屋の隅に寄せてノート

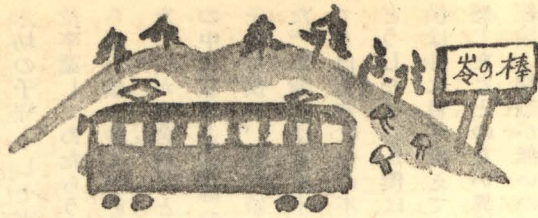
を讀み初めた。悪友二人は初め帳場に坐り込んで話をし
てゐたが、その内悪友の一人が親しくしてゐる藝者が平
常着のまゝ遊びに來たので、一同彼れの部屋に押しかけ
て來た。一しきり雑談に花を咲かしたが、彼は平氣でノ
ートを讀んでゐた。遂に一人が勝手知つた押入から、か
け布團を一枚出して來て、敷布團もしかずに悪友二人藝
者を眞中にして寝轉んで話をしてゐる。その中一人が「俺
れは下に行つて來る。」と云つて襖を開け放したまゝ階段
を二つ三降る音を立て、ス早く引き返して二人の布團
の足の方かつらソーツと頭を突込んだと云ふ譯だ。無論
二人ともそんなことは夢にも知らずにゐる。彼は知らん
顔してノートを讀んで居た。藝者はまだ若いし、又彼れ
が彼れ等の枕の横五六尺の所で勉強してゐるので、多少
恥かしがつてしばらくは只コソ／＼しながら、時々跳發
的なクス／＼と云ふ笑ひ聲が聞える。けれ共彼は平氣だ
つた。然るにトウトウ二人で……。何を……つて？。

時計のセコンドが廻るに従つて、彼等の呼吸は少しづ

つ荒くなる。時々感嘆詞的なしのび聲がもれる。初めの
間木石と思はれる程冷靜だつた彼氏も、段々クライマツ
クスに近づくにつれて頭が少し混亂し初めた。最後には
もうノートの字を讀んでゐるのではなく、只見てゐる丈
けでちつとも頭に這入らない。さては頭や顔のあたりが
ポーツと熱くさへなつて來た。彼氏も矢張り名僧智識の
類じやないと思つたらしい。然るに布團の足の方に頭を
突込んで見物してゐたも一人の曰く「もうはずれるか……
今度こそは外れるかと思つたが、トウ／＼最後まで外
れなかつた。」と歎聲をもらしたそうだ。彼氏は今ある學
校のプロフェツサーになつてゐるとか、何れにしても馬
鹿な話しさ。

(三) 棒の折れ

昔京洛に某と云ふ若い僧が居た。或日晝寝をしてゐる
ところ「火事だ！火事だ！」と呼びさまされると、僧は
むつくり匆ね起きて、いきなり驅けて行く途中物に躓い
て轉んだ。所が轉んだ拍子に。根を折つて仕舞つた。故



人〇町〇月と云ふ文豪は「其僧こそは稀代の快傑だ。かかる火急の際に於て尙折れる様な元氣に在つたことは以て滿天下の青年を激勵するに足る。」と云つて

賞讃おく能はなかつた。随分妙な處で感心したものだと思ふ。所が更に文献を古に執つて見ると之れと同じ様なことがある。

彼の畠山重忠と云へば、當時關東武士隨一の好男子であつたが、殊にその道にかけては亦あ

へて人にゆづらなかつた。或日鎌倉より急使が來た。「ソレ鎌倉！」と許り、おつとり刀で武藏野の原を一目散に走つてゐると「女院の山」と云ふ草許りで、樹木が一本もない丘にさしかゝつた。「女院の山」と云ふエロチックな名前を考へて重忠ニヤリと笑つてゐる折から、後方か

ら「重忠様ア！ 重忠様イノー！」と息せき切つて呼ぶ女の聲がする。即ち彼れを慕つて秩父の山の娘が追かけて來たのだ。重忠思へらく「折も折、處もよし」と許りニコリとほくそ笑んで……………。

所が彼の持ち物がポツキリ折れたと云ふのである。されど流石に快傑重忠、痛さをこらへて鎌倉には行き着いたかどうか知らんが、以後其の山を「棒の折れ」又は「棒の嶺」と呼んで、今では武藏野電車沿線の景勝となつてゐる。今では秋になると松茸が澤山出るそうだが、或は重忠その時思ひ切つて自分で切り落したか、又は重忠が浮氣をしない様にその娘が不意に切り落したか、何れにしても松茸の多いところから見ると其の山に切つて捨てたのが芽を出して段々繁殖したものと考へるのが一番至當であらう。重忠はその棒の嶺以後遂にイムポテントになつたとか。

(四) 春期發動期の一瞬間

僕の友人の兄の思ひ出話した。此處ではその兄を僕と

云ふ代名詞で現はすことにする。

僕がたしか中學一年の時の夏休みのことだと記憶するその頃まだ赤坊が如何して出来るかも知らない程子供であつた時の話だ。僕は或日二三泊の豫定で、田舎の叔母の家に出掛けた。行つて見るとその家に叔母の長男の赤坊の子守として來てゐる十一か十二位の、併し尋常位卒業してゐたらうから十三位だつたかも知れない可愛らしい娘に妙に心を引かれた。妙に愛くるしく感じてゐた。所が田舎のことではあるし、晩になると大きい蚊帳の中に叔母と、叔母の娘、これは僕より一つ年上だつた。それに僕と、子守娘と合はせて四人床を並べて寝かされた。無論僕はまだ小供だつたので皆と一つ所に寝かされても自他共に何の不思議もない譯だ。然るにその夜中にどうしたことが僕はフト目を醒した。勿論眞暗だつた。僕は妙に目が冴えて眠れない。眠れない許りか、今まで感じたことのない異様な興奮にかられた。性的に何一つ經驗と智識が無いのに………………。果ては自分のすぐ

横に寝てゐるのが、叔母の娘か、或は子守娘だつたかと考へ出した。叔母の娘なら無論恐しいと考へたし又何の對稱でもなかつたのだ。併しその何れであるかがはつきりしない。僕は全く無意識のトリコとなつて、譯の解らぬ興奮で一杯だつた。自分でも何をしようと云ふ確かな考へもないのだ。只未知のあるものに引きつけられた譯だ。叔母の娘なら僕より少し、丈が高いし子守娘ならそれよりもつと低いことを思ひ出した。無論燈を點ける譯にもゆかぬし、ゆり起して確かめる譯にもゆかない。僕はいよ／＼あせつた。トウ／＼息を殺して自分の手でソーツと相手の頭から足の先まで大體見當つけて計つて見た。併しはつきりしない。二度もくり返して見たらうそれをするのに恐らく三十分も一時間もかゝつたかも知れぬ。併し分らない。最後にはもう萬一間違つて叔母の娘でもあつたら、その結果が如何に恐ろしい事であるかも考へる餘裕がない程上氣してゐた。僕は全く夢中で相手の娘に○○○いて仕舞つた。ふくよかな肌の觸感を

得た瞬間、女ももう多分前から目を醒してゐたのであらう、聲こそは立てなかつたが、膝を上曲げてゐた兩足を急にバタリと音立て、延ばしたので、僕はハツとして夢遊病から吾れに返つたのだ。正氣になつて見ると、しばらく何か知らん不安があつたが、随分疲れてゐたと見えて、深い眠りに落ちて居た。

翌朝はもう昨晩のことなど全く忘れて仕舞つて、何氣なく起きて行くと、勝手もとの方から子守娘と叔母の家の長男の嫁とがコソ／＼話しながら、二つの目が自分に注がれてゐるのを見て、ハツとした瞬間昨晩のことを思ひ出した。何か云はれるかなとビク／＼しながら、まづい思ひをして朝食をすましたが、誰も何も云はなかつたのでホツとした。併しこれは全く自分で意識してやつたことではなく、ほんとに春期發動のある瞬間に偶然起つた所の無我夢中の、抑制し得ない行爲だつたので、自分でもはつきりそれに對して責任感も起らなかつたので、何時ともなく忘れて仕舞つた程の子供の時の話だが、今考

へて全く面白い不思議な瞬間だつた。

(五) 耳の感覺

音楽家の彼は耳が鋭敏だつた。「女が小便する時は其の音楽的リズムの中に、正に四ヶ國の名前を云ふ。」何故かと云ふに「耳を澄して聞いて見給へ、最初に「キシュ、ツデバ／＼／＼／＼」最後に「ビデン、ビチツ」即紀州、出羽、備前、備中だ。

あまり上品な話でもない。



スポーツと救護

青山外科對抗競技

九月廿三日、朝より快晴、選手の意氣益々舉り、早朝より續々醫局に詰めかけた。

八時になるやならぬに、張り切つてぢつとしてゐられぬ四、五名が三色旗を肩に早や先發する。

帝大グラウンドに来て見ると、白線鮮かにダイヤモンドが畫かれてあつて我等を待つてゐる、早速山上御殿にて身仕度を調べて練習を開始した。

我等の傍に敵軍も又バッティングを開始した、強敵と噂に聞いただけあつて、皆良い當りをしてゐるこれはうつかりはしてゐられないとひそかにふんどの紐をしめなほす。

九時二十分 醫局一同の聲援のもとに野球を開始した。

野球メモ

- | | | | |
|---|----|----|----|
| 8 | 長 | 坂 | 明 |
| 5 | 伊藤 | 國塚 | 野尾 |
| 1 | 大 | 中 | 山 |
| 2 | 島 | 藤 | 野 |
| 7 | 齋 | 古 | 溪 |
| 6 | 中 | 百 | 萩 |
| 3 | 萩 | | |
| 9 | | | |
| 4 | | | |

三回我軍俄然打つて出て伊藤君より始る連續安打三本と敵失一つに一舉に三點を得四回又敵失を利して一點を加へ四對零とリードして樂に試合を進めた、しかし敵もさるもの六回七回に一點づゝを奪つて我に迫つたが、そのまゝ我軍敵に乗ぜしめず四對二と押し切つてしまつて先づ一勝した。

何年かの間敵軍に勝を譲つてゐたこの野球遂に我軍の復仇成り、幸先良しと、元氣一杯、一同次の競技場たる帝大タンクに向ふ。

水泳メンバー

- | | | | | | | | | | | | |
|----|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 藤 | 比 | 藤 | 崎 | 留 | 島 | 村 | 藤 | 中 | 尾 | 原 |
| 1 | 伊 | 由 | 武 | 野 | 布 | 笹 | 田 | 齋 | 田 | 瀬 | 岩 |
| 2 | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | |
| 4 | | | | | | | | | | | |
| 5 | | | | | | | | | | | |
| 6 | | | | | | | | | | | |
| 7 | | | | | | | | | | | |
| 8 | | | | | | | | | | | |
| 9 | | | | | | | | | | | |
| 10 | | | | | | | | | | | |

一寸見ると薄氣味の悪い帝大タンク、水面を遙かに見下して鐵の柵につかまつて聲援する。

號砲一發、先づスターター伊藤先生飛びこんだが、二十米ターンにすでに三、四米おくれその後我軍練習不足かピッチあがらず、又ターン拙く、最後に瀬尾、岩原先生の力泳も甲斐なく、遂に約三十五米の敗を取る。

リレー・メンバー

- | | | | | | | | | | | | |
|----|---|---|---|---|---|------|---|---|---|------|---|
| | 原 | 原 | 平 | 口 | 留 | 藤(原) | 中 | 塚 | 坂 | 山 | 渡 |
| 1 | 藤 | 岩 | 小 | 山 | 布 | 伊 | 嶋 | 大 | 伊 | 藤(國) | 長 |
| 2 | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | |
| 4 | | | | | | | | | | | |
| 5 | | | | | | | | | | | |
| 6 | | | | | | | | | | | |
| 7 | | | | | | | | | | | |
| 8 | | | | | | | | | | | |
| 9 | | | | | | | | | | | |
| 10 | | | | | | | | | | | |
| 11 | | | | | | | | | | | |
| 12 | | | | | | | | | | | |

ボートが先づ勝味がないと云ふので、このリレーが勝敗の分け目となつた、足が早く、しかも押し

のさく藤原先生をトップとして、先づスタートより敵軍をおさへんとする我軍の策戦圖に當り、敵のトップ、藤原先生の頑固さに顔負けしたか、轉倒しその爲我軍皆樂に走つて尙三十米を離して、悠々と勝つ。

以上にて二勝しテニスカボートに一勝せばカップは我が物と、先づ／＼ほつとした。
庭球とボートは午後に行はれることゝなつて、山上御殿にて、すしの御馳走になつた。

ボートの選手は一時に出發した、その他の者はテニスコートへと向ふ。

ボート・メモバー

藤原村	留	齋藤	伊藤	布	Cox
島岡	藤原	伊藤	伊藤	伊藤	S
大藤	大藤	大藤	大藤	大藤	5
2	2	2	2	2	4
B	B	B	B	B	3

此の日はあたかもインター・カレッジの當日だつたので言問でレースをすることが出來ず、殘念であつたがしかし船が不足の中を帝大の方の御好意と、御骨折りによつて東京火災の船を借ることが出來たのは幸甚であつた、かくして水神より鐘紡まで六百米のコースによつてレースを行つた、我軍大いに力漕につとめたが遂に一艇身おくれ涙をのんだ。

テニス・メモバー (テニスの部参照)

塚樂	中尾	林	山田	野江
森	森	若	古島	中釜
(大明)	(田萩)	(若)	(古島)	(中釜)

大接戦の内に明樂組勝ち、つゞいて田中組が勝を取つた頃、ボートへ行つた連中が引きあげて來て敗戦をもたらず、かくなつてはこの一戦こそ天下分ケ目と、大いに張り切り、若林組又勝つて遂に勝負を決めた。

斯くして遂に三年振りに、青山、茂木カップは我が手に歸し、一同思はず凱歌を奏す。

續いて山上御殿に於て、青山外科御主催の懇親會が催された、運び出されるデョッキの數々に快く酩酊し、歡談盡きる所を知らず、宴半ばにして、優勝カップが敵將の手より我が軍の異彩H君に渡された、感極つたS先生この大盃にて乾杯し快哉を叫ぶ。

宴果てた後、幸樂にて祝勝會を催す、優勝カップをめぐつて亂舞又亂舞、遂にカップは入院の憂き目を見るに到る。

病院へ引きあげた一同、茂木部長宅へ御報告に伺ひ、ビールの御馳走にあづかり、F先生を音頭取りに、東京音頭でメートルをあげ、部長宅を騒す。

尙元氣餘れる一同は二次會へ、三次會へと、夜の更けるを忘れたと云ふ。

◎ 醫 局 庭 球 便 り

△ 醫局庭球リーグ戦

毎年勝つ／＼で勝つた事のないのが外科、併し今年こそどんな事があつても優勝すると云はれたのも外科、それ程今年は優秀な新人醫局員が澤山入つたので大いに元氣よく第一回戦小兒科と争ふ、所が三―〇とは餘りのみじめさ、涙も出ない、ましてメムバー等。

△ 對青山外科庭球

此の日此のテニスがカツプの分れ目となつたとは、お蔭でコートは觀衆に埋り、野次大いに飛び試合氣分満點、この花々しい場面にて昨年の復讐をせんものと選手一同の意氣大いになる。

明樂、大塚トップをうけたまはり、例の圖々しさにて簡単に2ゲーム取りたるも次の2ゲーム大塚上り氣味にて凡失多く、ゲーム、カウント2オールとなる、いよいよ最後のゲーム觀衆かたづをのんで野次も飛ばない、しかし流石は古豪明樂俄然確實に打ち、大塚も又これに氣をよくして振り四―〇にてゲームを奪ひ一勝す。

萩尾、田中トップの優勝に氣をよくして、十分に技のさえを見せ簡単に三―〇にて勝つ。

若林、森、相手は若林君の弟君、兄貴の貫録を充分見せ、それに後に闘將島田、古山あり新進釜江中野の二組が控えてゐることゝ樂々三―一にて優勝す、流石に若林君のテニスには卒がなく、森君

昔忘れぬ腕のさえを見せ、観衆をやんやと云はせる。

かくして三—〇にて優勝して一同面目を施すと同時に青山茂木カップを三年振りにもつす。

かく優勝するにあたり暑中炎天下に部員一同を勵まし共に汗して下すつた百溪、橋本、照井。伊藤（國）、小平、山口、高橋諸兄並びに應援下さいました諸兄に厚くお禮申し上げます。

△暑中醫局へボテニス大いに振へる事（銷夏法の一方面）

七、八月は誰でも暑い、暑い／＼でひつこんでゐても暑い、そんならいつその事外へ飛び出して思ひ切り暴れて汗を流せと云ふのが事の起りて俄然テニスが流行した、意氣なブレザーコートを着て出掛けるのがM先生、草履をはいてボソ／＼走るのがH先生、その他A—B—C—D……いづれもあま

球場はロートワインで

盗聖し

りうまくないのが特徴で、打つたボールは或は高く或は低く飛び廻る、それでも一週間二週間とやる間に下手は下手なりに當りが出て来て又面白くなつてやめられない。

ぐつしよいかいた汗をさつと流し落し醫局でビールを飲む時の快さ。

こんなことがとうとう九月まで續いたとは嘘の様な本當の話。



醫局野球便り

我が外科の野球は毎年優勝後補として呼び聲高く、敵陣を脅かしてゐる。そして蓋をあけて見ると武運つたなく、昨年は一回戦で東校舎に、一昨年は決勝戦に小兒科に無念の涙をのんだ、本年は長坂君、大塚君、萩尾君、中野君等の名手を得、百溪先生を監督とし意氣大いにあがり、これこそ本年度の優勝後補として恥しからぬ統制あるチームが出来上つた、別館脇の新グラウンド完成を期とし、先づ青山外科對抗競技を目的として練習を開始した。

十月廿三日

對 青山外科

長 坂	8	伊藤(國)	5
伊藤(國)	5	大塚	1
大 塚	1	中 藤	2
大 齋	7	山 野	6
古 中	3	明 樂	9
百 溪	9	萩 尾	4

四對二

大勝

十月四日

對 東 校 舎

伊藤(國)	5	大塚	1
大 塚	1	中 藤	8
大 齋	6	山 野	1
伊藤(原)	9	明 樂	2
山 野	2	林 尾	3
若 萩	7	萩 尾	4

六對一

大勝

リーグ戦の前哨戦として兩軍大いに張り切り健闘し、敵軍遂ひに我が威力に届す。

十月十一日

對 傳染病研究所

於目黒植物園

長 坂	6	伊藤(國)	1
伊藤(國)	1	大塚	6
大 塚	1	中 藤	8
大 齋	2	山 野	7
明 樂	8	林 尾	9
若 萩	3	萩 尾	4

十五對零

大勝

敵は帝大にて強剛を以て知られた傳研チーム、されど我が軍の打力大いに奮ひ十四本の安打と七個の四球を得て快勝しいよいよ自信を強めた。

十月十七日

醫局對抗リーグ戦第一回戦

對 小 兒 科

坂	6
塚	5
中	1
藤	2
山	8
古	3
野	7
口	9
原	4
尾	

五對零

大勝

前日の憂鬱なる天氣に引きかへて、この日は將に快晴天高く氣澄み、この事實上の決勝戦とも云ふべき對小兒科の試合にまことにふさはしい良き日であつた。

午後二時河合審判のプレイ・ボールによつて試合の幕は切つて落された、我が軍は強氣に出て先攻を取り一回一擧に三點を獲得して意氣大いに擧つた。

四回我が軍古山君をピンチ・ヒッターとして出さんとした時敵主將和泉先生より抗議があつて、先年小兒科於ても福島君を遠慮さしたから、外科の方も何とか考慮して呉れと人情に訴へて來た、百溪監督も人情に訴へられては喧嘩にもならずいさゝか困つたが、流石は千軍萬馬の古山君少しも騒がず「僕は兵隊ぢやない、將校です」

「兵隊も將校も同じぢやないですか」

「いや違ひます、將校は兵隊ぢやありません」

「……………」

和泉先生遂に何が何やらわからなくなつてしまつて古山君の出場を承諾する、古山君欣喜雀躍バツター・ボックスには入つて打つたのが本壘打と云ひたいが三振した。

其の後大塚投手の調子益々良く敵に乗ずる隙を與へず押し切つてしました。

百溪監督より豫めお達しがあつて、小兒科の如きに勝つても、徒らに喜んではならぬとのことであつたので、一同苦蟲を噛みつぶした様な顔をしたつもりで（その實皆ニコ／＼してゐた）醫局に引きあげた。

其の夜幸樂で會食をした、（決して祝勝會ではない、）一同同じことを繰り返し／＼話をして少しも飽きず、議論をしても喧嘩にならず、ビールを飲むのも忘れて快談數時間に及んだ。

十月二十二日

醫局リーグ第二回戦

對 藥物醫化學軍

坂	6, 1	塚	1, 8	中	2, 6	平	9, 3	野	7	尾	4, 9	林	3, 4
藤(國)	5	藤	8, 2	藤(原)	5	野	4, 9	尾	3, 4	林	3, 4	林	3, 4
長	伊	大	百	島	齋	小	古	伊	中	萩	山	若	

八對一

大勝

この日は丁度早慶戦の當日であつたが、午前九時より試合を開始した、敵投手は前年の我が投手であつた布留先生、和氣靄々の間に我が軍程よく打つて勝つ、途中から調子を下げた敵に一點を與へたのは返す／＼も残念なことであつた。

十月二十五日

醫局リーグ決勝戦

對 東 校 舎

坂	6	塚	1	中	2	山	8	野	7	林	4	尾	9
藤(國)	5	藤	8, 2	藤(原)	5	野	4, 9	尾	3, 4	林	3, 4	林	3, 4
長	伊	大	百	島	齋	小	古	伊	中	萩	山	若	

八對零

優勝

この日特筆大書すべきは敵のノー・ヒット・ノーランであつたことである、我が軍の優勝を飾るに全くふさはしい記録である、尙敵の壘に出でたるもの僅か四人、三壘を踏みたるものなしと云ふ有様であつた。

ゲーム・セットの聲と共にI先生別館屋上より大旗を下げる、曰く外科優勝萬歳
一同醫局に引きあげて婦長御馳走の鳥飯に舌鼓をうち乾杯。

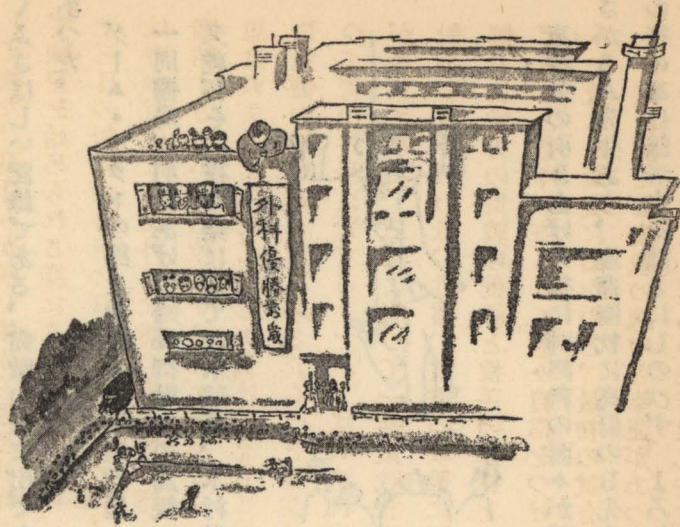
又乾杯その夜幸樂に於て茂木部長、木村教授、町田助教授の御出席を得て盛大なる祝勝會が催された。



宴半ばにして、同夜同所にて慰勞會を催してゐた東校舎の一同が川上教授を先頭に押しよせた、我又これに應じて暫時共に東京音頭を踊る。

我がH先生感激の餘り川上先生の顔を嘗めまわす、川上先生泣き笑ひの體にてSOS。

東校舎の引きあげた後に神経科の面々が顔を見せた、その頃は早や亂闘の巷でシャンデリアにぶらさがるA先生あり、座蒲團枕に高野のB先生あり、腰を抜かしたC先生あり、いやはく落花狼籍、その後の事は筆者之を語るにしのびず、よろしく御想像にまかせる。



野球は如何にして優勝したか

野球 定九郎

青山外科を始めとして醫局リーグ戦にも優勝して外科の野球は旭日昇天の勢にある。リーグの決勝戦を見た人は如何にも引緊つた氣持ちのいゝチームを見出した事と思ふ。どうして此處チームが出来たか微か何とか貝に近きものを吹いて見よう。第一に歴史である。外科の野球團は決して弱くは無かつた其の昔三度許り優勝した事もある。代々器用な人が多くて最近は何時にも優勝後補であつたが、どう言ふものか惜しい處で長蛇を逸して居た。

今年は何館裏に一寸小綺麗な運動場も出来たし數名の素質の良い選手も加はつたので、何となく無敵チームが出現する時機が來たのでは無いかと言ふ様な氣が

して來た。夏休みが濟む頃から運動場が地慣しを終つて九月十六日の運動場開き前にはぼち／＼個人で練習を始められる様になつたけれども、未だ外科のチームは誕生して居なかつた。いよ／＼九月二十三日の對青山外科の日取りが定つた頃チームの組織を如何にするか問題にされる様になり、今年野球だけは青山外科に勝つ事が第一の問題であると思ふ様になつた。其の當時チーム全體が一致團結する力がどの位強いものであるかと言ふ認識は餘り明かだ無かつた。今迄の經驗上試合の最中に思はぬ失策を生じて惜しい負け方をして居たので萬全の準備を以て備へ、計畫的に事を運んだなら後に遺憾の無い試合が出来るだらうと豫想された。醫局内の對抗試合や他の醫局との練習對抗試合に依つて青山外科に對するメンバーは次第に定り、バッター順も打力と走力の順に次第に無理の無いものが生れて來た。三階に集つて一應策戰會議を開いて守備の際の連絡對手バッターのマークすべき人々對手の投手の力量、性質、當方の攻撃に對する一致した主義等を取定めた。更に或人の勵めにより本郷君に當方の策戰の批評と投手の撰擇をしてもらつた。色々細い點で得る處があつたし策戰等は隱當であるが烙印を捺されて愈々自信をつける事が出來た。青山外科の場合攻撃に於ては打撃についての併み一致した策戰に出たのと、最初の試合であつたので得點に就ては成功したとは思はれ無かつた。併し守備に於ては策戰の適中と幸運があつた。即ち大塚の速球は長打される懼れがあるので外野にも主力を備へる事を忘れ無かつた。果して左中堅に約六七本の長打を飛ばされたが、幸に帝大の廣大な運動場であつた爲に難なく是を喰止め得た。反對に地面の凹凸は可成り甚しかつたに對し當方は匍球を

以て報じたので相手の失策を多からしめて幸にも凱歌を擧げ得た。此の試合には未だ選手は精神的にも技術的にも幾多の不慣れがあつたので上々の出来とまで行かなかつたと思ふ。

十月十七日の對小兒科の試合迄には度々練習試合をして色々の經驗を得た。其の中で最も重大な點は攻撃に於ては打撃と共に盜壘を甚しく重んずる必要のある事を氣付き、一致して走壘する策戰を取つた。此の策戰のテストに用ひられた傳研は七回戰で十五對〇の憂目に會はねばならなかつた。小兒科に對した時は守備に於て自信があつたと共に今迄の單なる攻撃と言へば打撃といふ考へを改め、少々異つた意味での攻撃即ち得點に對する自信を持つて居た。併し初めて勝たうと言ふ試合であるので選手の氣持ちは樂では無かつた。守備に對しては運動場の狭い關係上外野の兩翼には捕球よりも寧ろ打力の秀れた人を配し、遊撃と一壘に守備範圍の廣い人を置いて外野の缺を補ふ事にした是によつて攻撃に於ては打撃の秀れた人を大體に於て全部揃へる事が出来た。勿論速球投手の奥田君が出るか緩球投手の田村君が出るかで此の攻撃の策戰には多少の喰違ひを生ずるのであつた。戰ひに於て攻撃は全然裏をかゝれた奥田君は一夜にして豹變して緩球投手となり我軍の打撃は完全に封じられた。最初に三點の得點が無ければ此の陣容は不安の内に途中で變へねばならなかつたと思ふ。大塚の投球は畠中君の好助を得て次第に巧妙さを増して來た。勿論後助の後を務むる長坂緩球投手も練習試合に於て相當な出来である事が解つて居たので大塚の連打さるゝ事は五回以後に於ては差支へない事になつて居たが其の心配も無く最後迄投げ續けた。

准決勝の藥醫軍は我チームが次第に昇り坂になつて居る際に、かゝる弱軍と試合して倦怠する事を恐れた決勝戦が近いので四五回は大塚の肩ならし、後は長坂の肩慣しに用ひ試合の後半は全然遊戯慰勞の陣にして了つた。

十月二十五日の對東校舎決勝戦は我軍の最も整頓した陣容にあつた。對手としても不足は無く眞に實力を試す時と思はれた。併し残念な事には鴨打投手は無理なカーブを投げた爲肘を痛めて中頃にして其の位置を讓る憂目にあひ久保田君の苦心は水泡となつた。我軍の大塚投手の出來は完全に對手の打撃を封じ、たま／＼の好打は好守によつて消散し、二壘を踏む者二者に過ぎず。反之我軍は安打十本を以て報い完全に勝利を把握して了つた、投手以下の守備と言ひ攻撃と言ひ最も高潮に達した我軍の陣容を現出し長年の夢は此處に事實として現した感があつた。

投球と言ひ捕球と言ひ、打撃と言ひ走壘と言ふも、投げんとする者あるも捕けんとするもの無くば野球は成立しない。走壘せんとする場合打者は是を助けざれば思はざる失策を來す。人の一致せる行動の重んぜらるゝ野球に若くものは無い。勿論何人も知れる處ではある。然しこの僅かの心掛けが斯くも重大なる結果を生じ、斯くも強力なるチームを生むものである事は豫期せざる所であつた。策戦に對し選手は何等介意する處なく一致團結し、醫局員諸兄は多大の後援ををしまざりし事は此の精華を完成せしめ又續かしむる最大の原因であると信ずる。

本シーズンに於ける外科チームの戦績

長

坂

「敗軍の將何をか語らん」とは違つて常勝の將大いに語らう。併し主將どころか今年はいつたばかりの一兵卒が先輩諸兄のいらつしやるのにも厚かましく、本シーズンに於ける我が外科野球部の戦績等に就て少しく語り度いと思ひ筆をとつた次第です。併し醫局の皆々様は野球技や野球術についてはよく御存知の方々ばかりで小生の批評の如き甚だつまらない事ばかりだとおつしやるでせうが、よく知つてゐる様で知らないのが世の常と申しますが、全くその通りで一つ二つお氣にとまりましたら幸甚と思ひます。

本シーズンに於て青山外科との試合に勝ち、醫局の野球に優勝したのは我が外科が相手より強かつたからだつたに違ひないのです。何故に強かつたか？そこに團體競技たる野球の中に色々ときざまれたる要素が相手より一般に優れてゐたのです、偶然の然らしむる所では決してないと斷言できませう。先づ第一に外科野球部の主將の出來た事。主將のないチームと云ふものは無いけれど、チームを立派に統率するに足る主將が居なくて強いチームは殆ど一つもないでせう。幸運にも畠中副主將が戦術方面に補佐した爲にますます輝きを増した感が深かつた。この主將こそ誰も知る脊の高いあごの長

い講師云はずもがなである。

第二に新グラウンドが出来た事。グラウンドが出来た事はどの科にも好都合な条件の一つに違ひないが我が外科は他と違つて世帯が非常に大きく、他のグラウンドで試合したり又練習したりすると手術等でどうもまとまりが悪い。幾ら良いテクニクを持つてゐても練習しなければ駄目だ。下手なものでも練習したものには確實性に於て叶はない。幸にも新グラウンドが出来てよく練習出来た事は優勝の一大原因と考へます。

第三に外科チームの各人が眞面目にプレーしたる事。今迄のうわさに依ると外科チームは優秀なプレーヤーがあるが何故負けるのだらう？と聞いてゐた。それは恐らく眞面目にプレーしなかつた事が一大原因だと想像してゐます。例へばボンフライを打ち上げる打者はバットを投げすてゝ走らない。之は今迄でしたせう。今年は必ず夢中に迄ゆかずとも相當に眞面目に駆けた。神ならぬ人間の事には必らずエラがある。このエラを生かす事そこに野球の眞に面白味のある所でせう。相手の失敗を喜ぶはスポーツマンライクでないと云ふかも知れませんが、こちらが眞面目にやつて得たエラは實に立派なものとは私は考へる。その際に二壘、三壘に走者が居ようものなら悠に二點は得らる。亦眞面目に走ればフライよりもゴロを打つた時の方が遙かに有効である。何故かと云ふにフライはプレーヤーが捕るか否か一度しかかないがゴロを打てば先づプレーヤーがゴロを捕るか否か、そのプレーヤーが上手に投げるか否か、次に一壘手がそのボールを上手にキャッチするか否かの三點にある。即ち三倍

の生さる率がある。その上打者が夢中に走ればプレーヤーがあわてゝ失敗する可能性が増す。これは単に一例にすぎないがこの様に眞面目にプレーした事は外科チームが他と較べて少しうぬぼれてよいと思ひます。

第四に外科チームが非常に元氣だつた事。外科チームは昔より元氣だつたと聞いてゐますが、今年とは他と較べてずつと元氣でした。と云ふのも若いのが揃つてゐたと云ふ事もありませう。「元氣を出せ」と云ふ詞はよく云はれる事でありながら中々實行し難い一つなのです。元氣の爲に例令弱くとも立派に強者を負かす事が出来るのです。

第五に非常によくまとまつてゐた事。試合に勝つ爲には單にグラウンドでのみでは駄目でせう。普段よくまとまつて氣が合つてなければならぬ。その現れとして今度は試合の度毎に三階で作戦會を開いて相手を研究し又味方の弱點を云ひ合つて直す様にした。この集りには誰も缺席する事なく如何に外科チームが張り切つてゐたかを見逃す事は出来ない。

その外未だ色々とありませうが重なる事はすんだと思ひます。ですから外科チームのやつた試合の方に筆をすゝめます。

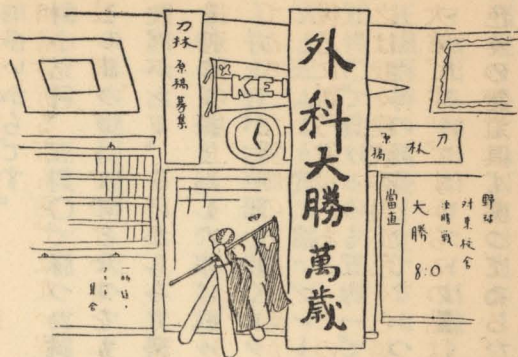
對青山外科、四對三で勝つた。

この日の策戦は初め待球主義に出た。青山外科の清水投手はさるものどんく眞中を投げて來る。二回目には走者を二人も出して置きながら待球主義が餘り嚴格すぎて失敗した。三回目より策戦を變

へて第一球より打ち出した。之が見事成功し三點を得た。そしてこの日の一大勝因を作つた。この日投手大塚君の出来がよく清水、小原氏等を相當に抑へたのは偉とす。確か四回目位でしたと思ひますが、この時メンバーを變へようとしたのですが、かう云ふ時即ち味方が張り切つてよい調子にある時は決してメンバーを變へるものではない。ひどく點數の差があれば別ですが三對一位の時にはその儘で押し切る様に努力すべきであらう。と云ふのはかゝる時メンバーを變へた爲に敗因を作る場合が比較的多いからです。

對小兒科、五對〇で勝つた試合です。

この日の勝因は何と云つても第一回の三點がものを言つてゐる。即ち長坂、大塚を四球に出した所に敗因がある。それから小兒科チームが比較的スピードのある大塚投手の球をいつもの癖か長くバットを持つて振り廻した事は我々にとつて有難かつた。第九回の裏に染谷君がヒットで一壘に出る。ついで井上君が右中間を抜くヒットで出た。その時染谷君が一舉本壘迄走つてアウトとなつたのは氣の毒だと云ふより實に拙いプレーだつた。小兒科に云はせれば一點を取りたかつたと。併し試合する以上五對〇で負けるのも五對一で負けるのも勝負には變りがない何故最後迄勝たうくと云ふ意氣込みで五點獲得の計畫を立てなかつたのか？ 染谷君が三壘に停り一アウトで走者一壘、三壘となる。ヒットが出る時にはヒットは續くもので亦エラも續き易い。その上投手がくさるからこの所自重して五點計畫を企てれば或は成功したかも知れない。



對藥物醫化學、八對一で勝つ。

之は實力の差如何ともし難く外科の勝利は順調であつた。この試合は決勝戦を三日後に控へての試合であつた。この時第二選手を出す或はボデンションを色々に變へて出す等と云つてゐたが初めよりメンバーをちやんと整へて真面目に試合した所による所があつた。兎角油斷大敵とはよく云つたもので初めの失敗が最後迄たゞり敵は調子にのり最後迄押し切られる事がまゝある。この日は正メンバーでやつて堂々と勝つたのは賞するに足る。

對東校舎優勝戦、八對〇で勝つ。

この試合には何んと云つても大塚君の出來のすばらしいに較べて鴨打君が腕を痛めてスピードもカーブも大した事なく、その上コントロールを失つてゐたのが一大要因でした。こちらではヒット性のボールが打たれても古山若林君がよくつかみ、その上左翼中野君がボールが打たれても古山若林君がよくつかみ、その上左翼中野君が

金網にぶらざがる様にして捕へた等偶然と云ふより練習の賜と考へたい。
 去年よりは今年、今年よりは來年と進歩のある所に我々の生活の價値がある。外科のチームも尙一層進歩への道をたどつてほしい。かゝる爲に弱點を改め長所を生かしてほしい各個人に就て弱點を一つ一つ述べようと思ひましたが恐らく自覺して居て述べる必要もないと思ひましてやめる事にしました。終りに望み外科チーム並びに醫局全諸兄の健康を祈つて筆をおきます。(八、十一、十)

〔摺筆にあたり終始御鞭撻を賜りたる百溪講師に深謝す〕と入れないと又カッパが毀れちまいます。

(校正係)

新運動場

長 坂

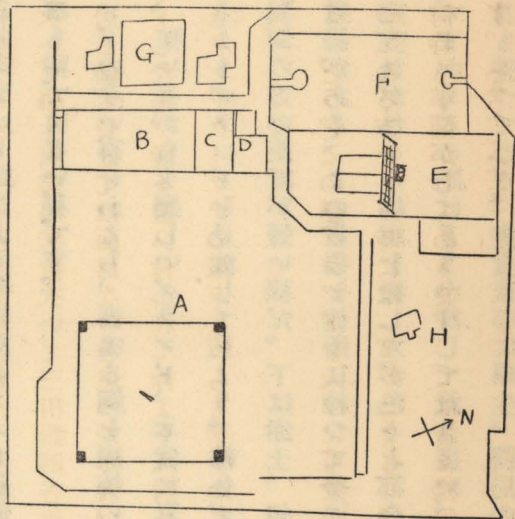
皆様御承知の様に醫學部敷地の西に位し、豫防醫學教室と別館との間に我々の新運動場が建設された、九月十六日のグラウンド開きより今日迄グラウンドを使つてない日はなく、グラウンドの使用權を得るに相當骨折る事も稀ではない程です。

長い間グラウンドのない事をおこち、高鳴る腕を病棟の庭や道路で僅かになぐさめてゐたその時に出來たグラウンド、狭いながらも楽しいグラウンド、本當に私達の大なる喜びであつた。

別館の屋上よりグラウンドを見渡して見よう。綜合グラウンド之は云ふ迄もなく主に野球の爲に使はれてゐる。左翼側の方の距離が短い様だ。下は赤土、相當平坦だ。併し神宮球場と迄はゆかぬ。左翼の後ろに新弓道場がある。この道場を他所に持つてゆけばいゝだらうと誰も考へる。成程さうだ。併し之は我々建設委員が色々場所を探したが色々都合が悪く仕方なく弓道場は現在の所へ聳えてゐる次第です。ですからこの點はどうか許して戴き度い。その變り弓道場は日當りもよく、立派な道場で色々の諸道具も整つてゐる。晝食後等に學生、醫局の方々が楽しそうに那須の與一を決め込んで白

的に向つてブツス〜と云ふ音を立てゝゐる。同じ建物の後ろ半分が一般更衣所になつてゐる。
 グランドの一番すみに籠球場がある。新らしい試みとしてアスファルトのコートだ。元氣潑潑たる
 若者恐らく部員の猛練習と見へる。猛烈なスピードで縦横に走り廻つてゐる。

籠球場の手前に豫防新設テニスコートがある。相當によいコートだ。二人の教室員がのんびりと球



- A 総合グラウンド
- B 弓道場
- C 射場
- D 一般更衣場
- E 豫防テニスコート
- F 籠球コート
- G 汚水處分所
- H マラリヤ小屋

を打ち返してゐる。この小さいながらも相當充實したグラウンドは容易に出来上つたのではない。一二年前から委員長前田和三郎先生以下我々運動部關係者が色々と案を練り、醫學部長始め諸教授、諸先輩や學生も入れて約八百圓の寄附金を集めた。之れと今春體育會四谷部が生れ體育會より千圓以上の金に合して作つたのでした。

九月十六日には盛大なグラウンド開きが催された。林塾長、北島醫學部長も見へて華々しい國旗掲揚式が先づ催され次いで學生對醫局選抜次いで三田對四谷の先生の野球試合であつた。四谷群多くの學生、看護婦連の居る前で負けては面目ないと思つたか大いに張り切り加藤教授の満塁の時の二壘打もあつて斷然リードしたが、段々追ひ付かれて仲よく八對八の引き分けになつたのは面白かつた。

その後ビールとサンドウィッチの粗末ながらも華やかな立食會が始まり新グラウンドを見つめて跳り上つてゐた。

醫局の皆様方！ どうぞこの新グラウンドを大ひに可愛がつて使つてやつて下さい。溫和しく研究室にのみ閉じこもつてゐる方々……時には Helio therapie の積りていらつしやるのもよいでせう。野球弓バスケツト等何時も準備がしてあります。では皆々様の健康を尙一層の健康をこのグラウンドと共に祝福したいのです。(八、十一、十五)

弓道場の話

(有 鈎 攝 子)

左翼に放つた大きな當りは打者にとつては物足りなく、バックして受取る自信のある外野手にとつては又々残念至極な事であらう。弓道場の爲にグラウンド左翼の狭められたといふことになる、弓も野球もどつちもやらうといふ人は甚だ遺憾な顔付きをせねばならぬ。

が兎に角、今秋はグラウンドのお蔭で皆顔色もよくなるし、野球の話だけでも我醫局は活々としてゐる。別館が出来て病室が増え、四階に登つて見晴しも出来れば、又狭いといつても運動場で樂しめると共に、弓黨は又甚だ心地良い弓道場を作つて貰つて大喜びである。

「正己而後發」北島先生の書が道場に掲げてある。北島先生の文句ではなくて、昔からの弓の精神を云ふた語であらう。良き手術者は心を落付かせて而して冴えたる腕を見せる。我田引水の感あれど弓道に於て正に然りである。弓道が心の鍛練として斯くまで好適なる上に、那須の與一の如き純然たる對抗競技となつた事もあるからには今日のスポーツマンも宜しく一通り心得置かるゝがよからう。

道場には時々三田の師範も来るし又學生連中に仲々上手なのが居るから何時でも教へて貰へる。特に醫局員の爲に暮れてからも引けるようにと電燈の設備もある。寒風身に浸む頃となつても、片肌ひるげ、臍下丹田に氣を修めて満と引きしげれば、中らずと雖、身心爽快となること夢々疑無し。

その昔三階の汁粉を賭けて的の黒星を狙つた方々は、四階のどうにでも賭けて、一つ始めませんか？

三四會運動會

秋の運動シーズンも終らうとする十一月二十二日我が三四會の運動會が行はれた、プロフェツサーのレース等仲々面白いものも見られたが、我々の最も力を入れた對醫局Aクラスリレーはグラウンドの觀衆（餘り多くないが）をうならせた。

午後四時スタート。藤原君スタートダツシユ物凄くも僅かにリードさる。コーナーにかゝるや對手の内科、婦人科を押へて二米をリードしてバトンを畠中君に渡す、畠中君之をその儘持つて齋藤君に渡す時このバトンタッチに際し僅かに婦人科に再びリードさる、婦人科も仲々強い、續く軍醫中尉は古山君、小男の萩尾君、土佐の猛將岩原君、夕陽の蔭を蹴散して手に汗を握らせる、次の走者大塚君にバトンが渡るや十米の差を縮めて五米とす、次の伊藤國君とのバトンタッチ宜しくこゝにて逆に婦人科を五米離す、更に長坂君によりこの差を二十米とし、最後の百溪君フォーム宜しく悠々と約三十米を離してゴールインす。「唯今の一着外科、タイム〇〇分〇〇秒、二着婦人科、三着内科」場内のアナウンスだ賞品のビールの箱を臺に野球優勝杯、リレー優勝杯と並べて夕闇迫る外苑のトラックに外科の萬歳を三唱す。

昭和八年

富士山救護座談會



人 外科醫の卵 拾餘名

時 昭和八年十月 或雨の降る日

所 新宿のとある dining room ホールの一隅を仕切つて真中の食卓には白布の上に草花を飾る。一同此を圍

んで着席。今は皿の上には扭れ麵麩のみであるが追々酒肴現はるる氣配。忽ちに饒舌が始る。喧々囂々又饗々。

「飲んだ奴居るかい。五合目の酒は酷いな。」

「あの酒はさう悪くはないよ。頭には來ない。」

「その代り足に來るんだらう。」

「松茸が一貫目百八十圓だつたからね。」

「嘘だろ。」

「僕は食べたよ。いゝや松茸をさ。」

「君の頃は廉くなつてたんだ。」

「俺は毎日オニクの風呂へ入れられたよ。先生は體が悪いとかなんとか言はれてね。お風呂へ這入つてると背中を流しませうと来るんだ。」(嬉しさうにO)

「いや俺もさう言はれたぞ。」(笑聲)

「G: 君の砂滑りは凄かつたんだよ。言はうか。」(K 醉顔にて chi を窺ふ)

「實際へばつたよ。apathisch で何も分らなくなつてしまつたよ。ハハーと成つてしまつた。」

「太つた俺が立つて歩くのに、チョコさんも縦になつて歩くと思ふから。」

「K が五合へ着いた時。E: ちやんは未だ三合目だつたつて言ふがね。」

「何しろO に少からず負けてるよ。O 先生に宜敷々々つて言はれるんだもの」(一同O を顧る)

「俺には些つとも言はなかつたが、何か悪い事を爲なかつたか。」
「否その頃は餘熱が冷めたんだよ。」



「八合目の郵便局長の奴が面白いんだ。彼奴迎も救護の助手をやりたがつて。」

「兎に角、女學生つたら、注射を一筒宛打つた人があるんだから。」（一同Sを顧みて爆笑しばし）

「毎年人が死ぬなんて事は無かつたさうだが、今年はあつた。高山病の酷いのに會つたのは誰？」

「内科のg君が會つた。俺は Magenkrampf の妻の奴だ。」

「俺の妹が行つた時は妹は元氣だつたが、妹の友達がぶつ倒れて脈が殆んど觸れない。」

「結局山を下げるに限るね。俺がさうなんだ砂走りを降り始めると頭痛が無くなつて来て、五合へ着いたらすつかり癒つたね。」

「お金ちやんが居るせいだらう。」（笑聲）

「あれは別だよ。」

「お金ちやんと小御嶽へ行つたよ。」

「だからフラウが怒るんだよ。」

「ブレと一緒に下りたら濯ぎの水も出さないで、お金ちやんぶんとして」（一同思はず大聲）

「や、あれは貴様酷い。五合で待つてるのになか／＼戻つて來やあしない。」（尙笑聲鎮まらず）

「お鉢廻りをして居てすつかり遅くなつちまつた。」

「話は違ふが、Iが非常にいゝんだつてね。八合で介抱を受けた女子醫專の生徒が、友達が先に下りても歸らないんだつてそして下迄送つてくれと言はれたんだ。」

「東京へ手紙が来るさうだ。」（諸君心配無用I君は内科の先生である）

「俺は往診料を取り残してるが。」

「そりや請求しろよ。愚圖々々言つたら縣廳の學務課へ出せ。本當に取る権利があるんだよ。」(と盛んに示唆する

聲)

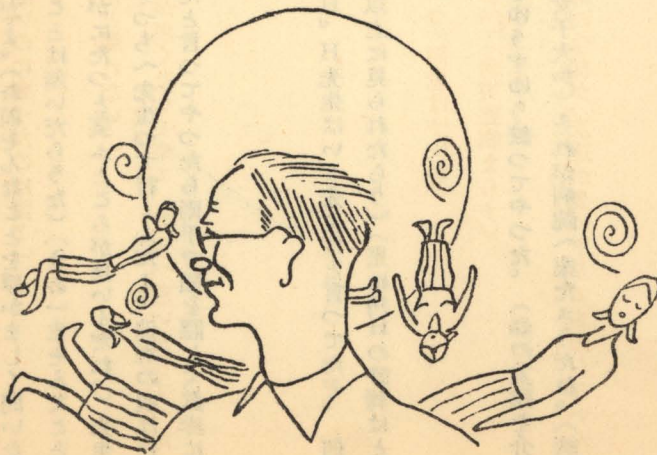
「さあこの位にして残は各人が何か傑作を一つ宛話すことにし様ぢやあないか、先づ席順にW君から一つ始めたらどうだろ。」

W君

「啞で盲の夫婦が登山したんだ。(どちらが盲人だい) 兩方ともなんだ。(ぢや聾ぢやないか。それから) 二人で下山してる時石が降つて來てフラウの首に當つたんだ。それをマンの方は識らずに五合迄下つてしまつたら、人に言はれて氣が付くと、フラウの首が自分の背中にくつついたつていふんだ。(本當は脳味噌なんだな。それが首になつたんだらうな)(頭は着いてたが齒が無かつたから話したつてね)(そりや實話だよ。)

S君

Der Heiland



(甘い話しもあるだらう) それもあるが怒られるからな。(心配するな怒りはしないよ) 何しろ俺の時は毎日女學生が二百人以下といふことは無いんだからね。(腕を振つたかい) 割に重い高山病が多かつた。女學生だからでも無いんだよ。Pubertat だろ。そして皆んな Menes が早くなつてゐるんだよ。(お前そんなことを厚かましく聞いたのか) (おい) 男の一生長しと雖も Menses の手當をするなんてことは無いだらうな。(まあ一生そんなことは無いね。よくやつたね。S はにかむな。それは實際の人助けだ) (S がにたつと笑ふところが良いんだね。) 先生と言つたら俺の時は巡查と隣り合せだろ。巡查は體が逆も良いから、そつちへ先生つて行くんだよ。巡查の奴は逆も生意氣なんだ。何處が悪いねと言やあがつた。診て貰ふならこつちだと言つてやつたら兩手で顔を隠して眞赤になつた。

H 君—

俺の時は駄目だね。雨ばかり降つて(失禮だが何歳に見られた)(おいH。H 先生はいゝ先生だと言つてたぞ。何かいゝ話がある譯だな)(俺の事は三十五だと言つたぞ。H なんぞは俺以上に見られたらう)(兎に角Hの評判はとも良かったぞ。)

S 君—

八合の下の奴は感じが悪いな。いゝ加減の勘定書を持つて來たから。ぎゆうぎゆう絞つてやつた。(妹の友達を介抱した話はないかね) I は凄かつたよ。斷然信用があるんだ。(それが女子大か) それが病院へ來たさうだね。(嫉みな嫉みな)

N 君—

いと平穩無事かね。リス捉へた話位のものやな。リスやない兎の仔や。リス捕りに行つて兎を捉へた。生きてたら捉へて飼つてやらうと思つたんだが。色氣の話なんか些つとも無い。

K君—

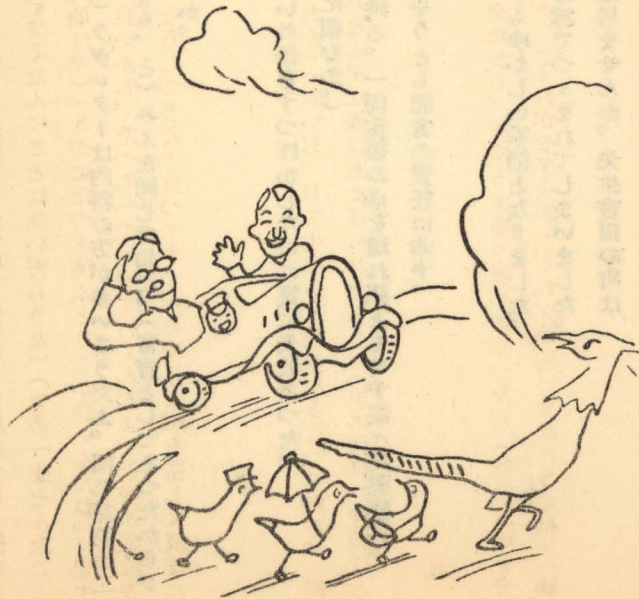
何んにも無い。あゝさうだ。自動車で裾野を走つてる時な、何か道の行く手へ現はれて横ぎるものがあるぢやあないか。よく見ると雉の親が仔をつれて行く。(仔が先きかそれとも親が先に歩いて行つたか。)親が先きに立つてたよ。(ほう、本當らしいな)

chi君—

俺は山に参つたんで。お金ちゃんでは無い。(お金ちゃんは處女だらうか)、救護に行つて救護され。正にその通り實行したからね。アハハハ。

Y君—

俺の研究によるとお金ちゃんは一人の先生の時に何か一つ病氣を作る様に思へる。お前の時は何も無かつたか。(無い。いや有る有る、救護日記にも書いた。Furunkelだ。)(Oの時はお金ちゃん思はれ面砲が出来てしまふたら。も



う人の事なんか言はんがえゝは。)それから知事をやつつけたよ。(百圓値上の事かい。)どんな病氣が多いかね。大抵高山病です。注射すれば癒るかねと尋ねたから。癒りますが九百圓ではそこ迄やつてけませんと言つた。來年から値上になつたら俺のせいだよ。

○君—

(どうだね一週間五合に頑張つてたんだから女臭いだらう。)ラヴレターは内科の方が多いいさうだよ。同じ封筒に二つも三つも這入つてるんだから。(深み行く秋、菊のかほりも、と)みんな同じ文句だ。(富吉としてあつたからジングルから來たのかと思つた。なる程富士山で吉田だからか。

T君—

俺の時もシーズン末で何もなかつたが、或日御中道して重い外傷をすつぽかしたのは實に失敗だつた。

(來年からは五合迄馬車が行くさうだよ。)(來年は○君に頼むか。)

窓外の秋雨止みたる様にて濡れた屋根に、ネオンの色映る。一同食後の卓を離れ様ともせず益々高聲談笑。(追補) 此處に秘密を公開する。たとへ重大問題を惹起しやうとも記者の責任に非ず。

拜啓

深みゆく秋、しだい／＼に菊の香りもゆかしい季節となりました。

又あの懐かしい富士山も薄絹の様な雪でつゝまれてしまいました。

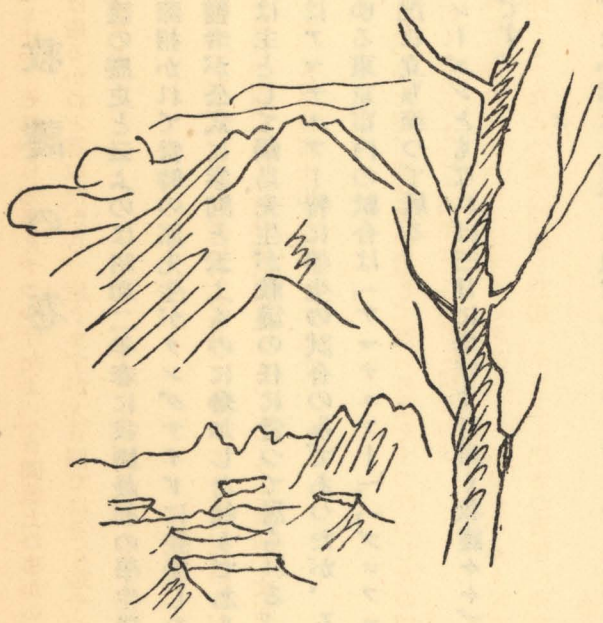
御先生には其の後何のお變りも御座居ませんか。先生吉田の町はね紅葉狩で賑かです。先生お遊びにお出下さいませ。私しね今よ

り楽しくお待ち居ります。先生御身御大切になさいませ。

かしこ

きん子

御先生



拳闘救護の巻

抑々我が醫局の拳闘救護の歴史と云ふのは昭和二年春に我國最初の學生對抗ボキシング試合が慶明兩大學の間に舉行された際招かれて當時の原先生がリングサイドに登場したのに始つて居る。

此れが恐らく我が國で醫者が公式に拳闘と云ふものに參加した始まりであらうと思はれる。

其の後原先生去り現在は主として鍋島先生が救護の任に當つて居られる。

救護の範圍も最初の頃はアマチュアー特に學生の試合のみであつたが、その後次第に此の範圍は擴げられ近年では殆んど總ゆる東京市内の試合は「アマチュアー」、「プロフェシヨナル」を問はず吾が醫局の救護を懇請する盛況に立ち至つて居る。

春秋二季のボキシングシーズンともなれば三日に擧げず打續く救護々々でボクサーならぬ救ゴ子がノックアウトされる仕末です。

×

×

扱て拳闘とかボキシングとか云ふと直ぐに血塗れになつて殴り合ふ場合が想像され勝ちな凡そブリミティブなスポーツの一種になつて居るが見物した事もなくて物識り顔の世人が云ふ程左様に残酷なものでもない様です。

それでも或る以前可成りやつた事のあるボクサー上りの紳士が云つたものだ「野球でも庭球でも總

て運動は唯の見物より幾何ら下手でもやつてる當人が一番面白いものだが拳闘だけは自分でやるより見る方が面白いと」

まあ相當のものです。

火花の散るダブルパンチの連続や、奇麗に決つたクロスカウンターの鮮かさ、さては電光の凄まじさに似たストレイトパンチのスピードに、思はず喚聲を擧げる様になると虚飾と儀禮に飽きた世界を超越した、徹底した、痛快味も湧くと云ふものです倒れる迄、力盡きる迄やる。手に翳すは一枚のグローブ。體に纏ふは一枚のパンツ。唯腕。唯力。其處に在る裸な、果斷な、男の意氣が溢れてる。人間本來の姿が流れてる。まあ此んな處が拳闘の魅力？

さてこそ此の魅力を求めて拳闘場に集る御人の何んと多き事よ。

此の春讀賣新聞で主催した日佛試合が戸塚で行はれた時等は一晩に三萬五千人以上の人が戸塚のグランドに雲集したと云ふ。此の地方では前後未曾有の人出と稱されて居る位です。

真紅のルウジュの口唇を裂いて飛出すモガの聲援、シツクなハンドバックの所在も忘れて「ヤッツケテヨ」「ノシチマへ」はまだしも「チヨイト樂ニシテオヤリ」「コロシチマへ」に至つては一抹の鬼氣なきにしもあらずだ。

初めて拳闘を御覧になる方々に申し添えて置きます。

血を見て顔をおふせになる必要は御座いませぬ。彼等は此の衄血を出して失つた方が却つてすつと
して氣持が良いとさえ云つて居りますぞ。

先生此所を挫きましたから

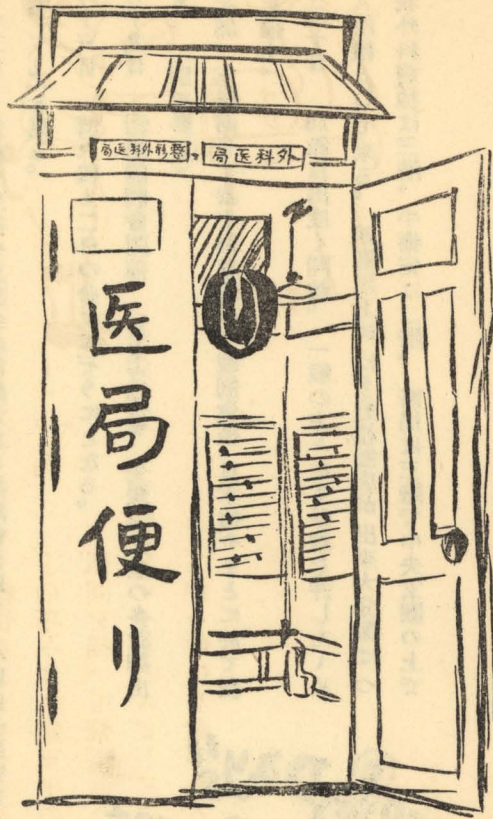
サクサンでバンド

して下さい



拳闘を見ようとお思ひになる御人は鼻血に驚か
ない位の度胸は持合して下さい。

軽快なフットワークに配したカウンタース
の巧みさや鈍重牛の如きアツバーカットの猛撃
弧圓を描いて飛ぶスウィングの物凄さ、さてはス
トレイトのスピードに目を見張る様になると拳闘
も仲々愉快な處のあるものです。



外科整形外科醫局も段々狭くなつてきますが相變らず皆仲よく醫局に集つて居ます。只だ以前と多少異つたことは日暮れになれば醫局に残る顔ぶれが當直ばかりになる日が多いやうです。醫局小作が地主に劣勢となつたためかも知れません。従つて酒量も減じました。でも未だ酒のある夕方は賑かです。醫局も十三年、世の中の考へも多少變つて居ます。この位の變りかたも仕方ないでせう。しかし古きは新しきを聽き新しきは古きを尋ねつゝ醫局和氣霽々たる氣分の未だ連綿と續いて居ることは眞に誇りであり嬉しきことであります。しかし今や世を擧げての非常時、恩師茂木先生の本年六月開局紀念日に於ける訓辭を體して吾等は共に相戒め又自からに省みて教室の研究はも

とより醫局員として恥なき人格の修養と共に醫局の發展に精進すること師恩に酬ゆるものではないかと思ひます。
例年通り當直日誌を以つて醫局便に代へる次第であります。

▲十二月二日 神山地眞氣先生送別會、島田宮尾兩先生歡迎會開催、於新宿白十字。

▲十二月八日 神山地眞氣先生東京驛午後一時四十分發にて阿會院長と共に赴任せらる。

▲十二月九日 開館間近に迫せる別館を木村教授先導にて醫局員多數見學す。

▲十二月十三日 君塚先生御令息誕生の御馳走あり抄讀會後頂く、小野田先生鴨を一番御寄附あり醫局前の池に放つ
皆珍らしく之を見る。

▲十二月十五日 憐れ鴨も二日の命にてぞうとなる。

▲十二月十九日 謝恩觀劇會開催。於東京劇場、先輩諸先生の多數御出席あり。(別項参照)

中村次郎、志田兩先生論文御通過にて觀劇會後、日本橋やまとに於て祝賀會を催す。

▲十二月二十日 別館目出度く開館。一般の方々にも參觀を許したため參觀人陸續として来る。四階屋上には多數模擬店が出来大分賑はつた。我外科病棟は三階、手術室は二階、醫局は三階で中央玄關の上である。



▲一月一日 新年祝賀會。昨夜新人の努力によつて立派に大手術室は飾られて新年祝賀會に相應しい、多數先輩諸先生の御出席あり廣き大手術室も溢れるばかりである。一同目出度く新年を祝し餘興福引には抱腹絶倒し新年氣分百パーセントである。終つて茂木先生、木村先生のお宅へ御祝に行く。

▲一月二日 今日は前田、佐藤、町田、犬養諸先生の御宅に一同御目出度にく。

▲一月六日 新年氣分も半ば去り當直はストウブに暖をとり、かん酒をグイツと引かけて當直室に引あげるや、阿佐ヶ谷より刃傷沙汰の女給來る。日頃の馴染にサーピス悪しと肉切庖丁にて逃ぐるところを滅多切り兩手の指をバラ／＼名はオトミ早速「昭和オトミ」の稱號を授く。

▲一月九日 別館に標本の一部を移すので婦長始め大童である。舊西病舎廢止されて入院患者は全部は號の下に收容す。

▲一月十二日 本日より別館の當直も二人泊る。高橋(福)先生、濱名先生がお初に泊る。

▲一月十三日 別館初めての部長廻診あり未だ地下道が完成しないために、に號から別館に通ふのである、寒風に曝されて相當寒い。食研經營の地下室食堂はサービスよろしく大繁昌。

▲一月十四日 今日當直日誌其儘拜借する。



午後七時より茂木先生御招待の新年宴會が幸樂に於て開催せらる。部長以下六十七名、院外の諸先輩も多數出席下され支那料理の御馳走で一同大愉快、先づ部長先生の御挨拶あり今年も元氣で内外的に共に協力せられんことを望まれ續いて木村先生、犬養先生、前田先生の御挨拶後乾盃、續いて各テーブルよりの歌廻しに競ひ踊ともなれば犬養先生の特意の踊、新人門橋先生の安東節踊り佐藤先生のダンス、實に多士多才吾が醫局の前途益盛んなるを思はしむ。宴鉗なる頃滿洲の曠野に矛とりて長らく祖國の爲に盡されし林一等軍醫芽出度く凱旋なされて町田、神山兩先生に迎へられて來る。一同此處に揃つて先輩の輝しき凱旋に乾盃す。

▲一月廿三日 林先生歡迎會。門橋、中村寛、古山先生の壯行會を於新宿モナミ開催す。二次會赤坂幸樂。

近來ヨーロッパ流行、醫局に於てはヒゲの先生まで大童にて盛んに妙技を振ふ。

▲一月廿七日 門橋先生入營のため東京驛發午後九時四十五分にて郷里廣島に向ふ。

▲一月廿八日 醫局スキーヤー連大舉して出發す。

▲二月一日 古山、中村兩先生近衛第一聯隊入營。

▲二月七日 森文雄、小澤兩先生の送別會。於新宿寶亭開催す。犬養先生御出席せられ大變賑かであつた。

▲二月九日 整形外科集談會 前田、岩原兩先生の御講演あり。

▲二月十四日 抄讀會後茶話會開かる。役員任命及腹藏なき意見の交換ありて散會。

▲三月四日 森先生退職研究生とならる。上石、高巢、木村先生に震害見舞狀を發送す。

▲三月五日 今井金治先生午前九時上野發にて高崎に赴任せらる。

▲三月十三日 今井金治先生論文御通過。

▲三月十四日 抄讀會後佐藤先生の御馳走あり。

▲三月十六日 堀田先生豫防醫學科(寄生蟲)へ轉科。

▲三月廿三日 木村知孝先生入局。

▲三月廿七日 午後三時より病院階段講堂にて學會の豫演あり畠中、武藤、瀬尾、土方、中村次諸先生の後前田教授の宿題報告の豫演あり。

▲三月廿八日 佐藤太平先生、静岡日赤病院に向け富士にて東京驛發赴任せらる。内科西野教授、外科木村教授其他御見送り多數あり尙女子醫專の美しき方も多數見えられた。

▲三月廿九日 前田教授、岩原、伊藤由、武藤、畠中、小平諸先生學會出席のため東京驛發にて出發せらる。

▲三月卅一日 藤原、鍋島、土方、瀬尾、中村次、栗本諸先生燕號にて東京驛發學會に向ふ。
木村教授は前日一行に先ち御出發の由。

▲四月六日 數日前怪盜醫局内に押入り手提金庫を盗み庖丁にて破壊し湯殿横に捨てたるを發見す。被害相當?の由。

▲四月七日 當直日誌を其儘、夜の外傷の特診あり患者は泥酔せる者にして醫局空前の暴行事件突發す!!!件の二名の外傷醉漢は醫局に亂入し、

一、椅子を一回醫局にて投げ飛ばす。(婦長に向けて)

二、野○君一回毆打さる。

三、膿盆二枚クンヤ〜にさる。

四、小便數名毆打さる濕布す。

五、大廊下より醫局處置室等血だらけにさる。

▲四月十日 新入局員初めて顔を見せる、新婚旅行の中野君は少々遅れる。

▲四月十三日 新入局諸先生の御馳走あり。町田助教、藤原講師昇格せらる。

▲四月十五日 新入局員歓迎旅行伊豆半島修善寺方面に行く、

信濃町―熱海―十國峠―修善寺(一泊)―靜浦―沼津にて解

散、修善寺の宴會には中村廣、小澤兩先生御出席せらる。

小野田先生長男を擧げらる。

▲四月廿二日 午後六時より赤坂幸樂に於て佐藤、川田、志

田、栗本諸先生の送別會。町田藤原兩先生の昇格祝あり。

院外より犬養、戸田、大庭、鎌田、關、大會根、豊田、四

條、關口、小口、辻岡、森文、森豊、佐藤盛諸先生御出席あ

り盛大なり。

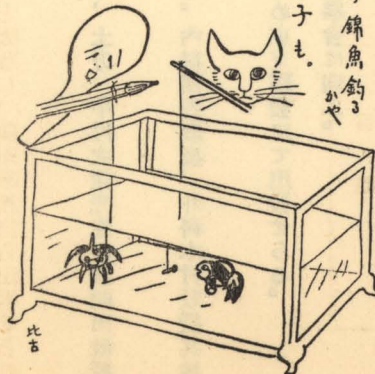
兄弟の盃事や同窓會

成内先生別館に入院せらる。(へモ)

▲四月廿六日 茂木先生新入局員を御宅に御招待せらる。

上、野々所下之ニ做フ。

疵柿の錦魚釣
猫も拘子も



比古

▲五月三日 藤原先生二男をあげらる。

鯉のほり此處にも日本男子あり

▲五月十三日 三四會鐵門クラブ合同水上運動會に於て我醫局クルーは青山外科と對戦し、前田教授自ら出場せられ見事三艇身の差を以て破る。メンバー左の如し。

藤山 岡島 原村 田
齋森 大笹 藤田 前

軸 二 三 四 五 整 舵

▲五月十四日 川田、志田兩先生静岡へ、午後一時東京驛發赴任せらる。

▲五月十七日 茂木先生國技館見物に御出かけになる。

▲五月二十日 栗本先生午後一時東京驛發他醫局の方と共に赴任せらる。

▲五月廿二日 横山先生論文通過。

▲五月廿九日 成内先生送別會開催。川田先生静岡より又古山、中村兩軍醫

も出席せられ盛大なり。

▲六月一日 百溪先生講師に昇格せらる。

▲六月三日 佐藤太平先生に在職記念として同窓會より記念品を贈呈す。

▲六月五日 畠中先生長女を擧げらる。

成内先生午後八時廿五分東京驛發滿洲に赴任せらる。

▲六月六日 田中周吉先生 中目黒瀨尾病院御赴任、田村先生隔離入院。

目 録

一、金メダル 一ヶ

一、プラチナ鎖 一本

以上

右
在職記念として贈呈仕り候

同窓會有志

佐藤太平様

▲六月七日 午後四時より例年通り手術室で茂木先生を初め醫局の先輩多數出席して開局記念祝賀會を催す。茂木先生始め木村、前田兩先生からも數々の激勵の御演説あり、午後七時和氣靄々裡に閉會す。來賓犬養、大庭、戸田、鎌田、大會根、竹下、古川、横山、川田、桑野、森、布留、辻岡、渡部（見學）の諸先生。

▲六月九日 町田先生い號の下入院せらる。
竹下先生郷里にて御開業のため歸郷せらる。

▲六月十一日 靜岡日赤開院。木村先生御出席せらる。又醫局より祝電を打つ。

▲六月十二日 町田先生全快退院す。

▲六月十五日 木村（知）先生アツベ、大塚先生發熱にて入院。

▲七月五日 外科對小兒科野球戰あり。於目黒球場。

▲七月九日 富士山救護班として大塚先生先發す。

▲七月十日 明樂先生論文通過祝賀會。田中先生送別會。百溪先生昇格祝賀會を催す。

▲七月十五日 武藤先生長野縣へ、相見先生御病氣のため出張す。

▲七月廿六日 プレ三名、ラボランチン一名、院内より四名のアツベ入院手術す。

▲八月三日 葉山便り、前田先生六哩遠泳に参加、見事完泳せられたる由。

▲八月五日 燈火管制豫行演習にて院内暫く暗闇なり。

▲八月六日 戸田先生患者を御連れになり當直室に泊る、感慨深く「五年ぶりだなあ」と云はれた。

▲八月十日 燈火管制施行。午後八時より十一時迄病院眞の闇の如し。

▲九月一日 横山先生病理教室より歸局。

▲九月十五日 別館四階に食養部經營の喫茶店開かる。

▲九月十六日 待つこと久しかりシグラランドも愈々此處に完成せられ、今日は目出度も開場式あり、四谷教授連又塾長始め三田教授連多數參會、前田先生の御挨拶、醫學部長の祝辭あつて直ちに助手團對學生撰抜チーム野球戰及び

四谷教授團對三田教授團野球戰があつた。後和氣靄々裡に園遊會を終つて散會す。

▲九月十七日 茂木先生御招待にて一同前橋に清遊す。(詳細別項)

▲九月廿三日 青山外科對抗競技會。三對二にて優勝す。祝勝氣分にて一同大いに酔ひ、懇親會より醫局↓幸樂↓醫局と流れ茂木先生の御宅に親父萬歳に出掛ける。

▲十月三日 中村次郎先生入院せらる。七日退院せらる。

▲十月十日 横山先生歡迎會。高橋(福)先生濱名先生送別會あり。二次會成駒。

▲十月十四日 渡邊治生先生來局。

島田信勝先生結婚式を挙げらる。

▲十月十七日 對小兒科野球戰。五對〇にて大勝す。

▲十月二十日 山本順生先生來局、歡迎會を有志にて幸樂に於て催す。

▲十月廿一日 酒井先生長男を挙げらる。

▲十月廿二日 静岡日赤の諸先生早慶戰の爲續々御上京。

▲十月廿五日 對東校舎野球戰八對〇にて優勝。於幸樂祝賀會を開催。

▲十月廿七日 濱名先生午前十時三十分上野發にて御赴任。

▲十月廿八日 第七回明治神宮大會始まる。例年の通り我が外科醫局より救護班出張。醫局總動員にて大活動。又青年館に當直員毎日一名宛出張す。

▲十月卅一日 志田先生郷里に於て結婚式を擧げらる。

誰れの書いたものか……………月末ともなればそこらあたり飲み散らしたる書き付けの秋の木の葉の散る如く醫科の廊下より舞いこむにあわてたる關係者一同相集りて外科醫局經濟會議を開きたるに右より左に又左より右にそれぞれ頭をしぼり袋をしぼりてのやりくりにいづ果つべしと思へねど無きものは無し、或る者は有りか? とどのつまりは閉會のさて又一ばいと出かけしあと當直は残つたビールにて氣分出しか。

▲十一月二日 中村廣人先生、志田先生來局。

▲十一月四日 富田勝郎先生來局。

▲十一月八日 佐藤太平先生來局。

▲十一月九日 病院階段講堂にて整形外科集談會あり
醫局より野崎、龍野、岩原三先生の講演があつた。

▲十一月十日 對帝大小石川分院野球戰 我軍はメン
バーの半數も揃はず惜敗す。

▲十一月十三日 吉岡勝衛、相見兩先生來局。

▲十一月廿日 醫局内OB對新人野球戰あり。八對八

大連よりの便り

謹啓晚秋の候愈々御清穆之段奉賀候陳者

市太郎次男

三郎次女

土井

文子

右兩人豫て結約中の處此度遠藤繁清殿千種峰藏殿兩御夫妻の御媒妁に依り來る十一月十日(金曜日)舉式致す事と相成候就ては今後とも御指導と御懇親を仰度當日午後五時半より市内連鎖街扶桑仙館に於て御披露旁々粗餐差上度候間御多用中真に恐縮に存候得共何卒御來駕の榮を賜度此段御案内申上候 敬具

昭和八年十一月吉日

或る日こう云ふ落書きをしたものあり。どこか
ら持つてきた種か知らぬが

Ermahnung an die Brautleut !

Sobald euch beiden die Wangen glühn,
Müsst ich in ein dunkles Zimmer fliehn.
Ritze vor dem Akt zu beschauen ist nichts,
Im Akte selbst bedürft ihr nicet des Lichts.

* * *

Du musst aufs Bett dich hin am Rücken strecken,
Den Kopf etwas gesenkt und tiefer halten,
Die Beine weit auseinander spalten
Und untern Hintern dir ein Polster strecken.

* * *

Damit die gegend um die Scham recht hoch
Heraussteckt und frei daliegt das Loch;
Dann stiegt der Mann auch nackt dazwischen,
Damit die Glieder sich da vermischen.

* * *

Ergreif nun schnell den Schwanz mit deiner Hand,
Gib ihn in deiner Voze Mundesrand.
Dann bohrt der Mann sich mit Gewalt hinein,
Dabei wirst du, fürcht ich, ein bischen schrein.

* * *

Allein man glaubt, man höre alle Engel singen,
Wenn so die Schwänzetief am Herzen dringen;
Drum stosse ihn entgegen mit der Voz
Und lieg nicht da als wie ein toter Klotz!

(皆様此れを譯して見て下さい。)

にして引分け。

百溪先生御結婚式を擧げらる。

▲十一月廿二日 醫學部三四會運動會。我外科醫局は對教室リレーリースに於て婦人科内科を斷然抜いて今年も亦優
勝カップを獲得す。

▲十一月三十日 相見先生信州より歸局さる。

同窓會會員名簿

(昭和八年十二月現在)

(入局順)
○印は在局者

- 四谷區東信濃町二八
(電四谷四五六八)
- 四谷區三光町五四(電四谷六二一六)
- 福岡縣嘉穂郡桂川村平山鑛業所醫院
- 北海道札幌市北四條西十五丁目一
(北大柳外科)
- 神奈川縣鎌倉材木座
- 中野區沼袋南二丁目一六〇
- 静岡縣濱松市八幡町七二九
(電區八六五)
- 麻布區弁町八〇(電青山六五二五)
- 新潟縣柏崎本町六丁目
- 水戸 常磐病院内
- 神奈川縣小田原萬年町四丁目五七三
(仁天堂病院)
- 神奈川縣都築郡田奈村長津田四區
- 川崎市貝塚一二
- 深川區西平井町九三
- 茨城縣結城郡結城町一四一六
- 蒲田區新宿町三六九

- 茂木藏之助
- 犬養六郎
- 成松清敏
- 柳壯一
- 大庭國紀
- 中村復一郎
- 梅村六郎
- 木村博
- 高桑武夫
- 柴沼薰
- 戸田四郎平
- 森信彦
- 阿部貞治
- 片柳常作
- 稻葉俊雄
- 大槻正路

- 芝區白金三光町二六九
- 桐生市西久方町二丁目七八六
- 南濱洲 四平街病院
- 長野縣 富士見高原療養所
- 芝區濟生會病院舍宅
- 岐阜縣武儀郡西武藝村
- 北海道小樽市 小樽病院
- 京都市宇治郡醍醐村
- 杉並區和泉町三四一
- 群馬縣高崎市柳川町六二(綿貫病院)
- 深川區木場三丁目八
- 宮城縣牡鹿郡石卷町新田町三九
- 栃木縣栃木町萬町二丁目
- 杉並區阿佐ヶ谷町三丁目四八四
- 新住所(阿佐ヶ谷町四丁目九〇〇)
- 大連市 聖愛病院
- 静岡市東鷹匠町(静岡三二二二)
(静岡日赤)

- 町田謙二
- 赤松常信
- 高木宗吉
- 中村武重
- 鎌田竹次郎(休)
- 山田辰
- 山本順
- 本郷光美
- 關市衛
- 今井金治
- 新田龜三
- 上石英造
- 澤江六太郎
- 篠原靜夫
- 牛久昇治
- 佐藤太平

市
 新加坡
 和加群
 私立加賀病院

- 杉並區馬橋五二九 (陸軍)
- 横濱市中區本郷町三丁目一五四 (横濱山下町山下病院)
- 杉並區東田町二ノ一六四
- 樺太廳眞岡病院官舎
- 澁谷區代々木深町一六六七
- 樺太大泊 三橋外科病院
- 福井縣小濱町住吉八三
- 市外武藏野町吉祥寺二八三五(生理)
- 千葉縣北條館山町長須賀(館山病院)
- 大分縣北海郡小佐井村
- 富山縣高岡市旅籠町
- 熊本縣鹿本郡山鹿町
- 滿洲國四平街 滿鐵醫院外科
- 品川區五反田一丁目一二五(病理)
- 八王子市八日町三一
- 北海道十勝國帶廣町
- 福島縣石城郡四倉町(電四倉三五)
- 目黒區駒場町七九七 (横濱濟生會病院)

- 林 利 治
- 大曾根 幾次郎
- 神 山 敏 雄
- 中村勝之助
- 近 藤 宗 彦
- 三 橋 弘
- 濱野碩太郎
- 豐 田 秀 穂
- 渡 邊 治 生
- 神 野 澄 晴
- 吉 崎 純
- 竹 下 貫 一
- 高 巢 三 四 一
- 駒 井 忠 雄
- 四 條 龍 作
- 小 内 昇
- 木 村 守 江
- 原 廣 治

- 横濱市鶴見區生麥町三八 (電鶴見三四六)
- 杉並區清水町二一〇(電荻窪三四四)
- 靜岡市安東本町六三 (靜岡日赤)
- 山口縣天津郡人丸
- 杉並區阿佐ヶ谷二丁目五八六
- 四谷區右京町二二 (理學科)
- 足利市伊勢町
- 赤坂區青山北町一ノ八
- 四谷區須賀町四二 (電燈病院)
- 朝鮮京城府漢江通二ノ一 (二四號官舎)
- 南谷區左門町土木 (病理)
- 淺草區七軒町四 東京痔病院
- 赤坂區青山北町三ノ六七
- 麻布區新網町一ノ五五 (濟生會)
- 豐橋市
- 杉並區成宗一丁目一〇一
- 中野區沼袋町南二丁目二一五
- 麻布區本村町二二五(電高輪九二五)
- 佐藤盛二
- 横 山 虎 雄
- 川 田 正 雄
- 吉 野 史 朗
- 中 村 次 郎
- 桑 野 鐵 四 郎
- 槍 田 榮
- 岩 原 寅 猪
- 森 文 雄
- 松 井 八 郎
- 河 内 野 弘 德
- 高 橋 福 三 郎
- 藤 原 道 純
- 古 川 明 (休)
- 松 橋 一
- 君 塚 正
- 鍋 島 勉
- 前 田 和 三 郎

中野區本町通四丁目二十六番地

青森縣五所河原町 増田病院

前橋市北曲輪町

北海道小樽市 小樽病院

長野縣小諸町赤坂町 (樋口病院)

静岡縣田方郡土肥村土肥 尾形別莊
(土肥慶應堂病院)

ブラヂル、リオ・デ・ヂャネイロ

四谷區南寺町一 金扇館

世田ヶ谷町代田二丁目六八二

四谷區大番町一〇三 古川方

横濱市 眞金町病院

宮崎縣南那珂郡油津町私立日南病院

本所區厩橋三ノ二六 本島方

大連市外小平島 南滿洲保養院内
静岡市春日町一 二六三ノ五
(静岡日赤)

静岡縣濱松市 森下病院

埼玉縣川越市小仙波一 一一一

埼玉病院 (電川越三七六)

杉並區東田町二丁目一五〇
世田ヶ谷區代田一丁目六五二ノ五

村上 晋

關口林五郎

井上太郎

吉岡勝衛

中村廣人

八木勝郎

土方久顯

百溪定七郎

瀨尾賓三

小口宇一

弓削 中

小野田 肇

加藤銀治郎

志田元秀

森下貫一

橋本文吾

伊藤由比

蓮江英男

本庄村

淺草區八幡町四 (寄生蟲)

三重縣一志郡小野江村
西井病院 (電カラス二四)

青森縣西津輕郡森田町 増田分院

静岡縣伊東町 伊東病院

小石川區原町十二 千家莊(三〇)
(電大塚四四五六)

目黒區中目黒二丁目四五 瀨尾病院内

淺草區田中町八〇

中野區住吉四八 山靜莊内

四谷區東信濃町二八 川添方(藥物)

大森區池上徳持町三六二

横濱市神奈川區篠原町七六七
京橋區廣町二丁目七
(電京橋二三〇二)

横濱市山下町 山下病院

在ブラヂル

茨城縣 日立鐵山病院本山分院

中野區上高田一丁目四七

静岡縣田方郡下狩野村小立野
中豆病院 (電本立野三)

滿洲國撫順 滿鐵撫順醫院外科

堀田善二郎

富田勝郎

小方則太郎

小澤武雄

田村信介

田中周吉

辻岡 元

武藤藤太郎

布留文夫

寺田泰三

相見三郎

酒井欣郎

森 豊 明

細江靜男

濱名元中

若林研爾

神山地真氣
成内穎三郎

横濱市中區西戸部町七二二

(長者町六〇八)

静岡市安東三ノ七八申村方(日赤)

日本橋區橋町一ノ九

(電浪花二六四六)

市外杉並區阿佐ヶ谷五〇四

中野區朝日ヶ丘二

中野區打越町二四

赤坂區新町四丁目一八

(電青山七二六四)

豊島區駒込五丁目九八〇

澁谷區澁谷町神泉三二二

(電青山七八四〇鴨志田取次)

四谷區愛住町七三

廣島縣福山歩兵第四十一聯隊附

(荒川區三河島町四ノ三四六二)

本郷區弓町一ノ二六

(電小石川五八八一諸橋取次)

近衛歩兵第二聯隊附

城東區龜戸町六丁目一〇有川方

(電隅田一四九六六藤呼出)

目黒區洗足一四七番地ノ四

(電荏原三六二〇)

近衛歩兵第三聯隊附

豊島區池袋四丁目四三六

(電大塚二二五三)

淀橋區西大久保二丁目二八三

○ 森山成一

○ 栗本勝之進

○ 笹島彦次郎

○ 島田信勝

○ 明樂治部輔

○ 照井侃

○ 井手行乎

○ 伊藤國男

○ 板橋剛

○ 島中卓助

○ 門橋勇(休)

○ 龍野一雄

○ 中村寛(休)

○ 野崎寛三

○ 古山實(休)

○ 小平正

澁谷區永住町一五(電青山五五〇八)

小石川區同心町一〇 大坪方

中野區沼袋南二ノ八四

(電中野二一六七)

世田谷區北澤四ノ三八五

中野區城山

杉並區高圓寺三ノ二二九

芝區白金臺町一ノ八三

荒川區日暮里渡邊町一〇五五

(電下谷五六三六)

葛飾區金町四ノ一五一九

小石川區久堅町六九

(電小石川四二〇九)

目黒區東町三一

牛込區市ヶ谷河田町一一 山中遜方

(電牛込六三二)

麻布區辨町八〇(青山六五二五)

横濱市西戸部町山王山六五六

○ 齋藤修二

○ 宮尾啓

○ 伊藤原

○ 萩尾又八

○ 大岡保司

○ 大塚廣

○ 釜江省司

○ 高橋真雄

○ 中野宗夫

○ 長坂謙三

○ 山口恒造

○ 重盛福七郎

○ 木村知孝

○ 渡邊敬

編輯後記

昭和八年の刀林發行にあたり。會長茂木先生の大部なる玉稿により卷頭を飾るを得ましたことは誠に感激の至りであります。そして又御多忙にも拘らず早速口繪の寫眞と成つて頂きましたことを感謝いたします。又木村先生の種々と御助言を賜りましたこと、前田先生の玉稿を下さいましたことを深謝いたします。又静岡日赤佐藤院長を始め諸先輩の御用多き中にも多數の原稿を送られ、醫局諸兄の又ほがらかなる御投稿を得ましたことは編輯一同有難く御禮申し上げます。

さて非常時の聲も三年目、實に早く時は去ります。刀林も發行八年と成りまして相變らずの組合せ方で恐れ入りますがこれは編輯不徳の致すところと御詫び申し上げます。せめて體裁だけでもと思ひまして印刷、製本、表紙を更へて見ました。活字刷で今までと何んだかそぐわぬやうな氣もしますが、八號の試みとして御批判を願ひます。今年に木村先生の發案に成る先輩諸兄御發展の現況を小平君を煩はして地圖に見ました、名簿と合せて御覽下さい。又醫局に外科の歌を募つて見ました。これは、メ切も間近かだつたためか少數でありましたが中々傑作があります。尙編輯にあたり笹嶋、伊藤、板橋、小平、山口の諸君のそれ々天分を發揮せられて、原稿の整理に、漫畫カットと盡力されたる御苦勞に對し謝意を表するものであります。

最後に茂木先生始め皆様の益々御健勝に、無事御越年あらんことを、そして又外科整形外科醫局の益々隆盛ならんことを祈りて筆を擱ます。——(せを)——十一月三十日夜——

昭和八年十二月十三日印刷
昭和八年十二月十五日發行

【非賣品】

發行者

慶應義塾大學醫學部
外科整形外科教室同窓會

東京市四谷區西信濃町廿二番地

編輯者

瀨尾省三

東京市京橋區入船町二丁目一番地

印刷人

高橋與作

東京市京橋區入船町二丁目一番地

印刷所

正進社印刷所

不許
複製

發行所

東京市四谷區西信濃町廿二番地

慶應義塾大學醫學部
外科整形外科教室

振替口座東京二九二七五番

高級諸印刷物
の御用命は
是非左記へ



東京市京橋區入船町貳丁目(市場通)
正進社印刷所
電話 京橋 三二三一 番

Vertical text on the left side, likely bleed-through from the reverse side of the page.



Vertical text on the right side, likely bleed-through from the reverse side of the page.

